

# 中内村前遺跡(3)

— 8 ~ 9 区 —

北関東自動車道(高崎~伊勢崎)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第28集

2005

日 本 道 路 公 団  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 中内村前遺跡 (3)

— 8 ~ 9 区 —

北関東自動車道(高崎~伊勢崎)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第28集

2005

日 本 道 路 公 団  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団







8区の1号屋敷と2号屋敷(右下)



9区の2号屋敷と3号屋敷(下)



## 序

既に北関東自動車道の高崎—伊勢崎間が供用開始となって五年が過ぎましたが、その交通量は北関東自動車道整備の効果が表れていることを示しております。そして建設の騒音は既に東毛地区へと移り、埋蔵文化財の発掘調査も県境附近まで進んでおります。昨夏、猛暑の中で、当事業団の担当職員が栃木県側の発掘調査を担当されている（財）栃木県教育文化事業団埋蔵文化財センターの皆様と挨拶を交わしたという報告を受け、いよいよ北関東自動車道の本県側と栃木県側とが繋がろうとしていることを実感いたしました。

さて、ここに平成9・10年度に発掘調査を実施した中内村前遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊を発刊することとなりました。第3分冊では、遺跡の中程を南北に横切る県道藤岡大胡線の東側、3百から5百メートル附近で行われました発掘調査の成果を報告致します。10～11世紀の集落跡と3箇所室町時代の屋敷遺構を初めとして、古墳時代から江戸時代にかけての集落、水田、あるいは屋敷跡など、多様な遺構、そして出土遺物を報告します。これらの遺構、遺物からは様々な知見が得られますが、既刊の第1・第2分冊と合わせて、今後、当該地域の歴史研究、調査に資するものと考えております。

最後になりますが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化課、前橋市教育委員会文化財保護課、並びに関係者各位に心より御礼申し上げます。また発掘調査、整理業務に携わった関係者の労をねぎらい序とします。

平成17年2月28日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 小野宇三郎



## 例 言

1. 本書は北関東自動車道建設に伴い事前調査された中内村前遺跡（遺跡略号KT-120）の発掘調査報告書第3分冊である。本書は中内村前遺跡8・9区に発見された遺構、及び出土遺物を対象に報告する。
2. 中内村前遺跡1～4区を対象とした第1分冊（『中内村前遺跡（1）』）は平成14年3月29日付、5～7区を対象とした第2分冊（『中内村前遺跡（2）』）は平成15年10月28日付にて日本道路公団及び財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団より発行されている。
3. 中内村前遺跡は群馬県前橋市中内町及び同市西善町に所在し、同市東善町に所在する旧前田遺跡A区西半部も本遺跡9区として含めている。遺跡名は遺跡地の多くを占める大字「中内」と字のうち「村前」を合わせたものとしている。
4. 発掘調査及び整理事業は日本道路公団の委託を受けた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施したものであり、群馬県教育委員会がその調整を行った。
5. 発掘調査の期間・体制、及び発掘調査報告書第1分冊に係る整理期間・体制は第1分冊に記している。
6. 発掘調査報告書第3分冊に係る整理期間及び体制は次の通りである。

事務担当 小野宇三郎、住谷永市、神保佑史、石島和夫、萩原利通、矢崎俊夫、植原恒夫、丸岡道雄、相京建史、高橋房夫、竹内 宏、須田朋子、吉田有光、佐藤聖行、阿久沢玄洋、田中賢一、今井もと子、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、松下次男、吉田 茂

整理担当 石守 晃

整理期間 平成15年4月1日～平成16年3月31日

7. 本書作成の担当は次の通りである。

編集・執筆 石守 晃

遺構写真撮影 航空写真撮影は技研測量株式会社が行い、これ以外は各発掘調査担当が行った。

遺物写真撮影 佐藤元彦（但しP.L131右下の写真のみ石守晃）

金属器処理 関 邦一、土橋まり子、小村浩一、高橋初美

木器管理等 横倉知子、藤井文江、大野容子

整理作業 今井サチ子、高橋優子、金子加代、高田栄子、小林町子、根井美智子、島崎敏子

機械実測 田中精子、酒井史恵

8. ① 石材鑑定については飯島静男先生の御協力によって同定された。
  - ② 樹種・種子同定、<sup>14</sup>C年代測定、蛍光X線分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。
  - ③ 花粉分析はONP研究所に依頼した。
9. 出土遺物、遺構因而写真の保管については、出土文化財については群馬県の所有に帰し、遺構実測図・遺構写真等については財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の管理に於いて、共に群馬県埋蔵文化財調査センター内に収納されている。
  10. 本書の作成に於いては以下の方々にご協力・ご指導戴いた。記して感謝の意を表します。  
(敬称略) 前橋市教育委員会、飯島義男、井上唯雄、井野修二、井野誠一、金井仁史、児島良昌、杉田茂俊、前原豊、松島久二治

## 凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。座標系は日本測地系平面直角座標系（所謂国家座標、旧座標）の第Ⅱ系を使用している。
2. 遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位は“m”を用いた。
3. 遺構名称、遺構番号は区の番号、調査面の番号、遺構種別毎の遺構番号、遺構種別の名称の順に、前3者は間に「-」記号を入れて標記している。尚、遺構番号は調査段階のものをそのまま踏襲したが、調査段階で二重に付してしまった番号については番号の後ろにアルファベットを付して区別した。
4. 本書に於けるテフラ（火山噴出物）の略号は以下の通り  
As-A：浅間山噴出A軽石（天明3年/1783） As-B：浅間山噴出B軽石・火山灰（天仁元年/1108）  
As-C：浅間山噴出C軽石（3世紀末葉） AS-YP：浅間山噴出板鼻黄色軽石（1.3~1.4万年前）  
Hr-FA：榛名山二つ岳噴出火山灰（6世紀初頭） Hr-FP：榛名山二つ岳噴出軽石（6世紀前半）
5. 遺構実測図の縮尺は下記を基準としているが、例外としたものは各図に記載している。  
竪穴住居・掘立柱建物 1/60 竈・炉 1/20 溝 1/100  
土坑・ピット・井戸 1/60
6. 遺物実測図の縮尺は下記を基準としている。  
土器・陶磁器等： 甕・壺・内耳鍋・摺鉢・鉢・火鉢・瓦等 1/4 碗・杯・高杯・皿等 1/3  
土錘等 1/2  
石器・石製品等： 台石・礎石・板碑・多孔石・こもあみ石等 1/4 敲石・磨石・打製石斧・  
砥石（小型）・スクレーパー等 1/3 紡錘車・石製品模造品等 1/2  
石鏃 4/5  
木器・木製品： 碗・曲物等 1/3 杭・建築材等 1/4  
古銭・金属製品： 銅銭等 4/5 きせる・釘等 1/2 刀子・鎌・包丁等 1/3  
ガラス製品等： ビン（大型） 1/2 ビン（小型）・小型ガラス製品 4/5
7. 土層注記中の土色には農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参考に記載している。

# 目次

口絵

序

例言 凡例

目次	i
遺構番号別目次	iii
挿図目次	v
表目次	viii
写真図版目次	viii
遺構写真使用フィルム資料番号一覧	xi

---

第1章 中内村前遺跡の概要	1
第1節 中内村前遺跡の概要	1
第2節 1～7区(第1・第2分冊)の概要	2
第2章 発見された遺構と遺物(その1)	4
第1節 8・9区の概要	4
第2節 8区西部1面の遺構と遺物	5
溝 5 / 井戸 13 / 土坑 13 / As-B下水田 15 / 溜池出土遺物 18	
第3節 8区西部2面の遺構と遺物	17
竪穴住居 17 / 溝(含道路) 21・29 / 土坑 27 / ビット 29	
第4節 8区西部3面の遺構と遺物	30
溝 30 / 土坑 31	
第5節 8区西部の遺構外の出土遺物	38
1面 38 / 2面 40 / 3面 41	
第6節 8区東部の遺構と遺物	42
竪穴住居 42 / 溝 138 / 井戸 149 / 土坑 144	
第7節 8区東部及び8区の遺構外の出土遺物	164
第8節 9区の遺構と遺物	166
竪穴住居 166 / 溝 173 / 井戸 183 / 土坑 187 / 風倒木痕 190	
/ 遺構外の出土遺物 190	
第3章 発見された遺構と遺物(その2 中世屋敷遺構)	192
第1節 8・9区の屋敷遺構	192
第2節 1号屋敷	193
周堀 194 / 溝 197 / 掘立柱建物 202 / 井戸 205 / 土坑 208	
/ ビット 213	
第3節 2号屋敷	215

	周堀 215 / 掘立柱建物 218 / 井戸 219 / 土坑 220 / ビット 220	
第4節	3号屋敷 .....	222
	周堀 222 / 掘立柱建物 225 / 井戸 237 / 土坑(倉庫) 241	
	/ 土坑 247 / ビット 257	
第4章	中内村前遺跡及び前田遺跡出土遺物 .....	263
第1節	中内村前遺跡出土遺物 .....	263
第2節	9区並びに前田遺跡出土遺物 .....	264
第5章	自然科学分析 .....	266
第1節	科学分析及び鑑定要件 .....	266
第2節	中内村前遺跡出土木製品および炭化材の樹種 .....	266
第3節	中内村前遺跡から出土した炭化種実 .....	270
第4節	花粉分析 .....	271
第5節	放射年代測定 .....	273
第6節	礫の材質分析 .....	275
第6章	まとめ .....	276
第1節	8・9区のまとめ .....	276
第2節	倉庫型土坑の構造について .....	277
終章	まとめ	





8-16号溝	194	8-1-2号土坑	13	8-3-196号土坑	31	8-30号土坑	154
8-17号溝	194	8-1-3号土坑	13	8-3-197号土坑	31	8-31号土坑	154
8-28号溝	197	8-1-4号土坑	13	8-3-198号土坑	31	8-34号土坑	154
8-32号溝	197	8-1-5号土坑	13	8-3-199号土坑	31	8-36号土坑	154
8-38号溝	197	8-1-6号土坑	13	8-3-200号土坑	31	8-37号土坑	154
8-42号溝	197	8-1-7号土坑	13	8-3-201号土坑	31	8-39号土坑	154
8-55号溝	197			8-3-203号土坑	31	8-40号土坑	154
9-5号溝	194	(2面)		8-3-204号土坑	31	8-41号土坑	154
9-19号溝	194	8-2-140号土坑	27	8-3-205号土坑	31	8-42号土坑	154
		8-2-141号土坑	27	8-3-206号土坑	31	8-45号土坑	154
2号屋敷		8-2-142号土坑	27	8-3-207号土坑	31	8-46号土坑	154
8-26号溝	215	8-2-143号土坑	27	8-3-208号土坑	31	8-47号土坑	154
9-20号溝	215	8-2-144号土坑	27	8-3-209号土坑	31	8-49号土坑	154
		8-2-145号土坑	27	8-3-210号土坑	31	8-51号土坑	154
3号屋敷		8-2-146号土坑	27	8-3-212号土坑	31	8-52号土坑	154
9-6号溝	222	8-2-147号土坑	27	8-3-213号土坑	31	8-53号土坑	153
9-22号溝	222	8-2-148号土坑	27	8-3-214号土坑	31	8-54号土坑	154
		8-2-149号土坑	27	8-3-215号土坑	31	8-56号土坑	154
		8-2-150号土坑	27	8-3-216号土坑	31	8-61号土坑	154
<b>〔井戸〕</b>		8-2-151号土坑	27	8-3-217号土坑	31	8-62号土坑	154
		8-2-152号土坑	27	8-3-218号土坑	31	8-63号土坑	154
8区西部 (1面)		8-2-153号土坑	27	8-3-219号土坑	31	8-64号土坑	154
8-1-1号井戸	13	8-2-154号土坑	27	8-3-220号土坑	31	8-65号土坑	154
		(3面)		8-3-221号土坑	31	8-66号土坑	154
8区東部		8-3-156号土坑	31	8-3-222号土坑	31	8-67号土坑	154
8-5号井戸	149	8-3-156号土坑	31	8-3-223号土坑	31	8-70号土坑	154
8-8号井戸	150	8-3-157号土坑	31	8-3-224号土坑	31	8-71号土坑	153
		8-3-158号土坑	31	8-3-225号土坑	31	8-72号土坑	153
9区		8-3-159号土坑	31	8-3-226号土坑	31	8-73号土坑	154
9-8号井戸	183	8-3-160号土坑	31	8-3-227号土坑	31	8-75号土坑	153
9-9号井戸	183	8-3-161号土坑	31	8-3-228号土坑	31	8-78号土坑	154
9-13号井戸	184	8-3-162号土坑	31	8-3-229号土坑	31	8-82号土坑	153
9-14号井戸	186	8-3-163号土坑	31	8-3-230号土坑	31	8-83号土坑	150
9-16号井戸	186	8-3-164号土坑	31	8-3-231号土坑	31	8-85号土坑	154
9-17号井戸	187	8-3-165号土坑	31	8-3-232号土坑	31	8-88号土坑	154
9-20号井戸	185	8-3-166号土坑	31	8-3-233号土坑	31	8-89号土坑	154
		8-3-167号土坑	31	8-3-234号土坑	31	8-91号土坑	154
		8-3-168号土坑	31	8-3-235号土坑	31	8-92号土坑	154
1号屋敷		8-3-169号土坑	31	8-3-236号土坑	31	8-93号土坑	154
8-2号井戸	205	8-3-170号土坑	31	8-3-237号土坑	31	8-94号土坑	154
8-3号井戸	205	8-3-171号土坑	31	8-3-238号土坑	31	8-96号土坑	150
8-4号井戸	206	8-3-172号土坑	31	8-3-239号土坑	31	8-98号土坑	150
8-6号井戸	207	8-3-173号土坑	31	8-3-240号土坑	31	8-99号土坑	153
8-7号井戸	206	8-3-174号土坑	31	8-3-241号土坑	31	8-100号土坑	154
		8-3-175号土坑	31	8-3-242号土坑	31	8-101号土坑	153
2号屋敷		8-3-176号土坑	31	8-3-243号土坑	31	8-105号土坑	154
9-1号井戸	219	8-3-177号土坑	31	8-3-244号土坑	31	8-108号土坑	150
9-10号井戸	219	8-3-178号土坑	31	8-3-245号土坑	31	8-109号土坑	150
9-15号井戸	219	8-3-179号土坑	31	8-3-246号土坑	31	8-110号土坑	150
		8-3-180号土坑	31	8-3-247号土坑	31	8-111号土坑	150
		8-3-181号土坑	31	8-3-248号土坑	31	8-125号土坑	150
3号屋敷		8-3-182号土坑	31			8-126号土坑	154
9-7号井戸	237	8-3-184号土坑	31	8区東部		8-127号土坑	154
9-11号井戸	238	8-3-185号土坑	31	8-8号土坑	150	8-129号土坑	150
9-12号井戸	239	8-3-186号土坑	31	8-12号土坑	153	8-130号土坑	150
9-18号井戸	239	8-3-187号土坑	31	8-16号土坑	154	8-132号土坑	156
9-19号井戸	240	8-3-188号土坑	31	8-17号土坑	156	8-133号土坑	153
		8-3-189号土坑	31	8-18号土坑	153	8-135号土坑	153
<b>〔土坑〕</b>		8-3-190号土坑	31	8-23号土坑	154	8-137号土坑	153
		8-3-192号土坑	31	8-25号土坑	154	8-138号土坑	153
8区西部 (1面)		8-3-193号土坑	31	8-26号土坑	154	8-139号土坑	153
8-1-1号土坑	13	8-3-194号土坑	31	8-27号土坑	154	8-140号土坑	157
		8-3-195号土坑	31	8-28号土坑	154	8-141号土坑	157



第128回	8区1面Aa-B下水田	16	第72回	8-27号住居	77
第138回	8-2-1号住居と出土遺物	17	第73回	8-28号住居と出土遺物(その1)	78
第148回	8-2-2号住居と出土遺物	18	第74回	8-28号住居と出土遺物(その2)	79
第158回	8-2-2号住居掘り方	19	第75回	8-29-30号住居(その1)	80
第168回	8-2-3号住居と出土遺物	20	第76回	8-29-30号住居と出土遺物(その2)	81
第178回	8-2-62号溝	21	第77回	8-30号住居出土遺物(その3)	82
第188回	8-2-63・64・65・66・68・69・71・72号溝	22~25	第78回	8-31号住居と出土遺物	83
第198回	8-2-67・70号溝	26~27	第79回	8-32・33号住居と出土遺物(その1)	84
第208回	8区西部2面の土坑群(その1)	26	第80回	8-32・33号住居と出土遺物(その2)	85
第218回	8区西部2面の土坑群(その2)	27	第81回	8-36号住居と出土遺物	86
第228回	8区西部2面の土坑群(その3)	28	第82回	8-40号住居と出土遺物	87
第238回	8区西部2面のピット	29	第83回	8-42号住居と出土遺物	88
第248回	8-2-73号溝	29	第84回	8-46・47号住居と出土遺物	89
第258回	8-3-74号溝・出土遺物	30・31	第85回	8-48号住居	90
第268回	8-3-75号溝	30・31	第86回	8-49号住居と出土遺物(その1)	91
第278回	8区3面の土坑群と出土遺物(その1)	32	第87回	8-49号住居と出土遺物(その2)	92
第288回	8区3面の土坑群(その2)	33	第88回	8-50・51号住居	93
第298回	8区3面の土坑群(その3)	35	第89回	8-53・55号住居	94
第308回	8区3面の土坑群(その4)	36	第90回	8-53号住居出土遺物	96
第318回	8区3面の土坑群(その5)と南部の土坑群分布図	37	第91回	8-54・56・58号住居と出土遺物(その1)	96
第328回	8区3面の土坑群と出土遺物(その6)	38	第92回	8-54・55・56・58号住居と出土遺物	97
第338回	8区西部1面の出土遺物(その1)	39	第93回	8-57号住居と出土遺物(その1)	98
第348回	8区西部1面の出土遺物(その2)	40	第94回	8-57号住居と出土遺物(その2)	99
第358回	8区西部2面の出土遺物(その1)	40	第95回	8-57号住居と出土遺物(その3)	100
第368回	8区西部2面の出土遺物(その2)	41	第96回	8-58・65号住居と出土遺物(その1)	101
第378回	8-4号住居と出土遺物	42	第97回	8-58・65・68号住居と出土遺物(その2)	102
第388回	8-5号住居と出土遺物	44	第98回	8-59号住居と出土遺物	103
第398回	8-6・11号住居と出土遺物	45	第99回	8-60・67・75・79号住居と出土遺物(その1)	104
第408回	8-7号住居	46	第100回	8-60・67・75・79号住居(その2)	105
第418回	8-7号住居出土遺物	47	第101回	8-61・71号住居	106
第428回	8-8・41号住居	47	第102回	8-61・71号住居出土遺物	107
第438回	8-9・52号住居と出土遺物(その1)	49	第103回	8-62・64号住居と出土遺物	108
第448回	8-9・52号住居と出土遺物(その2)	50	第104回	8-63号住居と出土遺物(その1)	109
第458回	8-10号住居	51	第105回	8-63号住居と出土遺物(その2)	110
第468回	8-10号住居出土遺物	52	第106回	8-66号住居と出土遺物	111
第478回	8-12号住居と出土遺物(その1)	53	第107回	8-69号住居	112
第488回	8-12号住居と出土遺物(その2)	54	第108回	8-70・91a・91b号住居と出土遺物	113
第498回	8-13号住居と出土遺物	55	第109回	8-72・73号住居	114
第508回	8-14号住居と出土遺物	56	第110回	8-74号住居と出土遺物	115
第518回	8-15号住居と出土遺物	57	第111回	8-76号住居と出土遺物	116
第528回	8-16号住居と出土遺物	58	第112回	8-76号住居	117
第538回	8-17号住居	59	第113回	8-77・81号住居と出土遺物	118
第548回	8-18・19号住居と出土遺物(その1)	60	第114回	8-78・82・90号住居(その1)	118
第558回	8-19号住居(掘)と出土遺物(その2)	61	第115回	8-78・82号住居と出土遺物(その2)	120
第568回	8-20・39・43・44・45・89号住居と出土遺物	62	第116回	8-78・82・87・88・90号住居掘り方と出土遺物(その3)	121
第578回	8-39号住居出土遺物	63	第117回	8-87・88号住居出土遺物(その4)	122
第588回	8-43・44・45・89号住居出土遺物	64	第118回	8-80号住居と出土遺物	123
第598回	8-21号住居と出土遺物	65	第119回	8-83・84・85号住居	124
第608回	8-22・35号住居(その1)	66	第120回	8-83・84・85号住居	125
第618回	8-22・35号住居と出土遺物(その2)	67	第121回	8-83・84・85号住居出土遺物	126
第628回	8-22・35号住居出土遺物(その3)	68	第122回	8-86号住居と出土遺物	127
第638回	8-35号住居出土遺物(その4)	69	第123回	8-92号住居と出土遺物	128
第648回	8-35号住居出土遺物(その5)	70	第124回	8-93号住居と出土遺物(その1)	129
第658回	8-23号住居と出土遺物(その1)	71	第125回	8-93号住居出土遺物(その2)	130
第668回	8-23号住居出土遺物(その2)	72	第126回	8-94号住居と出土遺物	131
第678回	8-23号住居出土遺物(その3)	73	第127回	8-96・97・99・100号住居と出土遺物	132
第688回	8-24号住居(その1)	73	第128回	8-96・97・99号住居	133
第698回	8-24号住居と出土遺物(その2)	74	第129回	8-98号住居と出土遺物	134
第708回	8-25号住居と出土遺物	75			
第718回	8-26・28号住居と出土遺物	76			

第1308回	8-101号住居と出土遺物	135	出土遺物(その1)	201	
第1318回	8-102号住居位置図と 出土遺物(その1)	135	第183回	1号屋敷の郭内の溝群(その2)	202
第1328回	8-102号住居と出土遺物(その2)	136	第184回	8-1号掘立柱建物	203
第1338回	8-105号住居位置図と 出土遺物(その1)	137	第185回	8-1号掘立柱建物出土遺物	204
第1348回	8-105号住居出土遺物(その2)	138	第186回	8-2号掘立柱建物	205
第1358回	8-105号住居(その3)	139・140	第187回	1号屋敷井戸と出土遺物(その1)	206
第1368回	8区東半部西寄りの溝群位置図と 出土遺物(その1)	141	第188回	1号屋敷所在井戸(その2)	207
第1378回	8区東半部西寄りの溝群(その2)	142~144	第189回	1号屋敷内の土坑群と 出土遺物(その1・2)	208・209
第1388回	8区東部西寄りの溝群 出土遺物(その3)	145	第190回	1号屋敷内の土坑群と 出土遺物(その3)	211
第1398回	8-25・61号溝と出土遺物	146	第191回	1号屋敷内の土坑群と 出土遺物(その4・5)	212・213
第1408回	8-56号溝と出土遺物	147	第192回	1号屋敷内のピット群と 出土遺物	214
第1418回	8-36・37・57号溝と出土遺物	147	第193回	2号屋敷全体図	215
第1428回	8-29・31・33号溝	149	第194回	8-26・9-20号溝と出土遺物	216・217
第1438回	8-5号井戸	150	第195回	9-1号掘立柱建物	218
第1448回	8-8号井戸と出土遺物	151	第196回	9-1・10・15号井戸	219
第1458回	8区東部西寄りの土坑群と出土遺物	152	第197回	2号屋敷内所在土坑	220
第1468回	8区東部北寄りの土坑群 と出土遺物	154・155	第198回	2号屋敷内所在ピット	221
第1478回	8区東部中程の土坑群(その1・2)	156・157	第199回	3号屋敷全体図	222
第1488回	8区東部中程の土坑群 と出土遺物(その3・4)	158・159	第200回	3号屋敷周縁と出土遺物	223・224
第1498回	8区東部南寄りの土坑群	159	第201回	3号屋敷の掘立柱建物及び柱穴群	225
第1508回	8区東部3面、遺構平面図 と出土遺物	160・161	第202回	3 P-1号掘立柱建物	226
第1518回	8区東部1面のグリッド 取り上げ遺物(その1・2)	162・163	第203回	3 P-2号掘立柱建物及び 3 P-2号柱穴	227
第1528回	8区東部1面の出土遺物	164	第204回	3 P-3・4号掘立柱建物	228
第1538回	8区の一括取り上げ遺物	165	第205回	3 P-5・6号掘立柱建物	229
第1548回	9-1号住居(その1)	166	第206回	3 P-7号掘立柱建物と 3 P-1号柱穴	231
第1558回	9-1号住居と出土遺物(その2)	167	第207回	3 P-8号掘立柱建物	232
第1568回	9-2号住居と出土遺物(その1)	168	第208回	3 P-9号掘立柱建物	233
第1578回	9-2号住居と出土遺物(その2)	169	第209回	3 P-10・11号掘立柱建物	235
第1588回	9-3号住居(その1)	170	第210回	3 P-12・13・14号掘立柱建物	236
第1598回	9-3号住居と出土遺物(その2)	171	第211回	9-7号井戸	237
第1608回	9-4号住居	172	第212回	9-7号井戸出土遺物	238
第1618回	9-1号溝と出土遺物	173	第213回	9-11・12号井戸と出土遺物	239
第1628回	9-2・3号溝及び9-1・2号横溝・ 26~29号溝と出土遺物	174・175	第214回	9-18・19号井戸	240
第1638回	9-4号溝と出土遺物(その1・2)	176・177	第215回	3号屋敷の倉庫型土坑群 (その1、全体図)	241
第1648回	9-4号溝と出土遺物(その3)	178	第216回	3号屋敷の倉庫型土坑群と 出土遺物(その2・3)	242・243
第1658回	9-7~10号溝	179	第217回	3号屋敷の倉庫型土坑群と 出土遺物(その4・5)	244・245
第1668回	9-21・23・24・25号溝と出土遺物	180・181	第218回	3号屋敷の倉庫型土坑群(その6)	246
第1678回	9-31号溝	182	第219回	3号屋敷の土坑群と 出土遺物(その1)	247
第1688回	9-8号井戸と出土遺物	183	第220回	3号屋敷の土坑群(その2・3)	248・249
第1698回	9-9号井戸	184	第221回	3号屋敷の土坑群(その4・5)	250・251
第1708回	9-9号井戸出土遺物	185	第222回	3号屋敷の土坑群(その6・7)	252・253
第1718回	9-13・20号井戸	186	第223回	3号屋敷の土坑群(その8)	254
第1728回	9-14・16・17号井戸	187	第224回	3号屋敷の土坑群(その9・10)	256・257
第1738回	9区南東部の土坑群	188	第225回	3号屋敷のピット群(全体図)	257
第1748回	9-30・31・32・35号土坑	189	第226回	3号屋敷のピット群(その1・2)	258・259
第1758回	9-R-1・2・3号土坑	189	第227回	3号屋敷のピット群(その2)	260・261
第1768回	9区の風倒木痕	190	第228回	中内村前遺跡の出土遺物	263
第1778回	9区の遺構外の出土遺物	191	第229回	9区並びに前田遺跡出土遺物(その1)	264
第1788回	8・9区屋敷遺構全体図	192	第230回	9区並びに前田遺跡出土遺物(その2)	265
第1798回	1号屋敷全体図	193	第231回	3号屋敷の倉庫型土坑群	277
第1808回	1号屋敷の周縁と 出土遺物(その1・2)	194~196	第232回	倉庫型土坑構造の復元想像図	278
第1818回	1号屋敷の周縁(その3・4)	196~200			
第1828回	1号屋敷の郭内の溝群と				

# 表 目 次

第1表	3号屋敷内ピット群一覧	262	第9表	8区東部の出土遺物	300~364
第2表	中内村前遺跡の樹種同定結果	267	第10表	9区の出土遺物	365~370
第3表	中内村前遺跡における花粉分析結果	272	第11表	1号屋敷の出土遺物	371~378
第4表	年代測定結果	274	第12表	2号屋敷の出土遺物	378~379
第5表	マッピングに於ける礫の化学組成	275	第13表	3号屋敷の出土遺物	379~388
第6表	8区西部1面の出土遺物	281~290	第14表	中内村前遺跡及び 前田遺跡の出土遺物	389~396
第7表	8区西部2面の出土遺物	292~295			
第8表	8区西部3面の出土遺物	296~299			

# 写真図版目次

□ 絵	7-3-3号住居全景	8-3-155号土坑	8-3-156号土坑		
□ 絵		8-3-157号土坑	8-3-158号土坑土層断面		
P L 1	8区西部1面航空写真	8区1面航空写真	P L 16	8-3-159・160号土坑	8-3-161・162号土坑
P L 2	8区西部1面As-B下水田大畦			8-3-163号土坑	8-3-164・165号土坑
	8区西部1面溝群			8-3-166~168・248号土坑	8-3-169号土坑
P L 3	8-1-1号溝	8-1-1号溝とAs-B下水田大畦		8-3-170・171号土坑	8-3-172・173号土坑
	8-1-2号溝	8-1-2号溝	P L 17	8-3-174・175号土坑	8-3-176・177号土坑
	8-1-3号溝土層断面	8-1-4号溝跡先痕		8-3-178号土坑	8-3-179号土坑
P L 4	8-1-3号溝	8-1-3号溝		8-3-180号土坑	8-3-181号土坑
	8-1-5・6・7号溝			8-3-182号土坑	8-3-185号土坑
P L 5	8-1-5・6・7号溝		P L 18	8-3-186・229号土坑	8-3-187号土坑
	8-1-8・9・10号溝	8-1-8号溝		8-3-188号土坑	8-3-189号土坑
	8-1-9号溝	8-1-10号溝		8-3-190号土坑	8-3-192号土坑
P L 6	8-1-1号土坑	8-1-2号土坑		8-3-193・194号土坑	8-3-195号土坑
	8-1-3号土坑	8-1-4号土坑	P L 19	8-3-196号土坑	8-3-197・198・230号土坑
	8-1-6号土坑	8-1-7号土坑		8-3-199号土坑	8-3-200号土坑
	8-1-As-B下水田面	8-1-1号溝と大畦土層断面		8-3-201号土坑	8-3-203号土坑
P L 7	8区西部2面航空写真	8区西部2面航空写真		8-3-204・241・247号土坑	8-3-205号土坑
P L 8	8-2-1号住居	8-2-1号住居土層断面	P L 20	8-3-206号土坑	8-3-207号土坑
	8-2-2号住居	8-2-2号住居掘り方		8-3-208・209号土坑	8-3-210号土坑
	8-2-2号住居竈	8-2-2号住居貯蔵穴遺物出土状況		8-3-212号土坑	8-3-213号土坑
	8-2-3号住居	8-2-3号住居掘り方	P L 21	8区西部出土遺物(1)	1面溝出土遺物
P L 9	8-2-62・65号溝		P L 22	8区西部出土遺物(2)	1面溝、井戸、遺構外出土遺物
	8-2-63・64号溝	8-2-63・64・65号溝	P L 23	8区西部出土遺物(3)	2・3面住居、土坑、遺構外出土遺物
	8-2-64・65号溝土層断面	8-2-65・66号溝	P L 24	8区西部出土遺物(4)	1・2面遺構外出土遺物
	8-2-62・63・65・67号溝		P L 25	8区西部出土遺物(5)	2面遺構外出土遺物
P L 10	8-2-63・71号溝	8-2-63・67・72号溝	P L 26	8区東部航空写真	8区東部航空写真
	8-2-68号溝	8-2-72号溝	P L 27	8-1-4号住居掘り方	8-1-4号住居竈土層断面
P L 11	8-2-140号土坑	8-2-141号土坑		8-1-4号住居貯蔵穴遺物	8-1-5号住居竈
	8-2-142・150号土坑	8-2-2号溝と142・150号土坑土層断面		8-1-5号住居	8-1-5号住居掘り方
	8-2-143号土坑	8-2-144号土坑	P L 28	8-1-6・11号住居掘り方	8-1-7号住居掘り方
	8-2-145号土坑	8-2-146号土坑		8-1-8号住居掘り方土層断面	
P L 12	8-2-147号土坑	8-2-148号土坑土層断面		8-1-9号住居	8-1-9号住居竈
	8-2-149号土坑	8-2-151号土坑		8-1-9号住居掘り方土層断面	
	8-2-152号土坑	8-2-153号土坑		8-1-9号住居竈掘り方土層断面	
	8-2-154号土坑	8区西部2面土坑群		8-1-10号住居	8-1-10号住居掘り方
P L 13	8-2-13号ピット	8-2-14号ピット	P L 29	8-1-10号住居遺物出土状況	8-1-10号住居掘り方
	8-2-15号ピット			8-1-10号住居竈出土状況	8-1-10号住居竈周辺
P L 14	8区西部3面航空写真	8区西部3面航空写真		8-1-6・11号住居遺物	8-1-11号住居
P L 15	8-3-74号溝	8-3-74号溝		8-1-12号住居	8-1-12号住居掘り方
		8-3-75号溝	P L 30	8-1-12号住居竈	

	8-1-12号住居掘り方遺物出土状況				
	8-1-13号住居	8-1-13号住居掘り方	P L 43	8-1-79号住居	8-1-80号住居
	8-1-14号住居	8-1-14号住居掘り方全景		8-1-80号住居掘り方土層断面	
	8-1-14号住居遺物出土状況			8-1-80号住居掘り方全景	8-1-81号住居掘
	8-1-14号住居貯蔵穴			8-1-82号住居	8-1-82号住居掘
P L 31	8-1-15号住居	8-1-15号住居掘		8-1-82、85号住居・84号住居掘り方	
	8-1-16号住居	8-1-16号住居掘	P L 44	8-1-88・78・82・87号住居	
	8-1-16号住居掘り方	8-1-16号住居遺物出土状況		8-1-83・84・85号住居掘り方	
	8-1-17号住居	8-1-18号住居		8-1-83号住居土層断面	
P L 32	8-1-18号住居竪軸遺物出土状況			8-1-84号住居掘り方土層断面	
	8-1-18号住居貯蔵穴	8-1-18号住居掘		8-1-85号住居土層断面	
	8-1-18・20・39・43・44・45号住居掘り方			8-1-85号住居掘り方土層断面	
	8-1-19号住居遺物	8-1-19号住居掘		8-1-86号住居掘り方	
	8-1-20号住居	8-1-21号住居掘り方	P L 45	8-1-92号住居掘り方	8-1-93号住居土層断面
P L 33	8-1-22・35号住居			8-1-93号住居掘り方	8-1-93号住居
	8-1-22・32・35号住居土層断面			8-1-94号住居全景	8-1-94号住居掘り方
	8-1-22・35号住居掘り方	8-1-23号住居遺物	P L 46	8-1-94号住居掘	8-1-95号住居掘り方調査風景
	8-1-23号住居電付近掘り方			8-1-96・97・99・100号住居	
	8-1-23号住居掘り方			8-1-96・97号住居掘り方土層断面	
	8-1-24号住居土層断面	8-1-25号住居掘り方		8-1-96号住居掘り方土層断面	
P L 34	8-1-26号住居			8-1-97号住居掘り方土層断面	
	8-1-26号住居貯蔵穴遺物出土状況			8-1-98号住居掘り方	
	8-1-27号住居掘り方	8-1-28号住居	P L 47	8-1-102号住居	8-1-101号住居掘り方
	8-1-29・30・37・38号住居	8-1-28号住居掘り方		8区東部最終掘り終了	8-1-102号住居掘り方
	8-1-29・30号住居掘り方	8-1-29号住居掘		8-1-105号住居遺物出土状況	8-1-105号住居土層断面
P L 35	8-1-30号住居掘	8-1-30号住居貯蔵穴	P L 48	8-1-105号住居遺物出土状況	
	8-1-31号住居	8-1-32号住居		8-1-105号住居全景	8-1-溝群全景
	8-1-33号住居	8-1-32号住居掘り方		8-1-溝群土層断面 (C-C')	8-1-15号溝
	8-1-35号住居掘	8-1-36号住居掘り方全景	P L 49	8-1-15号溝	8-1-15号溝土層断面
P L 36	8-1-42号住居掘り方			8-1-18号溝土層断面	8-1-19号溝土層断面
	8-1-42号住居・97号土坑土層断面			8-1-20号溝土層断面	8-1-20号溝
	8-1-46・47号住居	8-1-46・47号住居掘り方		8-1-21号溝	8-1-21・24・46号溝
	8-1-48号住居	8-1-49号住居掘り方	P L 50	8-1-21号溝土層断面	8-1-25号溝
	8-1-49号住居	8-1-49号住居掘		8-1-28・29・33号溝	8-1-29号溝土層断面
P L 37	8-1-50号住居掘り方	8-1-51号住居掘り方		8-1-34号溝	8-1-33・34号溝土層断面
	8-1-9・52号住居掘り方	8-1-53号住居		8-1-34号土坑・69号溝土層断面	
	8-1-53号住居特種車出土状況			8-1-34号溝・79号土坑土層断面	
	8-1-53・55号住居掘り方		P L 51	8-1-8号井戸礫出土状況	
	8-1-54・56号住居	8-1-54・56号住居掘り方		8-1-8号井戸遺物出土状況	
P L 38	8-1-55号住居	8-1-57号住居掘		8-1-8号井戸遺物出土状況	8-1-8号井戸
	8-1-57号住居	8-1-57号住居掘り方		8-1-5号井戸及びび出土層	
	8-1-58号住居掘り方	8-1-59号住居		8-1-5号井戸土層断面	
	8-1-59号住居掘り方	8-1-59号住居掘り方		8区東部土坑群	8区東部土坑群
P L 39	8-1-60号住居	8-1-60号住居掘	P L 52	8区東部土坑群	8区東部土坑群
	8-1-60号住居掘り方			8区東部土坑群	8区東部土坑群
	8-1-60・67・75・79号住居掘り方			8-1-8号土坑	8-1-8号土坑
	8-1-61号住居掘	8-1-62号住居全景		8-1-16号土坑・28号溝土層断面	
	8-1-62・64号住居掘り方土層断面			8-1-19・27・89号土坑	
	8-1-62・64号住居掘り方		P L 53	8-1-39号土坑	8-1-51号土坑
P L 40	8-1-63号住居掘り方	8-1-66号住居掘り方		8-1-52号土坑	8-1-56号土坑
	8-1-66号住居	8-1-66号住居掘り方		8-1-61・85・88号土坑	8-1-67号土坑
	8-1-66号住居	8-1-66号住居掘		8-1-69・70号土坑	8-1-82号土坑
	8-1-67号住居	8-1-68号住居掘り方	P L 54	8-1-74・75号土坑	8-1-85号土坑土層断面
P L 41	8-1-69号住居	8-1-69号住居掘り方		8-1-8・125号土坑	8-1-126号土坑
	8-1-70号住居	8-1-70・91号住居掘り方		8-1-132・133号土坑	8-1-126号土坑土層断面
	8-1-71号住居掘り方	8-1-71号住居掘		8-1-138号土坑	8-1-139号土坑
	8-1-72・73号住居掘り方		P L 55	X375-Y755グリッド遺物出土状況	
	8-1-73号住居掘り方土層断面			X375-Y755グリッド調査風景	
P L 42	8-1-74号住居	8-1-75号住居		8-1-60号溝全景	8-1-60号溝土層断面
	8-1-76号住居	8-1-76号住居掘り方		8区東部最終掘り調査状況	8区東部最終掘
	8-1-78号住居	8-1-78号住居掘り方		8区東部最終掘り全景	8区東部最終掘
	8-1-78号住居掘り方		P L 56	8区東部出土遺物 (1)	8-4・9号住居
	8-1-78号住居掘り方		P L 57	8区東部出土遺物 (2)	8-9・10号住居





	9-34・58号土坑	9-34号土坑土層断面
	9-36(左)・20(右)号土坑	
	9-36号土坑土層断面	
	9-37号土坑	9-38号土坑
P L 121	9-39号土坑	9-40号土坑
	9-45号土坑	9-46号土坑
	9-47号土坑	9-48・49号土坑
	9-51号土坑	
	9-47号土坑土層断面	9-48号土坑
P L 122	9-50号土坑	9-52号土坑
	9-34号土坑	9-54号土坑
		9-54号土坑土層断面
	9-56号土坑	9-56号土坑土層断面
P L 123	9-57号土坑	9-58号土坑
	9-59号土坑	9-60号土坑
	9-62号土坑	9-63号土坑
	9-64号土坑	9-66号土坑
P L 124	9-65号土坑	9-67号土坑
	9-69号土坑	9-68号土坑
		9-70号土坑
	9-71号土坑	9-72号土坑
P L 125	9-72・73号土坑	9-73号土坑
	9-74号土坑	9-76号土坑
	9-77号土坑	9-78号土坑
	9-79号土坑	9-80号土坑
P L 126	9-81号土坑	9-82号土坑土層断面
	9-84号土坑	9-86・87号土坑土層断面

	9-90号土坑	9-92号土坑
	9-93号土坑	9-94号土坑
P L 127	9-91号土坑	3号屋敷北東部柱穴群
		3号屋敷南東部柱穴群
P L 128	3号屋敷中南柱穴群	3号屋敷北柱穴群
	3号屋敷南西部柱穴群	3号屋敷南東部柱穴群
	協議会文教治安委員会視察 県留學生(ケニア)見学 中内村前道跡現況(2004年11月22日撮影) 北關車自動車道(中内村前道跡6-8区附近)	3 P-38号ビット
P L 129	1号屋敷区出土遺物(1)	周堀、溝
P L 130	1号屋敷区出土遺物(2)	溝、掘立柱建物
P L 131	1号屋敷区出土遺物(3)	掘立柱建物
P L 132	1号屋敷区出土遺物(4)	井戸、土坑
P L 133	1号屋敷区出土遺物(5)	土坑
	2・3号屋敷区出土遺物(1)	周堀
P L 134	2・3号屋敷区出土遺物(2)	周堀、井戸
P L 135	2・3号屋敷区出土遺物(3)	土坑
P L 136	中内村前道跡全区・前田遺跡(1)	
P L 137	中内村前道跡全区・前田遺跡(2)	
P L 138	中内村前道跡全区・前田遺跡(3)	
P L 139	出土木製品・木材組織光学顕微鏡写真	
P L 140	出土種子顕微鏡写真	
P L 141	出土花粉顕微鏡写真	
P L 142	警表面の鉄Feマッピング測定結果	
P L 143	警裏面の鉄Feマッピング測定結果	

## 遺構写真使用フィルム資料番号一覧

P L 1	04-000272-12	04-000272-11			
P L 2	01-000138-6	01-000138-28	01-000138-7	01-000138-36	
	01-000138-25	01-000137-34			
P L 3	01-000138-20	01-000137-25	01-000138-14	01-000137-3	
P L 1	04-000284-05	04-000284-07			
P L 2	04-000133-31	04-000284-11			
P L 3	01-000134-22	01-000135-11	04-000133-24	04-000131-12	
	01-000136-24	01-000133-08			
P L 4	04-000133-21	04-000132-04	04-000131-02		
P L 5	01-000132-07	01-000133-15	04-000132-16	04-000132-20	
	04-000132-22				
P L 6	04-000130-01	01-000130-25	01-000131-18	01-000131-24	
	01-000131-28	01-000136-18	01-000134-21	01-000135-12	
P L 7	04-000286-04	04-000287-06			
P L 8	01-000134-11	01-000220-19	01-000148-02	01-000199-08	
	01-000193-11	01-000281-30	01-000185-23	01-000151-01	
P L 9	01-000148-07	01-000146-03	01-000146-09	01-000194-15	
	01-000147-04	01-000148-08			
P L 10	01-000147-05	01-000146-02	01-000191-04	01-000196-19	
	01-000196-08				
P L 11	01-000197-03	01-000195-20	01-000193-25	01-000191-19	
	01-000197-15	01-000197-19	01-000197-23	01-000194-03	
P L 12	01-000197-31	01-000198-04	01-000193-15	01-000193-18	
	01-000193-21	01-000197-27	01-000198-08	01-000192-11	
P L 13	01-000197-07	01-000197-10	01-000197-25		
P L 14	04-000311-11	04-000312-06			
P L 15	04-000287-22	01-000282-23	01-000287-26	01-000281-27	
	01-000282-32	01-000282-35	01-000278-32		
P L 16	01-000286-11	01-000286-07	01-000285-07	01-000286-15	
	01-000285-07	01-000286-15	01-000286-19	01-000286-23	

	01-000286-27	01-000286-31			
P L 17	01-000286-36	01-000283-15	01-000283-03	01-000283-19	
	01-000283-23	01-000281-15	01-000283-31	01-000286-03	
P L 18	01-000285-27	01-000285-31	01-000285-35	01-000284-03	
	01-000284-06	01-000285-11	01-000285-15	01-000284-11	
P L 19	01-000284-15	01-000284-19	01-000284-23	01-000284-27	
	01-000284-35	01-000284-31	01-000287-03	01-000287-08	
P L 20	01-000287-11	01-000287-16	01-000285-23	01-000285-19	
	01-000286-03	01-000283-35			
P L 26	04-000292-04	04-000294-07			
P L 27	01-000163-10	01-000213-26	01-000213-34	01-000209-30	
	01-000158-05	01-000159-07	01-000163-01	01-000160-08	
P L 28	01-000226-11	01-000226-14	01-000171-09	01-000226-18	
	01-000228-14	01-000228-18	01-000178-10	01-000180-05	
P L 29	01-000232-06	01-000227-10	01-000242-33	01-000230-19	
	01-000161-08	01-000161-08	01-000164-04	01-000166-10	
P L 30	01-000218-12	01-000221-03	01-000174-02	01-000177-10	
	01-000210-25	01-000162-03	01-000221-03	01-000221-05	
P L 31	01-000172-09	01-000172-09	01-000173-05	01-000221-22	
	01-000173-05	01-000230-23	01-000159-04	01-000162-06	
P L 32	01-000214-01	01-000215-07	01-000212-03	01-000172-03	
	01-000165-01	01-000160-09	01-000218-28	01-000162-01	
P L 33	01-000170-06	01-000224-12	01-000173-09	01-000181-03	
	01-000186-02	01-000185-09	01-000214-03	01-000232-29	
P L 34	01-000166-01	01-000216-02	01-000214-31	01-000165-08	
	01-000168-03	01-000171-01	01-000174-06	01-000222-07	
P L 35	01-000165-04	01-000220-11	01-000166-07	01-000171-04	
	01-000175-06	01-000171-10	01-000170-09	01-000168-04	
P L 36	01-000181-02	01-000232-09	01-000173-02	01-000175-03	
	01-000174-10	01-000179-10	01-000176-01	01-000176-05	

P L 37	01-000179-08	01-000179-04	01-000178-06	01-000178-02	01-000025-28	01-000040-17	01-000045-25		
	01-000231-13	01-000183-01	01-000179-01	01-000234-21	P L 98	01-000052-26	01-000053-20	01-000030-34	01-000028-02
P L 38	01-000180-03	01-000184-06	01-000181-08	01-000194-04		01-000030-25	01-000028-11	01-000030-30	01-000040-21
	01-000182-03	01-000181-05	01-000183-04	01-000197-10	P L 99	04-000125-23	04-000127-05	01-000127-28	01-000127-04
P L 39	01-000182-06	01-000182-09	01-000238-32	01-000192-06	P L 106	04-000293-04	04-000292-10		
	01-000234-24	01-000184-02	01-000235-21	01-000188-01	P L 107	01-000203-02	01-000203-08	01-000201-35	01-000203-10
P L 40	01-000194-07	01-000234-27	01-000187-01	01-000190-04		01-000204-08	01-000204-10	01-000204-28	01-000204-25
	01-000187-03	01-000236-18	01-000186-04	01-000234-31	P L 108	01-000204-13	01-000204-22	01-000203-20	01-000204-05
P L 41	01-000186-07	01-000188-01	01-000190-10	01-000201-07		01-000210-13	01-000204-02	01-000293-07	
	01-000195-08	01-000195-04	01-000187-06	01-000235-29	P L 109	01-000193-03	01-000192-01	01-000197-04	01-000212-09
P L 42	01-000186-10	01-000188-05	01-000189-02	01-000190-07		01-000196-04	01-000196-09	01-000210-10	01-000210-23
	01-000191-03	01-000189-05	01-000237-16	01-000198-04	P L 110	01-000211-30	01-000160-02	01-000213-11	01-000213-15
P L 43	01-000189-08	01-000199-10	01-000241-07	01-000200-09		01-000215-11	01-000214-34	01-000220-15	01-000219-07
	01-000190-01	01-000191-06	01-000192-04	01-000195-07	P L 111	01-000209-34	01-000209-26	01-000211-10	01-000211-12
P L 44	01-000198-09	01-000202-09	01-000238-16	01-000238-24		01-000211-09	01-000211-11	01-000224-27	01-000224-23
	01-000239-16	01-000241-33	01-000193-06	01-000200-10	P L 112	01-000217-03	01-000121-27	01-000214-13	01-000219-28
P L 45	01-000244-16	01-000201-04	01-000207-06	01-000205-10		01-000219-32	01-000224-07	01-000217-27	01-000214-22
	01-000203-02	01-000205-01			P L 113	01-000224-31	01-000219-22	01-000217-15	01-000218-16
	01-000203-09	01-000244-05				01-000224-03	01-000218-36	01-000217-30	01-000224-35
P L 46	01-000204-01	01-000246-03	01-000245-27	01-000245-31	P L 114	01-000220-03	01-000169-01	01-000169-10	01-000223-22
	01-000245-21	01-000204-04	01-000246-11	01-000205-04		01-000226-35	01-000228-30	01-000228-34	01-000230-08
P L 47	01-000206-04	01-000209-04	04-000248-33	01-000208-07	P L 115	01-000201-10	01-000240-07	01-000209-10	01-000209-14
	01-000206-09					04-000293-05			
P L 48	01-000207-01	01-000208-01	04-000178-05	01-000208-26	P L 116	04-000145-03	04-000145-12		
	01-000206-18				P L 117	01-000123-36	01-000103-05	01-000021-04	01-000005-04
P L 49	01-000206-10	01-000206-07	01-000206-22	01-000206-26		01-000104-01	01-000104-08	01-000018-36	01-000030-02
	01-000206-21	01-000206-30	01-000229-09	01-000229-06	P L 118	01-000058-15	01-000031-27	01-000031-31	01-000003-04
P L 50	01-000206-34	01-000196-01	01-000196-10	01-000215-03		01-000036-31	01-000041-13	01-000041-20	01-000041-31
	01-000197-08	01-000221-26	01-000223-08	01-000222-20	P L 119	01-000017-07	01-000017-10	01-000017-16	01-000017-19
P L 51	01-000214-15	01-000201-05	01-000196-09	01-000202-06		01-000017-22	01-000017-28	01-000017-31	01-000017-34
	01-000215-19	01-000214-14	01-000218-23	01-000218-32	P L 120	01-000023-25	01-000030-30	01-000042-16	01-000040-25
P L 52	01-000221-07	01-000219-03	01-000223-32	01-000221-10		01-000027-16	01-000036-04	01-000026-30	01-000029-06
	01-000209-03	01-000209-06	01-000210-21	01-000224-27	P L 121	01-000041-09	01-000027-32	01-000027-12	01-000027-04
P L 53	01-000223-28	01-000218-20	01-000219-36	01-000219-19		01-000044-10	01-000066-26	01-000044-02	01-000025-10
	01-000224-19	01-000224-15	01-000224-35	01-000222-03		01-000037-06			
P L 54	01-000222-24	01-000222-29	01-000229-13	01-000229-34	P L 122	01-000028-32	01-000040-31	04-000037-22	01-000037-26
	01-000243-25	01-000229-24	01-000247-29	01-000247-33		01-000040-13	01-000037-30	01-000039-12	
P L 55	01-000202-03	01-000244-02	01-000207-07	01-000249-16	P L 123	01-000042-12	01-000042-17	01-000042-24	01-000051-06
	01-000249-02	01-000248-36	01-000209-06	01-000248-34		01-000038-18	01-000038-22	01-000043-04	01-000044-14
P L 91	04-001045-09	04-001046-06			P L 124	04-000043-27	01-000044-23	01-000044-29	01-000044-33
P L 92	01-000029-22	01-000029-18	01-000031-23	01-000047-35		01-000049-13	01-000043-12	01-000050-26	
	01-000047-14	01-000047-29	01-000052-22	01-000058-08	P L 125	01-000050-20	01-000050-23	01-000047-06	01-000049-24
P L 93	01-000063-04	01-000066-06	01-000055-18	01-000058-20		01-000050-30	01-000050-34	01-000051-10	01-000051-02
	01-000067-07	01-000061-13	01-000067-22	01-000062-16	P L 126	01-000060-21	01-000049-19	01-000051-14	01-000061-23
P L 94	01-000068-19	01-000068-09	01-000055-24	01-000070-25		01-000064-05	01-000064-13	01-000064-33	01-000067-14
	04-001034-07				P L 127	04-000064-13	01-000055-17	01-000055-04	04-000055-31
P L 95	04-001037-09	04-000052-30	04-000052-34		P L 128	01-000054-35	01-000055-26	01-000056-20	01-000046-09
P L 96	01-000025-16	04-000052-16	01-000058-10	04-1-1304-2-28		01-000226-25	01-000224-19		
P L 97	04-2-3001-000	04-00-00	01-000024-04	01-000021-25					

## 第1章 中内村前遺跡の概要

### 第1節 中内村前遺跡の概要

本遺跡は群馬県前橋市の南部、広瀬川（旧利根川）右岸の台地上、同市中内町を中心に同市東善町・西善町に位置する複合遺跡で、北関東自動車道建設に伴って平成9年（1998）4月から平成10年12月にかけて発掘調査が行われた。

調査区は東西に長く、これをほぼ100mおきに南北に横切る道水路を境として西側より1～9区と呼称する調査区が設定され、4区と5区は県道藤岡・大胡線で画されている。

主たる埋蔵文化財は古墳時代初頭の集落、同中期の小河川、同後期から平安時代にかけての水田址、平安時代の集落、鎌倉時代以降の屋敷や耕作遺構等であり、これらに係する多くの出土遺物が得られた。

尚、遺跡の広がりによって、整理段階に於いて1区の西部は西善尺司遺跡に編入し、一方、本書にその成果を報告する9区は前田遺跡からA区西部を編入した。

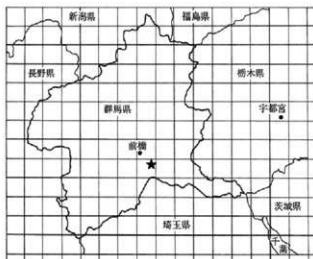
### 第2節 1～7区（第1・第2分冊）の概要

1～8区の発掘調査は地点によって違いはあるが、全体的に調査面3面の調査であった。

1面目ではAs-B降下前後遺構の遺構群を調査した。3区で1ヶ所、6区で2ヶ所の屋敷遺構が発見され、特に前者は中世前期にまで遡ることが確認された。3区東半部から6区西部にかけての区域ではAs-B降下後の復旧水田と判断される水田遺構が調査されている。また、2～7区の低地に於いてはAs-B下の平安時代後期の水田遺構が確認、調査されている。

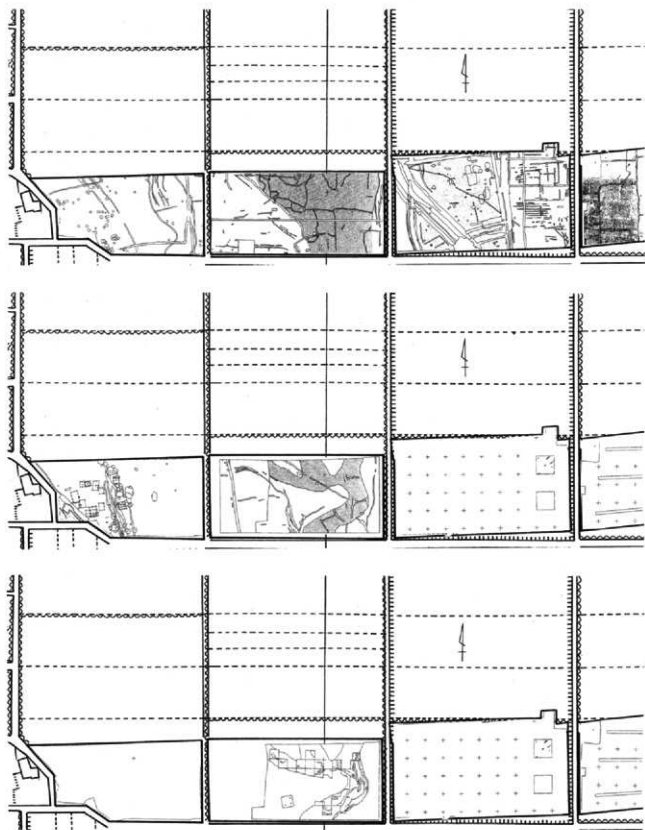
2面では古墳時代の凡そ中期以降から平安時代にかけての遺構群を調査し、1区西部で律令期の掘立柱建物、6区の微高部分では9世紀台のものを中心とする竪穴住居群が確認され、特に6区では集中的な竪穴住居の分布が認められた。一方、2区と5～7区の低地部ではHr-FA或いはHr-FA・Hr-FP泥流埋没の水田址が確認された。また6区の東端部では2・3面の境に於いてAs-C降下後の復旧水田と見られる水田址が確認されている。

古墳時代以前の遺構が確認される3面に於ける遺構は2・6・7区で確認されたが、2区東部では古墳時代前～中期の小河川の跡と同中期の竪穴住居を調査し、小河川からは農具等の木製器の出土が見られた。6・7区では古墳時代初頭の“周溝を持つ建物群”を含む集落遺構が確認され、北陸や東海、関東南部との関連が窺われた。

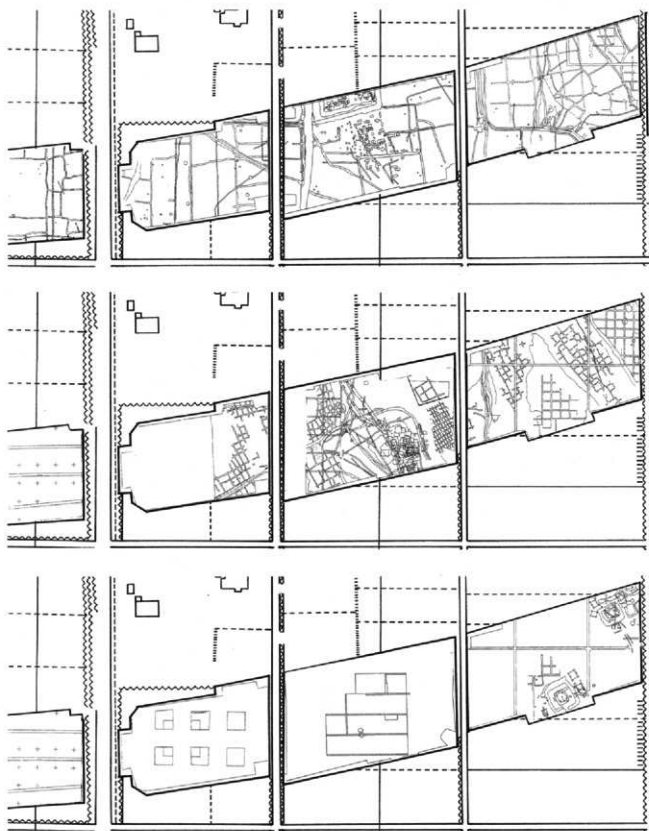


第1図 中内村前遺跡位置図

第1章 中内村前遺跡の概要



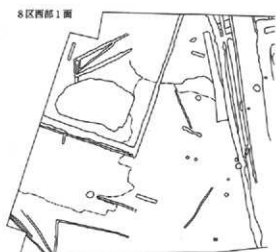
第2図の1 1～8区 遺構全体図



第2図の2 1～8区 遺構全体図

## 第2章 発見された遺構と遺物（その1）

### 第1節 8・9区の概要



8区西部1画



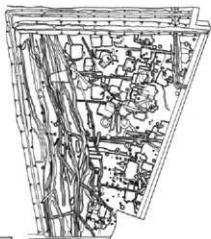
8区西部2画



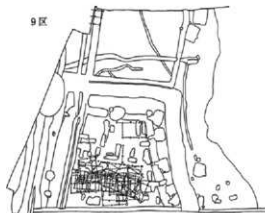
8区西部3画  
S=1/800

8区西部は7区から続く微高地上、河成段丘の段丘面に当る地形に立地し、8区東部から9区西部にかけての微高地に対しては下位の地形となっている。細かく見ると西寄り7区側は少々高くなっている、中程から東寄りは低くなっている。調査は現代から平安時代末葉のAs-B降下まで（A.D.1108年）と、平安時代末葉から古墳時代中頃まで、及びそれぞれ以前の3面の調査を行った。

8区東部



9区



第2図 8・9区 遺構分布概要図（S=1/1000）

第2節 8区西部1面の遺構と遺物



(1) 8-1-1号溝 (第3図, PL 3)

**概要** 本溝は8区南西部に位置するもので、東部は浅くなって失われており、南部は調査区外に出ている。

**遺物** 本溝からは古墳時代前期及び平安時代の土師器・須恵器片が出土してきている。

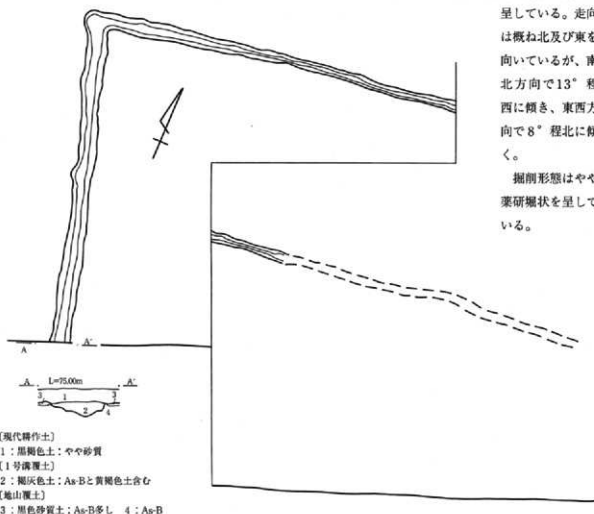
**時期** 出土遺物から時期を特定するには至らなかったが、As-Bを多く含む褐灰色土を切り、覆土中にAs-Bを含んでいるため、概ね中世の所産と判断される。

**規模** 幅：55cm 長さ：28.4m 深さ：25cm

**構造** 本溝は南側が路線外に出ているため全容は詳らかでないが、プランは北西に隅部を有する鉤型を呈している。

走向は概ね北及び東を向いているが、南北方向で13°程西に傾き、東西方向で8°程北に傾く。

掘削形態はやや薬研壺状を呈している。



第3図 8-1-1号溝 (平面図 S=1/100 断面図 S=1/50)

(2) 8-1-2号溝（第4図、PL3）

**概要** 本溝は8区南西部に位置し、東端が8-1-3号溝の南東隅部に接続し、同溝の東西走向部分の南に90cm以下の距離を以て並走する。

**遺物** 古墳時代前期と平安時代の土師器等、若干の遺物の出土が見られた。

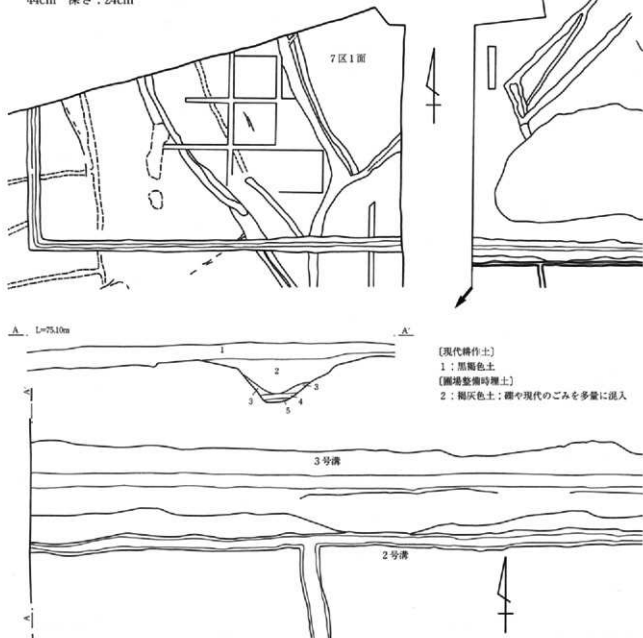
**時期** 本溝の時期は明瞭ではないが、3号溝に並走することから同溝と同時期の所産と想定される。

**規模** 長さ：26.5m 分岐部分長さ：2.6m 幅：44cm 深さ：24cm

**構造** 概ね東西走向の直線的なプランを呈するが、やや南寄りて南方に垂直に分岐する溝を伴う。

(3) 8-1-3号溝（第4図、PL3・4）

**概要** 8区北西部に位置する本溝は、西側が7区の7-1-1号溝に繋がる溝で、南面東寄りて圃場整備前の道路に接している。



第4図の1 8-1-2・3号溝と7-1-1号溝（8-1-2・3号溝平面図 S=1/100、断面図 S=1/50 7-1・8-1 溝平面図 S=1/400）



**遺物** 古墳時代前期と平安時代の土師器等も出土するが、現代のごみも多く混入している。

**時期** 本溝は圃場整備時に埋められているが、一方、昭和43年測図の都市計画図には現れていないため、

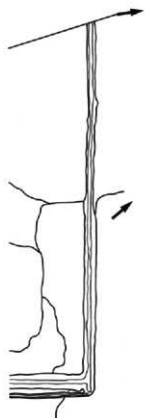
昭和40年代中頃に掘削され圃場整備までの短期間使用されたものと判断される。

**規模** 長さ：64.6m

7-1-7号溝と併せた長さ：125.6m 幅：220cm  
深さ：54cm

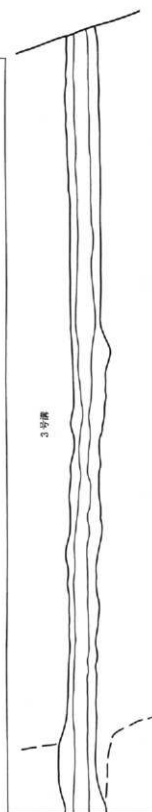
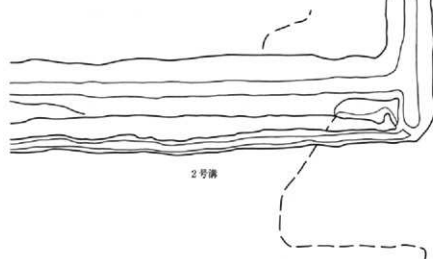
**構造** 本溝は軸方向を概ね東西・南北に取る。北側が調査区外に出ているため全容は不明だが、7-1-1号溝と併せてコ字状のプランを呈する。南東に角を持つが、ここから南に短く分岐する箇所がある。

掘削形態は箱堀状を呈している。



〔3号溝覆土〕

- 3：黒褐色砂質土：圃場整備前の溝底部
- 4：黒褐色土：黒色土、黄褐色土、褐色土を混入
- 5：黒色砂質土



第4図の2 8-1-2・3号溝と7-1-1号溝

(4) 8-1-4号溝

(第5図, P.L 3・21)

**概要** 本溝は8区中南部に在るが、掘削意図等は特定できなかった。

**遺物** 壺(1)等古墳時代の土師器片を中心とした出土遺物を得たが、鉄滓11片の出土も見られた。

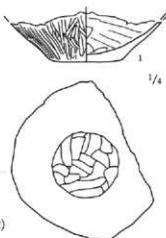
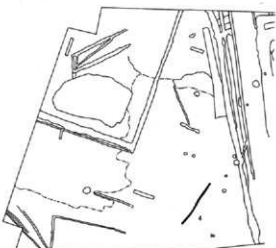
**時期** 時期は特定できなかったが、その走向は条里方眼に依拠せず、掘削形態を本遺跡の他遺構に照らして、概ね中世段階の所産と判断する。

**規模** 長さ:13.14m 幅:48cm

深さ:5cm

**構造** 本溝は極めて緩やかな逆S字状プランを呈し、走向は北北東-南南西方向を向く。

箱堀状を呈するが、2列の掘削で溝幅を決めている。軸方向に向かって掘削しているが50~60cm毎に掘削の方向はこまめに入れ替えている。



(5) 8-1-5・6・7・13・14号溝

(第6図, P.L 4・5・21・22)

**概要** 8-1-5・6・7・13・14号溝は8区北西隅部に位置し、有機的に結合するような位置関係に在って、前3者は覆土も近似するが、形態には差異があり、新旧関係も特定できなかった。

また、5・7号溝が道路の側溝である可能性はあるものの、各溝の掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 5号溝からの古墳時代後期の埴(1)、同前期の台付甕(2)、縄文時代後期の深鉢片(3)、6号溝からの古墳時代前期の土鍾(1)や馬型埴輪片(2)、13号溝からの平安時代の須恵器高台付碗(1)など、量の多少はあるものの各溝から古墳時代前期と平安時代の土師器片を中心とする出土遺物を得ている。

**時期** 出土遺物は得たが各溝とも時期は特定できなかった。しかし調査面と条里方眼との走向の相違から、概ね中世段階以降の所産と判断される。

**規模** (5号溝)長さ:16.5m 幅:83cm 深さ:26cm

(6号溝)長さ:11.6m

幅:56cm 深さ:16cm

(7号溝)長さ:15.8m

幅:99cm 深さ:22cm

(13号溝)長さ:6.2m

幅:53cm 深さ:18cm

(14号溝)長さ:3.4m (S=1/80)と出土遺物

幅:41cm 深さ:10cm

**構造** 本溝群の溝は何れも直線的なプランを呈し、その走向は、5~7号溝は北東方向に取り、6号溝は若干北に振れて北東隅部で北北東に変ずる。一方、13・14号溝は北北西に取り、14号溝は若干

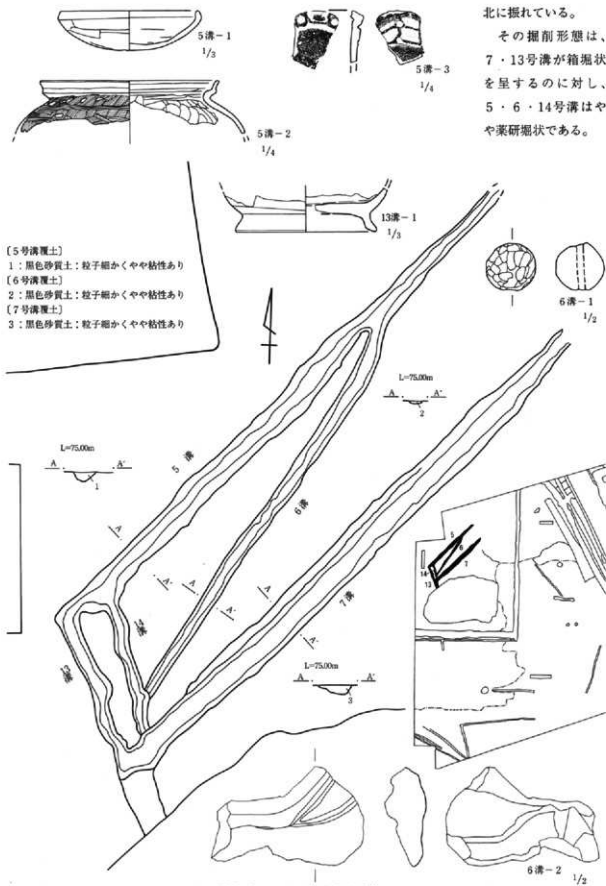


L=74.75m

第5図 8-1-4号溝

北に振れている。

その掘削形態は、7・13号溝が箱掘状を呈するのに対し、5・6・14号溝はやや菜研掘状である。



第6図 8-1-5・6・7・13・14号溝 (S=1/100) と出土遺物

(6) 8-1-8・9・10号溝

(第7・8図, P.L5・21・22)

概要 8-1-8・9・10号溝は8区中程に在り、北部で時期不詳の溝と交わり、8号溝9号溝に切られている。

8・9号溝は圃場整備前には用水路として使用され、10号溝も9号溝の東5m程の位置に並走するため、同様に水路であったものと判断される。

遺物 各溝からは古墳時代以降の土師器等、種々の遺物が出土したが、8号溝では律令期の須恵器蓋(1)が出土した他、中近世の石鉢(2)、砥石(3)の他、家具飾り(4)、瓶(5~7)、陶製の釘(8)や鉄製文鎮(11)、人

【耕作土】

1：黒色砂質土：塊耕作土

2：黒褐色砂質土：細粒で粘性少

3：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

4：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

5：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

6：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

7：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

8：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

9：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

10：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

11：黒褐色砂質土：細粒で粘性少

12：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

13：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

14：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

15：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

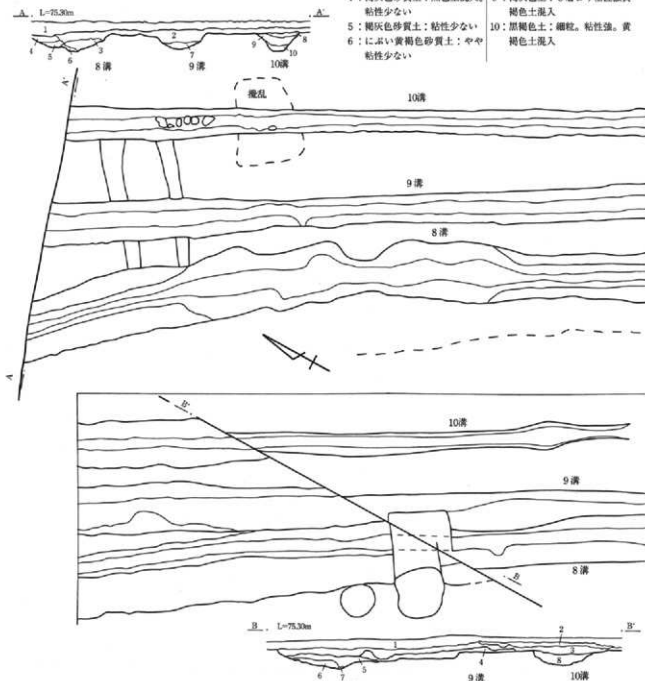
16：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

17：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

18：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

19：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

20：黒褐色砂質土：細粒。粘性少

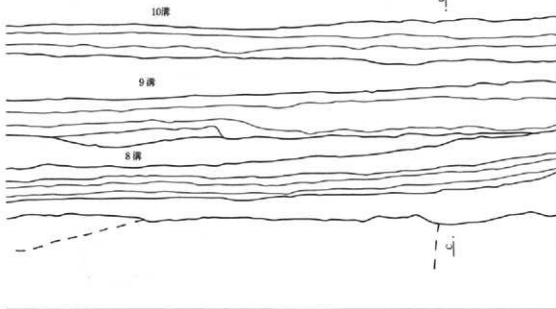
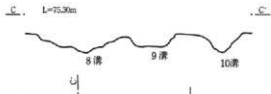


第7図の1 8-1-8・9・10号溝

第2節 8区西部1面の遺構と遺物

形の足(10)、プラスチック製籠(9)など近現代の遺物の出土も見られ、また10号溝では近世の磁器碗(1)、中世の軟質陶器壺(2)の出土が見られた。

時期 8・9号溝の当初掘削時期は不明だが、圃場整備時に埋められている。10号溝の掘削時期は特定できないが、8・9号溝に並行に在ることから近世以降の所産と思慮される。



〔耕作土〕

- 1：黒褐色土：現耕作土
- 2：明黄褐色土：小礫多量に含み、粘性少ない
- 3：黒色土：As-B多量に含む

〔9号溝覆土〕

- 4：褐灰色土：1層に比し粒子粗い。黄褐色土混入

〔8号溝覆土〕

- 5：褐灰色砂質土：粘性あり
- 6：褐灰色砂質土：粘性やや弱い
- 7：褐灰色土：黄褐色土50%混入。粘性強い

〔10号溝覆土〕

- 8：黒色土：3層に比し粒子大きく粘性少ない

第7図の2 8-1-8・9・10号溝

第2章 発見された遺構と遺物（その1）

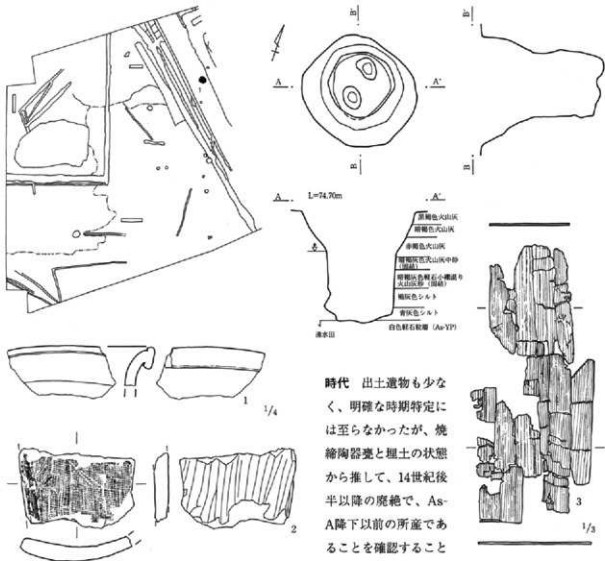


規模（8号溝）長さ：62.3m  
 幅：223cm 深さ：43cm  
 （9号溝）長さ：47.0m  
 幅：138cm 深さ：37cm  
 （10号溝）長さ：44.4m  
 幅：128cm 深さ：50cm

構造 8・9・10号溝は北側が調査区外に出ており、8号溝は調査区を横断して南側に抜けており、一方、9・10号溝は調査区の南寄りでは確認できなくなっているため全容は詳らかでないが、そのプランは何れも多少の挿れはあるものの、概ね直線的なものであった。

各溝の掘削形態は、8・9号溝は箱堀状を呈し、10号溝は部分的に箱堀状を呈する箇所もあるが、凡そ薬研堀状を呈している。

第8図 8-1-8・10号溝出土遺物



第9図 8-1-1号井戸及び出土遺物

(7) 8-1-1号井戸 (第9図, PL22)

**概要** 本井戸は8-1-10号溝の東、後述の屋敷遺構の西側に近接して位置している。

覆土は表下1.5m付近まで自然埋没し、上位は一気に埋められている。湧水層は底面附近30cm厚のAs-YP層であった。

**遺物** 出土遺物は少なかったが、14世紀後半の焼締陶器壺片(1)や女瓦(2)、薄板材(3)等の出土が見られた。このうち板材には墨書とも思える箇所が一部見られたが、文字として認識することはできず、そもそも墨書か否かも特定することはできなかった。

**時代** 出土遺物も少なく、明確な時期特定には至らなかったが、焼締陶器壺と埴土の状態から推して、14世紀後半以降の廃絶で、As-A降下以前の所産であることを確認することはできたのである。

**規模** 径：178×175cm

底径：95×88cm 深さ：175cm

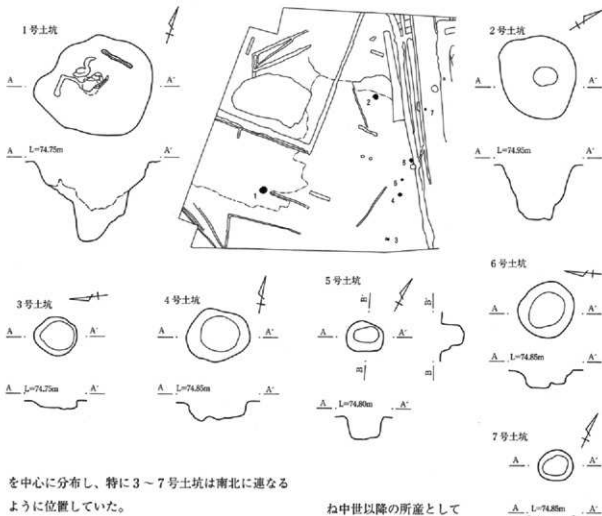
**構造** 本井戸のプランは隅丸方形形状を呈し、掘削形態は地表下60~80cmを境にして上位が深く、井筒朝顔形を呈する。

底面は平底だが2箇所に窪みがあり、底面から10~40cm程の位置の南から西附近には奥行き14cm以下のアグリが形成されている。

(8) 8区1面の土坑群 (第10図, PL51・52)

**概要** 8区(西半部)1面には幾つかの掘り込みが見られたが、この中で土坑と認識したのは8-1-1~7号土坑の7基であった。これらは8区中部

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



を中心に分布し、特に3～7号土坑は南北に通なるように位置していた。

このうち3～7号土坑の掘削意図は特定できなかったが、1・2号土坑は昭和20年（1945）8月15日未明の伊勢崎空襲に伴う爆裂坑（厳密には落下時のクレーター）である。伊勢崎空襲については「中内村前遺跡(1)」298頁に概説したので説明を省略するが、この時の爆裂孔は本遺跡では3～8区で3-1-30・4-1-1・6-1-167・7-1-2・8-1-1・2号土坑と5-1-1～3爆裂坑の合わせて9基を確認している。何れも弾筒を包んでいた外装部の先端部等の破片を伴い、播針状を呈するのが特徴である。  
**遺物** 本土坑群のうち1号土坑からは焼夷弾の他、土師器・須恵器・陶磁器片や茶筒片や火打石、ロウ石など、2号土坑から焼夷弾、7号土坑からは律令期の土師器・灰軸陶器片などを出土している。

**時期** 上述のように1・2号土坑は昭和20年8月15日のものだが、3～7号土坑は土層記録も残せず概

ね中世以降の所産として把握できるに過ぎなかった。

**規模**（1号土坑）径：175×156cm 深さ：126cm

（2号土坑）径：134×120cm 深さ：61cm

（3号土坑）径：61×68cm 深さ：13cm

（4号土坑）径：100×83cm 深さ：31cm

（5号土坑）径：57×49cm 深さ：31cm

（6号土坑）径：91×83cm 深さ：30cm

（7号土坑）径：50×56cm 深さ：16cm

**構造** 本土坑群の土坑はやや不整形なものもあったが、7号土坑が楕円形を呈する他は概ね隅丸方形のプランを呈するものであった。

**掘削・形成形態**は1・2号土坑が播針状を呈すが、他は箱状あるいは筒状を呈するものである。底面は1号土坑が錐形を成す他は平底であった。

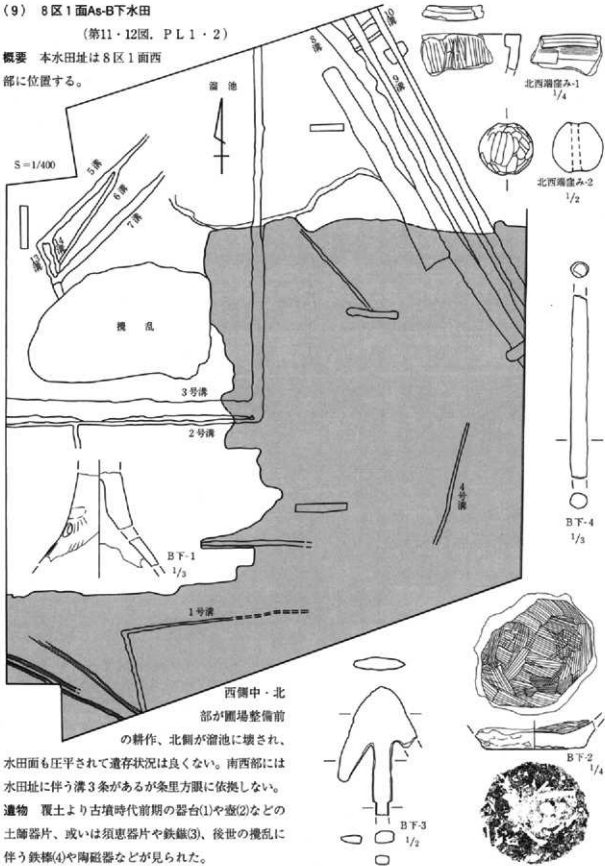
第10図 8区1面西部の土坑群



(9) 8区1面As-B下水田

(第11・12図, P L 1・2)

概要 本水田址は8区1面西部に位置する。



西側中・北部が圃場整備前の耕作、北側が溜池に壊され、水田面も圧平されて遺存状況は良くない。南西部には水田址に伴う溝3条があるが条里方眼に依拠しない。

遺物 覆土より古墳時代前期の器台(1)や壺(2)などの土師器片、或いは須恵器片や鉄錐(3)、後世の攪乱に伴う鉄棒(4)や陶磁器などが見られた。

時期 本水田址は天仁元年(1108)の廃棄である。

第11図 8区1面西部As-B下水田及び溜池と出土遺物

規模 確認範囲：55.2×56.0m

（大畦）長さ：15.9m 幅：120cm 高さ：5cm

（側溝〈東〉）長さ：14.5m 幅：54cm

深さ7cm

（側溝〈中〉）長さ：8.2m 幅：40cm

深さ2cm

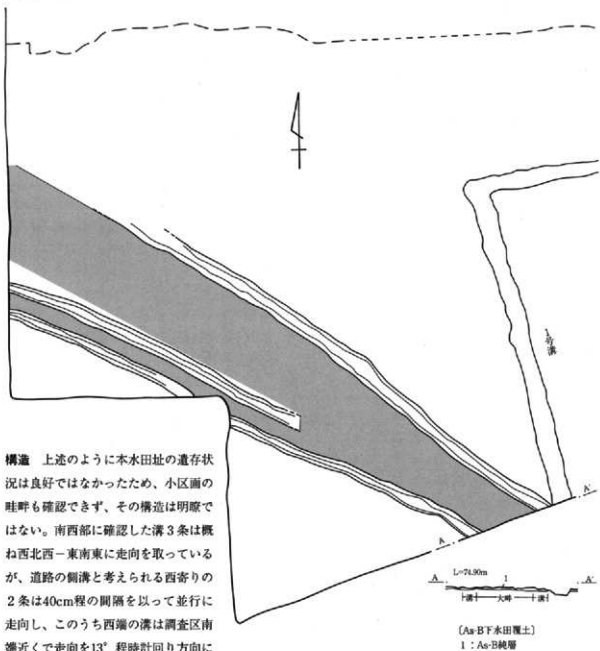
（側溝〈西〉）長さ：13.7m 幅：40cm

深さ4cm

溝の掘削は何れも浅く、箱型状であるが、壁面は開いている。

(10) 8区溜池の出土遺物（第11図、P.L22）

概要 圃場整備前、8区西部北寄りには養鶏場に南接する溜池があったが、ここからは弥生土器壺（1）や古墳時代前期の土錘（2）の他、古墳時代前期と平安期等の土師器片の出土が見られた。



構造 上述のように本水田址の遺存状況は良好ではなかったため、小区面の畦畔も確認できず、その構造は明瞭ではない。南西部に確認した溝3条は概ね西北西-東南東に走向を取っているが、道路の側溝と考えられる西寄りの2条は40cm程の間隔を以って並行に走向し、このうち西端の溝は調査区南端近くで走向を13°程時計回り方向に変じて東側の溝と並行になるが、その間が大畦と認められている。

第12図 8区1面As-B下水田（S=1/100）

## 第3節 8区西部2面の遺構と遺物

## (1) 8-2-1号住居 (第13図, P L 8・23)

**概要** 本住居は8区西半部に位置する。低地部に確認された数少ない堅穴住居の一つである。

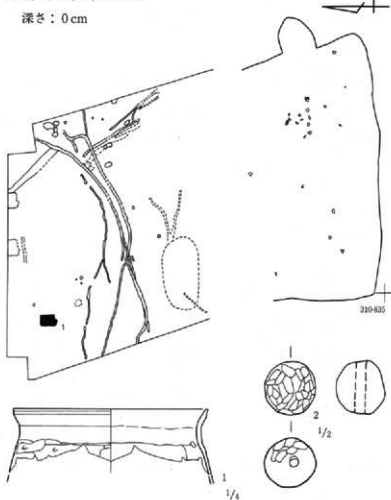
本住居はその北側が圃場整備前の耕作で削り込まれており、南側を確認できたに過ぎなかった。また上位も大きく削られていて、残存部の遺存状況も不良であり、調査範囲が掘り方であった可能性も有する。

**遺物** 出土遺物はさして多くなく、古墳時代前期と平安期の土師器を中心に、竈から土師器甕(1)が出土した他、土鏝(2)の出土も見られた。

**時代** 本住居の時期は明確ではないが、土師器甕から概ね9世紀後半期の所産と判断される。

**規模** 径:(202)×417cm

深さ:0cm



第13図 8-2-1号住居と出土遺物

**構造** 先に述べたように遺構の遺存状態が悪く、その全容は不明であるが、本住居は掘り方を持っていた可能性を有する。プランもやや不明瞭ではあるが、残存部分の形態から、概ね方形を呈するものと思慮される。

竈は東壁の恐らく南寄りに設置されているが、その構造を含め詳細は詳らかでない。

また、柱穴、貯蔵穴等を確認することもできなかった。

## (2) 8-2-2号住居

(第14・15図, P L 8・23)

**概要** 本住居は8区西端部中程に位置する。西側が調査区外に出ていて、全容は把握できなかった。

また住居北寄りを圃場整備前まで使用された3号溝が東西に貫いて、遺構を壊している。

**遺物** 本住居からは古墳時代前期と平安時代の土師器片を中心とする出土遺物を得たが、須恵器坏が貯蔵穴(1)と住居覆土(2,3)から出土し、また竈から敲石(4)の出土も見られた。

**時代** 貯蔵穴出土の須恵器坏等から勘案して、本住居は9世紀前半の所産と思慮される。

**規模** 径:(282)×414cm

深さ:34cm

[竈] 幅:(50)cm

奥行:(74)cm

(袖)長さ:(61)cm

幅:(5)cm

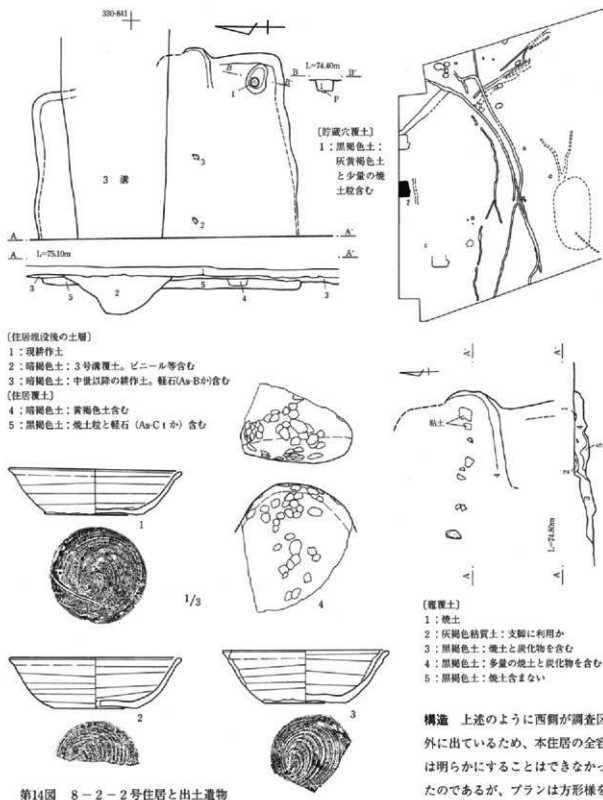
[貯蔵穴]径:47×32cm

深さ:19cm

[掘り方貯蔵穴1]径:(46)×38cm

深さ:79cm

第2章 発見された遺構と遺物（その1）

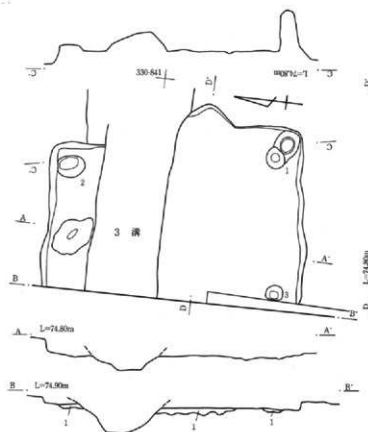


第14図 8-2-2号住居と出土遺物

【掘り方貯蔵穴2】径：35×43cm 深さ：13cm

【掘り方ピット3】径：(23)×26cm

深さ：12cm



[住居掘り方]

1:黒褐色土:埋土は灰黄褐色土、焼土粒、炭化物粒、粘床部分は灰黄褐色土を含む

第15図 8-2-2号住居掘り方

に楕円形プランの貯蔵穴を有する。掘り方面ではこの貯蔵穴の東に隅丸方形プランの柱穴状の、また北東隅部には楕円形プランを呈する貯蔵穴様のものが確認されている。

竈は東壁中央やや南寄りに設けられる。掘り方を有し、これを埋め戻して燃焼面を造っている。右袖の一部が確認されたことなどから、燃焼部が壁を若干削り込んで設けられ、やや長い袖を有していたことが分かる。

### (3) 8-2-3号住居 (第16図, P.L.23)

概要 本住居も8区西部の低地部に所在する竈穴住居の1軒で、区西端隅部のやや北寄りに位置している。他の竈穴住居との重複はなかったが、北壁附近で8-2-62号溝と重複し、これに一部切られてい

る。

また西側が調査区外となっていたため、東半部を調査できたに過ぎなかった。

遺物 本住居でも8-2-1・2号住居と同様、古墳時代前期と平安時代所産の土師器を中心とした遺物の出土が見られた。この中には床面で出土した平安時代の須恵器高台付碗(1)や、掘り方から出土した古墳時代初頭の土師器甕(2)、或はスクレーパー(3)といった遺物の出土も見られた。

時代 本住居の時期を明確にすることはできなかったが、床面出土の須恵器高台付碗から推して、概ね9世紀前半期の所産と想定される。

規模 径:(380)×(264)cm 深さ:13cm

[竈] 幅:115cm 奥行:106cm

(右袖) 長さ:50cm 幅:23cm

(左袖) 長さ:22cm 幅:52cm

(燃焼部) 径:56×106cm 深さ:4cm

[貯蔵穴] 径:33×28cm 深さ:(18)cm

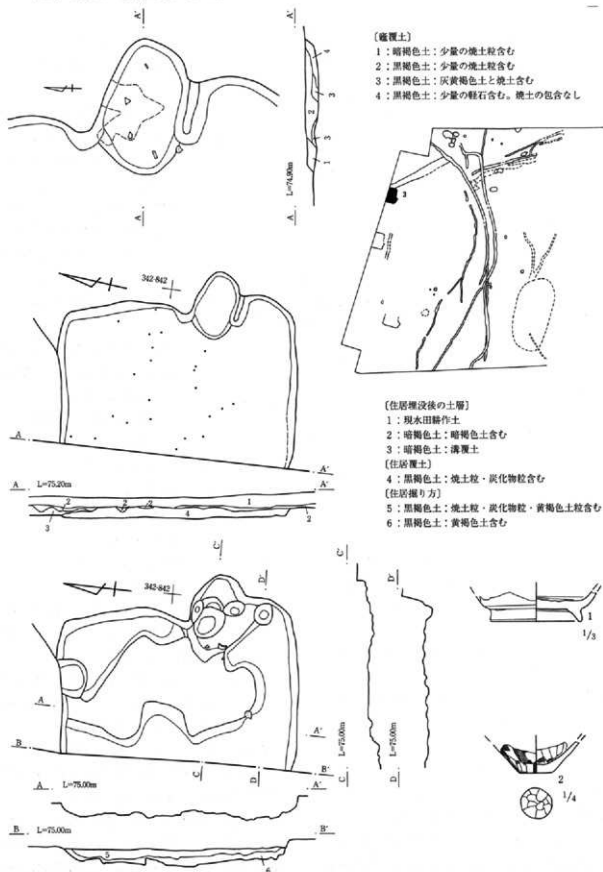
構造 上述のように本住居は全体を調査できた訳ではなかったが、残存部の形態から、プランは隅丸方形を呈するものと判断される。

掘り方を有し、これを焼土や炭化物等を含む黒褐色土で埋め戻して床を造っているが、灰黄褐色土を含む同じ黒褐色土で粘床を施している。

床面に於いては柱穴、貯蔵穴は確認されなかったのであるが、掘り方面に於いて竈右側に隅丸方形プランの貯蔵穴を確認することができた。

竈は東壁南寄りに作られ、壁面を挟んで楕円形プランの掘り方を掘削し、これを埋め戻して燃焼面を造り出している。燃焼部の左右両側には袖が設けられている。

第2章 発見された遺構と遺物 (その1)



第16図 8-2-3号住居と出土遺物

## (4) 8-2-62号溝 (第17図, P.19)

**概要** 本溝は8区北西部に位置する。西端で重複する8-2-3号住居の床上部分を切っているが、東端で重複する8-2-65号溝との新旧関係を特定することはできなかった。尚、65号溝以東の区域では溝の延長部分を確認することはできなかったため、本溝は65号溝と接続する、或いは65号溝の位置を東端としていた可能性も考慮される。

また、特に本溝の中・東部が上面で調査した後世の溝遺構、8-1-5・6号溝の掘削位置と重複し、その掘り込みによって壊されているため、遺存状況は不良であり、その全容を詳らかにすることはできなかった。

また掘削意図を特定することもできなかったのであるが、下位に細粒の土壌が堆積しているため、水路として使用された可能性が考慮される。

**遺物** 出土遺物は得られなかった。

**時期** 上述のように出土遺物も無く、本溝の時期を特定することはできなかったが、西端に切っている3号住居が9世紀前半頃の所産と判断されるので、覆土の観察所見と併せて、本溝は9～11世紀の所産と認識することができる。

**規模** 長さ：17.8m

幅：152cm 深さ：11cm

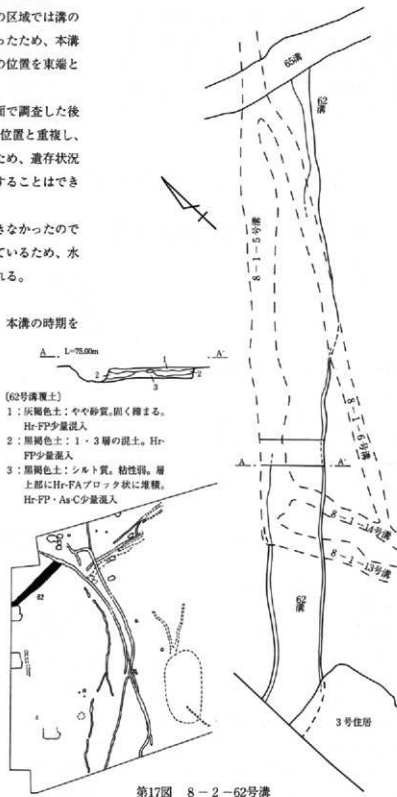
**構造** 本溝は65号溝と重複する箇所から直線的に南西方向に走向し、調査区西端付近、3号住居と接する辺りで、走向を西に変じて調査範囲の外へと抜けている。

しかし上述のように遺存状況は良好ではなく、全容を詳らかにすることはできなかったのであるが、比較的残存状況の良い西部の状態を見ると、本溝は幅広の溝で掘削形態は箱堀状を呈し、底面は平底状を呈している。

## (5) 8-2-63・64・65号溝

(第18図, P.19・10)

**概要** 8-2-63・64・65号溝は8区西部の中程、8



第17図 8-2-62号溝

区西部西半の微高地と東半の低地部との境附近に位置し、南北に縦断するように掘削されている。65号溝が64号溝を、63号溝が64号溝を切る。また63号溝と後述の8-2-71号溝は重複するが、その新旧は特定できず、63号溝北端の分岐部分が別遺構か否かも特定することはできなかった。本溝群は地形に沿って掘削されている。また、覆土の粒子は細かく、砂を含む層も見られることから水路として使用されていたものと判断される。(✓)

しながら流下し、南端部で走向南に変じて路線外に抜けている。また最初の屈曲部のやや東寄りや南南東方向に短い溝が分岐している。一方、64号溝は65号溝との接点から南南東方向に走向を持ち、63号溝と絡むように直線的に流下している。そして65号溝は63号溝の西側を北西から南南西方向に向かって、北東に張り出す緩やかな弧を描き乍ら流下する。

各溝共に両層のラインは若干の蛇行を見せてはいるものの、掘削形態は概ね箱堀状を呈している。

**遺物** 何れの溝にも出土遺物を認めることはできなかった。

**時代** 本溝群各溝の時期は特定できなかったが、覆土にAs-Cを含みHr-FAを含まないことから、概ね4～5世紀の可能性が考慮される。

**規模** (63号溝) 長さ: 34.1m

(分岐部分長さ: 1.8m)

幅: 75cm 深さ: 21cm

(64号溝) 長さ: 12.7m

幅: 61cm 深さ: 10cm

(65号溝) 長さ: 21.6m

幅: 100cm 深さ: 17cm

**構造** これらの溝のうち63号溝は北端部にあっては南西、東北東、南南東と細かくクランク状に走向を変じ、南南東に走向を変じてからは緩やかなS字状を呈



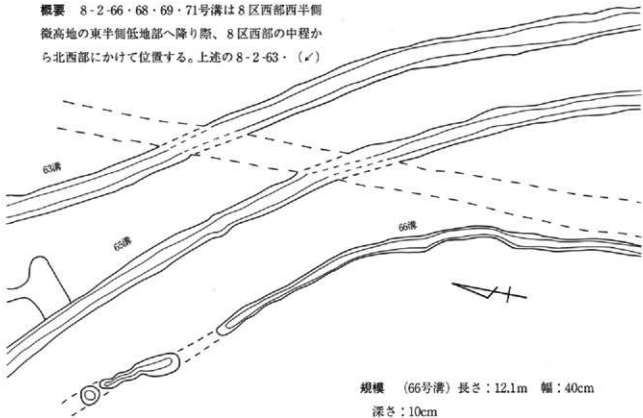
第18図の1 8-2-63・65・72号溝



## (6) 8-2-66・68・69・71号溝 (道路)

(第18図, P L 9・10)

概要 8-2-66・68・69・71号溝は8区西部西半側  
 微高地の東半側低地部へ降り際、8区西部の中間か  
 ら北西部にかけて位置する。上述の8-2-63・(✓)



第18図の2 8-2-63・65・66号溝

64・65号溝の西側に並走するように在り、同溝群とある意味で対を成すものであった。

遺構の遺存状況はさして良いものではなく、66・68号溝は途中途切れるような状態であった。また66・68・69号溝はY字状に接しているが、分岐、合流していたか否かを含め、新旧関係を特定することはできなかった。一方南寄りの71号溝は、その北端で前述の8-2-63号溝に接している。その新旧関係は明確にはできなかったが、その接点に近い位置の63号溝の断面観察から、71号溝が切られるものと判断される。

66・68・69号溝はその形態によって、調査時点から道路遺構として認識されており、71号溝についても道路遺構の可能性が検討されていた。

規模 (66号溝) 長さ: 12.1m 幅: 40cm

深さ: 10cm

(68号溝) 長さ: 13.9m 幅: 64cm

深さ: 7cm

(69号溝) 長さ: 2.9m 幅: 30cm

深さ: 1cm

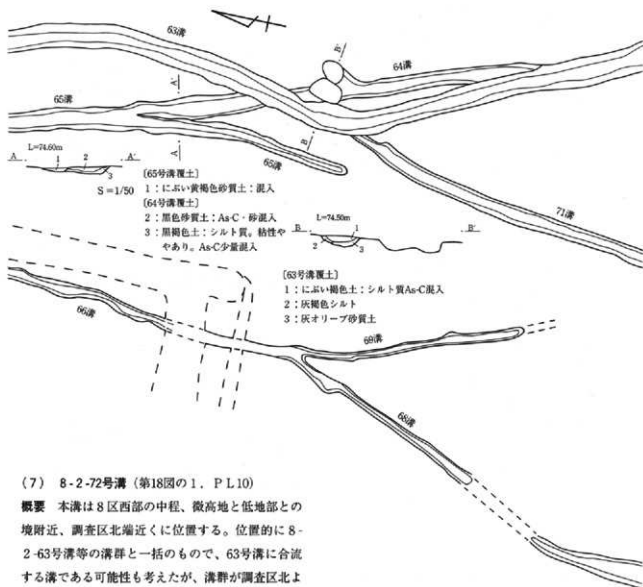
(71号溝) 長さ: 12.9m 幅: 41cm

深さ: 5cm

構造 66号溝は8-2-65号溝の西に北側で1m、南側では2.3m程西に、これに並走するように北北西から南に向かって緩やかな弧を描くように走向している。南端でY字形に分岐して南南西に向かう68号溝と南南東に向かう69号溝に接続しているが、68号溝は南南東に短く直進した後、南に向かって緩やかなS字を描いて走行し、69号溝は短く直線的に走向する。71号溝は北北東-南南西方向に直線的に走向する。

溝の形態は遺存状況が悪いため明瞭ではないが、東西両縁は蛇行してやや不揃いであり、底面は平底状を呈する。

第2章 発見された遺構と遺物 (その1)



(7) 8-2-72号溝 (第18図の1, P L 10)

**概要** 本溝は8区西部の中程、微高地と低地部との境附近、調査区北端近くに位置する。位置的に8-2-63号溝等の溝群と一括のもので、63号溝に合流する溝である可能性も考えたが、溝群が調査区北よりで西方にカーブしていくのに対し、北方に延びているので別項に扱うこととした。

南端で63号溝に重複するが、新旧関係は不明で、63号溝以南に延長部分を確認することはできなかった。また、掘削意図も特定できなかった。

**遺物** 出土遺物は認められなかった。

**時代** 上述のように出土遺物も無く、古墳～平安時代の範囲で捕らえられるだけであった。

**規模** 長さ:3.6m 幅:37cm 深さ:10cm

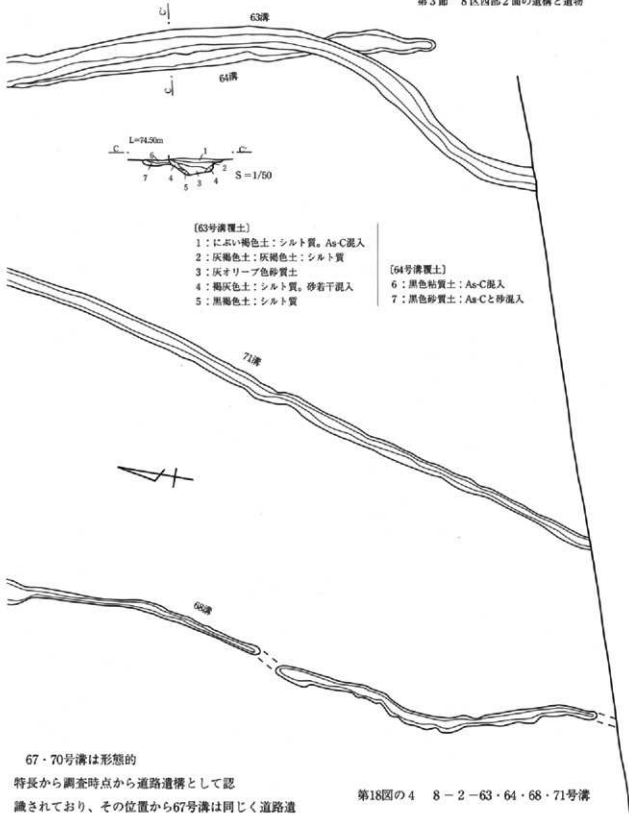
**構造** 本溝は北側が調査区外に出ているため全容は不明であるが、北北西～南南東方向に走向し、直線的なプランを呈する。

掘削形態は箱堀状を呈する。

第18図の3 8-2-63・64・65・66・68・69・71号溝

(8) 8-2-67・70号溝 (第19図の1, P L 9・10)

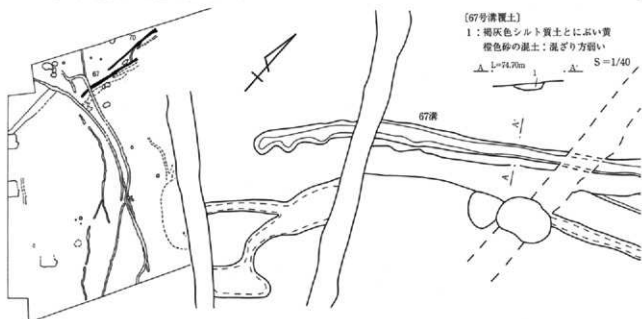
**概要** 8-2-67・70号溝は8区西部の北東寄りに位置する。8区西部東半の低地部は南に向かって深くなり、南寄りにはHr-FAの堆積する区域も在るが、67・70号溝の在る一角は調査区内に在って最も低い一角を取り巻くような位置となっており、周囲には明瞭な遺構ではないものの溝状の窪地も何ヶ所か認められている。



67・70号溝は形態的

特長から調査時点から道路遺構として認識されており、その位置から67号溝は同じく道路遺構と認識されている8-2-65号溝に接続していた可能性が考慮される。また67号溝は西寄りで前述の8-2-63号溝と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

遺物 両溝からの出土遺物は認められなかった。



第19図の1 8-2-67・70号溝

時期 出土遺物もなく、古墳へ平安時代の所産とできるだけで時期を特定することはできなかった。

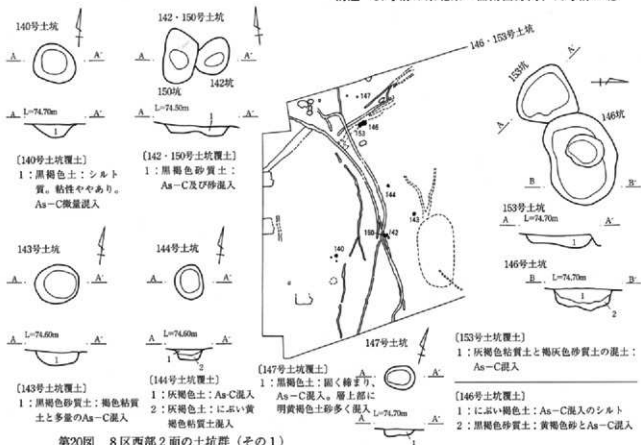
規模 (67号溝) 長さ: 13.9m 幅: 71cm

深さ: 8cm

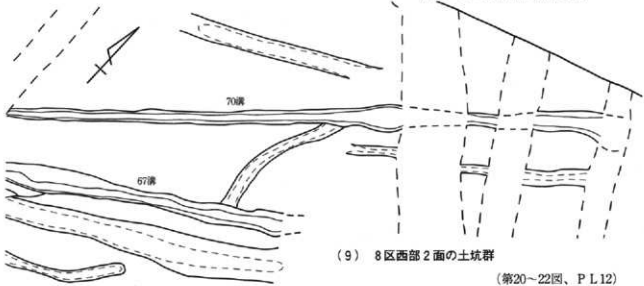
(70号溝) 長さ: 12.9m 幅: 73cm

深さ: 5cm

構造 67号溝は東北東-西南西方向、70号溝は北



第20図 8区西部2面の土坑群 (その1)



第19図の2 8-2-67・70号溝

東-南西方向に軸を向け、共に直線的な走向を取るが、67号溝は西端部で走向を南西方向に変ずる。また、両溝共に多少幅員に増減が見られるものの比較的整ったプランを呈する。

67・70号溝の形態は全体として浅い箱型状を呈する。

(9) 8区西部2面の土坑群

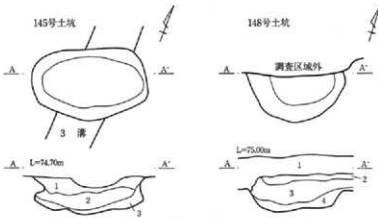
(第20~22図、P L12)

**概要** 8区西部2面に於いては8-2-140~154の15基の土坑を発見、調査した。

その分布は上述の溝の周辺に集まる傾向があるが、特に調査区北西部には141・149・151・152・154号土坑が集まっている。

このうち中南部の142号土坑と150号土坑、北部の146号土坑と153号土坑は重複するが、何れも新旧は特定できなかった。また150号土坑は8-2-64号溝と重複しより新しい。

尚、遺構番号についてであるが本土坑群の番号は調査段階で1番から付けられていたが、調査或いは基礎整理の段階で140~



【145号土坑覆土】

- 1: にぶい褐色土: シルト質でやや砂質。Hr-PP混入
- 2: 灰褐色土: シルト質で粘性有り。黒褐色粘質土と黄褐色土混入
- 3: 褐灰色砂質土: 黒褐色粘土小塊と黄褐色土粒混入

【土坑埋没後の地積層】

- 1: 灰黄褐色土: やや砂質。黄褐色土と多量のAs-B混入
- 2: 黒褐色土: As-Bと3層土混入
- 3: 灰褐色土: シルト質で粘性有り。2層土微量に混入
- 4: 褐灰色土と黒褐色土、褐灰色粘質土の混土



第21図 8区西部2面の土坑群(その2)





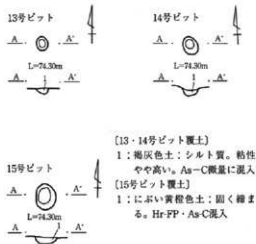
第23図 8区西部2面のピット

(10) 8区西部2面のピット (第23図, P L13)

概要 8区西部2面に於いては8-2-13・14・15号ピット(当初1・2・3号ピットとして調査)の3基の小ピットを確認している。このうち13・14号ピットは中南部にあって近接し、15号ピットは北端近くに位置する。

何れも他の遺構との切り合いは無く、掘削目的等も確認できなかった。

遺物 認められなかった。



(13・14号ピット覆土)

1: 褐灰色土: シルト質。粘性やや高い。As-C微量に混入

(15号ピット覆土)

1: によい黄褐色土: 固く締まる。Hr-PP・As-C混入

時期 何れも4～11世紀の範囲で捕らえられるだけであった。

規模 (13号ピット) 径: 18×21cm

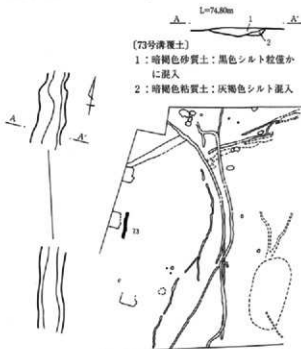
深さ: 8cm

(14号ピット) 径: 23×29cm 深さ: 16cm

(15号ピット) 径: 33×41cm 深さ: 11cm

構造 何れも楕円形のプランを呈する。

底面形態は13号ピットが平底状、14・15号ピットが丸底状を呈する。



第24図 8-2-73号溝

(11) 8-2-73号溝 (第24図)

概要 本溝は8区西部3面の遺構として調査したが、土層の状態から2面に属することを確認した。

本溝は2面の他の溝群より西寄りに位置する。遺存状態はあまり良くなく、南北に離れて2ヶ所が確認され、南側は切れている。また、本溝の掘削意図は確認できなかった。

遺物 平安期のものを中心とする、僅かな量の土師器・須恵器片を出土した。

時期 覆土の観察から平安期の所産と認識される。

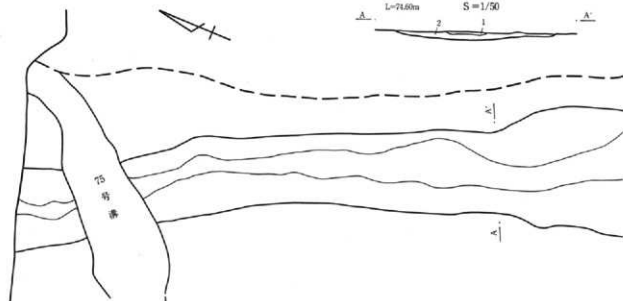
規模 全長: 7.2m (残長: 2.4m, 2.3m)

幅: 75cm 深さ: 11cm

構造 本溝は遺存状態が不良なため全容は詳らかでないが、多少蛇行しつつも概ね南北に走向する。

掘削形態は箱堀状を呈する。

第4節 8区西部3面の遺構と遺物



[74号溝覆土]

1:黄褐色砂質土 (Hr-FAか) と灰色粘質土の混土

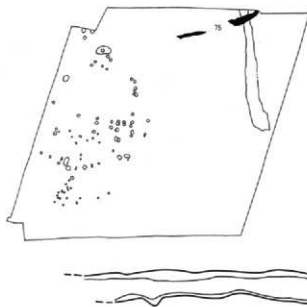
2:やや粘質の褐色土とAs-C混黒色土、灰色土の混土:1層の黄褐色土含む

L=71.60m S=1/50

第25図の1 8-3-74号溝

(1) 8-3-74号溝 (第25図, P L15)

**概要** 本溝は8区西半部の北東寄り、8区中程の低地部に在って、2面に於ける最深部のやや東寄りに位置する。



本溝は北部で8-3-75号溝と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

また、掘削意図を特定することもできなかった。

**遺物** 本溝からは土師器壺片 (1) 等、古墳時代前期初頭に属する若干の土師器片の出土を見た。

**時期** 時期は明瞭ではないが、出土遺物と覆土から概ね古墳時代前期頃の所産と認識される。

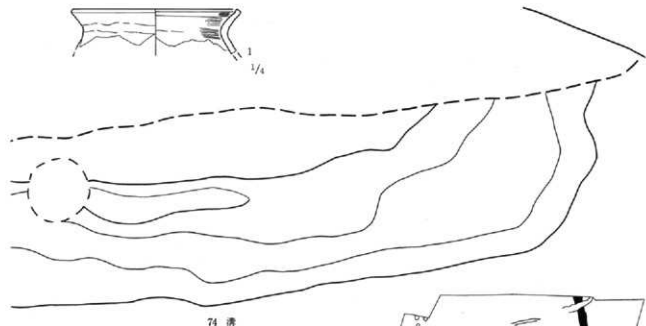
**規模** 長さ:32.5m 幅:332cm 深さ:19cm

**構造** 本溝は北側が調査区外に出、南東部も掘削できなかったため全容は詳らかでないが、その走向は北西—南東方向に取り、南端部で東方向に転ずる。

掘削形態は箱型状を呈している。

第26図の1 8-3-75号溝





(2) 8-3-75号溝 (第26図, P L15)

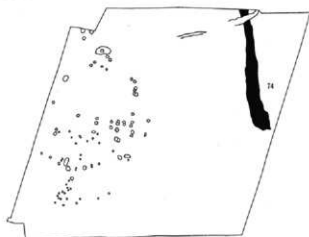
**概要** 本溝は8区西部の北部東寄り、2面の8-2-70号溝(道)に重なるように位置する。

東部で8-3-74号溝と重複するが、新旧は特定できなかった。また北側は調査区外に出て、遺存状況も悪かったため、一部を確認できただけであった。

土層記録も残すことができず、掘削意図を特定することはできなかったが、後述する形態的特長から水路の可能性が考慮される。

**遺物** 認められなかった。

**時期** 概ね古墳時代前期以前の所産と認識される。

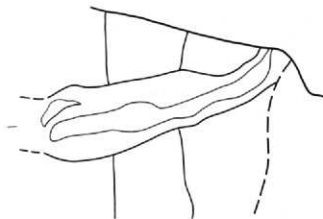


第25図の2 8-3-74号溝と出土遺物

**規模** 全長:22.9m(残長:7.4m, 7.1m) 幅:20cm 深さ:19cm

**構造** 上述のように本溝は遺存状況が良くなかったため全容は詳らかでないが、その走向は西南西—東北東方向に取り、東端で北東方向に変ずる。

掘削形態は箱堀状を呈するが、東部で走向を変ずる手前、74号溝と交差する付近で深くなり、幅員を増している。



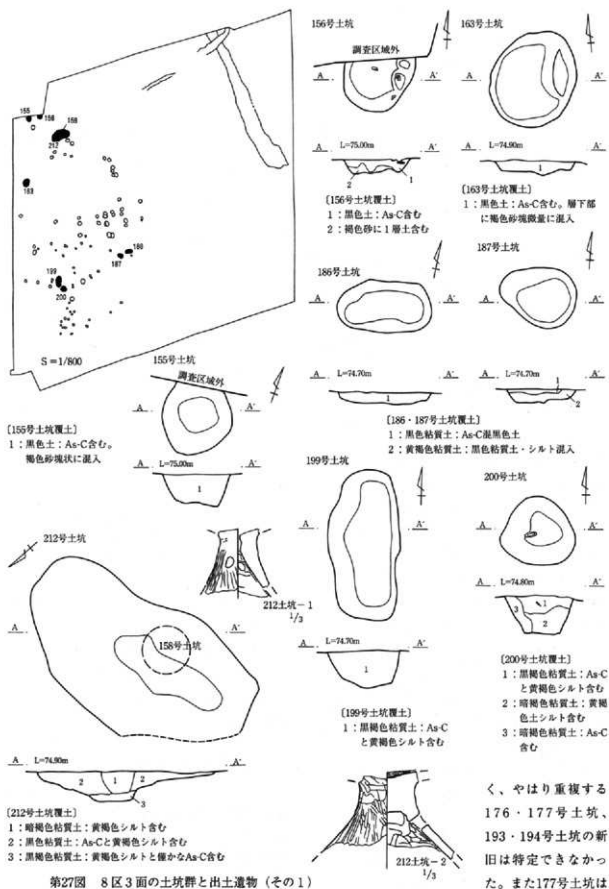
第26図の2 8-3-75号溝

(3) 8区西部3面の土坑群

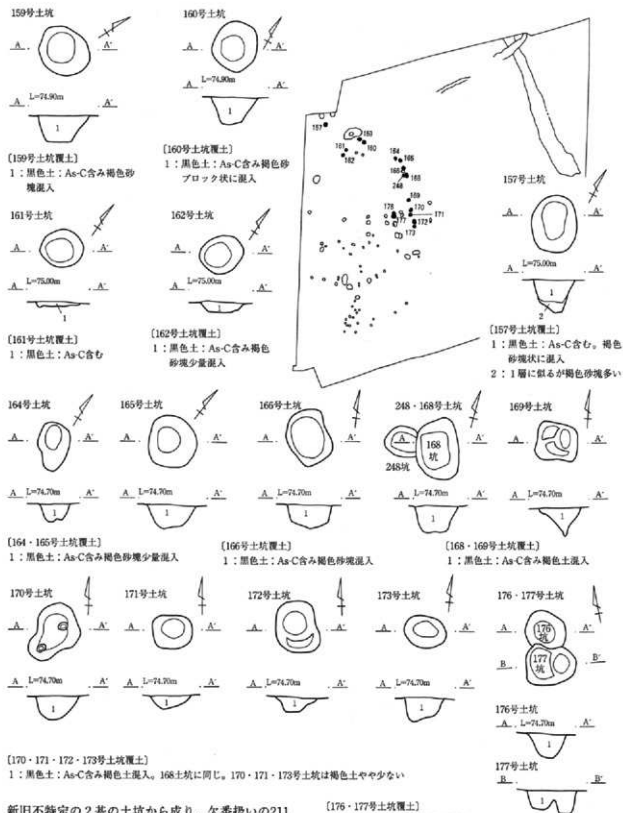
(第27~32図, P L23)

**概要** 8区西部3面に於いては8-3-155~157・159~182・184~190・192~201・203~210・212~248号土坑の89基の土坑を調査した。このうち158・212号土坑、168・248号土坑は共に前者の方が新し

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



第27図 8区3面の土坑群と出土遺物（その1）



新旧不特定の2基の土坑から成り、欠番扱いの211号土坑の注記のある出土遺物があるため、注記の誤りか大型土坑との重複の可能性も考慮される。また8区東部の土坑群との間で遺構番号の二重登録があ

第28図 8区3面の土坑群(その2)

った。このため8区西部の土坑群は土坑番号の頭に「8-3」を附し、8区東部は「8-」を付すことで区別することとしたが、155～157・159～164・166号土坑がこれに該当する。

これらは調査区内に於いては北部に東西17m、南北12mの方形様の空白部を有する東西30m、南北46mの楕円形の範囲内に分布している。土坑の配置は後述するものを除けば、中型のものが部分的に直線的な配置（特に第28図北東部）を見せるものの、特段の規則性は認められなかった。また凡そ直径200cm、100cm、60cm、45cmを境として、特に大型のもの（第27図-212号土坑）、大型のもの（第27図）、中型のもの（第28・29図と第27図-158号土坑）、小型のもの（第30図と第28図-248・177《東部》号土坑）、より小型のもの（第31・32図と第29図-184号土坑）に分類された。

各土坑の掘削意図は特定できなかつたが、より小型のものは杭の打設痕の可能性を有し、第31図に示したように、南部に於いてはより小型のものを中心とした2群（233・234・237・238・239号土坑と204・235・236・241・242・246・247号土坑）の円形の配置を見せるものがあり、これらは樹木の根の痕跡である可能性を有する。

**遺物** 土坑群のうち168・169・172・174・175・177・179・182・185・193・198・200・201・204・206・206・209・210・212・220・221・232号土坑からは器台（212坑-1）や高坏（206坑-1・212坑-2）等古墳時代前期（初頭）の若干量の土師器片の出土が見られた。また遺構番号重複のため本土坑群の出土かは明確ではないが、155・157号土坑からは律令期の、157・160・163・166号土坑からは古墳時代前期の少量の土師器片の出土が見られた。この他、上述のように遺構の記録のない「212号土坑」からは古墳時代前期初頭の高坏（212坑-2）など古墳時代前期の土師器と上位層からの紛れ込みと判断される須恵器片1点の出土があった。

**時期** 個々の土坑の時期は特定できなかつたが、全体として出土遺物と覆土の観察から古墳時代前期頃

の所産として把握することはできよう。

**規模**（155号土坑）径：(108)×105cm

深さ：50cm

(156号土坑) 径：100×(80)cm 深さ：22cm

(157号土坑) 径：90×68cm 深さ：52cm

(158号土坑) 径：(70)×70cm 深さ：17cm

(159号土坑) 径：82×73cm 深さ：42cm

(160号土坑) 径：80×70cm 深さ：43cm

(161号土坑) 径：70×60cm 深さ：10cm

(162号土坑) 径：65×58cm 深さ：16cm

(163号土坑) 径：155×130cm 深さ：22cm

(164号土坑) 径：78×51cm 深さ：27cm

(165号土坑) 径：84×76cm 深さ：36cm

(166号土坑) 径：88×64cm 深さ：36cm

(167号土坑) 径：62×51cm 深さ：27cm

(168号土坑) 径：94×68cm 深さ：40cm

(169号土坑) 径：64×57cm 深さ：35cm

(170号土坑) 径：90×73cm 深さ：38cm

(171号土坑) 径：64×63cm 深さ：28cm

(172号土坑) 径：80×68cm 深さ：34cm

(173号土坑) 径：66×52cm 深さ：43cm

(174号土坑) 径：60×56cm 深さ：38cm

(175号土坑) 径：56×47cm 深さ：32cm

(176号土坑) 径：69×61cm 深さ：44cm

(177号土坑) 径：80×54cm

東：径：41×55cm 深さ：44cm

西：径：(44)×68cm 深さ：32cm

(178号土坑) 径：94×62cm 深さ：42cm

(179号土坑) 径：70×48cm 深さ：36cm

(180号土坑) 径：67×57cm 深さ：55cm

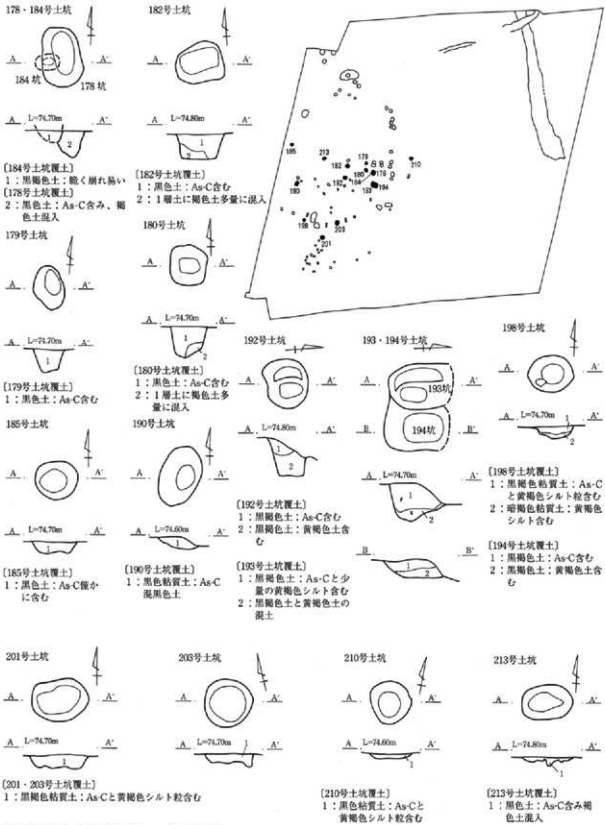
(181号土坑) 径：54×43cm 深さ：6cm

(182号土坑) 径：76×62cm 深さ：40cm

(184号土坑) 径：(38)×(26)cm 深さ：18cm

(185号土坑) 径：66×59cm 深さ：18cm

(186号土坑) 径：148×130cm 深さ：20cm



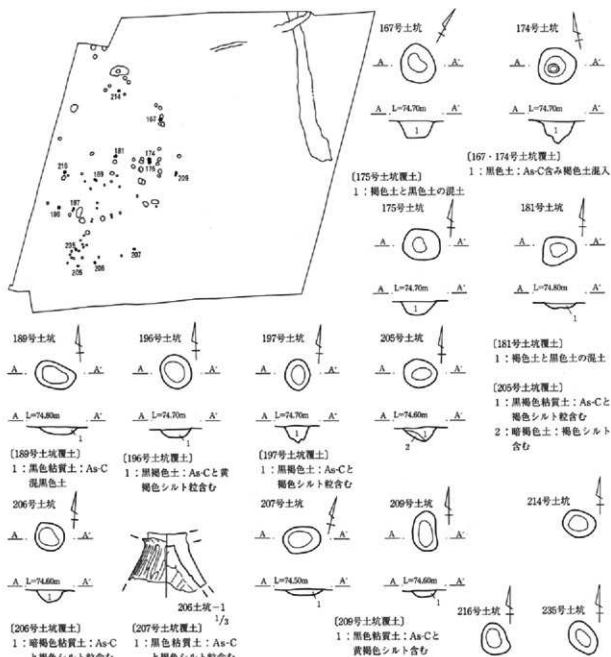
第29図 8区3面の土坑群(その3)

(187号土坑) 径: 120×97cm 深さ: 27cm

(188号土坑) 径: 44×42cm 深さ: 8cm

(189号土坑) 径: 63×40cm 深さ: 19cm

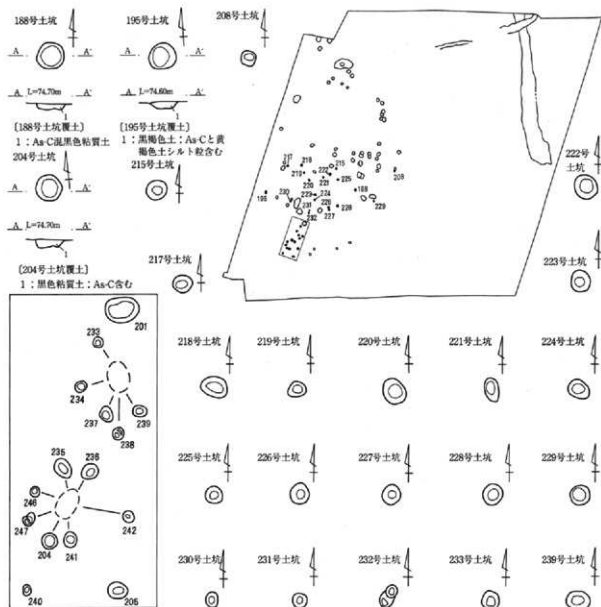
(190号土坑) 径: 98×62cm 深さ: 22cm



第30図 8区3面の土坑群 (その4)

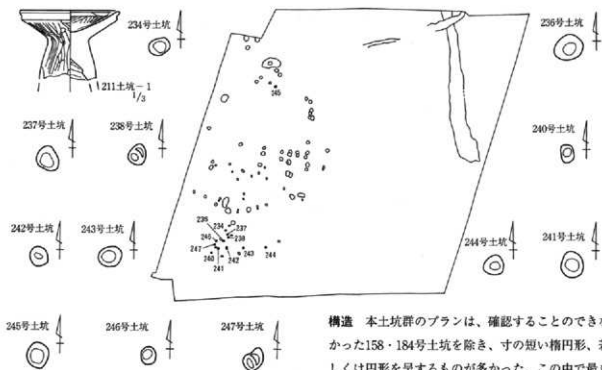
(192号土坑) 径: 80×63cm 深さ: 62cm  
 (193号土坑) 径: 106×74cm 深さ: 52cm  
 (194号土坑) 径: 102×(90) cm 深さ: 22cm  
 (195号土坑) 径: 44×40cm 深さ: 13cm  
 (196号土坑) 径: 56×48cm 深さ: 30cm  
 (197号土坑) 径: 50×40cm 深さ: 28cm  
 (198号土坑) 径: 73×56cm 深さ: 15cm  
 (199号土坑) 径: 236×112cm 深さ: 66cm  
 (200号土坑) 径: 108×108cm 深さ: 60cm

(201号土坑) 径: 90×64cm 深さ: 22cm  
 (203号土坑) 径: 78×76cm 深さ: 26cm  
 (204号土坑) 径: 42×40cm 深さ: 13cm  
 (205号土坑) 径: 52×42cm 深さ: 23cm  
 (206号土坑) 径: 47×44cm 深さ: 25cm  
 (207号土坑) 径: 58×42cm 深さ: 13cm  
 (208号土坑) 径: 24×22cm 深さ: 11cm  
 (209号土坑) 径: 63×38cm 深さ: 11cm



第31図 8区3面の土坑群(その5)と南部の土坑群分布図(S=1/100)

(210号土坑) 径: 66×60cm 深さ: 14cm	(220号土坑) 径: 40×35cm 深さ: 22cm
(212号土坑) 径: 390×206cm 深さ: 48cm	(221号土坑) 径: 40×23cm 深さ: 15cm
(213号土坑) 径: 80×56cm 深さ: 14cm	(222号土坑) 径: 40×36cm 深さ: 11cm
(214号土坑) 径: 51×40cm 深さ: 7cm	(223号土坑) 径: 35×30cm 深さ: 19cm
(215号土坑) 径: 34×30cm 深さ: 10cm	(224号土坑) 径: 34×28cm 深さ: (-) cm
(216号土坑) 径: 50×42cm 深さ: 20cm	(225号土坑) 径: 28×26cm 深さ: 23cm
(217号土坑) 径: 29×29cm 深さ: 5cm	(226号土坑) 径: 35×30cm 深さ: 24cm
(218号土坑) 径: 42×31cm 深さ: 11cm	(227号土坑) 径: 32×28cm 深さ: 23cm
(219号土坑) 径: 30×23cm 深さ: (-) cm	(228号土坑) 径: 34×30cm 深さ: 11cm



第32図 8区3面の土坑群と出土遺物（その6）

(229号土坑)	径：34×32cm	深さ：20cm
(230号土坑)	径：25×20cm	深さ：24cm
(231号土坑)	径：22×22cm	深さ：3cm
(232号土坑)	径：40×20cm	深さ：4cm
(233号土坑)	径：28×26cm	深さ：7cm
(234号土坑)	径：33×24cm	深さ：8cm
(235号土坑)	径：56×40cm	深さ：16cm
(236号土坑)	径：46×38cm	深さ：13cm
(237号土坑)	径：40×34cm	深さ：14cm
(238号土坑)	径：32×30cm	深さ：33cm
(239号土坑)	径：38×30cm	深さ：20cm
(240号土坑)	径：28×20cm	深さ：14cm
(241号土坑)	径：40×34cm	深さ：19cm
(242号土坑)	径：32×28cm	深さ：27cm
(243号土坑)	径：36×32cm	深さ：23cm
(244号土坑)	径：30×30cm	深さ：19cm
(245号土坑)	径：38×33cm	深さ：6cm
(246号土坑)	径：26×24cm	深さ：15cm
(247号土坑)	径：38×28cm	深さ：20cm
(248号土坑)	径：(50)×48cm	深さ：16cm

**構造** 本土坑群のプランは、確認することのできなかった158・184号土坑を除き、寸の短い楕円形、若しくは円形を呈するものが多かった。この中で最も大きな212号土坑や、大型の186・199号土坑や中型の179・190・201・213号土坑や小型の189・209・235号土坑は長円型に近く、中型の166・168・172・177（西）・178・182・193号土坑は隅丸長方形を呈するものであった。

掘削底面は平底のものが多かったが、中型の157・164～166・170・171・173・193・198・196・206号土坑は丸底を呈し、同じく中型の157・178～180・174・197号土坑は尖底を呈していた。またより小型のものは丸底若しくは尖底を呈するものであった。

## 第5節 8区西部の遺構外の出土遺物

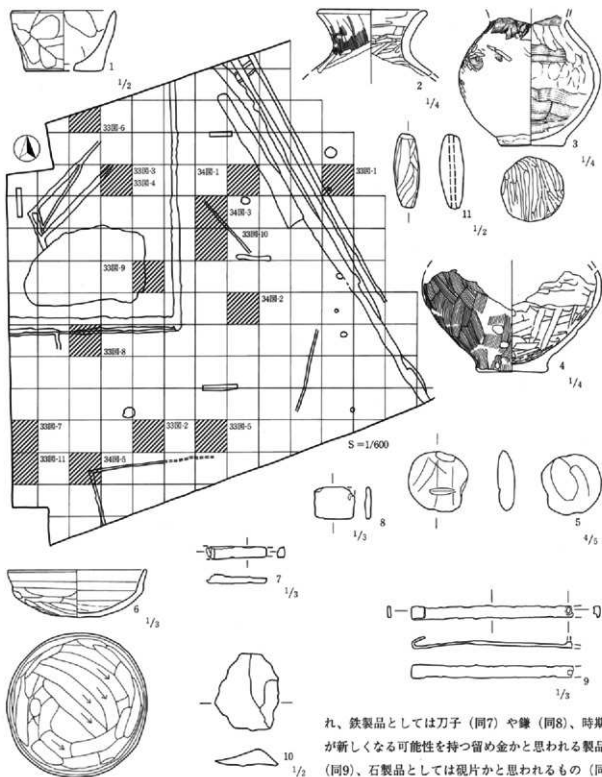
### (1) 8区西部1面の出土遺物

(第33・34図、P L21・22)

**概要** 8区西部1面の調査では南東寄りと北側中東部を除く区域で分散するような状態で遺物の出土が見られた。

**遺物** 1面では古墳時代前期と平安時代の土師器片を中心とした出土遺物が得られたが、この中には古





第33図 8区西部1面の出土遺物(その1)

墳時代前期のミニチュア土器(33図-1)や土師器の壺(同3)・甕(同2・4)・土鍾(同5)、同時代後期の土師器坏(同6)や同期以降の土鍾(11)が見ら

れ、鉄製品としては刀子(同7)や鎌(同8)、時期が新しくなる可能性を持つ留め金かと思われる製品(同9)、石製品としては硯片かと思われるもの(同10)の出土も見られた。

また、2面との端境となるAs-B下からは律令期の瓦片(34図-1)、古墳時代後期以降と思われる土鍾(同2・3)、甕か鍛冶炉のものと思われる整体片(同4)や蔽石(同5)の出土も見られた。



むように、調査区中央と上述の擾乱の北側及び西側にややコロニー状の分布を見せ乍ら遺物の出土が見られた。

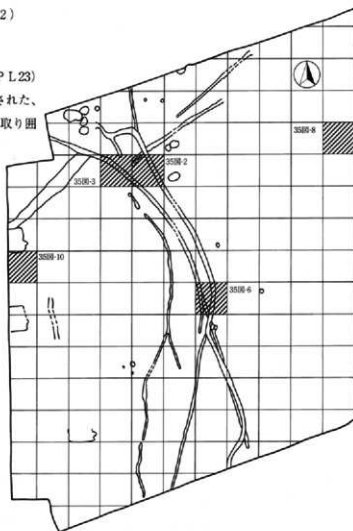
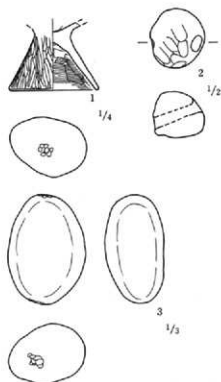
遺物 8区西部2面では古墳時代前期の土師器片を中心とする遺物の出土が見られたが、この中には古墳時代前期に属する弥生土器壺(7)や土師器の高環(1)或いは壺(4・9)、球形の土錘(2・

第34図 8区西部1面の出土遺物 (その2)

(2) 8区西部2面の出土遺物

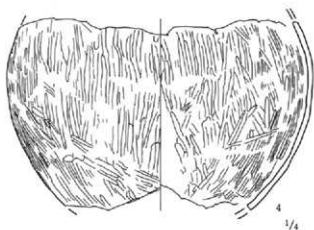
(第35・36図, P L23)

概要 8区西部2面では、その北西部に残された、圃場整備時に掘削された池状の大きな擾乱を取り囲



第35図 8区西部2面の出土遺物 (その1)

第5節 8区西部の遺構外の出土遺物



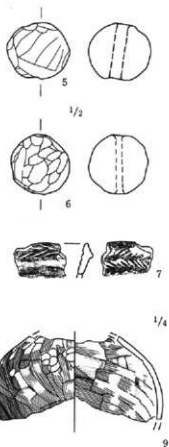
第36図 8区西部2面の出土遺物（その2）

5・6が見られた他、敲石（3・8、8は写真のみ掲載）などの出土も見られた。

（3） 8区西部3面の出土遺物

概要 8区西部3面では、その北西部隅部と南西隅部から若干量の遺物が出土している。

遺物 出土遺物には、一部上位層からの流入品も含まれるが、全体としては古墳時代前期の土師器片を中心としている。尚、出土量は少なく、図示すべき



ようなものは認められなかった。

## 第6節 8区東部1面の遺構と遺物

8区東部では西部の1・2面に相当する調査面は一括調査され、その区分ができなかった。従って本節に於いては西部の1・2面に相当するものを1面として取り扱う。また、該当する遺構のうち中世の屋敷跡に付属すると判断されたものは第3章（192頁）に、3面に付属するものの一部は第7節（156頁）に記載を行う。

### (1) 8-4号住居（第37図、P.L27・56）

**概要** 本住居は住居集中城南東部に位置する。上位が大きく削平されており、掘り方を中心に確認できたに過ぎなかった。また、掘り方や貯蔵穴に焼土や炭化物が見られることから、本住居は焼却を伴う再築があり、住居廃絶時にも焼却の行われた可能性が窺われる。

**遺物** 古墳時代前期と平安時代の土師器片を中心とする遺物の出土が見られたが、貯蔵穴から須恵器碗(1、2)が正位に置かれて出土していた。また鉸具の刺金らしき鉄製品の出土も見られた。



第37図 8-4号住居と出土遺物

時期 出土遺物から10世紀前半期の所産と思慮される。

規模 径：298×291cm 深さ：0cm

〔竈〕幅：(73)cm 奥行：75cm

(右袖)長さ：51cm 幅：22cm

(左袖)長さ：52cm 幅：(14)cm

(燃焼部)径：34×63cm 深さ：5cm

〔貯蔵穴〕径：33×28cm 深さ：(18)cm

構造 遺存状況が良好ではなかったが、その全容を詳かにすることはできなかったが、本住居のプランは隅丸方形を呈し、掘り方を有している。これを焼土を含む暗褐色土で埋め戻して床を造ったものと判断される。

しかし乍ら、床面は確認できず、柱穴も認めることはできなかったが、竈右側の住居北東隅に隅丸方形プランの貯蔵穴が掘削されている。

竈は東壁やや南寄りに設けられており、壁面を挟んで楕円形プランの掘り方を掘削し、これを埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部の左右両側には幅狭の袖が設けられているが、天井の構造等は不明。

## (2) 8-5号住居 (第38図、P.L27・56)

概要 本住居は北部の住居集中域北東部に位置し、西部は8-26号溝に切られている。南部は8-6号住居と重複するものの、記録化が不十分で新旧は明瞭ではないが、調査時点では本住居の方が新しいものと判断される。また北壁部分で8-18号土坑と重複するが新旧を特定することはできなかった。

また、上位は削平されて遺存状況は悪く、掘り方を中心に調査できたに過ぎなかった。

遺物 本住居からは古墳時代前期と平安時代所産の土師器片を中心とする遺物の出土が見られたが、北東部の床面若しくは掘り方に於いて須恵器環(1)、碗(2・3)、甗(4)がまとめて出土し、他に土釜(5)、葎石(6)の出土も見られた。

時期 出土遺物から見て、本住居は9世紀後半期の所産と判断される。

規模 径：259×(239)cm 深さ：0cm

〔竈〕幅：(70)cm 奥行：102cm

(燃焼部)径：49×81cm 深さ：4cm

構造 遺存状況が良好ではなかったが、その全容は詳かにできなかったが、本住居は隅丸方形プランを呈しており、掘り方を有している。

本住居に於いては柱穴、或いは貯蔵穴を確認することはできなかった。

竈は東壁南寄りに作られ、壁面を超えた位置に楕円形プランの掘り方を掘削している。燃焼面は壁位置よりも奥に在り、天井材の崩落したものと思慮される。焼土も面的に確認されているが、袖の形状を確認することはできなかった。

## (3) 8-6号住居 (第39図、P.L27・56)

概要 本住居は北部の住居集中域北東部に位置する。遺存状況は良好ではなく、西部は8-26号溝に切られ、断定できないが恐らくは北側で8-5号住居に切られ、南側8-11号住居を切っている。

遺物 平安時代の土師器片など出土遺物は僅かであったが、刀子(1)の出土が見られ、本住居と11号住居の何れに属するかは明瞭ではなかったが磨石(8・6・11住-1)の出土も見られた。

時期 概ね平安時代の所産として把握されるだけで、その時期を明確にすることはできなかった。

規模 径：313×(239)cm 深さ：10cm

〔竈〕幅：(95)cm 奥行：98cm

(燃焼部)径：67×76cm 深さ：0cm

構造 西側が大きく切られるなど、遺存状況が良好ではなかったが、全容は詳かでないが、本住居のプランは概ね方形を呈する。

掘り方を有しており、これを埋め戻して床を造り出しているが、柱穴、貯蔵穴等を確認することはできなかった。

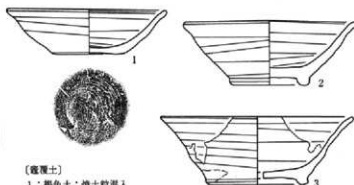
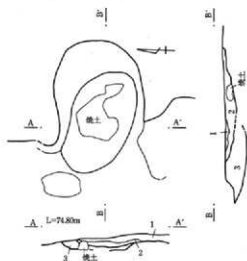
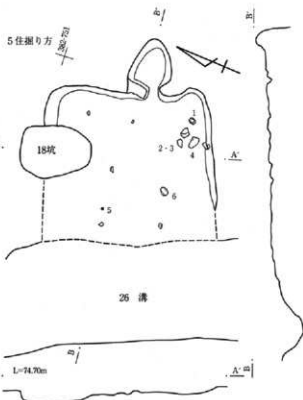
竈は東壁中程に作られ、壁面をまたいで掘り方を掘削しており、これを暗褐色土等で埋め戻して燃焼面を造っている。その中央手前寄りに支柱かと思われる礎が据えられていた。高、天井や袖の構造は明らかにはできなかった。

第2章 発見された遺構と遺物（その1）

(4) 8-11号住居（第39回、P.L27・58）

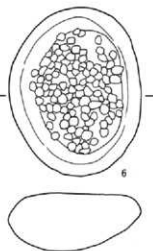
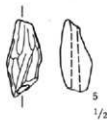
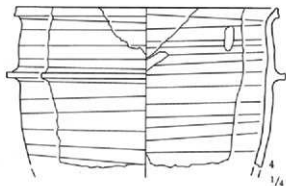
概要 本住居は北部の住居集中域北東部に位置し、西部を8-26号溝、北側は8-6号住居に切られる。

遺物 平安時代の土師器片など比較的多くの出土遺物を得たが、復元できるものは少なかった。掘り方出土の遺物に古墳時期前期の土師器甕(1)や砥石(2)が△見られた。



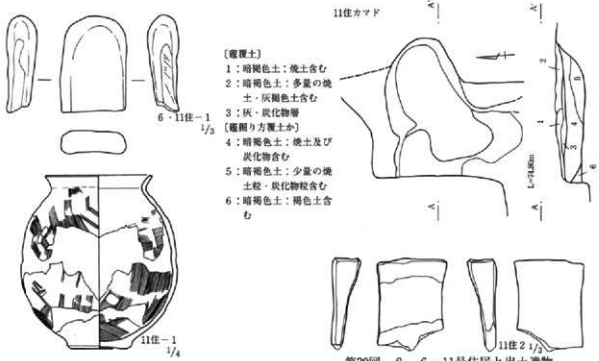
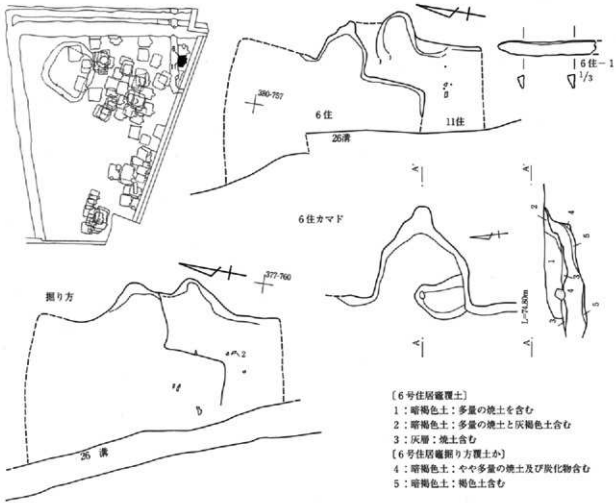
〔甕覆土〕

- 1：褐色土：焼土粒混入
- 2：焼土ブロック多く混入  
〔掘り方覆土小〕
- 3：暗褐色土：焼土粒・炭化物粒混入



第38回 8-5号住居と出土遺物

第6節 8区東部1面の遺構と遺物



第39図 8-6・11号住居と出土遺物

時期 本住居もその時期を明確にできなかったが、概ね平安時代の所産として把握される。

規模 径：(196) × (218) cm 深さ：10cm

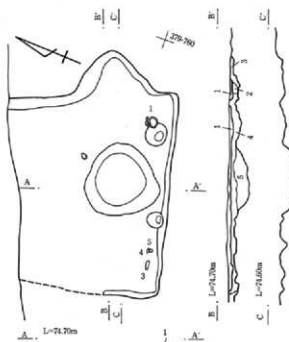
〔竈〕幅：(69) cm 奥行：90cm

（焼焼部）径：42×94cm 深さ：0 cm

構造 本住居は遺存状況が良好ではないため全容は詳らかでないが、概ね方形のプランを呈するものと想定される。

掘り方を有し、これを埋め戻して床が造られている。柱穴、貯蔵穴等は確認できなかった。

竈は東壁に設けられており、壁面をまたいで掘り方を掘削している。これを焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して焼焼面を造っている。天井や袖の構造は不明である。



〔貼床構築材〕

1：黒褐色土・やや粘質。灰色・黄色混じり粘質土混入

〔甕廻り方覆土〕

2：灰褐色土と黒褐色土の混土・やや粘質

3：灰褐色土・やや粘質。灰色・黄色混じり粘質土と焼土混入

〔住居廻り方覆土〕

4：2層土をベースに焼土少量混入

〔床下粘土坑覆土〕

5：黒褐色土・やや粘質。明褐色土多量に混入

（1～5層は何れもHr-Frからしき軽土少量混入）

(5) 8-7号住居（第40・41図、P.L27・56）

概要 本住居は北部の住居集中域の北端に位置する。他の竪穴住居との切り合いは見られなかったが、北側部分を中世の屋敷遺構の掘（8-16号溝）によって切られて失っている。加えて住居そのものも上位が大きく削平されてしまっていたために遺存状況が悪く、貼床層以下の主に掘り方を確認、調査できなかったに過ぎなかった。

遺物 本住居からは平安期の土師器を中心とした遺物が出土しているが、床面に於いては貯蔵穴近くから土師器坏(1)や箆石(3-5)が出土し、掘り方に絡んで土師器坏(2)の出土も見られた。

時期 本住居は出土遺物から推して、8世紀前半期の所産と判断される。

規模 径：(268)×324cm

深さ：0 cm

〔竈〕幅：(122) cm

奥行：(76) cm

〔貯蔵穴〕径：34×33cm

深さ：記録なし

〔床下粘土坑〕径：118×

114cm 深さ：26cm



〔甕廻土〕

1：暗褐色土・焼土粒・灰褐色土（甕構築材）含む

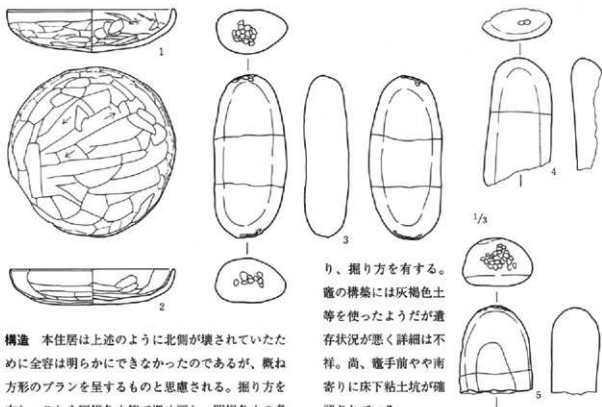
〔甕廻り方覆土〕

2：暗褐色土・焼土・黒褐色土含む

3：灰・炭化物；下面に灰褐色粘質土含む

第40図 8-7号住居





構造 本住居は上述のように北側が壊されていたために全容は明らかにできなかったのであるが、概ね方形のプランを呈するものと思慮される。掘り方を有し、これを灰褐色土等で埋め戻し、明褐色土の多く入る黒褐色土で貼床が造られる。柱穴は確認できなかったが、床下の南壁際東部に貯蔵穴らしいピットを確認している。

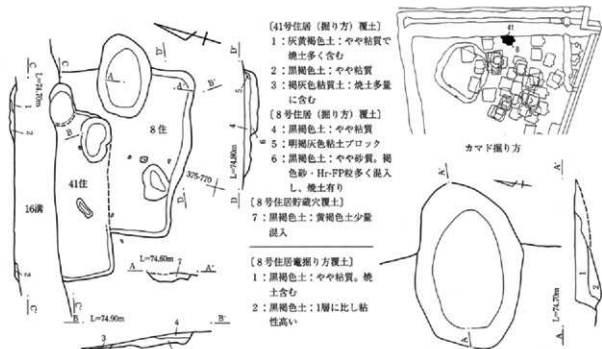
竈は東壁の南壁近くに壁面を跨いで燃焼部を造

り、掘り方を有する。竈の構築には灰褐色土等を使ったようだが遺存状況が悪く詳細は不祥。尚、竈手前やや南寄りに床下粘土坑が確認されている。

第41図 8-7号住居出土遺物

(6) 8-8号住居 (第42図、P.L.28)

概要 本住居は住居集中域北部に位置し、北側を8-16号溝と8-41号住居に切られる。上位は削平さ



- [41号住居 (掘り方) 覆土]
- 1: 灰黄褐色土: やや粘質で雑土多く含む
- 2: 黒褐色土: やや粘質
- 3: 褐灰色粘質土: 焼土多量に含む
- [8号住居 (掘り方) 覆土]
- 4: 黒褐色土: やや粘質
- 5: 明褐色粘土ブロック
- 6: 黒褐色土: やや砂質。褐色砂・Hr-FF粒多く混入し、焼土有り
- [8号住居貯蔵穴覆土]
- 7: 黒褐色土: 黄褐色土少量混入
- [8号住居竈掘り方覆土]
- 1: 黒褐色土: やや粘質。焼土含む
- 2: 黒褐色土: 1層に比し粘性高い

第42図 8-8・41号住居

れ、掘り方を調査できたに過ぎなかった。

**遺物** 平安期の土師器を中心とした遺物の出土が見られた。

**時期** 時期特定には至らなかったが、平安時代の所産と認識される。

**規模** 径：(222)×263cm 深さ：0cm

〔竈掘り方〕径：85×132cm

**構造** 本住居の全容は詳らかでないが、概ね隅丸方形様のプランを呈する。

掘り方を有し、これを埋め戻して床を造っている。

柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

竈は東側壁面を跨いで設けられ、楕円形プランの掘り方を有し、この上に燃焼部が造られる。

#### (7) 8-41号住居（第42図）

**概要** 本住居も北部の住居集中域北端部に位置する。北側を中世屋敷の周堀である8-16号溝に切られ、南側では前述の8-8号住居を切っている。また8号住居同様、上位は削平されていたため、殆ど掘り方を調査できたに過ぎなかった。

**遺物** 本住居は僅かに古墳時代前期の土師器壺片2点と7世紀後半期の土師器坏片1点を出土しただけであった。

**時期** 8号住居より新しいが、平安時代の所産として把握できるに過ぎない。

**規模** 径：(95)×265cm 深さ：7cm

〔竈〕幅：(42)cm 奥行：(67)cm

〔貯蔵穴〕径：70×46cm 深さ：23cm

**構造** 本住居は南部が確認できたに過ぎないので全容は明瞭ではないが、プランは方形または隅丸方形様を呈するものと判断される。

掘り方を有しており、床はこれを埋め戻して造っている。また柱穴は確認できなかったが、竈右側の住居南東隅部に貯蔵穴が確認されている。しかしこの貯蔵穴は瓢箪形を呈するので、或は掘り直しのあったことも考えられる。

竈は東壁に設けられ、壁面をまたいで燃焼部が設定されている。

#### (8) 8-9号住居（第43・44図、P.L28・56・57）

**概要** 本住居は北部の住居集中域の北端西寄りに位置しており、北側で8-52号住居と重複するがこれを切っている。

**遺物** 本住居からは古墳時代前期と特に平安時代の土師器など、比較的多くの遺物の出土があったが、床面付近及び竈から須恵器坏(1)、土師器壺(2)、須恵器甕(3)、磨石(5)も出土した。

**時期** 出土遺物から概ね9世紀後半期の所産と判断される。

**規模** 径：294×277cm 深さ：5cm

〔竈〕幅：(69)cm 奥行：111cm

〔床下土坑〕径：130×158cm 深さ：8cm

**構造** 本住居は隅丸方形プランを呈する。

土坑様の浅い掘込みを有する掘り方をもち、これを褐色土等で埋め戻して床を造り出している。柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

竈は東壁に設けられている。遺存状況は不良で構造は詳かでないが、壁面をまたいで掘り方を掘削している。この掘り方を焼土や灰を含む褐色土などで燃焼面を造り、ここに灰の面的堆積も確認されているが、袖や天井を確認することはできなかった。

#### (9) 8-52号住居（第43・44図、P.L37）

**概要** 本住居は北部の住居集中域北端西寄りに位置しており、北側を中世屋敷周堀である8-16号溝、南側を8-9号住居に切られているため、遺存状態はかなり良くない状態である。また、住居そのものも上位が大きく削平され、掘り方部分を調査できたに過ぎなかった。

**遺物** 古墳時代前期や平安時代の土師器片などが僅かに出土したに過ぎなかった。

**時期** 本住居の時期は特定できなかったが、出土遺物と9号住居との新旧関係から概ね9世紀の所産として把握される。

**規模** 径：(117)×(186)cm 深さ：0cm

〔竈〕幅：(70)cm 奥行：(75)cm

〔竈掘り方〕径：38×32cm 深さ：18cm

構造 遺存状況が悪いため、その構造も殆ど確認できなかった。プランも明瞭でないが、残存部の形状から方形または隅丸方形を呈するものと慮される。

掘り方を有する。また残存範囲の中で柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。

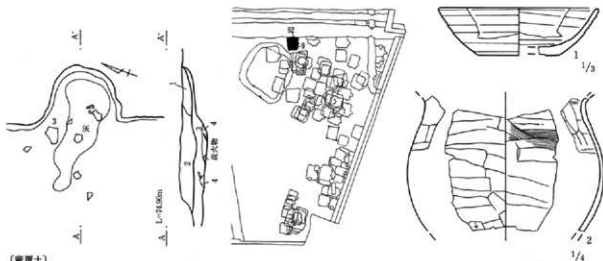
竈は東壁に設けられ、恐らく壁面をまたぐ位置に燃焼部があり、柱穴状の掘り方が残されている。

## (10) 8-10号住居

(第45・46図, P.L.28・29・57・58)

概要 本住居は北部の住居集中域北西隅部、西側の谷地形に面する微高地肩部に位置している。南西隅が8-34号溝と重複しているが、本溝の方が新しいようである。

遺物 本住居では古墳時代前期や平安時代の土師器

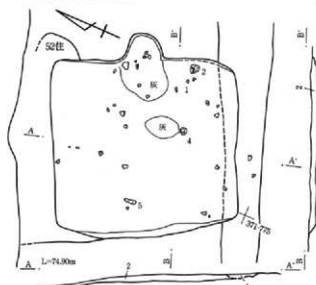


## 〔竈覆土〕

- 1: 灰褐色土・やや砂質  
2: 灰褐色土・焼土・炭化物多量に混入

## 〔竈掘り方覆土〕

- 3: 褐色土・やや粘質・焼土・灰混入  
4: 黄褐色砂と3層土の混土



## 〔25層覆土〕

- 1: 褐色土・やや砂質。As-B含む  
〔9号住居覆土〕  
2: 黒褐色土・やや粘質。焼土微量に含む

第43図 8-9・52号住居と出土遺物(その1)

片を中心に多くの遺物を得たが、床上に於いては土師器の甕(1)や小型甕(2)、須恵器高台付碗(4・7・8)・皿(9)・高台付皿(10)・碗(11)、古墳時期前期の土師器甕(16)、磨石(17)、スラグ(20)の出土があり、掘り方に於いては須恵器高台付碗(3・5・6)、灰軸陶器碗(12)、古墳時期前期の土師器台付甕(14)、土師器銜(15)の出土が見られた。また住居の外側ではあるが本住居との関連が考慮される遺物としては土鍾(13)や鉄製鎌(18)を得ている。

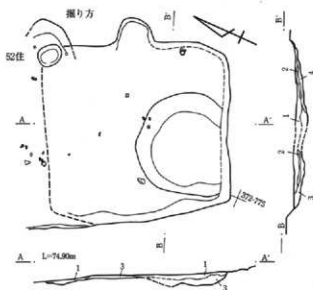
時期 本住居は出土遺物から推して、10世紀前半期の所産と判断される。

規模 径: 386×320cm 深さ: 13cm

〔竈〕 幅: (77) cm 奥行: 90cm

〔竈掘り方〕 径: 51×86cm 深さ: 6cm

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



〔9号住居掘り方覆土〕

- 1：褐灰色土：やや粘質。竈付近等では上面に灰が薄く堆積する  
 2：灰白色粘土：シルト質  
 3：黒色土：やや粘質。3層土少量混入  
 4：黄褐色砂質土

第44図 8-9・52号住居と出土遺物（その2）

〔貯蔵穴1〕 径：42×48cm 深さ：33cm

〔貯蔵穴2〕 径：41×35cm 深さ：22cm

〔床下土坑1〕 径：60×73cm 深さ：6cm

〔床下土坑2〕 径：88×74cm 深さ：12cm

〔床下土坑3〕 径：115×94cm 深さ：12cm

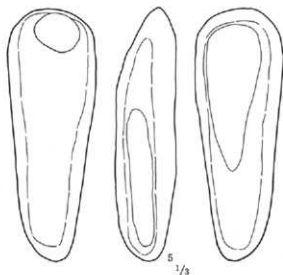
〔床下土坑4〕 径：65×58cm 深さ：9cm

〔床下土坑5〕 径：97×96cm 深さ：13cm

構造 本住居は横長の長方形プランを呈し、5基の床下土坑の掘削される掘り方を有する。

柱穴は確認できなかったが、竈右側の住居南東隅部に径100×122cm、深さ4cm程の浅い掘り込みが掘られ、その南東隅に円形プラン、その西に方形プランの貯蔵穴が2基掘削されている。この2基の貯蔵穴が同時に在ったものか新旧があるのかは特定できなかった。

竈は東壁に南寄りに設けられ、壁面をまたいで楕円形プランの掘り方が掘削され、支脚の痕跡が残されている。掘り方を埋め戻して燃焼面を造っている。灰の遺存はあったが、袖などを確認することはできなかった。



(11) 8-12号住居（第47・48図、P L29・30・58）

概要 本住居は北部の住居集中城東端の中程に位置し、8-54・55号住居等と重複する。何れの住居に対しても新旧関係を特定することはできなかったが、遺構確認順位に鑑みて本住居が新しいものと思慮している。

遺物 本住居からは平安時代の土師器片を中心とした比較的多くの遺物が出土したが、床上からは須恵器坏(1・2)・高台付碗(3)・缶(4)、掘り方からは土師器甕(5)の出土があり、その他、敲石(6)などの出土も見られた。

時期 本住居は出土遺物から推して、10世紀前半期の所産であると判断される。

規模 径：295×340cm 深さ：12cm

〔竈〕 幅：93cm 奥行：108cm

〔右袖〕 幅：22cm 長さ：48cm

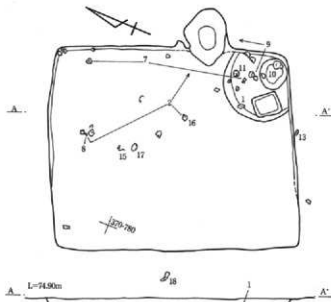
〔左袖〕 幅：14cm 長さ：33cm

〔燃焼部〕 径：63×(102)cm 深さ：0cm

構造 本住居のプランは縦長でやや隅丸の長方形を呈する。

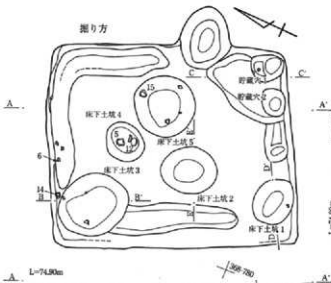
掘り方を有し、これを埋め戻して床が造られている。しかし乍ら、床面に於いても掘り方に於いても柱穴、貯蔵穴等を確認することはできなかった。

竈は東壁中央の多少北に寄った位置に設けられて



〔住居覆土〕

1: 暗褐色土・焼土粒・炭化物粒混入。平面縁に粘土層



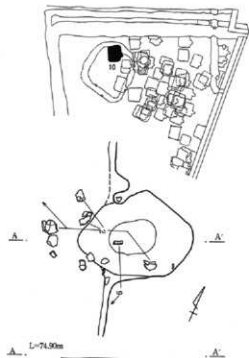
〔住居掘り方覆土〕

- 1: 暗褐色土か  
〔床下土坑覆土〕  
2: 暗褐色土: As-C・黒色土・焼土・炭化物粒混入  
3: 暗褐色土: 粘性あり。炭化物粒と多くの焼土混入。2層に比し明るい

〔竈掘り方覆土〕

- 1: 黒褐色土: 焼土と黒色灰多く混入  
2: 暗褐色土: 焼土・灰塊混入  
3: 黒褐色土: 焼土粒と灰色粘土混入  
〔住居掘り方覆土〕  
4: 暗褐色土: 焼土粒と黄灰粘土混入

いる。壁面を跨いで掘り方が掘削されており、これを焼土や炭化物を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面

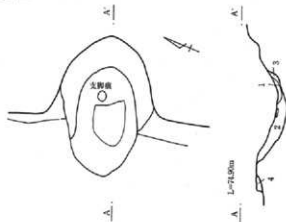


〔竈覆土〕

- 1: 暗褐色土: As-C・焼土粒・炭化物粒混入  
2: 暗褐色土: As-C・灰粒と多量の焼土粒混入。篩り無  
3: 黒色土: 僅に焼土粒混入  
4: 暗褐色土: 焼土と炭化物粒多く混入  
5: 黒褐色土: As-Cと若干の焼土粒・炭化物粒混入  
6: 黒色灰層  
7: 黒褐色土: 焼土粒・炭化物粒・粘質土混入

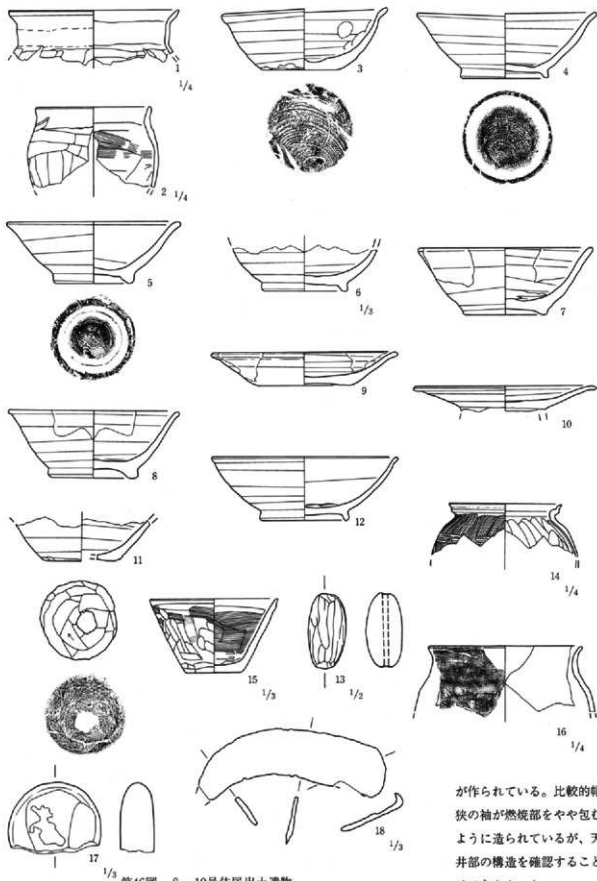
〔貯蔵穴覆土〕

- 1: 暗褐色土: 焼土・炭化物粒混入。平面縁に粘土層  
〔住居掘り方覆土〕  
2: 暗褐色土: As-C・焼土粒・炭化物粒、灰色粘土混入  
3: 黒褐色土: 灰粒多量に混入  
4: 暗褐色土: 焼土・黒色土・黄褐色シルト混入  
5: 黒褐色土: 焼土粒と黒色土混入  
6: 暗褐色土: As-C・焼土粒・灰褐色粘土混入



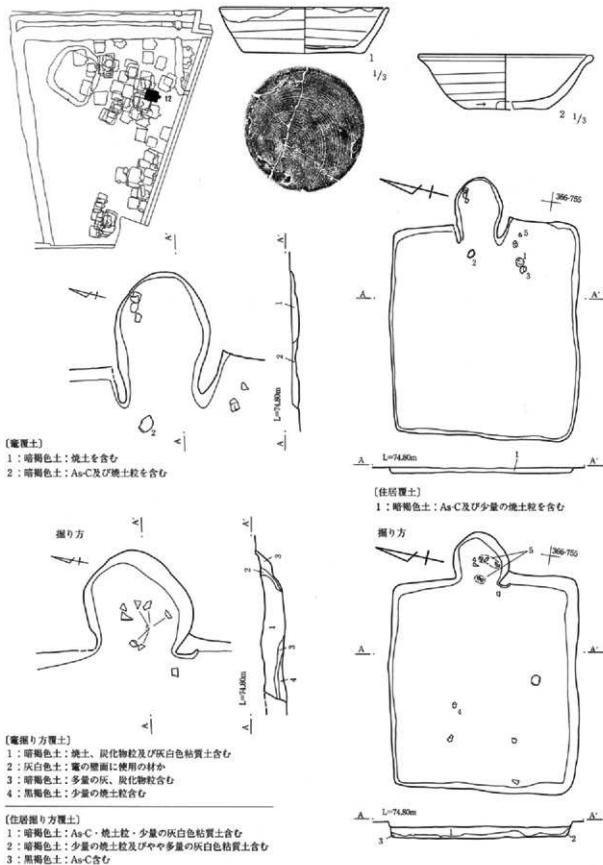
第45図 8-10号住居

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



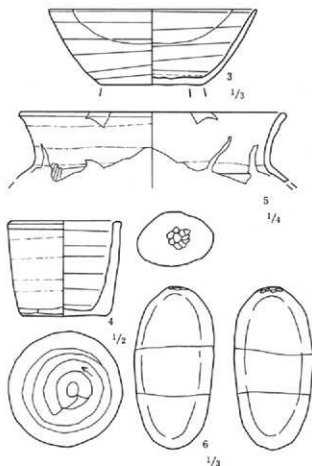
第46図 8-10号住居出土遺物

が作られている。比較的幅狭の袖が燃焼部をやや包むように造られているが、天井部の構造を確認することはできなかった。



第47図 8-12号住居と出土遺物 (その1)

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



第48図 8-12号住居と出土遺物（その2）

(12) 8-13号住居（第49図、P.L30・59）

**概要** 本住居も北部の住居集中城南西部に在り、中部の住居集中城北側に在る広場状の空白部に面している。西側で8-15号住居と重複し、これに切られている。更に住居上位も削平されていて、辛うじて床面が確認される状態であった。

**遺物** 平安時代所産の土師器片を中心とした出土遺物を得たが、床面付近で須恵器高台付碗(1)や砥石(3)、掘り方で須恵器高台付碗(2)が見られた他、角釘かと思われる鉄製品(4)の出土も見られた。

**時期** 本住居は出土遺物から10世紀前半期の所産と認識される。

**規模** 径：340×244cm 深さ：15cm

〔竈〕幅：(92)cm 奥行：(73)cm

〔竈掘り方〕径：68×99cm 深さ：6cm

〔貯蔵穴〕径：33×33cm 深さ：(35)cm

**構造** 本住居の遺存状況は良好とは言い難かったが、東半が隅丸方形、西半が方形のプランを呈する。

掘り方を有し、黒褐色土等で埋め戻して床を造っている。柱穴は確認できなかったが、竈左側の住居掘り方で貯蔵穴を確認している。

竈は東壁中央やや南寄りに作られ、壁面をまたいで洋梨形の浅い掘り方を掘削し、これを焼土や炭化物を含む黒褐色土等で埋め戻して燃焼部を造っている。しかし乍ら袖や天井は残されていない。

(13) 8-14号住居（第50図、P.L30・59）

**概要** 本住居も中部の住居集中城北東端部に位置し、北部の住居集中城東側に広がる広場状の空白部に面する。東側を側溝に切られている。

**遺物** 本住居からも平安時代の土師器片を中心に古墳時代前期以降の遺物が出土したが、掘り方に絡んで土師器坏(1)、貯蔵穴より土師器坏(2)と須恵器高台付碗(3)、覆土中より灰釉陶器皿(4)が出土した。その他、「王」とも読める線刻のある須恵器高台付碗(5)の出土も見られた。

**時期** 本住居は出土遺物から10世紀前半期の所産と判断される。

**規模** 径：356×(234)cm 深さ：11cm

〔竈〕幅：81cm 奥行：(40)cm

（右袖）幅：30cm 長さ：40cm

（左袖）幅：30cm 長さ：30cm

（燃焼部）径：22×(40)cm 深さ：6cm

〔貯蔵穴〕径：47×(42)cm 深さ：15cm

〔床下粘土坑〕径：52×57cm 深さ：3cm

〔床下土坑〕径：114×105cm 深さ：21cm

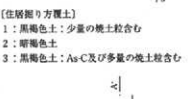
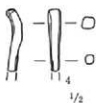
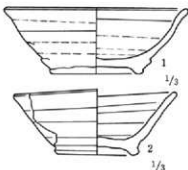
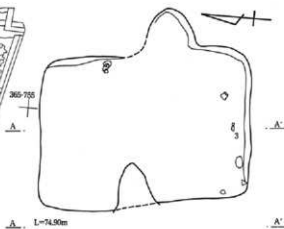
**構造** 本住居は東部を水路掘削時に壊してしまったため全容は明らかにできなかったが、残存状況から推してそのプランは横長の隅丸長方形を呈するものと想定される。

土坑を伴う掘り方を有しており、これを黒褐色土等で埋め戻して床を造っている。柱穴は認められなかったのであるが、竈右側の住居南東隅部に貯蔵穴が確認されている。尚、貯蔵穴北側の掘り方面には、

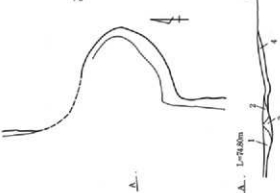
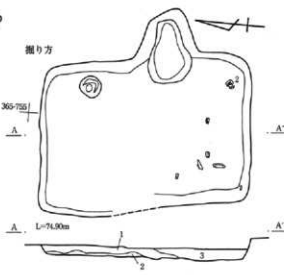


粘土の小さな分布が認められ、造り替えられる以前の貯蔵穴の底面を補強したものの痕跡である可能性が考慮される。

竈は東壁に設けられている。記録化に不備があったため、掘り方の有無等は確認できな

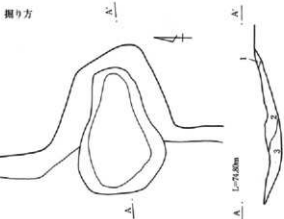


- 〔住居掘り方覆土〕  
 1：黒褐色土：少量の焼土粒含む  
 2：暗褐色土  
 3：黒褐色土：As C及び多量の焼土粒含む



〔覆土〕

- 1：黒褐色土と黒色土の混土：焼土微量を含む  
 2：黒褐色土と黒色土の混土：焼土多量を含む  
 3：黒褐色土  
 4：間灰色粘質土：灰・焼土多く含む



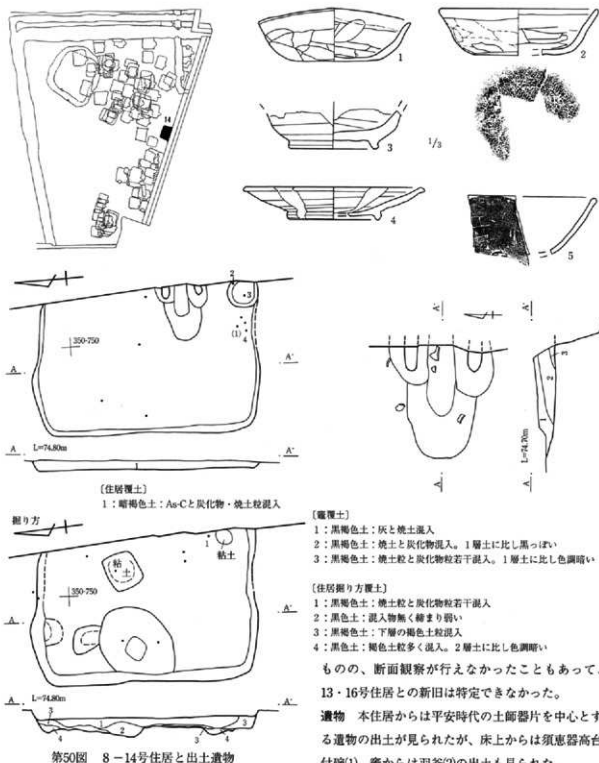
〔竈掘り方覆土〕

- 1：焼土ブロック  
 2：黒褐色土：焼土粒・炭化物粒含む  
 3：暗褐色土：焼土粒・炭化物粒含む

第49図 8-13号住居と出土遺物

かったが、熱焼部の窪みは手前に大きく引かれ、平行に設置された袖が確認されている。尚、掘り方の

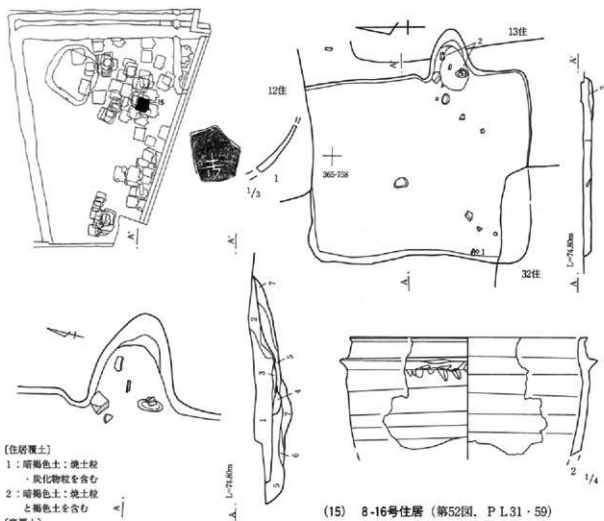
東寄り、中央やや北寄りに、床下粘土坑の痕跡である粘土の分布を伴う浅い窪みが確認されている。



第50図 8-14号住居と出土遺物

(14) 8-15号住居（第51図、P.L.31・59）

概要 本住居は北部の住居集中域南東部に位置し、東に8-13号住居、北に8-54・56号住居、南に8-16・32号住居と重複する。54・56・32号住居に対しては確認順位から本住居の方が新しい可能性を持つ



〔住居覆土〕

- 1：暗褐色土：焼土粒・炭化物粒を含む
- 2：暗褐色土：焼土粒と褐色土を含む

〔竈覆土〕

- 1：暗褐色土：焼土粒・炭化物粒を含む
- 2：暗褐色土：多量の焼土含む（天井材か）
- 3：暗褐色土：焼土と炭化物粒を含む
- 4：焼土と炭化物の混土層：暗褐色土含む（支脚の抜き取り痕か）

〔竈掘り方覆土〕

- 5：暗褐色土：焼土粒・炭化物粒を含む
- 6：灰層：焼土粒を含む
- 7：暗褐色土：少量の焼土粒を含む

第51図 8-15号住居と出土遺物

**構造** 本住居は一部確認できないところもあったが、そのプランはやや横長の隅丸方形を呈する。

記録化に不備があったため、掘り方の有無は不明である。また、貯蔵穴・柱穴を確認することはできなかった。

竈は東壁南寄りに設けられ、壁面をまたいで掘り方を有する。この掘り方を焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して熱焼面を造っているが、袖、天井を確認することはできなかった。

(15) 8-16号住居（第52図、P.L31・59）

**概要** 本住居は中部の住居集中城南東隅部に位置し、東側に位置する南部の住居集中域の8-14号住居まで3.6mの所に位置する。

西側に8-32号住居、北側に8-13号住居と重複するものの新旧は明瞭にできなかった。

**遺物** 本住居でも平安時代のものを中心とする一定量の土師器片等の出土遺物を得たが、須恵器高台付碗が覆土(1)と床面(2・3)から出土し、竈からは磨石(4)の出土も見られた。

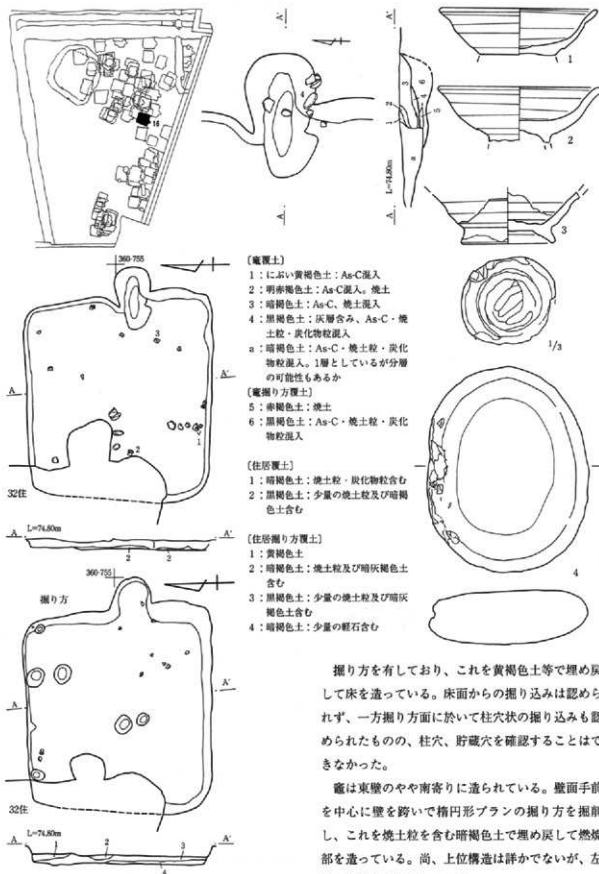
**時期** 出土遺物から、本住居は10世紀前半期の所産と判断される。

**規模** 径：299×333cm 深さ：12cm

〔竈〕幅：74cm 奥行：100cm

（左袖）幅：29cm 残長：23cm

**構造** 本住居はその一部を失っているが、プランはやや逆台形に近い隅丸方形を呈する。



【蔵覆土】

- 1：にじい黄褐色土：As-C混入
- 2：明赤褐色土：As-C混入。焼土
- 3：暗褐色土：As-C、焼土混入
- 4：黒褐色土：灰層含み、As-C・焼土粒・炭化物粒混入
- a：暗褐色土：As-C・焼土粒・炭化物粒混入。1層としているが分層の可能性もあるか

【蔵掘り方覆土】

- 5：赤褐色土：焼土
- 6：黒褐色土：As-C・焼土粒・炭化物粒混入

【住居覆土】

- 1：暗褐色土：焼土粒・炭化物粒含む
- 2：黒褐色土：少量の焼土粒及び暗褐色土含む

【住居掘り方覆土】

- 1：黄褐色土
- 2：暗褐色土：焼土粒及び暗褐色土含む
- 3：黒褐色土：少量の焼土粒及び暗褐色土含む
- 4：暗褐色土：少量の軽石含む

掘り方を有しており、これを黄褐色土等で埋め戻して床を造っている。床面からの掘り込みは認められず、一方掘り方方面に於いて柱穴状の掘り込みも認められたものの、柱穴、貯蔵穴を確認することはできなかった。

竈は東壁のやや南寄りに造られている。壁面手前を中心に壁を跨いで楕円形プランの掘り方を掘削し、これを焼土粒を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼部を造っている。尚、上位構造は詳かでないが、左袖の痕跡が確認されている。

第52図 8-16号住居と出土遺物

## (16) 8-17号住居 (第53図, P L31)

**概要** 本住居は住居集中域中程、南部の集中域の北部に位置している。8-28号溝及び8-16・107号土坑と重複するが、107号土坑は切るものの28号溝と16号土坑との新旧は不明である。

また本住居は遺存状況が不良であり、掘り方を調査できたに過ぎず、記録も殆ど残せなかった。

**遺物** 本住居からは古墳時代前期と平安時代の土師器片など僅か27片を出土したに過ぎなかった。

**時期** 出土遺物の復元も殆ど行うことができず、時期の特定には至らなかったが、恐らく平安時代の所産であろうと思慮される。

**規模** 径：(208)×262cm 深さ：0 cm

**構造** 本住居は遺存状況も悪く、その全容は不明であるが、そのプランについては明瞭ではないものの、残存部分の状態から方形を呈すると判断される。

本住居は掘り方を有するが、柱穴、貯蔵穴、竈、炉などは確認できなかった。

## (17) 8-18号住居 (第54図, P L31・32・60)

**概要** 本住居は中部の住居集中域北部の比較的重複の多い区域に位置している。

本住居は北に8-39・43号住居、南に8-19号住居と重複しているが、このうち19・43号住居を切り、恐らくは39号住居も切るものと想定される。また東端の竈先端部が側溝で切られて確認できなかった。

**遺物** 本住居からは平安時代の土師器片を中心として比較的多くの出土遺物を見たのであるが、覆土中から須恵器坏(1)、古墳時期前期の土師器台付甕(5)、貯蔵穴から須恵器高台付碗(2)の出土を見た他、竈左袖の袖材として土師器甕(4)が使用さ



れ、掘り方では須恵器高台付碗(3)の出土も見られた。その他、竈から後述する炭化材(6)やこも編み石(7)の出土も見られた。

**時期** 本住居は出土遺物の年代から概ね10世紀前半期の所産と判断される。

**規模** 径：297×239cm 深さ：15cm

[竈] 幅：103cm 奥行：(77) cm

(右袖) 幅：31cm 長さ：65cm

(左袖) 幅：36cm 長さ：76cm

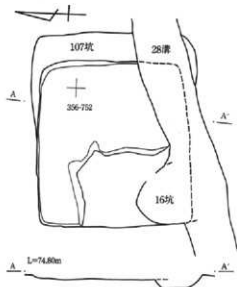
(燃焼部) 径：39×(53) cm 深さ：3 cm

[貯蔵穴] 径：40×50cm 深さ：37cm

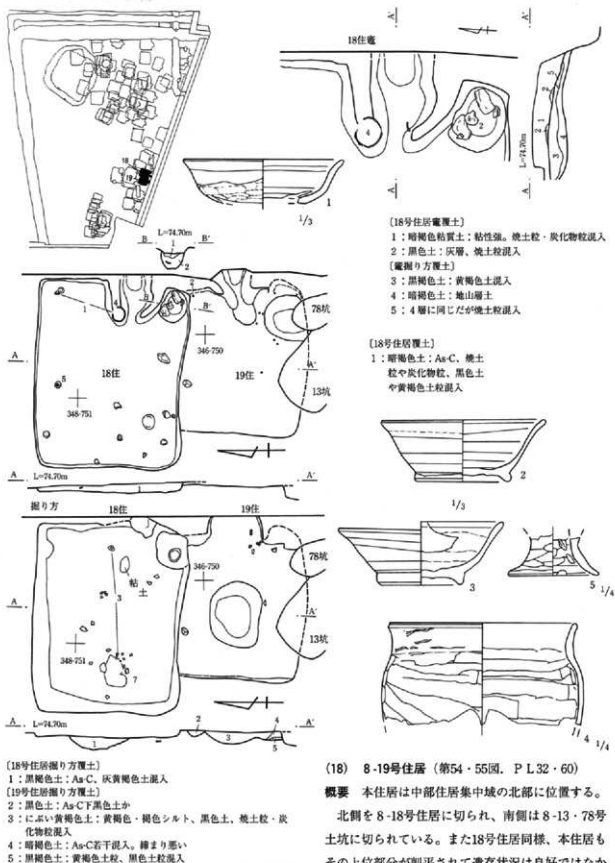
**構造** 本住居は縦長の長方形プランを呈する。

中央付近だけが掘り込まれる掘り方を有しており、これを埋め戻して床が造られている。柱穴は確認できなかったが、竈右側の住居南東隅部に楕円形プランの貯蔵穴を確認している。

竈は東壁南寄りに設けられ、壁面をまたいで燃焼部が設定されている。竈は掘り方を有しており、これを暗褐色土などで埋め戻して燃焼面を造っている。袖は比較的幅があるもので、燃焼部を包み込むように造られているが、左袖では芯材として土師器甕を逆位に掘り込んでいる。また天井部分は壊されていたが、貯蔵穴に天井石が投げ込まれているのが確認されているため、袖石と天井石の使用が想起される。



第53図 8-17号住居



【18号住居竈覆土】

- 1：暗褐色粘質土：粘性強。焼土粒・炭化物粒混入
  - 2：黒色土：灰層、焼土粒混入
- 【竈覆り方覆土】
- 3：黒褐色土：黄褐色土混入
  - 4：暗褐色土：地山層土
  - 5：4層に同じだが焼土粒混入

【18号住居覆土】

- 1：暗褐色土：As-C、焼土粒や炭化物粒、黒色土や黄褐色土粒混入

【18号住居掘り方覆土】

- 1：黒褐色土：As-C、灰黄褐色土混入

【19号住居掘り方覆土】

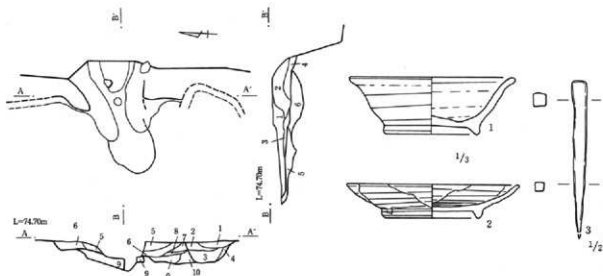
- 2：黒色土：As-C F 黒色土か
- 3：にぶい黄褐色土：黄褐色・褐色シルト、黒色土、焼土粒・炭化物粒混入
- 4：暗褐色土：As-C若干混入。締まり悪い
- 5：黒褐色土：黄褐色土粒、黒色土粒混入

(18) 8-19号住居（第54・55図、P.L32・60）

概要 本住居は中部住居集中域の北部に位置する。

北側を8-18号住居に切れ、南側は8-13・78号土坑に切られている。また18号住居同様、本住居もその上位部分が削平されて遺存状況は良好ではなかった。

第54図 8-18・19号住居と出土遺物（その1）



## 〔19号住居層土〕

- 1：暗褐色土：As-C、焼土粒、炭化物粒混入  
 2：黄褐色土：焼土混入  
 3：暗褐色粘質土：焼土混入  
 4：黒褐色土：As-C、暗褐色土、黒色土混入

## 〔竈袖構築材〕

- 5：暗褐色土：焼土若干混入  
 6：黄褐色土：粘土多く混入  
 7：暗褐色土：As-C混入  
 8：黒褐色灰層

## 〔竈掘り方覆土〕

- 9：灰暗褐色粘質土  
 10：黒褐色土：黄褐色土粒混入

第55図 8-19号住居（竈）と出土遺物（その2）

**遺物** 本住居からは土師器等、平安時代所産のものを中心とした出土遺物を得たが、床面での須恵器高台付碗(1)、灰陶器高台付皿(2)の出土の他、角釘(3)の出土も見られた。

**時期** 出土遺物に鑑みて、本住居は10世紀前半期の所産と思慮される。

**規模** 径：(200) × (242) cm 深さ：7 cm

〔竈〕 幅：108 (80) cm 奥行：(63) cm

（右袖）幅：56 (28) cm 長さ：(26) cm

（左袖）幅：30cm 長さ：54cm

（燃焼部）径：37 × (25) cm 深さ：3 cm

**構造** 本住居のプランは明確ではないが、概ね隅丸方形プランを呈するものと判断される。

掘り方を有しており、これにぶい黄褐色土等で埋め戻して床面を造っている。尚、柱穴・貯蔵穴を確認することはできなかった。

竈は東壁の恐らく中央や南寄りと推定される位置に設けられ、壁面をまたいで掘り方が掘られ、これを焼土を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。そして燃焼部を包み込むように暗褐色粘質土、黄褐色土等で袖を造っている。

## (19) 8-20号住居 (第56図、P L32・60)

**概要** 本住居は中部の住居集中域北寄りに位置する。南側で8-39号住居、東側で8-44号住居、北側で8-45号住居と重複するが、18・39号住居に切られるものの、他の住居との新旧関係を明瞭にすることはできなかった。また遺存状況は不良であり、掘り方を調査できなかったに過ぎない。

**遺物** 本住居からは古墳時代前期と平安時代の土師器などが出土したが、掘り方では土師器坏(1)、須恵器坏(2)、刀子(3)が見られた。

**時期** 本住居は出土遺物と39号住居等との新旧関係から10世紀前半以降の所産と認識される。

**規模** 径：(312) × 280cm 深さ：0 cm

〔竈〕 幅：82cm 奥行：89cm

（右袖）幅：14cm 長さ：21cm

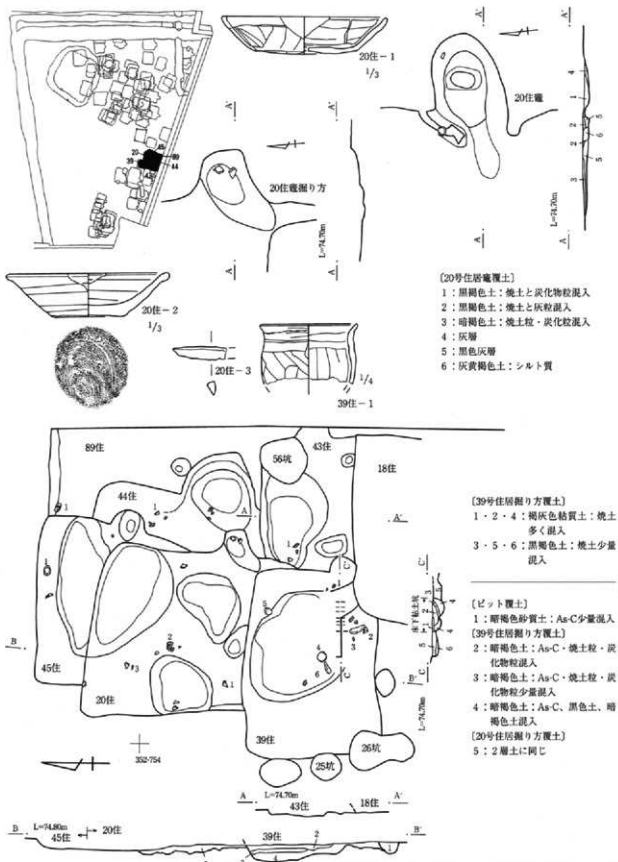
（左袖）幅：12cm 長さ：43cm

（燃焼部）径：34 × 59cm 深さ：4 cm

**構造** 本住居は南を39号住居に切られるため全容は不明だが、プランは隅丸方形を呈する。

床下土坑を有する掘り方を持つ。しかし柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



第56図 8-20・39・43・44・45・89号住居と出土遺物



竈は東壁に設けられ、掘り方を有する。壁面をまたいで燃焼部が設定され、これを包み込むように袖が造られている。燃焼面の中央には径27×18cm、高さ11cm程の隅丸長方形プランの高まりが見られる。

(20) 8-39号住居 (第56・57図、P.L.32・68・69)

**概要** 本住居も中部の住居集中域北寄りに位置する。南東を8-18号住居に切られ、北に8-20号住居を切るが、北に重複する43号住居との新旧は特定できなかった。上位は削平され、掘り方を調査できなかった。



**遺物** 本住居にあっては古墳時代前期と平安時代の土師器を中心とする遺物の出土を見たのであるが、掘り方に於いては土師器小型甕(1)、砥石(2)、磨石(3・4・5)、こも編み石(6)の出土が見られた。

**時期** 本住居の時期を出土遺物によって明確にすることはできなかったのであるが、18・21号住居との切り合いの状況に鑑みれば、概ね10世紀前半の所産と判断される。

**規模** 径：218×299cm 深さ：0 cm

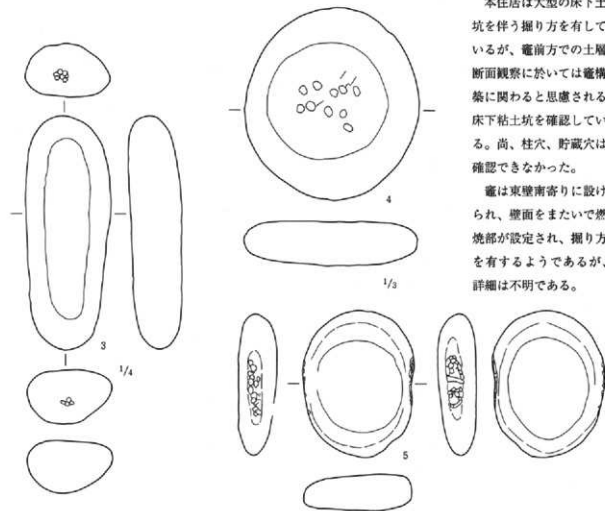
〔竈〕幅：(42) cm 奥行：(15) cm

〔床下土坑〕径：186×148cm 深さ：11cm

**構造** 本住居は調査段階に於いて縦長の長方形プランを呈する遺構として把握したのであるが、或は南接するピットを取り込んで更に南に広がっていた可能性も考慮されるのである。

本住居は大型の床下土坑を伴う掘り方を有しているが、竈前方での土層断面観察に於いては竈構築に関わると思慮される床下粘土坑を確認している。尚、柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

竈は東壁南寄りに設けられ、壁面をまたいで燃焼部が設定され、掘り方を有するようであるが、詳細は不明である。



第57図 8-39号住居出土遺物

(21) 8-43号住居（第56・58図、P.L32・69）

**概要** 本住居も中部の住居集中域北部に位置する。

南側に8-18号住居、北東隅部を8-57号住居に切られているが、西側に重複する8-20・39号住居との新旧関係は特定できなかった。本住居自体も上位が大きく削平されており、殆ど掘り方を調査できたに過ぎなかった。

**遺物** 本住居からは灰釉陶器高台付皿(1)など僅かな遺物を得たに過ぎなかった。

**時期** 本住居の時期は明確にはできず、18号住居に切られることから10世紀前半以降の所産として把握されるに過ぎない。

**規模** 径：(149)×(148)cm 深さ：0cm

〔竈〕幅：(58)cm 奥行：(9)cm

〔床下土坑〕径：98×(148)cm 深さ：9cm

**構造** 本住居は明瞭ではないが、方形椽のプランを呈するものと推察される。

土坑を伴う掘り方を有するが、床上の構造、柱穴や貯蔵穴等は確認できなかった。

竈は東壁に設けられ、壁面をまたいで燃焼部が設定されているが詳細は不明である。

(22) 8-44号住居（第56・58図、P.L32・69）

**概要** 中部の住居集中域北寄りに位置する。

南側に8-43号住居、西側に8-20・45号住居と重複するが新旧は特定できなかった。また、本住居も上位が大きく削平されており、掘り方を調査できただけであった。

**遺物** 本住居の遺物は須恵器高台付碗(1)など僅かに出土したに過ぎなかった。

**時期** 本住居の時期は明瞭ではないが、概ね10世紀前半頃の所産と判断している。

**規模** 径：(278)×(88)cm 深さ：0cm

〔竈〕幅：(122)cm 奥行：(82)cm

（竈掘り方）径：85×104cm 深さ：4cm

**構造** 本住居は遺存状態が悪いためそのプランは明瞭ではないが、概ね隅丸方形を呈するものと想定される。

掘り方を有するが、柱穴、貯蔵穴は確認できず、床上の構造も不明である。

竈は東壁に設けられ、壁面をまたいで浅い不整楕円形プランの掘り方を有する。これを埋め戻して燃焼面を造ったようだが、袖等の上位構造は明らかにできなかった。

(23) 8-45号住居（第56・58図、P.L45・69）

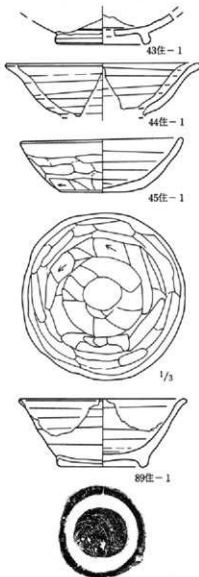
**概要** 本住居も中部の住居集中域北部に位置する。

住居の中南部で8-20号住居と重複し、東部で8-44・89号住居と重複するが、何れの住居に対しても

新旧を特定することはできなかった。また本住居自体も上位が大きく削平されており、掘り方を調査できたに過ぎなかった。

**遺物** 本住居では土師器杯(1)が出土しているが、この他には僅か2片の須恵器片を出土したに過ぎなかった。

**時期** 本住居の時期は特定できず、10世紀中葉前後の所産として把握されるに過ぎないものであった。



第58図 8-43・44・45・89号住居出土遺物

規模 径：(234)×263cm 深さ：0cm

〔竈〕幅：(60)cm 奥行：(48)cm

〔竈掘り方〕径：30×48cm 深さ：17cm

構造 本住居は概ね方形プランを呈する。

掘り方を有するが、柱穴・貯蔵穴を確認することはできなかった。

竈は東壁に設けられており、壁面をまたいで掘り方を掘削している。しかし上位の構造を把握することはできなかった。

#### (24) 8-89号住居 (第56・58図, P L 80)

概要 本住居は南部の住居集中域北東寄りに位置している。

東側は側溝に切られ、西側を8-44・45号住居と重複するが新旧は特定できなかった。また南側も不明瞭で、住居の範囲を特定することはできず遺存状況は悪く、掘り方を調査できただけであった。

遺物 本住居からは須恵器高台付碗(1)など僅かな遺物が出土したに過ぎなかった。

時期 本住居の時期も明確にはできなかったが、概ね10世紀前半前後の所産として把握できるものと考えている。

規模 径：  
(220)×  
104cm 深  
さ：0cm



#### (25号溝覆土)

1：褐色砂質土：軽石 (Hr-PPか) 微量に含む

#### (21号住居ピット覆土)

2：にぶい褐色粘質土：粘性高く軽石 (Hr-PPか) 微量に含む

3：黒色土：As-C混入

(21号住居掘り方覆土)

4：褐色土：やや粘質。焼土と軽石 (Hr-PPか) 微量に含む。

5：2層土とAs-C混濁色土の混土



構造 本住居はプランは不明であるが恐らく方形様を呈するものと推定される。

掘り方を有するが、竈、柱穴、貯蔵穴は確認できず、一切の上位構造を明らかにできなかった。

#### (25) 8-21号住居 (第59図, P L 32・60)

概要 本住居は北部の住居集中域の北寄りに位置している。

北側を8-25号溝に切られるが、他の堅穴住居との重複はない。尚、上位は削平され、掘り方を調査できたに過ぎなかった。

遺物 土師器坏(1)など僅かが出土したに過ぎない。

時期 本住居の時期は明確ではないが、概ね9世紀後半頃の所産と思慮される。

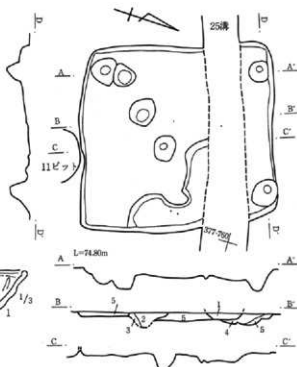
規模 径：(95)×265cm 深さ：7cm

〔竈〕幅：(42)cm 奥行：(67)cm

〔貯蔵穴〕径：70×46cm 深さ：23cm

構造 本住居の構造は明瞭ではないが、プランは方形を呈する。

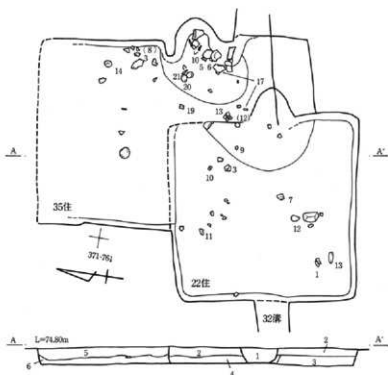
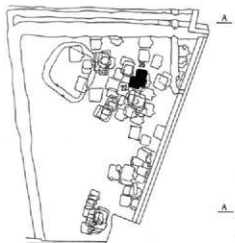
掘り方を有しており、これを埋め戻して床が造ら



第59図 8-21号住居と出土遺物

れている。柱穴は確認できなかったが、竈右側の住居南東隅部に貯蔵穴が確認されている。

竈は東壁に設けられ、壁面をまたいで燃焼部が設定されている。



(26) 8-22号住居（第60～62図，P.L.33・60・61）

概要 本住居は北部の住居集中域の北東寄りに位置している。

重複する8-35・53・55号住居のうち、35・53号住居よりは新しいが、55号住居との新旧は不詳。

本住居は床面を確認することができたものの、遺存状況はさして良好ではなかった。しかし覆土中に炭化物や多量の焼土を含んでおり、竈近くとは言いつても床面に灰の堆積が見られたことから、本住居は所謂焼失家屋住居であり、建物の廃棄に当たって焼却処分されたものと認識されるものである。

遺物 本住居からの出土遺物は古墳時代前期及び平安時代所産の土師器片を中心としたもので比較的多くが出土した。このうち床面からは土師器杯(1)や敲石(11・13)、台石(12)などが出土し、覆土中からは土師器杯(2・3)や須恵器の坏(4)・碗(7)、鉄製の紡錘車(9)や砥石(10)が、掘り方からは須恵器坏(5)・高台付碗(6)、竈掘り方からは古墳時代前期の土師器蓋(8)などの出土も見られた。

(32号溝覆土)

1：暗褐色土：As-B含む

(22号住居覆土)

2：暗褐色土：As-C及び多量の焼土含む

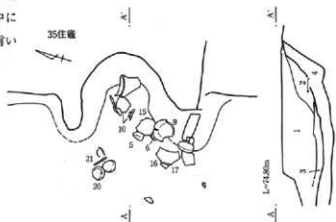
3：暗褐色土：やや多量の焼土粒・炭化物粒含む

4：灰層

(35号住居覆土)

5：暗褐色土：As-C、焼土粒含む

6：暗褐色土：5層に比しやや暗い



(35号住居覆土)

1：暗褐色土：As-C、焼土粒、炭化物粒含む

2：暗褐色土：多量の焼土及び炭化物粒含む

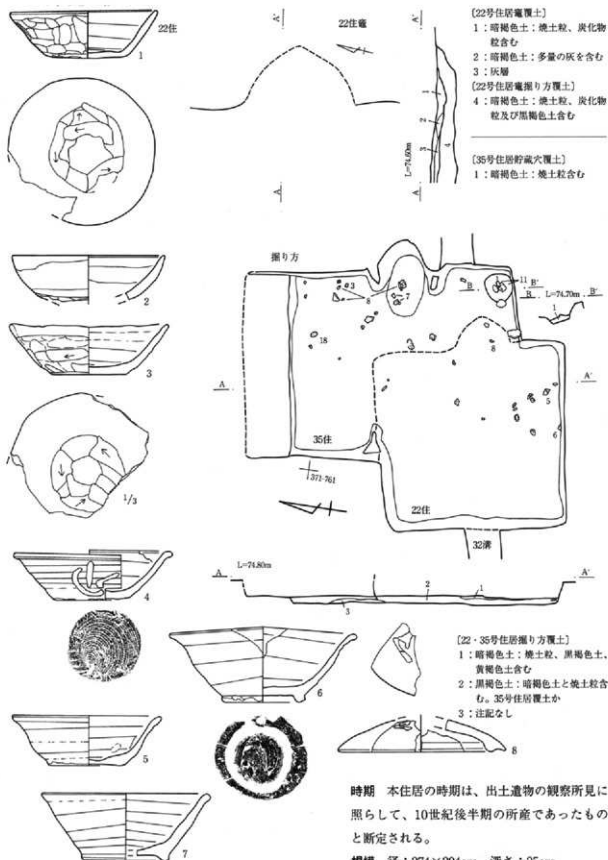
3：灰層

(35号住居竈掘り方覆土)

4：暗褐色土：焼土粒・炭化物粒含む

第60図 8-22・35号住居（その1）

第6節 8区東部1面の遺構と遺物

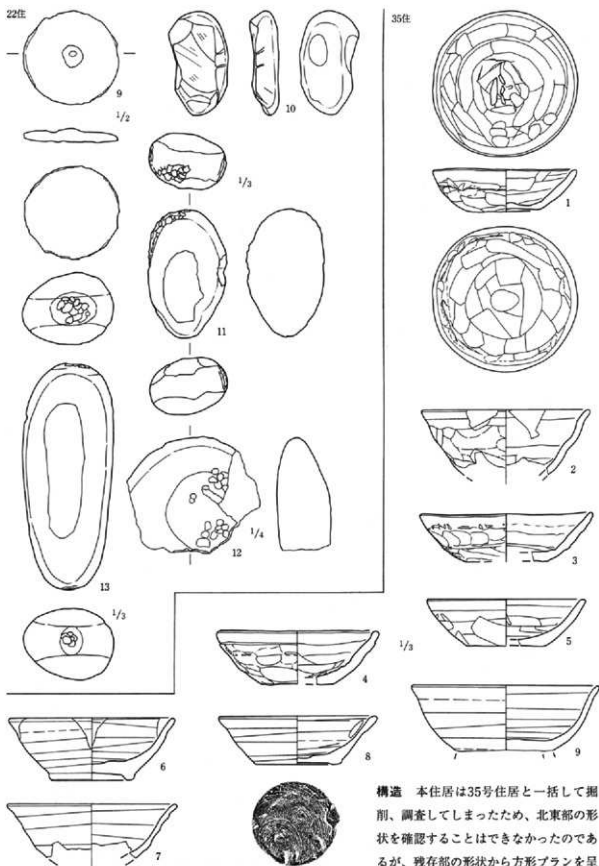


第61図 8-22・35号住居と出土遺物 (その2)

時期 本住居の時期は、出土遺物の観察所見に照らして、10世紀後半期の所産であったものと断定される。

規模 径: 274×294cm 深さ: 25cm

〔竈〕幅: (79) cm 奥行: (52) cm



第62図 8・22・35号住居出土遺物（その3）

本住居は掘り方を有しており、これを焼土を含む暗褐色土で埋め戻して床を造り出している。しかし乍ら、掘り方面に於いても床面に於いても柱穴・貯蔵穴を確認することはできなかった。

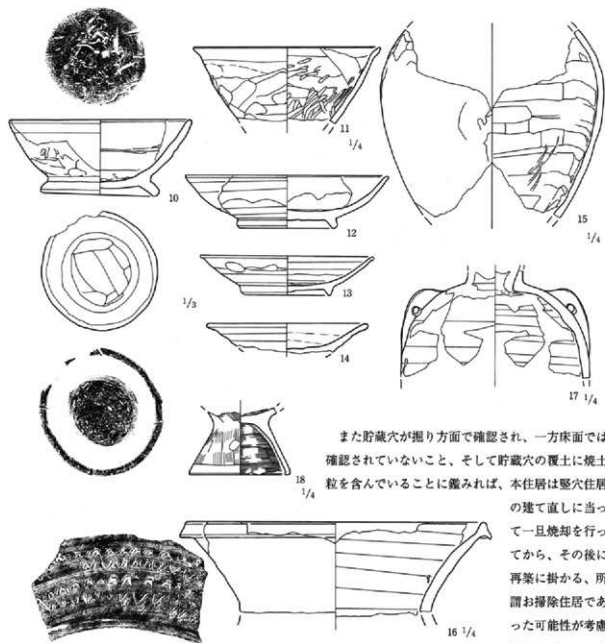
竈は東壁の中程に設けられている。掘り方を持つことを確認したが、上述のように35号住居と一括して掘削してしまったこともあり、調査時点で形状が失われていたため、その構造を明らかにすることはできなかった。

## (27) 8-35号住居

(第60～64図、P.L.35・66・67・68)

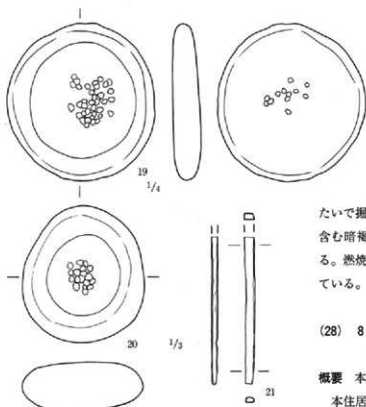
概要 本住居は北部の住居集中域北東寄りに位置し、8-22号住居と一括して掘削、調査した。

重複する8-22号住居と8-32号溝に南西を切られ、8-53・55号住居とも重複する。両住居との新旧は特定できなかったが、確認順位から本住居が新しいものと判断される。本住居も床面を確認できたが、遺存状況は良好とはいえないものであった。



第63図 8-35号住居と出土遺物（その4）

また貯蔵穴が掘り方面で確認され、一方床面では確認されていないこと、そして貯蔵穴の覆土に焼土粒を含んでいることに鑑みれば、本住居は竪穴住居の建て直しに当たって一旦焼却を行ってから、その後に再築に掛かる、所謂お掃除住居であった可能性が考慮されるものである。



第64図 8-35号住居出土遺物（その5）

**遺物** 本住居の遺物も比較的多く、平安時代所産の土師器杯・甕片を中心とした出土遺物が得られた。このうち竈からは土師器の杯(5)、須恵器高台付碗(6・9・10)、甕(16)や、或いは土師器甕(15)、磨石(20)、灰軸陶器双耳壺(17)、細板状鉄製品(21)、貯蔵穴からは土師器杯(1)や須恵器碗(11)が、住居覆土からは土師器杯(2・4)、灰軸陶器皿(13)、須恵器皿(14)、台石(19)、竈掘り方からは須恵器碗(7・8)、住居掘り方からは土師器杯(3)、灰軸陶器皿(12)、古墳時期前期の土師器台付甕(18)の出土があった。

**時期** 本住居の時期は出土遺物と22号住居との新旧関係を鑑みて、概ね10世紀中葉の所産になるものと判断している。

**規模** 径：437×294cm 深さ：25cm

【竈】幅：143cm 奥行：85cm

（左袖）幅：37cm 長さ：38cm

（右袖）幅：40cm 長さ：35cm

【貯蔵穴】径：35×36cm 深さ：14cm

**構造** 本住居のプランは北西部が明瞭ではないもの

の、横長の長方形を呈するものと判断される。

本住居は掘り方を有しており、これを焼土粒を含む暗褐色土で埋め戻して床を造っている。床面に於いても掘り方面に於いても柱穴は確認できなかったが、貯蔵穴が掘り方面の竈右側、住居南東隅部に当る位置に確認されている。

竈は東壁に設けられている。壁面をまたいで掘り方が掘削されており、これを焼土粒等を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造り出している。燃焼部両側には掘り残り部分を伴う袖が造られている。

#### (28) 8-23号住居

（第65～67図、P.L33・61・62・63）

**概要** 本住居は北部の住居集中域の中央付近に在る。

本住居は8-49・66・86号住居と重複しているが、何れの住居に対しても新旧関係を明瞭にすることはできなかった。しかし遺構確認の順位等の状況から66・86号住居の方が新しい可能性が考慮される。高、本住居の遺構としての遺存状況はさして悪くはなかったが、記録化を充分には行い得なかったために、提示し得るデータは多くない。

**遺物** 本住居からは平安時代所産の土師器杯・甕片を中心と多くの遺物が出土してきている。これらの遺物の出土位置を見ると竈付近に分布するものが多かったが、竈からは土師器甕(6)や古墳時代の台付甕脚部(12)、覆土中からは須恵器高台付碗(4)や煎石(13)、掘り方からは他の住居からの流入と考えられる須恵器甕(11)を含め須恵器高台付碗(1～3)、土師器甕(5・7・8・10)、鉄製紡錘車心棒(14)などの出土が見られた。

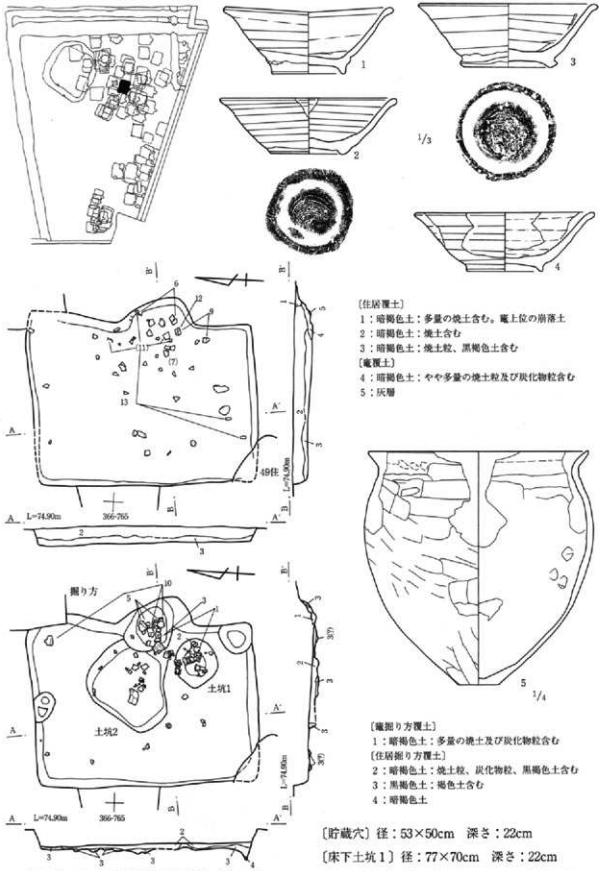
**時期** 本住居の時期については、出土遺物から判断して、概ね10世紀前半期の所産と判断される。

**規模** 径：347×246cm 深さ：23cm

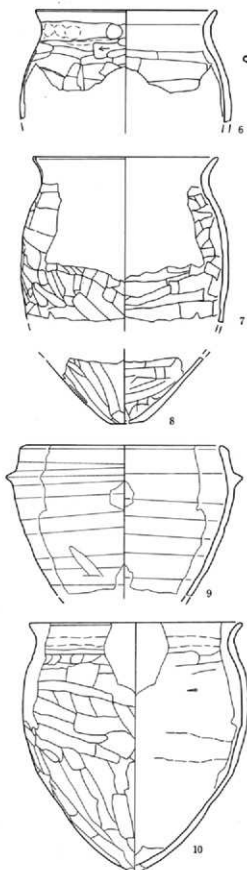
【竈】幅：(120)cm 奥行：90cm

（竈掘り方）径92×71cm 深さ：9cm

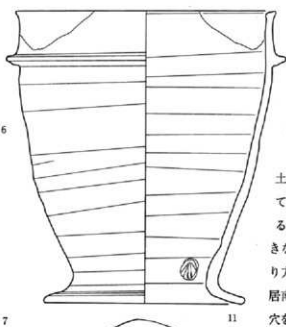




第65図 8-23号住居と出土遺物 (その1)

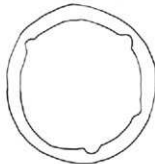


第66図 8-23号住居出土遺物（その2）



11

1/4



12

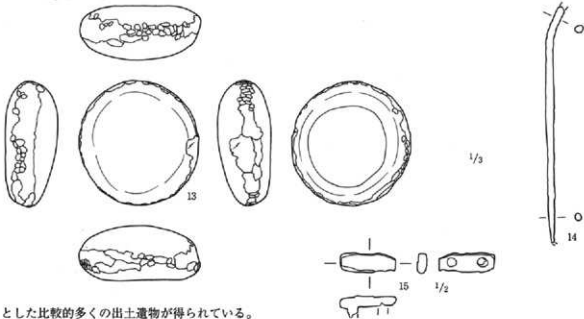
構造 本住居は横長の長方形プランを呈する。土坑を伴う掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻して床を造っている。柱穴は確認できなかったが、掘り方の竈右側の住居南東隅部に貯蔵穴を確認している。竈は東壁中央部のやや南寄りに設けられている。壁面をまたいで楕円形プランの掘り方が掘削され、これを焼土を多量に含む暗褐色土等で埋め戻して熟焼面を作り出している。残念ながら調査時点で竈は完全に失われていたために、上位構造を確認することはできなかった。

29) 8-24号住居（第68・69図、P.L33・63・64）

概要 本住居は北部の住居集中域東寄り、北部の住居集中域の東南部から中部の住居集中域北側にかけて見られる住居分布の空白域の北西隅部に、これに面して位置している。

本住居は北東側で8-31号住居と重複しており、これを切っている。また本住居の遺構としての遺存状況はあまり良好ではなく、遺構のデータを充分に得ることはできなかった。

遺物 本住居からは床面で須恵器坏(1)、皿(2)、須恵器の坏(3)・高台付碗(5・6)・高台付皿(7)、磨石(9)、貯蔵穴から高台付碗(4)、覆土から土鍾(8)や磨石(10)の出土が見られるなど、平安時代の土師器片を中心



第67図 8-23号住居出土遺物 (その3)

とした比較的多くの出土遺物が得られている。

時期 本住居の時期は、出土遺物から推して11世紀前半期であるものと判断される。

規模 径：357×319cm 深さ：10cm

〔竈〕幅：(75) cm 奥行：(48) cm

〔貯蔵穴〕径：45×46cm 深さ：17cm

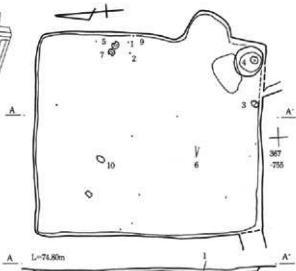
構造 本住居のプランは、やや横長の長方形を呈している。

掘り方を有しており、これを焼土粒を含む暗褐色土等で埋め戻して床を造っている。柱穴は確認できなかったが、円形プランの貯蔵穴が竈右側の住居南東隅部に確認されている。また、貯蔵穴の北側、竈の右前付近では焼土の面的な広がりも見られる。

竈は東壁に設けられ、掘り方を有するようであるが、破壊されていて詳細は不明である。



〔住居遺土〕  
1：暗褐色土：焼土粒、褐色土含む



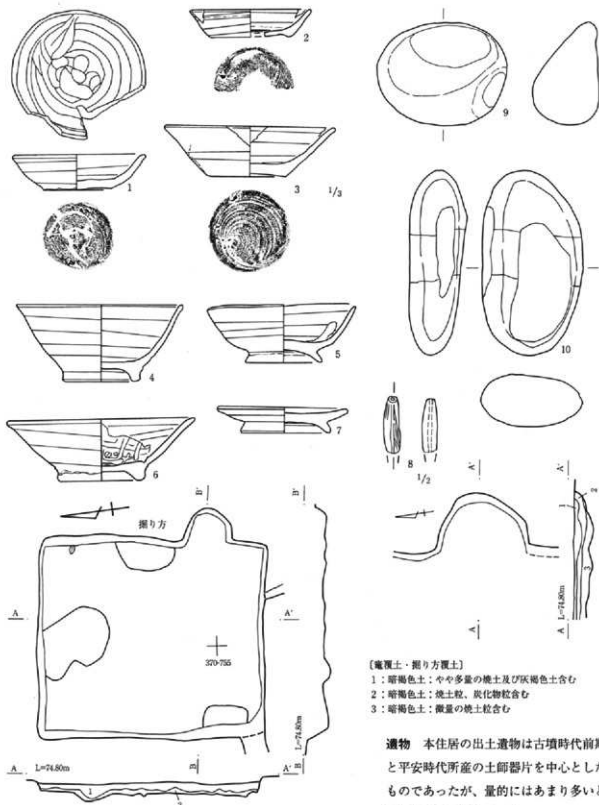
第68図 8-24号住居 (その1)

(30) 8-25号住居 (第70図、P.L.33・64)

概要 本住居は中部の住居集中域西端部の中程に位置している。

本住居は東側の竈先端で8-29号住居と重複するが、新旧は明瞭ではなかった。また本住居そのものも上位が削平されていたため、掘り方を調査できたに過ぎなかった。

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



〔住居掘り方覆土〕

- 1：暗褐色土：As-Cと少量の焼土粒含む
- 2：暗褐色土：黄褐色土含む

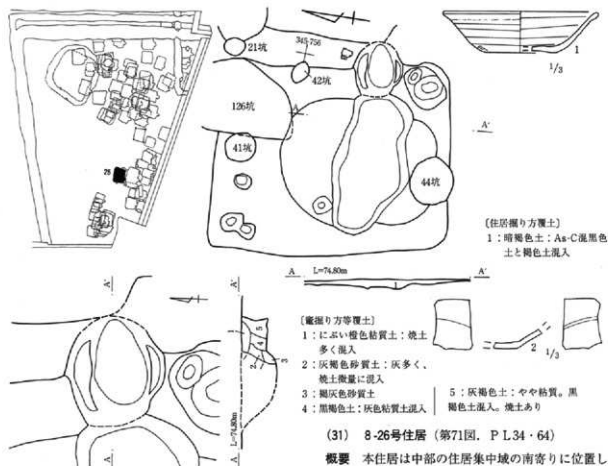
〔覆土・掘り方覆土〕

- 1：暗褐色土：やや多量の焼土及び灰褐色土含む
- 2：暗褐色土：焼土粒、炭化物粒含む
- 3：暗褐色土：微量の焼土粒含む

第69図 8-24号住居と出土遺物（その2）

**遺物** 本住居の出土遺物は古墳時代前期と平安時代所産の土師器片を中心としたものであったが、量的にはあまり多いと  
言えるものではなかった。

しかし乍、これらの遺物の中には、須恵器環(1)や、破片ではあったものの緑釉陶器皿(2)の出土も見られた。



第70図 8-25号住居と出土遺物

**時期** 本住居の時期は明瞭ではないが、出土遺物から概ね10世紀後半の所産と思慮される。

**規模** 径：372×296cm 深さ：0cm

〔竈〕 幅：(80)cm 奥行：(96)cm

〔竈掘り方〕 径：50×(82)cm 深さ：23cm

〔貯蔵穴〕 径：45×35cm 深さ：15cm

**構造** 本住居は隅丸方形プランを呈する。

南寄りに南北に長い不整楕円形プランの掘り込みを伴う掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻している。掘り方面で幾つかのピットを確認したが柱穴は特定できなかった。尚、竈右側の住居南東隅部に貯蔵穴と認識されるピットを確認している。

竈を東壁南寄りに設け、壁面をまたいで楕円形プランの掘り方を掘削し、灰や焼土各種の土壌で埋め戻して燃焼部を作っているが、燃焼面を含む土位構造は不明である。

(31) 8-26号住居 (第71図, P.L34・64)

**概要** 本住居は中部の住居集中域の南寄りに位置していて、東端の竈先端部が水路に切られている。

8-26号住居を切り、8-13・15号土坑に切られるが、8-51号住居・8-77号土坑との新旧関係は特定できなかった。重複もあったものの残存状況は悪くなかったが、記録化は充分になし得なかった。

**遺物** 平安時代の土師器片を中心に一定量の遺物の出土を見たが、貯蔵穴からは須恵器高台付碗(2)の出土も見られた。

**時期** これらの出土遺物から推して、本住居は10世紀後半期の所産と思慮される。

**規模** 径：(95)×265cm 深さ：7cm

〔竈〕 幅：94cm 奥行：(66)cm

(右袖) 幅：31cm 長さ：31cm

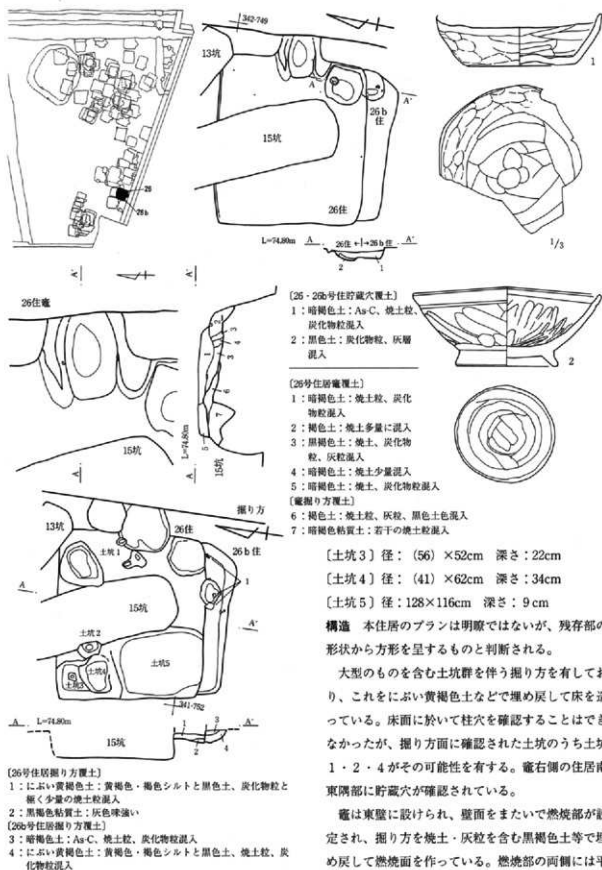
(左袖) 幅：20cm 長さ：41cm

(燃焼部) 径：41×(62)cm 深さ：10cm

〔貯蔵穴〕 径：60×56cm 深さ：21cm

〔土坑1〕 径：38×57cm 深さ：38cm

〔土坑2〕 径：(38)×(24)cm 深さ：26cm



第71図 8-26・26b号住居と出土遺物

〔土坑3〕 径: (56)×52cm 深さ: 22cm

〔土坑4〕 径: (41)×62cm 深さ: 34cm

〔土坑5〕 径: 128×116cm 深さ: 9cm

**構造** 本住居のプランは明瞭ではないが、残存部の形状から方形を呈するものと判断される。

大型のものを含む土坑群を伴う掘り方を有しており、これをにぶい黄褐色土などで埋め戻して床を造っている。床面に於いて柱穴を確認することはできなかったが、掘り方面に確認された土坑のうち土坑1・2・4がその可能性を有する。竈右側の住居南東隅部に貯蔵穴が確認されている。

竈は東壁に設けられ、壁面をまたいで燃焼部が設定され、掘り方を焼土・灰粒を含む黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を作っている。燃焼部の両側には平行に近い位置関係で袖が設けられている。

## (32) 8-26b号住居(第71図)

**概要** 本住居は中部の住居集中城南よりに位置し、本住居を切る8-26号住居の調査に伴って確認された。本住居は南部の一部を確認できただけで、ほとんどは26号住居に壊されている。

**遺物** 遺物は僅で土師器環(1)など僅かなものを出土したに過ぎなかった。

**時期** 本住居は26号住居よりは古いものの時期は明瞭ではないが、概ね10世紀後半期の所産ではないかと推定している。

**規模** 径：(53)×238cm 深さ：0cm

[貯蔵穴] 径：(38)×49cm 深さ：12cm

**構造** 本住居のプランは明瞭ではないが、概ね隅丸方形を呈する。

掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻している。柱穴や竈は確認できなかったが、本住居の存在が分かっていたなかった26号住居床面の調査時に住居南東隅部に確認されていた旧77号土坑が貯蔵穴と確認された。

## (33) 8-27号住居(第72図, P L34)

**概要** 本住居は北部の住居集中域の東端に位置する。

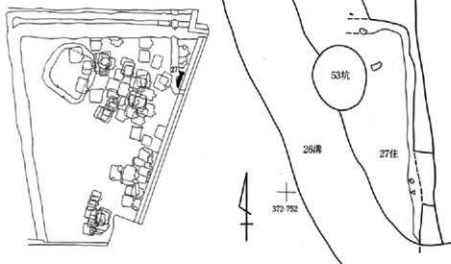
遺存状況が悪く、北から南東に8-26号溝が本住居の中・西部を通り抜け、北部に8-53号土坑が重複して東辺部を調査できたに過ぎなかった。また

記録もあまり残せなかったので詳細は不詳である。

**遺物** 平安時代の土師器・須恵器片を中心に僅かな遺物を出土したに過ぎなかった。

**時期** 本住居の時期は特定できなかったが、羽釜片の出土から10世紀以降の所産である可能性が考慮される。

**規模** 径：(160)×(350)cm 深さ：20cm



**構造** 本住居はその一部を調査できたに過ぎないので詳細は不詳であるが、プランは概ね隅丸方形様を呈するものと思慮される。

記録も不備が多いので調査面が床面か掘り方面かも不明であり、柱穴、貯蔵穴、竈等の施設も確認されなかった。

## (34) 8-28号住居(第73・74図, P L34・64・65)

**概要** 本住居は北部の住居集中域の中程やや北寄りに位置している。

8-40・80・101号住居との重複が見られたが、本住居の方が新しい。

**遺物** 平安時代の土師器片を中心に、本住居からの出土遺物は比較的多かった。この中で床面からは灰釉陶器皿(7)、竈からは須恵器碗(2)、羽釜(9)、須恵器甕(10)、鑄物鉄板片(12)、刀子(14)、釘(15・16)が出土し、また住居の覆土中には須恵器環(2)、須恵器高台付碗(3)、灰釉陶器(6)、須恵器甕(11)、刀子(13)、こも編み石(17)、掘り方には須恵器碗(5)、土師器甕(8)片等が見られた。

**時期** これらの出土遺物に鑑みれば、本住居は10世紀後半期の所産と判断される。

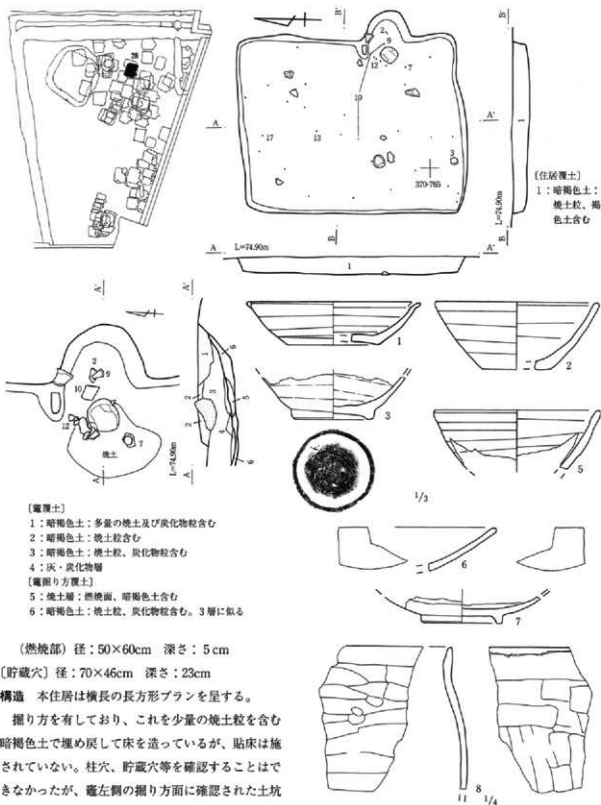
**規模** 径：357×287cm 深さ：24cm

[竈] 幅：(90)cm 奥行：73cm

(左袖) 幅：20cm 長さ：30cm

第72図 8-27号住居

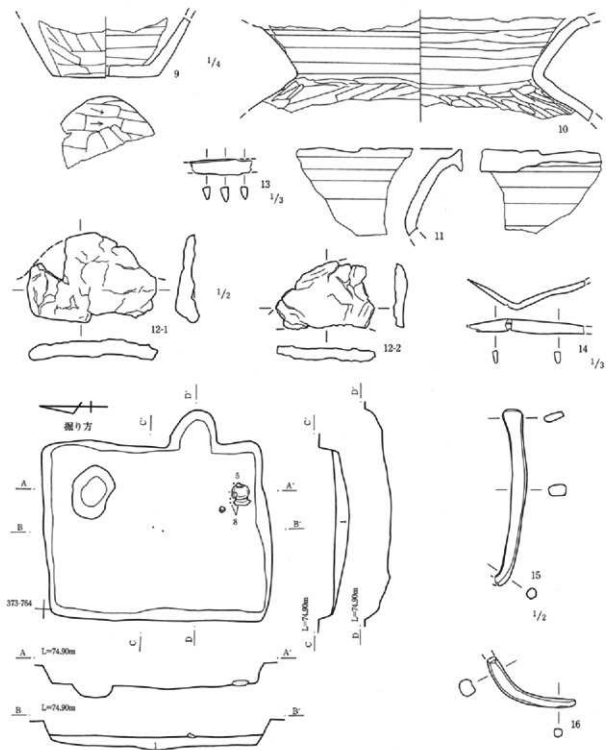
第2章 発見された遺構と遺物（その1）



第73図 8-28号住居と出土遺物（その1）

ている。燃焼面は良く焼けている。この燃焼部の左側には短い袖が残され、竈手前の覆土中には天井石





〔住居周り方覆土〕

1：暗褐色土：少量の焼土粒及び黒褐色土と黄褐色土含む

第74図 8-28号住居と出土遺物（その2）

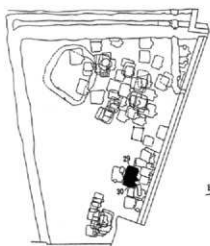
の残欠と判断される様が残されている。上位構造は詳らかでないが、袖石と天井石の設置が窺われる。

(35) 8-29号住居（第75・76図、P.L.34・65）

概要 本住居は中部の住居集中域の中央西寄りに位置している。

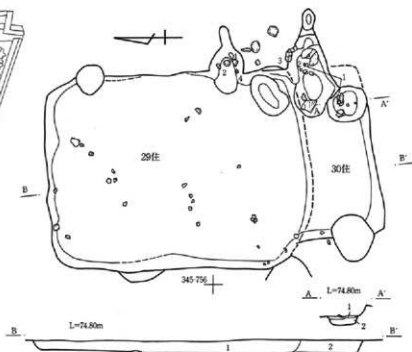
西側で25号住居と南側で8-30号住居と重複する。前者とは遺物の比較により、後者とは切り合い関係

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



〔30号住居貯蔵火覆土〕

- 1：黒褐色土：灰粒多く、焼土粒・炭化物粒混入
- 2：暗褐色土：黄褐色土粒と黒色土を互層に混入

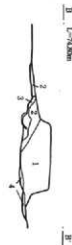


〔29号住居覆土〕

- 1：暗褐色土：As-C、焼土粒、炭化物粒混入

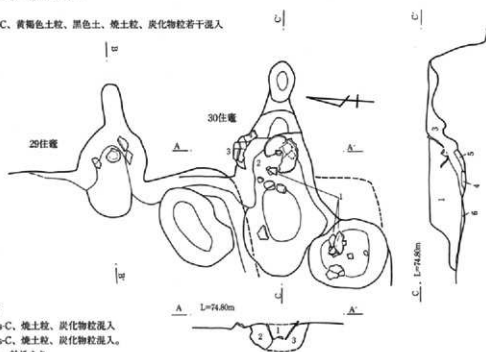
〔30号住居覆土〕

- 2：にぶい黄褐色土：As-C、黄褐色土粒、黒色土、焼土粒、炭化物粒若干混入



〔29号住居覆土〕

- 1：暗褐色土：As-C、焼土粒、炭化物粒混入
- 2：暗褐色土：As-C、焼土粒、炭化物粒混入。  
黄褐色味あり。粘性あり
- 3：橙色焼土：天井材屑落土
- 4：黒褐色灰層



〔30号住居覆土〕

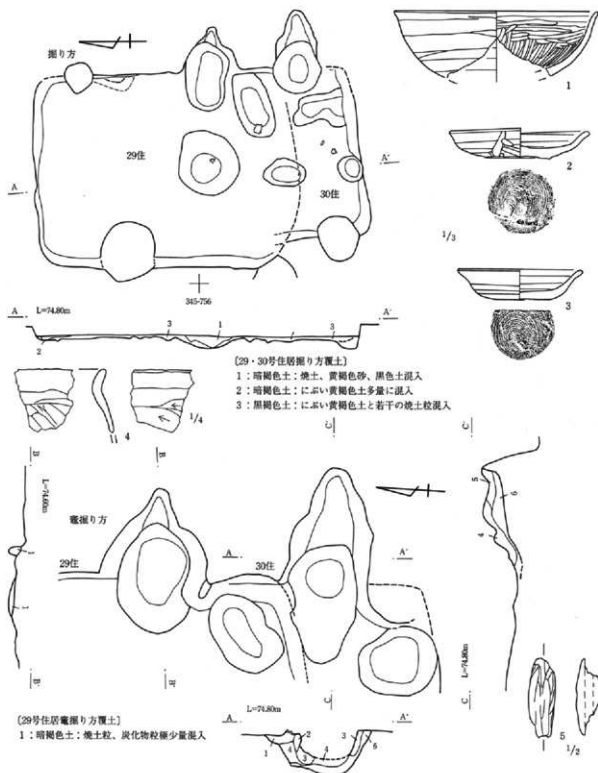
- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 1：暗褐色土：As-C、焼土粒<br>炭化物粒混入 | 3：焼土ブロック多量に混入、<br>炭化物粒混入 |
| 2：暗褐色土：焼土、炭化物<br>粒混入      | 4：焼土                     |
|                           | 5：焼土と暗褐色土の混土             |
|                           | 6：灰層                     |

から何れに対しても、本住居の方が新しいことを確認した。

**遺物** 本住居からは平安時代所産の土師器を中心とした一定量の出土遺物を得たが、竈から須恵器碗(1)、須恵器皿(2)、土師器土釜(4)が出土し、床面では須恵

第75図 8-29・30号住居（その1）

器皿(3)、覆土中では土鍬(5)も見られた。



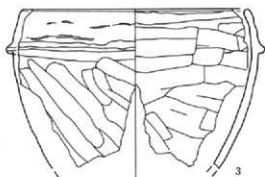
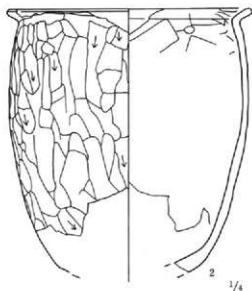
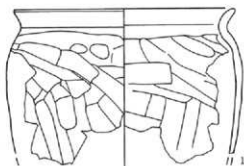
時期 本住居は出土遺物の検討から11世紀中葉の所産と判断される。

規模 径：300×416cm 深さ：23cm

【竈】幅：75cm 奥行：105cm

(右袖) 幅：23cm 長さ：18cm

第76図 8-29・30号住居と出土遺物(その2)



第77図 8-30号住居出土遺物 (その3)

(左袖) 幅: 26cm 長さ: 16cm

(燃烧部) 径: 26×43cm 深さ: 7cm

(煙道) 幅: 15cm 長さ: 34cm

(竈振り方) 径: 57×86cm 深さ: 11cm

(貯蔵穴) 径: 68×45cm 深さ: 21cm

(床下土坑) 径: 94×102cm 深さ: 17cm

構造 本住居は隅丸方形プランを呈する。

竈材をこねたと思われる床下土坑を竈前に有する掘り方を有し、これを黒褐色土等で埋め戻して床を造っている。柱穴は確認できなかったが、竈手前右側に貯蔵穴が確認されている。

竈は東壁南寄りに設けられ、壁面をまたいで楕円形プランの掘り方が掘削され、これを埋め戻して燃烧面が作られている。燃烧部両側には短い袖が設けられ、東側に幅狭の煙道が設けられている。

(36) 8-30号住居 (第75~77図, P.L.35・65・66)

概要 中部の住居集中域の中央西寄りに位置する。

北側を8-29号住居に切られている。また竈右側のコーナー部分は曖昧で形状を明確に把握することはできなかった。

遺物 遺物は多くなかったが、竈から土師器甕(1・2)、羽釜(3)が出土した。このうち甕1点(1)は破片が貯蔵穴まで流れていて、破却の状況が窺われる。

時代 本住居の時期は出土遺物から11世紀代の所産と把握される。

規模 径: (146)×219cm 深さ: 22cm

(竈) 幅: (86) cm 奥行: 167cm

(左袖) 幅: 22cm 長さ: 28cm

(燃烧部) 径: 56×107cm 深さ: 6cm

(煙道部) 幅: 29cm 長さ: 61cm

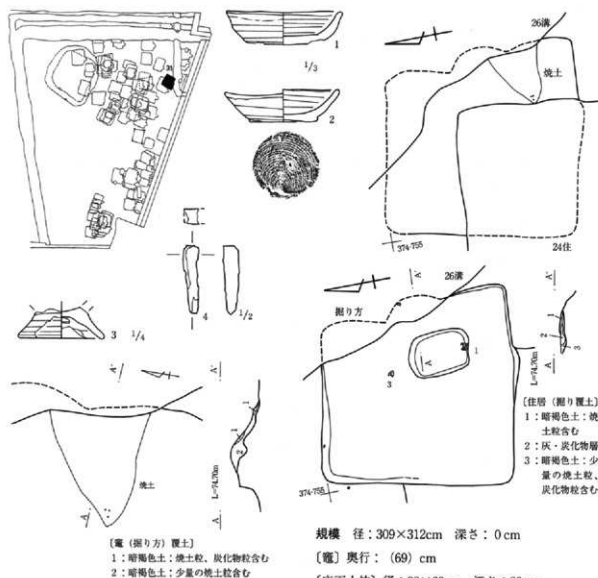
(竈掘り方) 径: 51×93cm 深さ: 10cm

(貯蔵穴) 径: 62×55cm 深さ: 15cm

構造 本住居は隅丸方形プランを呈する。

土坑状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを黒褐色土で埋め戻して床を造っている。柱穴は確認できなかったが、竈の右側、住居南東隅部に貯蔵穴が確認されている。

竈は東壁南端近くに設けられ、壁面をまたいで楕円形プランの掘り方を有し、これを埋め戻して燃烧面を作り、燃烧部左側に短く袖が残る。燃烧部の奥には煙道が作られているが、煙道の端部はビット状のプランとなっており、ここから垂直に上げられていたものと想定される。また出土状況から燃烧部には土師器甕(2)が据え付けられていたと判断される。



【覆(掘り方)覆土】  
1: 暗褐色土: 焼土粒、炭化物粒含む  
2: 暗褐色土: 少量の焼土粒含む

第78図 8-31号住居と出土遺物

(37) 8-31号住居 (第78図, P.L35・66)

**概要** 本住居は北部の住居集中域東寄りに位置する。

南西を8-24号住居、東側を8-26号溝で切られている。住居そのものも上位は削平されており、殆ど掘り方を調査できただけであった。

**遺物** 平安時代の土師器壺片を中心とした出土遺物を得たが、掘り方等から須恵器罎(1・2)、須恵器高台付碗(3)、角釘(4)の出土が見られた。

**時代** 掘り方から11世紀中～後葉の出土遺物を得ているので、本住居はそれ以降の所産であるものと判断される。

規模 径: 309×312cm 深さ: 0 cm

【壺】奥行: (69) cm

【床下土坑】径: 98×69cm 深さ: 20cm

**構造** 本住居は隅丸方形のプランを呈する。

長方形プランの床下土坑を伴う掘り方を有する。

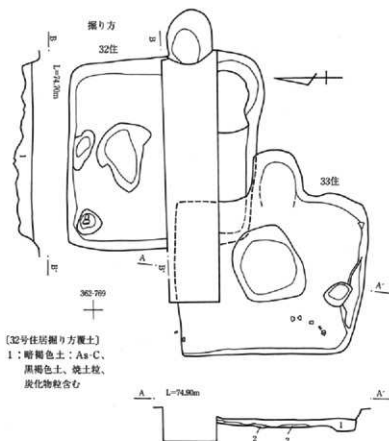
半分近くを24号住居に壊されているため明瞭ではないが、柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

壺は東壁南寄りに設けられているが、破壊が進み、掘り方を有するらしいことが確認できた他は、詳細は不明であった。

(38) 8-32号住居 (第79・80図, P.L35・66)

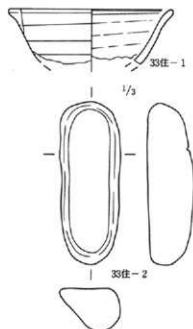
**概要** 本住居は北部の住居集中域南端部に位置し、南西側を8-33号住居に、南東部を8-68号土坑に切られている。また住居の南寄りに試掘トレンチが東西に掘削されている。





〔32号住居掘り方覆土〕

- 1：暗褐色土：As-C、  
黒褐色土、焼土粒、  
炭化物粒含む



〔33号住居掘り方覆土〕

- 1：暗褐色土：暗褐色土と黒色土、及び若干の  
焼土粒、炭化物粒混入  
2：黒色土

方からは鉄製紡錘車(3)、床面から掘り方北西隅の土坑から叢石(4)などの

出土を見ている。

時期 本住居の時期は明確ではないが、出土遺物からは11世紀の所産、切り合い関係からは10世紀に遡る可能性も残される。

規模 径：311×302cm 深さ：15cm

〔竈〕幅：(69) cm 奥行：(86) cm

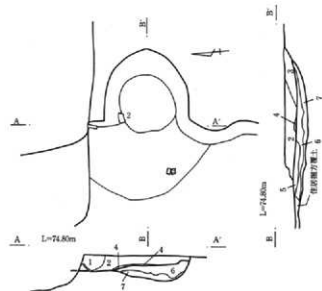
〔掘り方北西隅土坑〕径：39×40cm

深さ：17cm

構造 本住居は隅丸方形プランを呈する。

土坑を伴う掘り方を有し、これを暗褐色土で埋め戻して床を造っている。柱穴、貯蔵穴は確認できなかったが、掘り方に於いて確の入った柱穴状の土坑が見られた。

竈は東壁南寄りに設けられる。試掘トレンチのためはっきりしないが、壁面をまたいで掘り方が掘削され、これを含み暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作っているのを確認した。しかし上位構造を明らかにすることはできなかった。



〔33号住居覆土〕

- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1：暗褐色土：焼土粒含む<br>〔竈覆土〕  | 4：黒褐色灰層<br>〔竈掘り方覆土〕      |
| 2：暗褐色土：焼土粒、炭化物<br>粒混入  | 5：1層に同じ                  |
| 3：暗褐色土：炭化物と多量の<br>焼土混入 | 6：黒褐色土と暗褐色土の混<br>土：焼土粒含む |
|                        | 7：黒褐色土：暗褐色土含む            |

第80図 8-32・33号住居と出土遺物(その2)

(39) 8-33号住居（第79・80図、P.L35・66）

**概要** 本住居も北部の住居集中城南端部に位置している。

北東側で8-32号住居と重複するが、本住居の方が新しい。また同住居と一括調査し、或いは試掘トレンチが入っていることもあって全体として遺存状態は良好ではなく、記録も良好には残せなかった。

**遺物** 本住居に於いては平安時代所産の土師器片など、一定量の遺物の出土を見たが、このうち竈からは須恵器碗(1)、床面から磨石(2)などを得ている。

**時期** 本住居の時期は特定できなかったが、出土遺物からは10世紀代の可能性が考慮されるものの、32号住居との新旧関係から、11世紀に下る可能性も残される。

**規模** 径：(305)×252cm 深さ：9cm

〔竈〕幅：(67)cm 奥行：(75)cm

（燃焼部）径：44×45cm 深さ：2cm

〔床下土坑〕径：116×101cm 深さ：9cm

**構造** 本住居は隅丸方形プランを呈する。

竈前に隅丸方形プランの浅い大型の床下土坑を有する掘り方を持ち、これを暗褐色土等で埋め戻して床を造っている。柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

竈は東壁の中央やや南寄りに設けられ、壁面をまたいで浅い掘り方が掘削される、この掘り方を焼土を含む黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を作っているが、上位構造を明らかにすることはできなかった。

(40) 8-36号住居（第81図、P.L35・68）

**概要** 本住居は北部住居集中城の北東寄りに位置している。

8-74・82号土坑、7号井戸と重複しているが、調査段階では新旧を特定することはできなかった。また遺存状況も不良であり、殆ど掘り方を調査できたに過ぎなかった。

**遺物** 本住居からは平安時代所産の土師器片を中心に出土遺物を得たが、量的には少なく、土師器碗(1)や墨書のある須恵器高台付碗(2)を出土したに過ぎなかった。

**時代** 本住居の時期は明瞭ではないが、出土遺物から10世紀以降の所産と判断される。

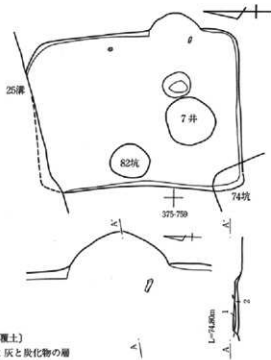
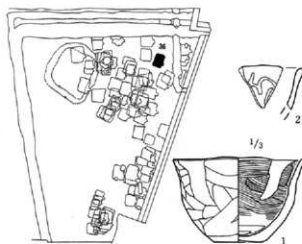
**規模** 径：332×454 深さ：0cm

〔竈〕幅：(78)cm 奥行：(85)cm

〔貯蔵穴〕径：43×39cm 深さ：23cm

**構造** 本住居は隅丸方形プランを呈する。

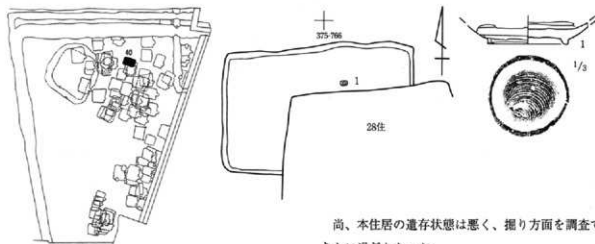
掘り方を持つが、構造上の詳細は不詳。柱穴、貯蔵穴も確認できなかった。



〔複製土〕  
1：灰と炭化物の層  
〔竈掘り方覆土〕  
2：暗褐色土：少量の焼土粒含む

第81図 8-36号住居と出土遺物





第82図 8-40号住居と出土遺物

竈は東壁南に設けられ、壁面をまたいで浅い掘り方が掘削される。これを少量の焼土を含む暗褐色土で埋め戻して熱焼面を作っているが、熱焼面や上位構造を明確にすることはできなかった。

## (41) 8-40号住居(第82図, P L 69)

**概要** 本住居は北部住居集中域の中程に位置し、南東方向の過半を8-28号住居に切られている。

記録が殆ど残せなかったため、恐らくは掘り方を調査したものとは思慮されるものの、調査したのが床面なのか掘り方なのかを確認することはできない状態である。

**遺物** 本住居の出土遺物は平安時代の土師器片を中心とした僅かなものであったが、この中には須恵器高台付碗(1)なども見られた。

**時期** 本住居の時期は明瞭ではないが、出土遺物とさりあいの関係から概ね10世紀前半期の所産として把握されるものと思慮される。

**規模** 径：299×206cm

**構造** 本住居は長方形プランを呈する。

掘り方の有無は確認できない。また、柱穴、貯蔵穴、竈も確認できなかった。

## (42) 8-42号住居(第83図, P L 36・69)

**概要** 本住居は北部住居集中域の中程に位置し、中部を南北に8-97号土坑に切られている。

尚、本住居の遺存状態は悪く、掘り方を調査できなかったに過ぎなかった。

**遺物** 遺存状態に比して本住居からの遺物は多く、平安時代所産の土師器(1・3)や甕(4)、須恵器の(2)、土錘(5・6・7)、葎石(8)などの出土があった。

**時期** 本住居の時期は明瞭ではないが、出土遺物から推して9世紀代の所産であり、恐らくは後半期に下るのではないかと慮される。

**規模** 径：309×310cm

[竈] 幅：104cm 奥行：94cm

**構造** 本住居はやや台形に近い隅丸方形プランを呈する。

掘り方を有し、これを黒褐色土で埋め戻しているが、柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

竈は東壁南寄りに在り、壁をまたいで浅い掘削の掘り方が掘られ、これを灰黄褐色砂質土等で埋め戻している。しかし熱焼面を含め、上位の構造を詳らかにすることはできなかった。

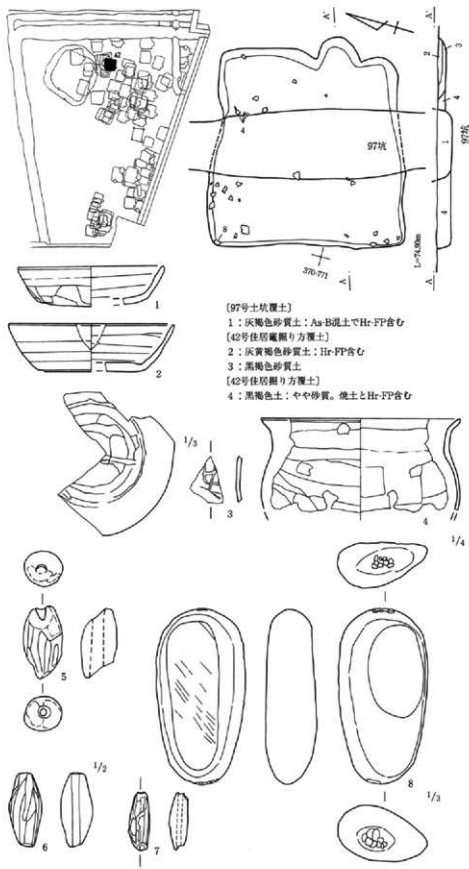
## (43) 8-46号住居(第84図, P L 36・70)

**概要** 本住居は北部住居集中域西よりに位置し、北側が8-47号住居に切られている。

また掘削段階で西半部(一点差線以西)を掘り過ぎてしまい、北西隅部の検出が明瞭でない。

**遺物** 本住居の遺物は少なく、床面付近で須恵器碗(1)片等が見られたに過ぎない。

**時代** 本住居の時期は明瞭ではなく、平安時代の所産として把握されるに過ぎなかった。



〔97号土坑覆土〕  
 1：灰褐色砂質土：As-B混土でHr-FP含む  
 〔42号住居廻り方覆土〕  
 2：灰黄褐色砂質土：Hr-FP含む  
 3：黒褐色砂質土  
 〔42号住居廻り方覆土〕  
 4：黒褐色土：やや砂質。焼土とHr-FP含む

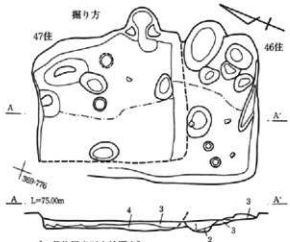
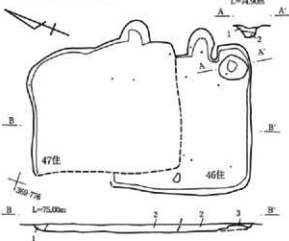
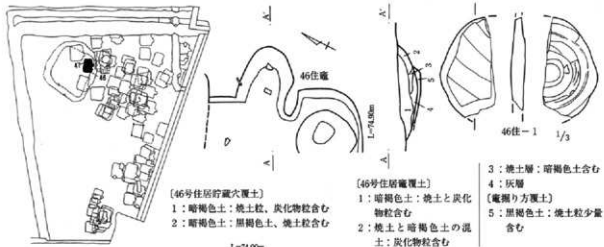
規模 径：228×212  
 深さ：7 cm  
 〔竈〕幅：(53) cm  
 奥行：56cm  
 (右袖) 幅：20cm  
 長さ：24cm  
 (燃烧部) 径：25×40cm  
 深さ：0 cm  
 〔貯蔵穴〕径：45×  
 38cm 深さ：22cm  
 〔床下土坑〕径：50×  
 40cm 深さ：22cm

構造 本住居は隅丸方  
 形プランを呈する。

焼土の多く入る土坑  
 等の掘り込みを伴う掘  
 り方を持ち、これを暗  
 褐色土等で埋め戻して  
 床を造っている。床面  
 に於いても掘り方に於  
 いても柱穴は確認でき  
 なかったが、竈右側の  
 住居南東隅付近で柱穴  
 状の貯蔵穴を確認して  
 いる。尚、掘り方覆土(3  
 層)は床上部分と掘り  
 方部分とに分層できる  
 可能性を有している。

竈は東壁に設けられ  
 る。壁面をまたいで楕円  
 形プランの浅い掘り方  
 が掘削し、これを黒褐色  
 土で埋め戻して燃烧面  
 を作っている。燃烧部は  
 平らで、短い袖が右侧  
 に残っている。また天井材  
 の崩落土と考えられる  
 焼土も確認されている。

第83図 8-42号住居と出土遺物



(44) 8-47号住居 (第84図、P.L36)

**概要** 本住居も北部の住居集中城西よりに位置し、南側で8-46号住居を切っている。本住居の遺存状況は良好とはいえないが、西半部（一点差線以西）と南寄りを掘り過ぎてしまっているため、特に北西隅部を明瞭に表出できていない。

**遺物** 本住居からは平安期所産のものを中心とする土器断片等若干の遺物の出土を見ただけで、見るべきものはなかった。

**時期** 本住居の時期も明瞭ではなく、出土遺物と遺構の形態から平安時代の所産として把握されるに過ぎなかった。

**規模** 径: 236×212cm 深さ: 9cm

[46号住居掘り方覆土]  
1: 暗褐色土: 焼土と炭化物粒含む  
2: 焼土と暗褐色土の混土: 炭化物粒含む  
3: 暗褐色土: 焼土と黒褐色土含む  
4: 黒褐色土: 暗褐色土と少量の焼土粒含む

第84図 8-46・47号住居と出土遺物

[竈] 幅: 60cm 奥行: 52cm

(掘り方右袖) 幅: 22cm 長さ: 25cm

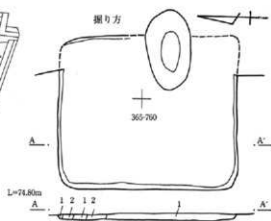
(掘り方左袖) 幅: 23cm 長さ: 25cm

**構造** 本住居は概ね隅丸方形のプランを呈する。

土坑様の掘り込みを持つ掘り方を有し、これを暗褐色土と黒褐色土で埋め戻して床を造っている。柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

竈は東壁南寄りに設けられ、壁面をまたいで浅い掘り方が掘削し、これを焼土と焼土粒、暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作っているが、燃焼面の過半が削られているので上位構造を

明瞭にはできなかったが、掘り方面に於いて左右両側共に削り残しの袖の基部を確認している。



〔住居掘り方覆土〕

- 1：暗褐色土：焼土粒、炭化物粒含む
- 2：暗灰褐色土：黒褐色土含む

(45) 8-48号住居（第85図、P L36）

概要 本住居は北部住居集中城南寄りに位置する。

8-56号住居等と重複し、これを切っている。遺存状態は良好とは言えず、掘り方を調査できたに過ぎなかった。

遺物 本住居からは平安時代所産の土師器片を中心とした出土遺物を得たが、特段の見べき遺物は認められなかった。

時代 本住居の時期は不明瞭で、僅かに出土遺物と遺構形態から平安時代の所産として認識できるに過ぎなかった。

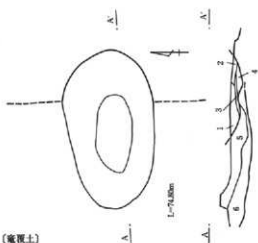
規模 径：279×239cm 深さ：0 cm

〔竈掘り方〕 径：70×123cm 深さ：12cm

構造 本住居はやや横長の隅丸方形プランを呈する。

掘り方を持ち、これを暗褐色土等で埋め戻している。柱穴、貯蔵穴を確認することはできなかった。

竈は東壁のやや南寄りに設けられ、壁面をまたいで楕円形プランの大型の浅い掘り方が掘削されている。これを焼土粒を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作っているが、燃焼面の一部を特定できなかった。また、上位構造を明らかにすることはできなかった。



〔竈覆土〕

- 1：焼土層：暗褐色土含む
  - 2：暗褐色土：やや多量の焼土粒、炭化粒含む
  - 3：灰層
  - 4：焼土と灰の混土：黒褐色土含む
- 〔竈掘り方覆土〕
- 5：暗褐色土：焼土粒、炭化物粒含む
- 〔住居掘り方覆土〕
- 6：暗褐色土：少量の焼土粒含む

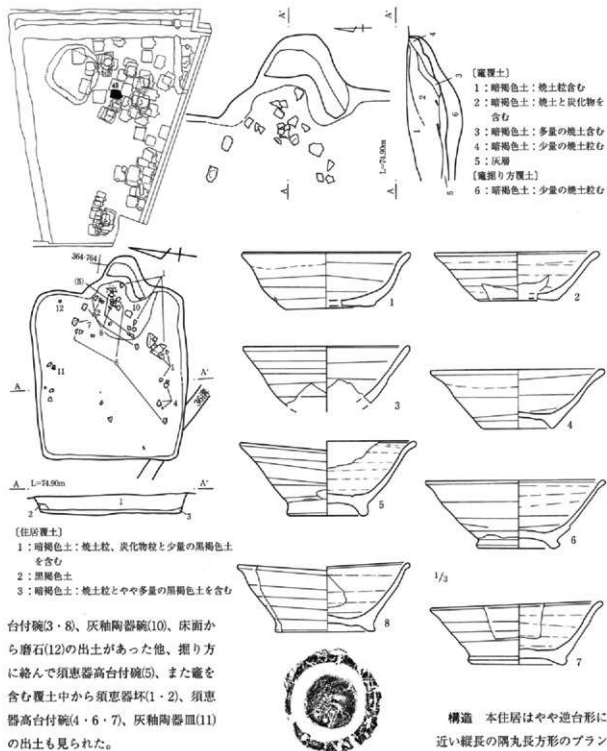
第85図 8-48号住居

(46) 8-49号住居（第86・87図、P L36・70）

概要 本住居は北部の住居集中城のやや南西寄りに位置している。

8-23・66・86号住居と重複するが、このうち66・86号住居に対しては確認順位等から本住居の方が新しいようである。尚、23号住居との新旧を特定することはできなかった。

遺物 平安時代の土師器坏・壺片を中心に本住居では比較的多くの出土遺物を得たが、竈から須恵器高



〔住居覆土〕

- 1: 暗褐色土: 焼土粒、炭化物粒と少量の黒褐色土を含む
- 2: 黒褐色土
- 3: 暗褐色土: 焼土粒とやや多量の黒褐色土を含む

台付碗(3・8)、灰軸陶器碗(10)、床面から磨石(12)の出土があった他、掘り方に絡んで須恵器高台付碗(5)、また竈を含む覆土中から須恵器坏(1・2)、須恵器高台付碗(4・6・7)、灰軸陶器皿(11)の出土も見られた。

時代 出土遺物から本住居は10世紀中～後葉の所産であることが確認された。

規模 径: 242×270cm 深さ: 27cm

〔竈〕 幅: 112cm 奥行: 71cm

(右袖) 幅: 42cm 長さ: 21cm

(熱焼部) 径: 53×(64)cm 深さ: 2cm

第86図

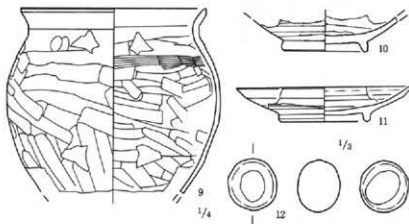
8-49号住居と出土遺物(その1)

本住居は掘り方を有しており、これを暗褐色土等の土壌で埋め戻して床を造っている。しかし床面に於いても掘り方面に於いても柱穴や貯蔵穴等の構造物を確認することはできなかった。

構造 本住居はやや造台形に近い縦長の隅丸長方形のプランを呈している。

第2章 発見された遺構と遺物（その1）

竈は東壁の若干南寄りに設置されている。壁面をまたいで楕円形プランの浅い掘り方が掘削されており、これを焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して焼表面を作り出している。焼表面の北側には右側の袖の一部を確認したが、上位構造を明確にすることはできなかった。



(47) 8-50号住居（第88図、P L37）

**概要** 本住居は中部の住居集中城南端部に位置する。

西端の一部を8-4号住居と、南壁付近を8-20号土坑と重複するが、何れに対しても本住居は切られている。また、東側を側溝で切られている。

また、本住居自体も遺存状況は不良であり、掘り方を調査できたに過ぎなかった。

**遺物** 本住居からの遺物は古墳時代所産の土師器片と、平安時代所産の土師器・須恵器片など僅かであった。

**時代** 本住居の時期は不明瞭であるが、4号住居との重複関係と出土遺物から9世紀以降、10世紀前半以前の所産と判断される。

**規模** 径：276×(157)cm 深さ：0 cm

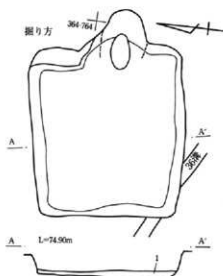
**構造** 本住居は遺存状況が悪いため、全容を明らかにすることはできなかったが、そのプランは概ね隅丸方形を呈するものであった。

掘り方を持ち、これを暗褐色土等で埋め戻しているが、床面、或いは柱穴、貯蔵穴、竈を確認することはできなかった。

(48) 8-51号住居（第88図、P L37）

**概要** 本住居は中部の住居集中城南端近くに位置する。東半を重複する8-26号住居に切られている。また8-30・31号土坑を北端近くに包含するが、新旧関係を特定することはできなかった。

本住居も遺存状況は悪く、掘り方を調査できたに過ぎなかった。



〔住居掘り方覆土〕

1：暗褐色土；黒褐色土、灰褐色土及び少量の焼土を含む

第87図 8-49号住居と出土遺物（その2）

**遺物** 本住居からも古墳時代所産の土師器片や平安時代所産の土師器・須恵器片など、僅かな量の出土遺物を得たに過ぎなかった。

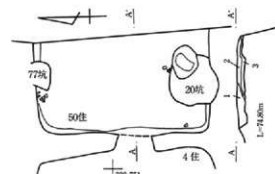
**時代** 本住居の時期を特定することはできず、26号住居との重複関係と出土遺物から僅かに9～10世紀の所産として認識されるに過ぎなかった。

**規模** 径：238×(176) cm 深さ：0 cm

〔床下土坑〕径：99×(106) cm 深さ：19cm

**構造** 本住居の全容は明らかでないが、概ね隅丸方形のプランを呈するものと思慮される。

床下土坑等を伴う掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻しているが、柱穴、貯蔵穴、竈を確認することはできなかった。



〔50号住居掘り方覆土〕

- 1: 暗褐色土: As-C, 焼土混入
- 2: 暗黄褐色土: 黄褐色シルト, 暗褐色土混入
- 3: 黒褐色土: 暗褐色土, 黒褐色土混入



〔51号住居掘り方覆土〕

- 1: 暗褐色土: 暗褐色土, 黒褐色土, 焼土粒混入
- 2: 黒褐色土: 明黄褐色シルト質土混入

第88図 8-50・51号住居

## (49) 8-53号住居 (第89・90図, P L37・70・71)

**概要** 本住居は北部の住居集中域東寄りに位置する。

住居の過半、中・西部に8-22・35・55号住居が重複している。このうち本住居は22・35号住居に切られているが、55号住居との新旧関係を特定することはできなかった。また住居そのものも遺存状況は良くなく、充分な記録を残すこともできなかった。

**遺物** 本住居からは平安時代所産の土師器杯・甕片などが出土したが、量的にはさして多くはなかった。しかし中には竈から土師器の杯(1)と甕(4)、床面には土師器杯(2・3)、こも編み石(5)や鉄製紡錘車(7)が出土しており、覆土中にはこも編み石(6)なども見られた。

**時代** 出土遺物から推して、本住居は概ね9世紀前半期の所産として把握される。

**規模** 径: 346×(539) cm 深さ: 28cm

〔竈〕幅: (86) cm 奥行: 83cm

(左袖) 幅: 27cm 長さ: 27cm

(燃焼部) 径: 37×69cm 深さ: 3cm

**構造** 上述のように本住居は過半が壊されているので全容は詳かでないが、プランは概ね方形を呈するものであった。

掘り方を有しており、これを埋め戻して床を造っている。しかし乍ら、柱穴、貯蔵穴等を確認することはできなかった。

竈は東壁のやや南寄りに設けられている。壁面をまたいで浅い掘り方が掘削されており、これを黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を作っている。右袖は失われているが、左袖の観察からは袖は短く、少なくとも袖基部は掘り残しによるものであることが分かる。袖の上には恐らく天井石と判断される礎の残欠が乗っており、天井材は覆土の観察から灰白色土をしたものと判断される。

## (50) 8-55号住居 (第89・92図, P L37・38・71)

**概要** 本住居も北部の住居集中域東寄りに位置する。

重複する8-22・53号住居との新旧関係を特定できなかったが、8-12・35号住居よりは新しいものと判断される。尚、本住居自体もその過半が壊されていて、遺存状況はよくなかった。

**遺物** 本住居の出土遺物は量的に少なかったが、掘り方に於いて須恵器杯(1)を確認することができた。

**時代** 本住居は出土遺物と他の住居との重複関係から概ね10世紀後半期の所産と判断される。

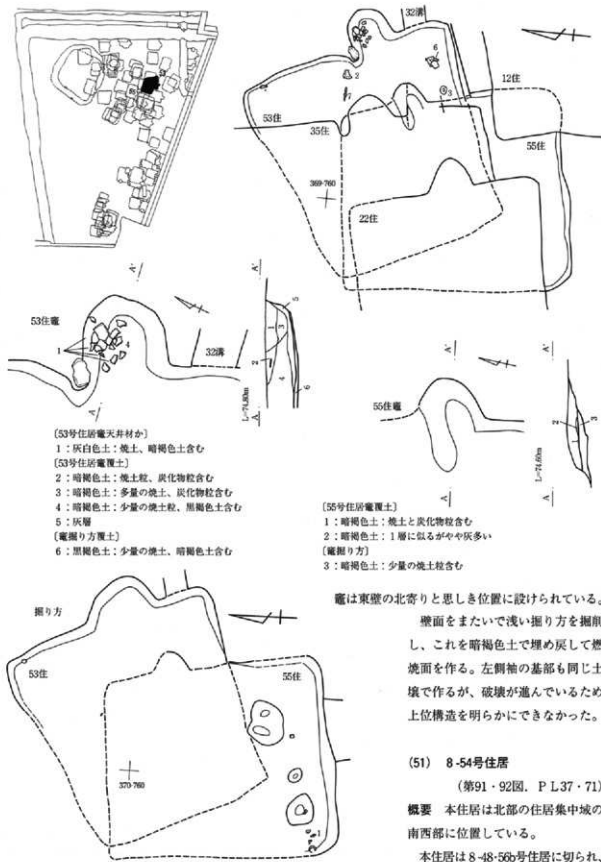
**規模** 径: (357)×308cm 深さ: 15cm

〔竈〕幅: 50cm 奥行: 74cm

(掘り方面左袖) 幅: 18cm 長さ: 56cm

**構造** 本住居のプランは遺存状況が不良なため明瞭でないが、概ね隅丸方形を呈するものと思慮される。

本住居は土坑状の掘り込みを有する掘り方を有している。尚、柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。



- (53号住居竈天井材か)  
 1: 灰白色土: 焼土、暗褐色土含む  
 (53号住居竈覆土)  
 2: 暗褐色土: 焼土粒、炭化物粒含む  
 3: 暗褐色土: 少量の焼土、炭化物粒含む  
 4: 暗褐色土: 少量の焼土粒、黒褐色土含む  
 5: 灰層  
 【竈掘り方覆土】  
 6: 黒褐色土: 少量の焼土、暗褐色土含む

- (55号住居竈覆土)  
 1: 暗褐色土: 焼土と炭化物粒含む  
 2: 暗褐色土: 1層に似るがやや灰多い  
 【竈掘り方】  
 3: 暗褐色土: 少量の焼土粒含む

竈は東壁の北寄りと思しき位置に設けられている。  
 壁面をまたいで浅い掘り方を掘削し、これを暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作る。左側袖の基部も同じ土壌で作るが、破壊が進んでいるため上位構造を明らかにできなかった。

(51) 8-54号住居  
 (第91・92図、P L37・71)  
 概要 本住居は北部の住居集中城の南西部に位置している。  
 本住居は8-48-56b号住居に切られ、8-15号住居にも切られる可能性を

第89図 8-53・55号住居





有するが、一方西側で8-56号住居を切っている。遺物 本住居からは平安時代の土師器片を中心とした出土遺物を得ることが

(燃焼部)  
 径：92×82cm  
 深さ：5cm  
 構造 本住居は方形プランを呈する。  
 土坑を伴う掘り方を有し、これを黒褐色土等で埋め戻して床を

きたが、床面に於いては土師器環(1)、こも礬み石(3)の出土が見られ、覆土中からは須恵器碗(2)、こも礬み石(4)、刀子(5)の出土を見ることができた。

時代 本住居は15号住居との重複関係からは10世紀前半以前の所産である可能性も有するが、出土遺物からは10世紀後半期の所産と認識される。

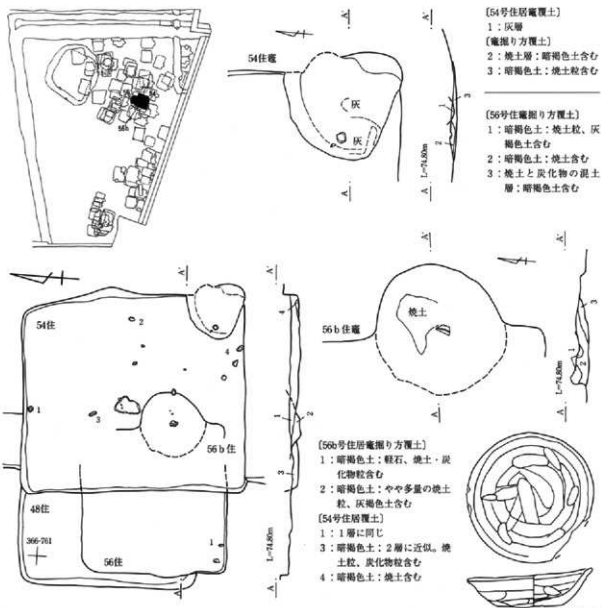
規模 径：354×318cm 深さ：27cm

〔竈〕 幅：(92)cm 奥行：(82)cm

第90図 8-53号住居出土遺物

造っているが、柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

竈は東壁南端に設けられ、壁面をまたいで浅い掘り込みの掘り方が掘削されている。これを焼土を含む暗褐色土等で埋め戻しているが、上位構造を明らかにできなかった。



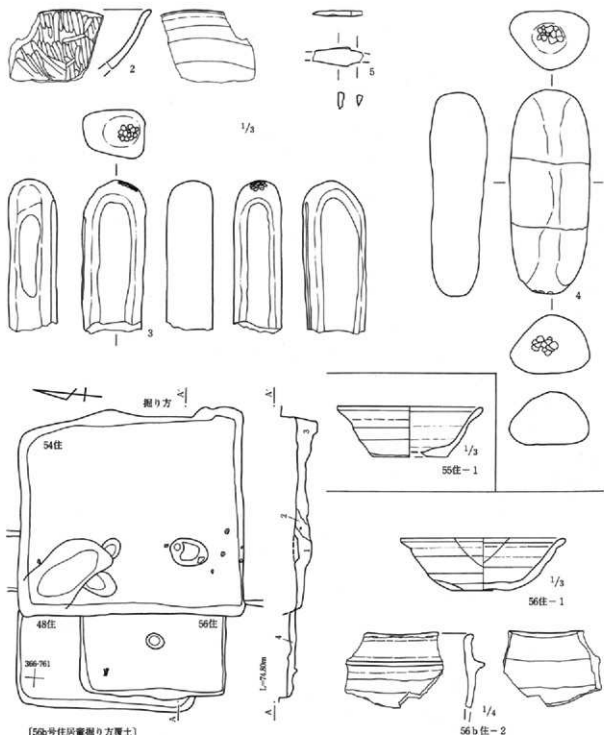
(52) 8-56号住居 (第91・92図, P L37・71)  
**概要** 本住居は北部の住居集中域西部に位置し、北側を8-48号住居、東を8-54号住居に切られていて遺存状況は良くない。  
**遺物** 本住居は位置関係から56b号住居の竈と一括して遺物を取り上げている。このうち56号住居からの遺物はさして多くなかったが、須恵器環(1)などの出土が見られた。  
**時代** 本住居の時期は明瞭ではないが、出土遺物から推して概ね10世紀後半期の所産と判断される。  
**規模** 径: 228×(136) cm 深さ: 11cm  
**構造** 本住居はその過半が失われているので、全容

を詳らかにすることはできなかったが、プランは概ね方形を呈するものと判断される。

土坑を伴う掘り方を有しており、これを暗褐色土等で埋め戻して床を造っているが、柱穴、貯蔵穴、竈を確認することはできなかった。



第91図 8-54・56・56b号住居と出土遺物（その1）



【56b号住居竈掘り方覆土】

1：黒褐色土：焼土粒、As-Cと暗褐色土含む

2：褐色砂質土：黒褐色土含む

3：黒褐色土：As-Cと少量の焼土粒含む

【56号住居覆土】

4：暗褐色土：焼土粒と黄褐色土、黒褐色土含む

第92図 8-54・55・56・56b号住居と出土遺物

(53) 8-56b号住居 (第91・92図, P L71)

概要 本住居は北部の住居集中域南西部に位置し、

8-54号住居の覆土中に竈が確認された。遺存状態が悪いこともあり、住居本体は殆ど確認することはできなかった。また平面的に西の8-56号住居の竈として適当な位置に在ったため、56号住居として一

括調査したが、切り合い関係から別遺構と認定された。尚、56・54・56b号住居の順に新しい。

**遺物** 本住居の遺物は56b号住居と一緒に取り上げられているが、量的には少なく、羽釜片(2)などの出土を見たに過ぎなかった。

**時代** 本住居の時期も明確にすることはできなかったが、出土遺物と重複関係から概ね10世紀後半期の所産と思慮される。

**規模** 径：(175) × (104) cm 深さ：0 cm

〔竈燃焼部〕径：102 × 104 cm 深さ：3 cm

**構造** 本住居はその多くを失っているので全容は不明で、柱穴や貯蔵穴を確認することもできなかったが、そのプランは方形を呈するものと想定される。

竈は東壁南端部に作られた、壁をまたぐ位置に浅い掘り方を持ち、焼土を含む暗褐色土で埋め戻している。上位構造は確認できなかった。

(54) 8-57号住居

(第93～95図 P.L38・71・72・73・74)

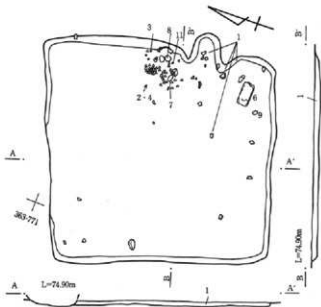
**概要** 本住居は北部の住居集中域南西部に位置し、竈穴住居としては単独で位置している。



鉄チップは調査時点で確認できなかったものの、後述のように竈左側の壁際60cm四方の範囲に羽口と多量の鉄滓がまとまって出土し、住居中央付近の貼り床がはがされたか施されていなかった点を勘案すると、本住居は住居中央付近に炉を設置した小鍛冶遺構であった可能性を有する。鉄滓は鍛冶炉使用時か住居廃棄時に竈左側に集積したものと思慮される。尚、覆土中遺物に見つけた土壁材が小鍛冶に関連する可能性も考慮される。

また竈右側にかけての竈の天井石や、接合される遺物の散布状況から、住居廃棄時に竈を右手前側に崩した可能性が考慮され、掘り方の貯蔵穴らしき床下土坑2に焼土が詰まっていた状況と併せて、本住居が所謂お掃除住居であった可能性も考慮される。

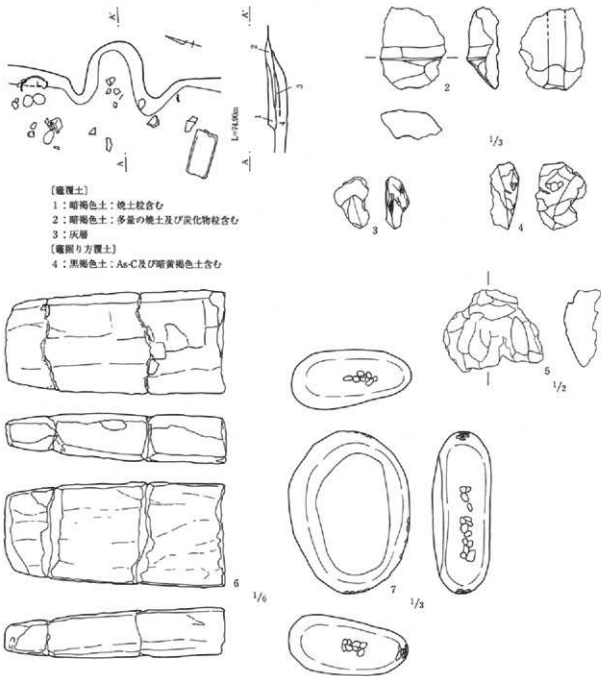
**遺物** 本住居からは竈左側を中心に平安時代の土師器片等の出土遺物が見られたが、上述のように竈の左床面から羽口(2・3・4)、磨石(7・8)、角釘(11)、34点以上の鉄滓(12)の出土が見られ、竈から引き出された須恵器高台付碗(1)と天井石(6)が竈右側に、また天井石近くの床面に磨石(9)が見られた他、覆土中から土壁材(5)や須恵器碗(10)の出土も見られた。



〔住居覆土〕

1：暗褐色土：焼土粒、黒褐色土、暗灰褐色土含む

第93図 8-57号住居と出土遺物（その1）



第94図 8-57号住居と出土遺物 (その2)

**時代** 本住居の時期は明確ではないが、出土遺物から推して9世紀中葉期の所産ではないかと思われる。

**規模** 径: 362×316cm 深さ: 12cm

**〔竈〕** 幅: 96cm 奥行: 59cm

(右袖) 幅: 39cm 長さ: 32cm

(左袖) 幅: 17cm 長さ: 21cm

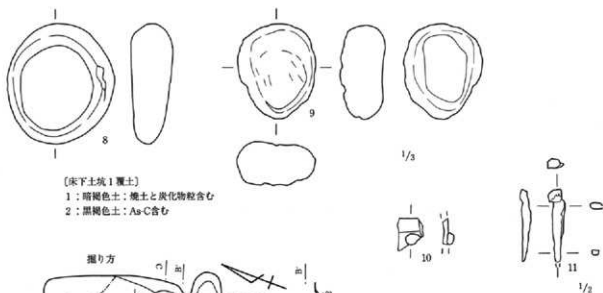
(燃烧部) 径: 26×52cm 深さ: 1cm

〔床下土坑1〕 径: 52×51cm 深さ: 9cm

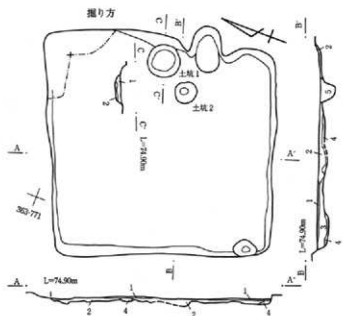
〔床下土坑2〕 径: 35×33cm 深さ: 22cm

**構造** 本住居は方形プランを呈する。

掘り方を有するが、これを黒褐色土等で埋め戻し、住居の外周域に暗褐色土を含む黒褐色土で2cm厚程の貼り床を施している。床面に於いて柱穴や貯蔵穴は確認することはできなかったが、掘り方で確認された土坑1が貯蔵穴の可能性を有しており、位置



〔床下土坑1 覆土〕  
1：暗褐色土：焼土と炭化物粒含む  
2：黒褐色土：As-C含む



〔貼床〕  
1：黒褐色土：少量の焼土粒及び暗褐色土含む  
〔住居掘り方覆土〕  
2：黒褐色土：少量の焼土粒及び黄褐色土含む  
3：黒褐色土：灰褐色土含む  
4：黒褐色土：少量のAs-C含む  
〔床下土坑2 覆土〕  
5：暗褐色土：少量の黒褐色土含む

第95図 8-57号住居と出土遺物（その3）

的にやや問題はあるものの、土坑2は榑柱柱の可能性も有する。

竈は東壁南寄りに設けられ、壁面をまたいで浅い掘り方が掘削して、これを黒褐色土で埋め戻して燃焼面を作っている。燃焼部の両側には短い袖が残るが、天井石が渡されてあり、袖の長さは40cm近くあったものと想定される。

(55) 8-58号住居

(第96・97図、P.L38・74)

概要 本住居は南部の住居集中域北端に在る。南側で8-65・68号住居と重複するが両者に対して本住居の方が新しい。尚、遺構としての遺存状態はさして良好ではなかった。遺物 本住居では主に掘り方からのものを中心とした出土遺物を得たが、その量はさして多いものではなかった。このうち床面に於いて須恵器高台付碗(1)の出土を見ている。

時期 本住居の時期を断定することはできなかったが、床面出土の須恵器高台付碗から推して、概ね10世紀後半期の所産と思慮される。

規模 径：243×232cm 深さ：5cm

〔竈〕幅：(70)cm 奥行：75cm

構造 本住居は北西隅部を8-69号土坑と重複しているが、プランは概ね隅丸方形を呈するものである。

掘り方を有し、これを焼土粒を含む暗褐色土等で埋め戻して床を作っている。尚、掘り方面に於いても床面に於いても柱穴・貯蔵穴を確認することはできなかった。

竈は東壁の南寄りに壁面を跨ぐように燃焼部を設置している。竈掘り方を焼土を含む黒褐色土で埋め戻しているが、遺存状況が悪く燃焼面を含む土位構造は詳らかでない。

## (56) 8-65号住居 (第96・97図, P.L40・75・76)

**概要** 本住居は南部の住居集中域北よりに位置する。

北側に8-58号住居と重複してこれに切られるが、南側に重複する8-68号住居との新旧を特定することはできなかった。尚、本住居自体の遺存状況も悪く、掘り方を調査できたに過ぎなかった。

また、貯蔵穴の覆土に焼土粒を含むため、本住居は所謂お掃除住居であった可能性を有する。

**遺物** 本住居からは平安時代の土師器片を中心に一定量の出土遺物を得たが、この中には須恵器坏(1)、土師器鉢(2)、土鎌(3)も見られた。

**時期** 本住居の時期は明確にできなかったが、出土遺物から10世紀代の所産と判断される。

**規模** 径: 229×230cm 深さ: 0cm

[竈] 幅: (59) cm 奥行: 72cm

[貯蔵穴] 径: 45×52cm 深さ: 21cm

[床下土坑] 径: 84×68cm 深さ: 7cm

**構造** 上述のように本住居は掘り方面のみの調査である。プランは重複によって明瞭でない箇所もあるが、方形に近い隅丸方形を呈するものと思慮される。

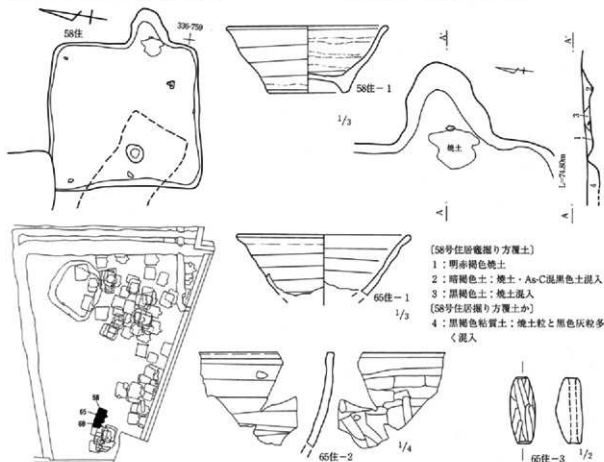
掘り方を有し、これを黒褐色土で埋め戻しているようである。柱穴は確認されなかったが、竈右側のやや手前、南壁際にやや崩れた楕円形プランの貯蔵穴を確認することができた。

## (57) 8-68号住居 (第97図, P.L40・76)

**概要** 本住居は南部の住居集中域北寄りに位置する。

北側に8-65号住居と重複するが、新旧を特定することはできなかった。また本住居自体も遺存状況が悪く、掘り方を調査したに過ぎなかったが、西側中央は建設機械の重量により窪んでしまっている。

**遺物** 平安時代の土師器・須恵器片等、少量の遺物が出土したに過ぎないが、律令期の所産と判断される土鎌(1)や、鎌の破片(2)も見られた。



第96図 8-58・65号住居と出土遺物 (その1)

[58号住居掘り方覆土]

1: 明赤褐色焼土

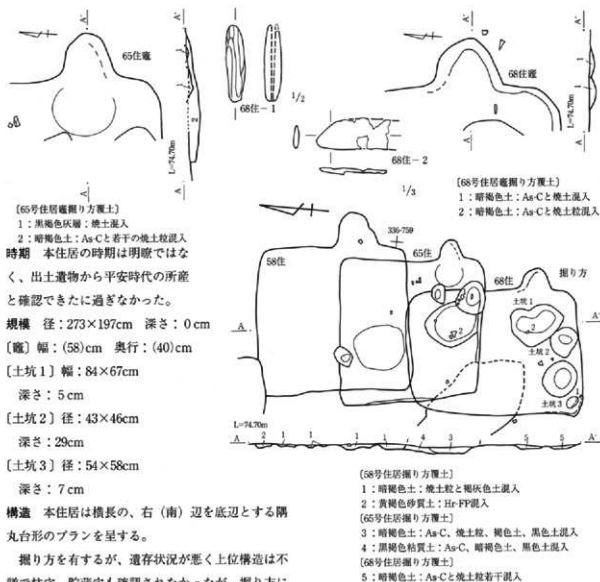
2: 暗褐色土: 焼土・As-C混黒色土混入

3: 黒褐色土: 焼土混入

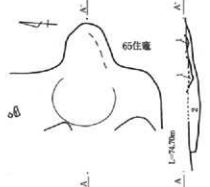
[58号住居掘り方覆土か]

4: 黒褐色粘質土: 焼土粒と黒色灰粒多く混入

第2章 発見された遺構と遺物 (その1)



第97図 8-58・65・68号住居と出土遺物 (その2)



[65号住居掘り方覆土]  
1: 黒褐色灰層: 焼土混入  
2: 暗褐色土: As-Cと若干の焼土粒混入  
時期 本住居の時期は明瞭ではな  
く、出土遺物から平安時代の所産  
と確認できたに過ぎなかった。

規模 径: 273×197cm 深さ: 0 cm  
[竈] 幅: (58)cm 奥行: (40)cm  
[土坑1] 幅: 84×67cm  
深さ: 5 cm  
[土坑2] 径: 43×46cm  
深さ: 29cm  
[土坑3] 径: 54×58cm  
深さ: 7 cm

構造 本住居は横長の、右(南)辺を底辺とする隅  
丸台形のプランを呈する。

掘り方を有するが、遺存状況が悪く上位構造は不  
詳で柱穴、貯蔵穴も確認されなかったが、掘り方に  
3基の床下土坑を確認した。このうち土坑1は覆土  
に焼土を含むことから所謂床下粘土坑と性格を同じ  
くし、土坑2は貯蔵穴であった可能性を有する。

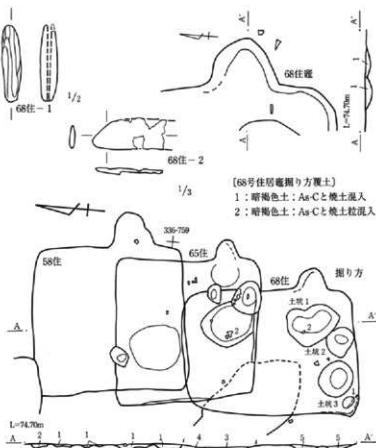
竈は東壁のかなり南に寄った位置に壁をまたいで  
設置されている。遺存状況は悪く、全様は不詳。

(58) 8-59号住居 (第98図, P L38・75)

概要 本住居は南部の住居集中域西南隅に位置する。  
北東部で8-48号住居と重複し、これに切られている。

遺構の遺存状態は不良で、竈の一部を除き、掘り  
方を調査できたに過ぎなかった。

尚、床下土坑4は本住居に伴うものではなく、柱  
穴である可能性を有する。



[66号住居掘り方覆土]  
1: 暗褐色土: As-Cと焼土混入  
2: 暗褐色土: As-Cと焼土粒混入

[68号住居掘り方覆土]  
1: 暗褐色土: 焼土粒と褐色土混入  
2: 黄褐色砂質土: Hr-FP混入

[65号住居掘り方覆土]  
3: 暗褐色土: As-C, 焼土粒, 褐色土, 黒色土混入  
4: 黒褐色粘質土: As-C, 暗褐色土, 黒色土混入

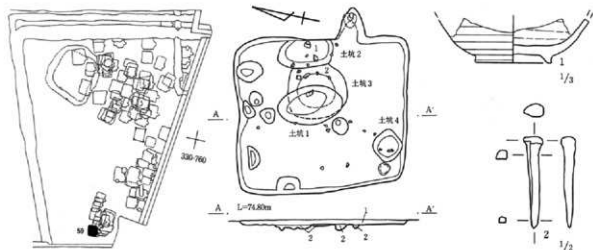
[68号住居掘り方覆土]  
5: 暗褐色土: As-Cと焼土粒若干混入

遺物 平安時代の土師器片を中心に比較的多くの遺  
物が得られたが、掘り方に於いて須恵器高台付碗(1)  
や角釘(2)等の出土を見た。

時代 本住居の時期は明瞭ではないが、出土遺物か  
ら推して概ね10世紀後半期の所産と思慮される。

規模 径: 277×244cm 深さ: 0 cm  
[竈] 幅: (47) cm 奥行: (55) cm  
[床下土坑1] 径: 102×60cm 深さ: 5 cm  
[床下土坑2] 径: 86×40cm 深さ: 14cm  
[床下土坑3] 径: 92×(84) cm 深さ: 17cm  
[床下土坑4] 径: 42×43cm 深さ: 13cm





〔59号住居掘り方覆土〕

- 1：暗褐色土：As-C、焼土粒混入  
2：黒褐色粘質土：若干の焼土粒と多量の褐色土混入

**構造** 本住居は隅丸方形プランを呈する。

土坑を伴う掘り方を持ち、これを暗褐色土等で埋め戻している。床下土坑を幾つか見出ししているが柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

竈は東壁やや南寄りに設けられ、壁を掘り込んで浅い掘り方を掘削し、焼土粒を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作っている。残念乍ら遺存状態が悪く、燃焼面を21×22cmの範囲で確認できただけで、上位構造を明らかにすることはできなかった。

(59) 8-60号住居 (第99・100図、P.L39・75)

**概要** 本住居は北部の住居集中城南西隅部に位置している。

8-67・75号住居と重複しているが、何れの住居に対しても本住居の方が新しい。

**遺物** 本住居からは平安時代の土師器片を中心に一定量の出土遺物を得たが、竈から須恵器高台付碗(1)、土釜片(2)の出土を見ている。

**時代** 本住居の時期は明確ではないが、出土遺物から推して10世紀中頃の所産と判断される。

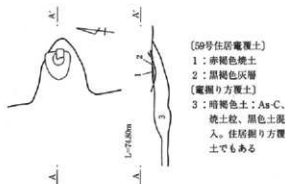
**規模** 径：266×233cm 深さ：16cm

〔竈〕 幅：(63) cm 奥行：86cm

(燃焼部) 径：58×75cm 深さ：6cm

〔貯蔵穴〕 径：45×60cm 深さ：11cm

**構造** 本住居は僅かに横長の長方形プランを呈している。



〔59号住居覆土〕

- 1：赤褐色焼土  
2：黒褐色灰層  
〔竈掘り方覆土〕  
3：暗褐色土：As-C、焼土粒、黒色土混入。住居掘り方覆土でもある

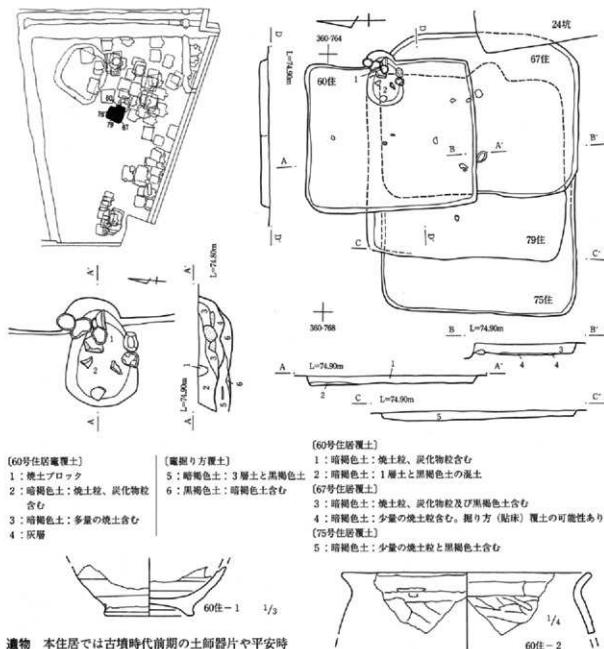
第98図 8-59号住居と出土遺物

掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻して床を造っている。柱穴は確認できなかったが、掘り方の竈左側に貯蔵穴と思われる土坑を確認している。

竈は東壁中央やや北よりに設けられ、壁面を若干掘り込んで浅い掘り方が掘削され暗褐色土や黒褐色土で埋め戻して燃焼面を作っている。上位構造は明瞭ではないが燃焼部南辺に沿って礎が並んでいるため、礎の芯材として礎を使用したものと思慮される。

(60) 8-67号住居 (第99・100図、P.L40)

**概要** 本住居も北部の住居集中城南西隅部に位置し、北側を8-60号住居に、南東側を8-24号土坑に切られて壊されている。



【60号住居覆土】

- 1：焼土ブロック
- 2：暗褐色土：焼土粒、炭化物粒含む
- 3：暗褐色土：多量の焼土含む
- 4：灰層

【籠囲り方覆土】

- 5：暗褐色土：3層土と黒褐色土
- 6：黒褐色土：暗褐色土含む

【60号住居覆土】

- 1：暗褐色土：焼土粒、炭化物粒含む
- 2：暗褐色土：1層土と黒褐色土の混土

【67号住居覆土】

- 3：暗褐色土：焼土粒、炭化物粒及び黒褐色土含む
- 4：暗褐色土：少量の焼土粒含む。掘り方（貼床）覆土の可能性あり

【75号住居覆土】

- 5：暗褐色土：少量の焼土粒と黒褐色土含む

**遺物** 本住居では古墳時代前期の土師器片や平安時代の土師器・須恵器片などの出土遺物を得たが、量的には多くなく、図示すべき資料は見られなかった。

**時代** 本住居の時期は明瞭ではなかったが、60号住居に切られることから、概ね10世紀前半以前の平安期の所産と思慮される。

**規模** 径：312×254cm 深さ：17cm

**構造** 本住居は隅丸方形プランを呈する。

掘り方を持ち、これを暗褐色土等で埋め戻して床を造っている。しかし乍ら、柱穴、貯蔵穴、竈は確認できなかった。

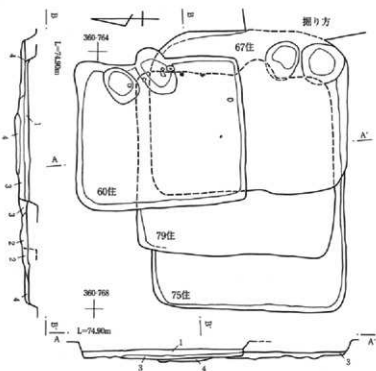
第99図 8-60・67・75・79号住居と出土遺物（その1）

(61) 8-75号住居（第99・100図、P L42）

**概要** 本住居も北部の住居集中域南西隅部に位置している。

東側を8-67・79号住居に切られて壊されているため、西側部分しか確認できなかった。

**遺物** 平安時代の土師器杯・壺片等の出土があったが、量的には多くなく、取り上げるべき遺物は特に見られなかった。



〔60・67・75・79号住居掘り方覆土〕

- 1: 暗褐色土: 焼土粒、炭化物粒及び少量の黒褐色土含む  
 2: 暗褐色土: 焼土粒、炭化物粒含む  
 3: 暗褐色土: 焼土粒、炭化物粒、やや多量の黒褐色土、灰褐色土含む  
 4: 黒褐色土: As-C暗褐色土含む

## 第100図 8-60・67・75・79号住居 (その2)

**時代** 本住居の時期も明瞭ではないが、出土遺物と重複する住居の時期によって、10世紀前半以前の平安時代の所産と判断される。

**規模** 径: 306×(243) cm 深さ: 7 cm

**構造** 本住居は東側の過半が壊され、上位も削られているので全容は詳らかでないが隅丸方形プランを呈するものと判断される。

掘り方を持ち、これを暗褐色土や黒褐色土で埋め戻している。本住居も柱穴、貯蔵穴、竈は確認できなかった。

## 〔62〕 8-79号住居 (第99・100図, P L43)

**概要** 北部の住居集中城南西隅部に位置する。

本住居は西側で8-75号住居を切るものの、上位を8-60・67号住居に削られていて、遺存状況は良好なものではなかった。

**遺物** 本住居からの出土遺物は少なく、古墳時代前期の土師器片や平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器片など僅なものであった。

**時代** 本住居の時期も明確にできなかったが、出土遺物と重複関係から概ね10世紀前半期の所産と推定されるものである。

**規模** 径: 311×(312) cm

深さ: 3 cm

**構造** 本住居は横長の方角プランを呈する。

掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻して床を造っている。柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

尚、掘り方の形態観察によって、竈は東壁の中央やや南寄りの位置

に設けられていることが確認できたが、破壊が進んでいて詳細な構造等は不明であった。

## 〔63〕 8-61号住居 (第101・102図, P L39・75)

**概要** 本住居は南部の住居集中城南端部に位置する。

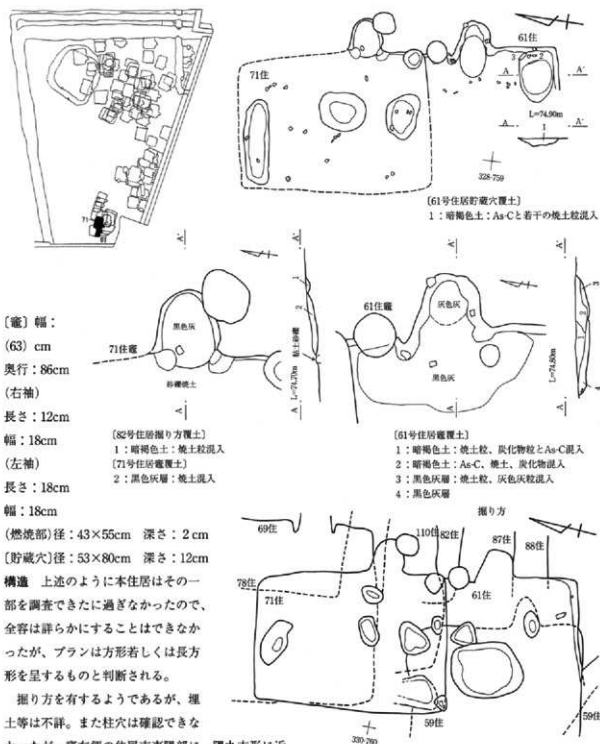
本住居は東に8-82・87・88・110号住居、西に8-59号住居、北に8-71号住居と重複する。何れに対しても遺構の上で新旧関係を明確にすることはできなかったが、出土遺物の比較から88号住居よりは新しく、59・82・87号住居よりは古いものと思慮される。

尚、本住居は59・71号住居と一括掘削されていることもあって、その過半を失っている。

**遺物** 本住居からは平安時代所産の土師器を中心とした遺物の出土が見られたが、竈から土師器環(1)、貯蔵穴からは須恵器高台付碗(2)や叢石(3)の出土も見られた。

**時期** 本住居の時期は明瞭にできなかったが、出土遺物から推して10世紀前半頃の所産ではないかと思慮される。

**規模** 径: (209)×(91) cm 深さ: 4 cm



〔竈〕幅：  
(63) cm  
奥行：86cm  
(右袖)  
長さ：12cm  
幅：18cm  
(左袖)  
長さ：18cm  
幅：18cm

(燃焼部)径：43×55cm 深さ：2 cm  
〔貯蔵穴〕径：53×80cm 深さ：12cm  
構造 上述のように本住居はその一部を調査できたに過ぎなかったため、全容は詳らかにすることはできなかったが、プランは方形若しくは長方形を呈するものと判断される。

掘り方を有するようであるが、埋土等は不詳。また柱穴は確認できなかったが、竈右側の住居南東隅部に、隅丸方形に近い楕円プランを呈する浅い掘り込みの貯蔵穴が掘削されている。

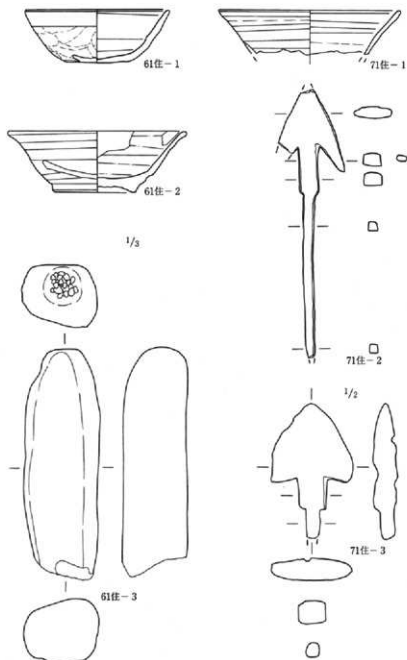
竈は東壁に設けられ、壁をまたいで燃焼部が設置されている。掘り方の有無は確認できていない。燃焼部の両側に短い袖が残っているが、構築材の記録は残せなかった。

第101図 8-61・71号住居 (重複が激しいため便宜上61・71号住居を優先して表示し、61・71号住居に伴う可能性のある掘り込みを選択して示した)

(64) 8-71号住居 (第101・102図, P. L41・76)

概要 本住居も南部の住居集中城南端部に位置する。

8-59・61・69・78・82・94・110号住居と重複するが、82号住居に切られることを確認した以外、遺



第102図 8-61・71号住居出土遺物

構の上で新旧は特定できなかった。尚、出土遺物に鑑みれば、59・78号住居は本住居より新しい。

また、本住居は掘平が進み、重複が著しいこともあって、遺構の遺存状態は良好とは言えない。

**遺物** 本住居の出土遺物は平安時代の土師器残片を中心に掘り方から須恵器環(1)の出土があり、この他、鉄鍔2点(2・3)の出土が特筆される。

**時期** 本住居の時期も明確ではなかったが、出土遺物から推して、概ね10世紀前半期、若しくはそれ以降の所産と想定される。

**規模** 径：(298)×(226)cm

深さ：5cm

[竈]幅：64cm 奥行：64cm

(右袖)長さ：21cm

幅：18cm

(左袖)長さ：(18)cm

幅：(16)cm

(燃烧部)径：51×58cm

深さ：0cm

[土坑1]径：51×72cm

[土坑2]径：73×60cm

深さ：8cm

[土坑3]径：42×131cm

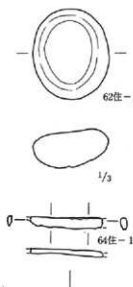
深さ：11cm

**構造** 本住居の輪郭ははっきりとは捉えられなかったのであるが、そのプランは概ね横長の長方形を呈するものとして捉えられる。

掘り方を持つようではあるが、重複が激しく、重複する住居群で一括掘削してしまったこともあって明確には捉えられなかった。尚、第101図には一括で測量した実測図から本住居に付属する可能性のある床下土坑を示した。

また掘り方の埋土を記録することはできず、床面に土坑3基を確認したが、柱穴、貯蔵穴を明確にすることはできなかった。

竈は東壁の南寄りに設置される。掘り方の有無は不明だが、壁面をまたいで燃烧部が設置され、灰が残されている。袖は粘土や砂礫で作られていて、その残欠が左右両袖に残る。尚、左袖は崩れている。



(65) 8-62号住居 (第103図, P.L39・75)

**概要** 本住居は北部の住居集中域に在って、その北西寄りに位置している。

8-42・64号住居、8-97号土坑と重複しており、このうち本住居は64号住居を切っている。一方、42号住居と97号土坑に対しては新旧関係を明確にすることはできなかったのであるが、確認順位から推してより古い可能性も思慮される。

**遺物** 本住居からは平安時代の土師器片を中心とした出土遺物を得たのであるが、土器類には特に図示すべきようなものは認められなかった。尚、磨石(1)が出土している。

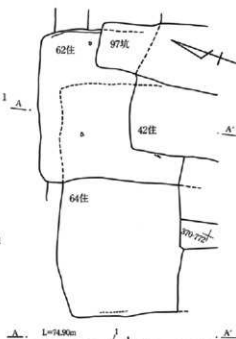
**時期** 以上のような出土遺物の状態から本住居の時期は明らかにはできなかったのであるが、42号住居に切られるとするならば、本住居は9世紀代の所産の可能性が考慮されることになる。

**規模** 径：(230)×240cm 深さ：0 cm

**構造** 本住居のプランは南部を42号住居と97号土坑に覆われているため明瞭ではないのであるが、概ね隅丸方形を呈するものと判断される。

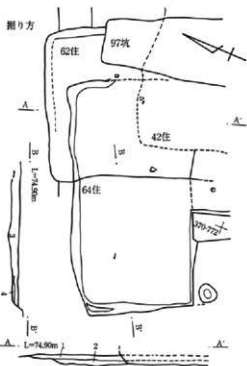
掘り方を有しており、これを焼土を含む黒褐色土で埋め戻して床を造っているが、特に貼床などは施されていない。

尚、竈、柱穴、貯蔵穴等住居に付随する構造物は床面に於いても掘り方面に於いても確認することはできなかった。



[62号住居覆土]

1：黒褐色土：やや砂質。Hr-FP少量含む



[62号住居掘り方覆土]

- 1：黒褐色土：やや砂質。焼土有り
- 2：黒褐色土：やや砂質。黄褐色砂混入
- [64号住居掘り方覆土]
- 3：黒褐色土：やや砂質。Hr-FP含む
- 4：3層土と黒色土の混土

第103図 8-62・64号住居と出土遺物

## (66) 8-64号住居 (第103図, P.L39・75)

概要 本住居も北部の住居集中域の北西部に位置して、遺存状況は良くない。

8-62・83・85・100号住居と重複する。62号住居に対しては本住居の方が切られているが、他の住居との新旧関係は確認順位から本住居の方が新しい可能性を有するが、明確にはできなかった。

高、本遺構は竪穴住居として処理したのであるが、掘り方の形状から推して、竪穴住居ではなく竪穴状遺構或いは土坑であった可能性も有する。

遺物 本住居からは平安時代の須恵器・碗片を中心とする遺物の出土を見たのであるが、土器類については特に図示すべきものは認められなかった。尚、土器類以外では刀子(1)の出土が確認されている。

時期 本住居の時期も明らかにできなかったのであるが、62号住居との重複関係と出土遺物から推して9世紀代の所産と判断している。

規模 径:363×(199)cm 深さ:8cm

構造 本住居のプランは南部が不明瞭なため全容は詳らかでないが、概ね(長)方形を呈するものと思慮される。

掘り方を有しており、これを黒褐色土で埋め戻して床を造っているが、本住居も竪、柱穴、貯蔵穴等の構造物を確認することはできなかった。

## (67) 8-63号住居 (第104・105図, P.L40・75)

概要 本住居も北部の住居集中域北西寄りに位置している。

北東部で8-62号住居・8-97号土坑と重複するが、新旧関係を示せるような記録を残すことができなかった。尚、確認順位等から本住居がこれらに切られている可能性も残されるのであるが、出土遺物からは本住居の方が新しいものと判断される。

遺物 本住居からは平安時代所産の土器器・壺片を中心に比較的多くの遺物が出土した。このうち土器類では土器の坏(1・2)・碗(3)・鉢(4・5)、須恵器高台付碗(6)の出土があり、土器類以外では鎌(7)の出土も見られた。

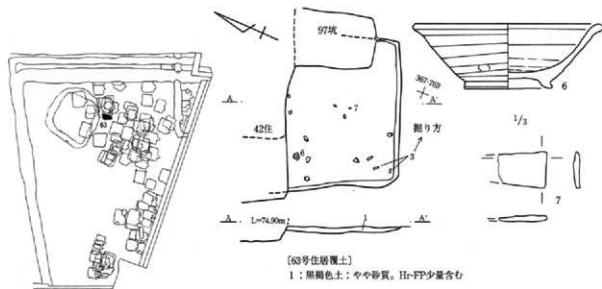
時期 本住居は出土遺物の検討から10世紀後半期の所産と判断される。

規模 径:(268)×245cm 深さ:7cm

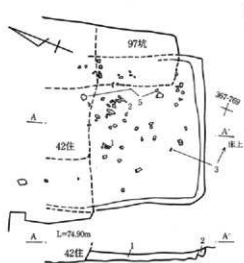
構造 本住居は、北部を42号住居と97号土坑等に壊されているため、そのプランは明瞭ではないが、隅丸方形を呈するものと判断される。

掘り方を有しており、これを焼土を含む黒褐色土等で埋め戻して床を造っている。

尚、床面に於いても掘り方面に於いても、竪、柱穴、貯蔵穴といった付属する構造物を確認することはできなかった。



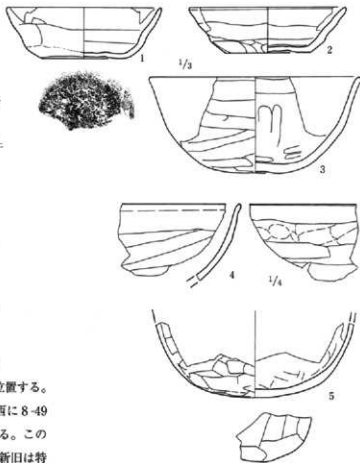
第104図 8-63号住居と出土遺物(その1)



〔63号住居掘り方覆土〕

1：黒褐色土：やや砂質。Hr-PPと焼土少量含む

2：灰黄褐色土：やや砂質



〔68〕 8-66号住居（第106図、P.L40・76）

概要 本住居は北部の住居集中城南寄り位置する。

北に8-23号住居、北西に8-47号住居、西に8-49号住居、南西に8-70・91b号住居と重複する。このうち23・49号住居に切られ、他の住居との新旧は特定できなかったが、出土遺物から推して70・91b号住居より本住居は古いものと思感される。

また、覆土の観察所見から焼却処分を伴う建て直しの可能性が考慮される。

遺物 本住居からは平安時代の土師器杯・壺片を中心に古墳時代前期以降の時期の比較的多くの出土遺物が得られた。この中には土師器の杯(1・3)、壺(4)、碗(5)や、須恵器の杯(2)或いは壺片(6)なども見られた。

時期 本住居の時期は、出土遺物の検討から概ね9世紀中葉の所産と判断される。

規模 径：267×301cm 深さ：14cm

〔甕〕 幅：83cm 奥行：62cm

（右袖） 長さ：10cm 幅：12cm

（左袖） 長さ：24cm 幅：14cm

（燃燒部） 径：(58)×48cm 深さ：3cm

〔床下土坑1〕 径：82×(180)cm 深さ：11cm

〔床下土坑2〕 径：64×100cm 深さ：9cm

第105図 8-63号住居と出土遺物（その2）

構造 本住居は、周辺部で他の住居と重複する部分が多いため、その輪郭が不明なところもあるが、本住居のプランはやや北側（竈左方向）に広がる台形様の方形プランを呈するものと判断される。

西部に不定形（床下土坑1）と楕円形（床下土坑2）のプランを呈する土坑の掘削が見られる掘り方を有しており、これを焼土や炭化物を含む暗褐色土で埋め戻して床を造っているが、特に貼床等は施されていない。

竈は東壁のやや南寄りに壁面をまたいで設けられる。寸の短い楕円形様プランを呈する掘り方を有し、これを焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して燃焼面を作る。左袖に袖石が残る。残念ながら記録化が充分ではなく、上述以外の構造は詳らかにできない。

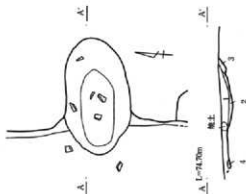
尚、床面に於いても掘り方面に於いても柱穴及び貯蔵穴を確認することはできなかった。



第6節 8区東部1面の遺構と遺物



第106図 8-66号住居と出土遺物



第107図 8-69号住居

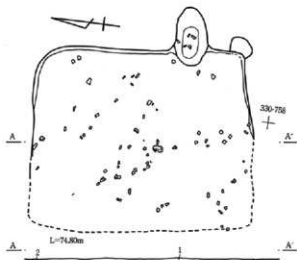
(69) 8-69号住居（第107図、P L 41）

概要 本住居は南部の住居集中域中央部に位置する。

東に8-78・82・90・94号住居と、西に8-68・71・74号住居と重複する。何れの住居に対しても新旧を特定することはできなかった。

遺物 本住居からは平安時代の土師器・須恵器片を中心に比較的多くの出土遺物が得られたが、特に図示するような遺物は得られなかった。

時期 本住居は出土遺物から概ね9世紀以降の所産として把握できるだけで、細かい時期の特定には至らなかったが、重複する住居群との関連から10世紀以降の所産である可能性も残される。



規模 径：348×(278) cm 深さ：3 cm

〔竈〕幅：(52) cm 奥行：92 cm

(燃烧部) 径：27×67 cm 深さ：3 cm

構造 本住居は重複も激しく、その全容は明瞭ではないが、そのプランは概ねやや横長の方形を呈する。掘り方を有するようであるが、記録が充分ではなく詳細は不詳。

竈は東壁南寄りに設置され、燃烧部は壁面を大きく削り込んだ位置に設定されている。掘り方の有無に関する記録はなく、袖等は完全に壊されていたため細かい構造は一切不明である。

また、柱穴、貯蔵穴等の構築物は一切確認されなかった。

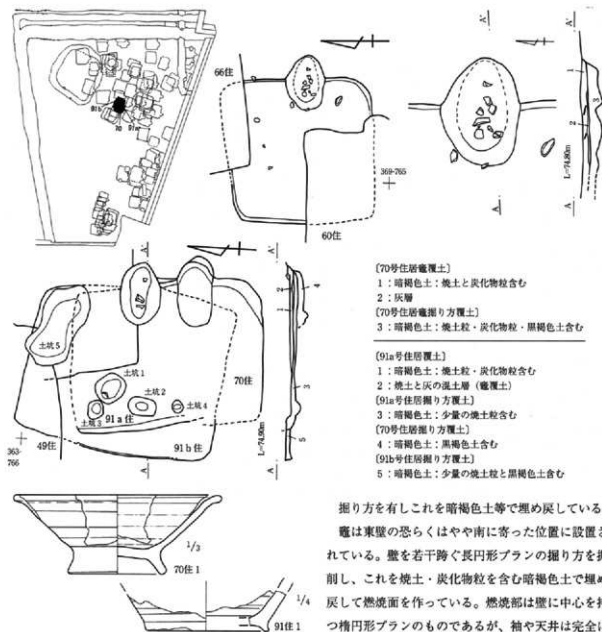
(70) 8-70号住居（第108図、P L 41・76）

概要 本住居は北部の住居集中域の南西部の住居群の中程に位置している。

北に8-66・91a・91b号住居、南に8-60号住居と重複する。このうち91a号住居には切られている。他の住居との新旧は遺構からは特定できなかった。

尚、本住居は掘り方が確認できただけであり、遺存状況も良好とは言えない。

遺物 本住居からは須恵器高台付碗(1)等、平安時代の土師・須恵器片を中心に、古墳時代前期の土師器片等の出土遺物が得られた。



## 〔70号住居燻覆土〕

1：暗褐色土：焼土と炭化物粒含む

2：灰層

## 〔70号住居掘り方覆土〕

3：暗褐色土：焼土粒・炭化物粒・黒褐色土含む

## 〔91a号住居覆土〕

1：暗褐色土：焼土粒・炭化物粒含む

2：焼土と灰の混土层（燻覆土）

## 〔91a号住居掘り方覆土〕

3：暗褐色土：少量の焼土粒含む

## 〔70号住居掘り方覆土〕

4：暗褐色土：黒褐色土含む

## 〔91b号住居掘り方覆土〕

5：暗褐色土：少量の焼土粒と黒褐色土含む

掘り方を有しこれを暗褐色土等で埋め戻している。

竈は東壁の恐らくはやや南に寄った位置に設置されている。壁を若干跨ぐ長円形プランの掘り方を掘削し、これを焼土・炭化物粒を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作っている。燃焼部は壁に中心を持つ楕円形プランのものであるが、袖や天井は完全に破壊されていてその構造は詳らかではない。

竈、柱穴、貯蔵穴を確認することはできなかった。

第108図 8-70・91a・91b号住居と出土遺物

時期 本住居の時期は明瞭ではないが、上述の須恵器高台付碗から推して10世紀後半の所産である可能性が考えられる。

規模 径：(160)×219cm 深さ：0cm

〔竈〕幅：(61)cm 奥行：102cm

(燃焼部)径：61×84cm 深さ：5cm

構造 本住居は北部を91a・91b号住居に切られるため全容は不明だが、そのプランは隅丸方形若しくは横長の隅丸長方形を呈するものと慮される。

## (71) 8-91a・91b号住居 (第108図)

概要 8-91a・91b号住居は北部の住居集中域南西部に位置する。

91a・91b号住居は切り合い関係にあり、91a号住居の方が新しい。また両住居は8-49・66・70号住居とも重複するが、このうち91a号住居は70号住居を切り、66号住居より新しいものと思慮されるが、その他の住居新旧関係を特定することはできなかった。

**遺物** 両住居は調査時点で一括処理されており、平安時代の土師器片を中心に若干の出土遺物を得ているが、須恵器甕(1)などの出土も見られた。また70号住居と明確に分離できていない状況も窺われるため、一部の出土遺物が70号住居出土遺物の中に含まれている可能性もある。

**時期** 91a・91b号住居共に平安時代の所産として把握されるが、91a号住居は70号住居との重複関係から10世紀後半以降の所産として認識される。

**規模** (91a号住居) 径：(176) × (229) cm

深さ：0 cm

【竈】 幅：(64) cm 奥行：98 cm

【床下土坑1】 径：42×49 cm 深さ：13 cm

【床下土坑2】 径：42×30 cm 深さ：11 cm

【床下土坑3】 径：24×28 cm 深さ：9 cm

【床下土坑4】 径：18×19 cm 深さ：14 cm

(91b号住居) 径：310×264 cm 深さ：0 cm

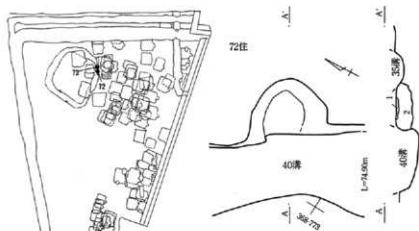
【床下土坑5】 径：70×142 cm 深さ：11 cm

**構造** 91a・91b号住居は共に（特に前者は）遺存状況が悪いため全容は詳らかでないが、共に横長の隅丸方形様のプランを呈するものと判断される。

共に掘り方を有し、少量の焼土粒を含む暗褐色土で埋め戻している。91a号住居はこの土壌で床面を形成し、貼り床は施していない。掘り片面には大小の土坑が確認されているが、両住居に伴うか否かを特定することはできなかった。

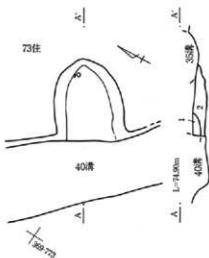
91b号住居の竈は確認できなかったが、91a号住居の竈は東壁の恐らく中央に当たる位置に設置されている。掘り方は確認できず、袖や天井の上位構造は明らかにできなかった。

高、両住居の柱穴、貯蔵穴については掘り方の床下土坑3・4は形態的に柱穴の可能性を有するものの、明確に特定することはできなかった。



【72号住居竈覆土】

- 1：黒灰色灰  
[竈掘り方覆土]  
2：黒褐色土：Hr-FPと焼土少量混入



【73号住居竈覆土】

- 1：灰褐色粘質土  
[竈掘り方覆土]  
2：黒褐色土：Hr-FPと焼土少量混入（上面に灰薄く乗る）

第109図 8-72・73号住居竈

(72) 8-72・73号住居 (第109図, P.L41)

**概要** 8-72・73号住居は北部の住居集中城南西隅部に位置する。

両住居共竈のみが確認されたに過ぎず、東側を8-35号溝、西側を8-40号溝に切られている。尚、それぞれ単独に在り、他の堅穴住居との重複はなかった。**遺物** 共に平安時代の土師器片を中心とした僅かな遺物を出土したに過ぎなかった。

**時期** 72・73号住居共、平安時代の所産とできるだけで、時期特定には至らなかった。

規模 (72号住居) [竈] 幅：(78) cm 奥行：(51) cm  
 (73号住居) [竈] 幅：(55) cm 奥行：(65) cm  
 構造 72・73号住居は共に東壁に作られた竈の一部を調査したに過ぎないが、竈は両住居共、掘り方を有する。掘り方は深さ10cm程、残存部分のプランは72号住居が陥凹形、73号住居がどんぐり形を呈する。

燃焼面は掘り方を少量の焼土を含む土壌で埋め戻して作る。上位構造は共に不明だが、73号住居は天井部に灰褐色粘質土を使用した可能性が窺われる。

(73) 8-74号住居 (第110図, P.L42・76・77)

概要 8-74号住居は南部の住居集中域中程に在る。

8-68・69・71号住居と重複するが、何れの住居に対しても新旧関係を特定することはできなかった。

遺物 本住居からは平安期の土師器・須恵器片を中心に土鍬(1・2)、磨石(3~5)、鉄滓(6・7)等一定量の出土遺物を得たが、容器類に図示すべきものは見られなかった。

時期 本住居は平安時代の所産として把握できるに過ぎない。

規模 径：282×284cm 深さ：1cm  
 [竈] 幅：(27)cm 奥行：(10)cm

[柱穴1] 径：35×37cm

深さ：12cm

[柱穴2] 径：51×49cm

深さ：30cm

[床下土坑1] 径：75×

133cm 深さ：9cm

[床下土坑2] 径：

147×140cm 深さ：23cm

[床下土坑3] 径：74×

70cm 深さ：7cm



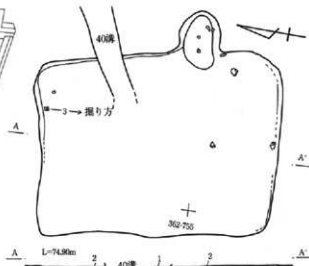
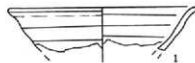
第110図 8-74号住居と出土遺物

**構造** 本住居は上位が大きく削られ土層等の記録化に不備があったため全容は詳らかでない。

3基の土坑と北壁東半～北東隅部にかけて幅37cm、深さ9cmの周溝状の掘り込みを伴う掘り方を有する。

竈は東壁南寄りに作られているが、完全に破却されており、記録化も充分でなかったためその構造は詳らかでない。

また床面に於いて柱穴は2基確認したが、位置的に本住居に伴うとは考えにくい。また貯蔵穴は掘り方面に於いても床面に於いても確認できなかった。

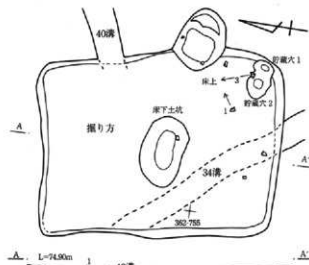


〔40号住居土か〕

1: 暗褐色土: As-B含む

〔76号住居覆土〕

2: 暗褐色土: 焼土粒・炭化物粒と黒褐色土含む



〔76号住居掘り方覆土〕

1: 暗褐色土: 焼土粒と黒褐色土含む

2: 黒褐色土: As-Cと暗褐色土含む

第111図 8-76号住居と出土遺物

(74) 8-76号住居 (第111・112図, P L42・77)

**概要** 本住居は北部の住居集中城南西部に位置する。

古墳時代前期の8-105号住居を切り、8-40号溝に切られる。

**遺物** 本住居からは古墳時代前期と平安時代の土師器片を中心に比較的多くの出土遺物を得たが、この中には須恵器の坏(1)や高台付碗(2)、古墳時代前期の土師器台付壺(3)の出土も見られた。

**時期** 本住居の時期は明瞭ではないが、出土遺物から推して概ね10世紀後半期の所産と思慮される。

規模 径: 390×287cm 深さ: 5cm

〔竈〕 幅: 90cm 奥行: 90cm

(燃焼部) 径: 46×82cm 深さ: 6cm

〔貯蔵穴1〕 径: 33×(20)cm 深さ: 12cm

〔貯蔵穴2〕 径: 36×(40)cm 深さ: 17cm

〔床下土坑〕 径: 69×109cm 深さ: 11cm

**構造** 本住居は上位が削られているため全容は不明な点もあるが、プランは横長の隅丸方形を呈する。

2基確認されている。これらは東西に連なって重複するが、新旧関係は特定できなかった。尚、床面からの深度は東側の貯蔵穴1で25cm、東側の30cmとなる。

## (75) 8-77・81号住居 (第113図, P L43・78)

**概要** 8-77・81号住居は南部の住居集中域中部に位置する。何れもほぼ竈のみが遺存していたもので、81号住居竈が北に77号住居竈が南に在って接しているが、新旧を特定することはできなかった。

また両住居は8-82号住居とも重複するが、新旧を特定することはできなかった。

**遺物** 77号住居からは古墳時代前期と平安時代の土師器片を中心に若干の遺物が出土したが、特に図示するような遺物は得られなかった。

一方、81号住居からは平安時代の土師器片等僅かな出土遺物が得られたが、この中には3世紀末葉の土師器壺片(1)なども見られた。

**時期** 両住居共に平安時代の所産とできるだけ、時期を特定するには至らなかった。

**規模** (77号住居)【竈】幅：(59)cm 奥行：61cm

(右袖) 幅：16cm 長さ：11cm

(燃烧部) 径：48×47cm 深さ：8cm

(81号住居)【竈】幅：(40)cm 奥行：55cm

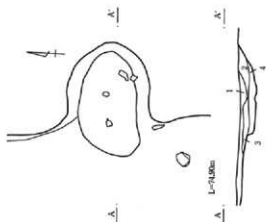
(燃烧部) 径：(32)×42cm 深さ：6cm

**構造** 77・81号住居共に竈を調査したに過ぎないが、両住居共竈は東壁に作られる。77号住居の竈は掘り方を有し、これを焼土を含む暗褐色土・黒褐色土で埋め戻して焼燃面を作っているが、上位の構造は不詳。81号住居の竈は記録化が不足して上位の構造は詳らかでない。

## (76) 8-78号住居 (第114～116図, P L42・44・77)

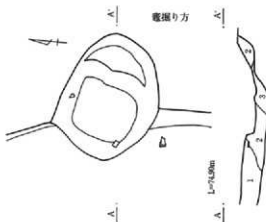
**概要** 本住居は南部の住居集中域中東部に位置する。

8-69・71・82・90・94号住居と重複する。それぞれの住居との新旧関係は確認単位からは前2者より古く、後3者より新しい可能性はあるものの遺構の上からは特定できなかった。



[76号住居竈覆土]

- 1: 暗褐色土・焼土粒・炭化物粒含む
- 2: 焼土と暗褐色土の混土
- 3: 暗褐色土・多量の焼土粒・炭化物粒と焼土含む
- 4: 暗褐色土・焼土粒と多量の灰含む



[76号住居竈掘り方覆土]

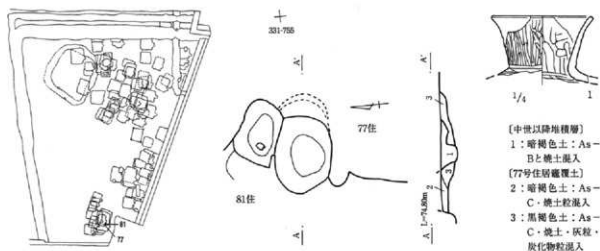
- 1: 暗褐色土・焼土粒と黒褐色土含む
- 2: 暗褐色土・多量の焼土及び黄褐色土含む
- 3: 黒褐色土・焼土粒と暗褐色土含む

第112図 8-76号住居竈

住居中程に楕円形椀のプランを呈する床下土坑を伴う掘り方を有する。(南北両側の)壁寄りに黒褐色土主体の土を入れ、その上に暗褐色土主体の土を被せて掘り方を埋め戻し、床を作っている。

竈は東壁の中央やや南寄りに設けている。壁を跨いで隅丸方形プランの掘り方を掘削し、奥側は壇状に一段高く更に掘削している。これらを焼土を含む暗褐色土や黒褐色土で埋め戻して焼燃面を作っている。上位の構造は完全に破却されていて不明である。

柱穴は床面でも掘り方面でも確認できなかったが、貯蔵穴が床面に於いて竈右側の住居南東隅部に



**遺物** 本住居からは平安時代の土師器片を中心に比較的多くの出土遺物が得られたが、この中には土師器の坏(1)・甕(5)・台付甕(6)、須恵器の坏(2)や高台付碗(3・4)、或いは土鏝(7・8)、削痕の残る軽石(9)等が見られた。

**時期** 本住居は出土遺物から得られる時期にばらつきが見られるが、概ね10世紀後半期の所産ではないかと評価される。

**規模** 径：312×(301) cm 深さ：0 cm

〔竈〕幅：(57) cm 奥行：(59) cm

(燃烧部) 径：57×(51) cm 深さ：5 cm

〔床下土坑1〕径：50×28cm 深さ：6 cm

〔床下土坑2〕径：21×31cm 深さ：13cm

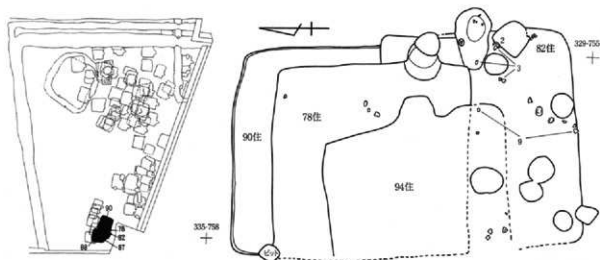
〔床下土坑3〕径：72×34cm 深さ：8 cm

第113図 8-77・81号住居竈と出土遺物

**構造** 本住居は重複も多く全容は詳らかでないが、プランは概ね方形を呈している。掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻して床を作っているが、その底面には灰の堆積層がある。

竈は東壁南端近くに設けられており、壁面を超えた位置に燃烧部が設定されている。竈の掘り方は記録が無く、竈そのものが壊されていて、上位構造は不明である。

掘り方には3基の土坑が確認されたが、明確に本住居に伴うものとは言いきれない。また床面に於いても掘り方面に於いても柱穴、貯蔵穴を確認することはできなかった。



第114図 8-78・82・90号住居（その1）



## (77) 8-82号住居

(第114～116図、P.L42・43・44・78)

**概要** 本住居は南部の住居集中域中東部に位置する。

本住居は8-78・87・88・90・94号住居と重複しているが、何れの住居に対しても新旧関係を特定することはできなかった。

また、掘り方覆土の上面に炭の堆積層があるため、焼却処分に付された可能性が考慮される。

**遺物** 本住居からは平安時代の土師器片を中心に、比較的多くの遺物の出土が見られたが、土師器の坏(1～4)や台付甕(8)、須恵器の皿(5)や高台付碗(6・7)、長頸壺(9)、或いは土鍾(10)などの出土も見られた。

**時期** 本住居からの出土遺物の時期にはばらつきがあるため、その時期の特定は難しいが、全体としては概ね10世紀後半の所産と認識することができる。

**規模** 径：302×(346) cm 深さ：3 cm

[竈] 幅：(59) cm 奥行：(97) cm

(燃烧部) 径：57×97cm 深さ：2 cm

[床下土坑4] 径：62×(83) cm 深さ：10cm

[床下土坑5] 径：59×(45) cm 深さ：13cm

[床下土坑6] 径：(62)×47cm 深さ：27cm

[床下土坑7] 径：30×51cm 深さ：12cm

[床下土坑8] 径：38×50cm 深さ：23cm

[床下土坑9] 径：30×97cm 深さ：29cm

[柱穴1] 径：34×30cm 深さ：18cm

**構造** 本住居のプランは隅丸方形を呈する。

掘り方を有しており、これを焼土を含む暗褐色土で埋め戻して床を作っている。

竈は東壁中央に在り、壁面を跨いで掘り方を掘削し、これを焼土を含む黒褐色土等で埋め戻して焼焼面を作っている。しかし、廃棄時の破却が著しく、上位構造は不明である。

掘り方に幾つかの土坑等を確認したが、位置的に床下土坑5が所謂床下粘土坑になる可能性を有する以外、他の土坑は本住居に伴うか否かも判断することはできなかった。また、柱穴、貯蔵穴も特定することはできなかった。

## (78) 8-87号住居

(第116・117図、P.L42・44・79・80)

**概要** 本住居も南部の住居集中域中東部に位置するが、掘り方のみが確認できたに過ぎず、遺構の遺存状況は良くなかった。

本住居は8-82・88号住居と重複している。このうち後者に対してはこれを切るようだが、前者との新旧関係は特定できなかった。

**遺物** 本住居では平安時代の土師器片を中心に比較的多くの出土遺物を得ているが、この中には土師器坏(1～3)、須恵器高台付碗(4～6)、土師器甕(7)や角釘(8)といった遺物の出土も見られた。

**時期** 本住居は掘り方のみを調査であるため、細かい時期の特定には至らなかったのであるが、概ね10世紀中葉遺構の所産と判断される。

**規模** 径：(314)×350cm 深さ：0 cm

[貯蔵穴] 径：76×83cm 深さ：11cm

[柱穴2] 径：39×48cm 深さ：15cm

**構造** 本住居の全容は明らかでないが、そのプランは隅丸方形様を呈するものと思慮される。

掘り方を有し、これを焼土を含む暗褐色土等で埋め戻している。

尚、竈は確認できなかったが、掘り方面の北東隅部に隅丸方形プランの貯蔵穴が残る。また貯蔵穴と重複する柱穴2も本住居に伴う可能性を有する。

## (79) 8-88号住居 (第116・117図、P.L42・44・80)

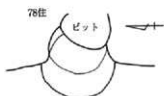
**概要** 本住居も南部の住居集中域中東部に位置し、掘り方のみを調査できたに過ぎなかった。

本住居は北側で8-59・61・87号住居と重複しているが、何れの住居に対しても、本住居の方が古いものと判断される。

尚、本住居は掘り方覆土に焼土が含まれるため、住居建て替えのための焼却処分が行われた所謂お掃除住居である可能性を有している。

**遺物** 平安時代の土師器片を中心に比較的多くの遺物が出土したが、この中には須恵器高台付碗(1)、土師器甕(2)や角釘(3)などの出土も見られた。

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



〔82号住居覆土〕

1：暗褐色土：As-C、焼土と炭化物粒混入

2：暗褐色土：As-C、焼土と灰粒混入

〔82号住居掘り方覆土〕

3：赤褐色焼土

4：黒褐色土：焼土粒、黄褐色土粒、黒色粒混入

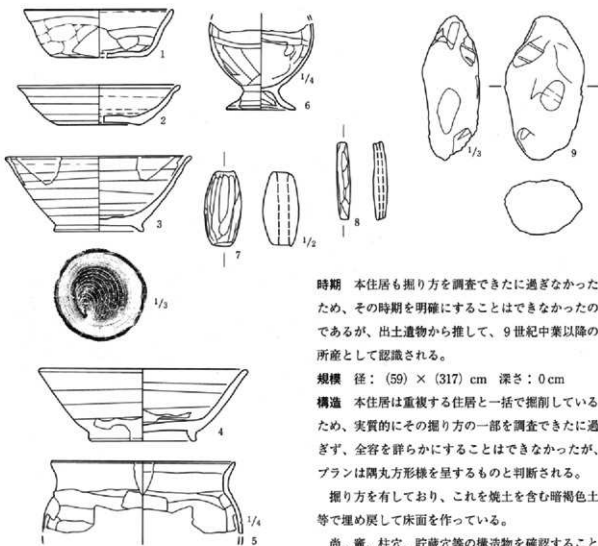
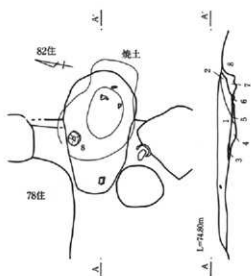
5：赤褐色土：焼土粒、焼土混入

6：灰褐色粘土

7：暗褐色土：焼土粒、炭化物粒混入

〔地山層〕

8：黒褐色土：As-C混入



時期 本住居も掘り方を調査できたに過ぎなかったため、その時期を明確にすることはできなかったのであるが、出土遺物から推して、9世紀中葉以降の所産として認識される。

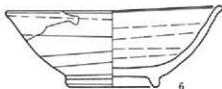
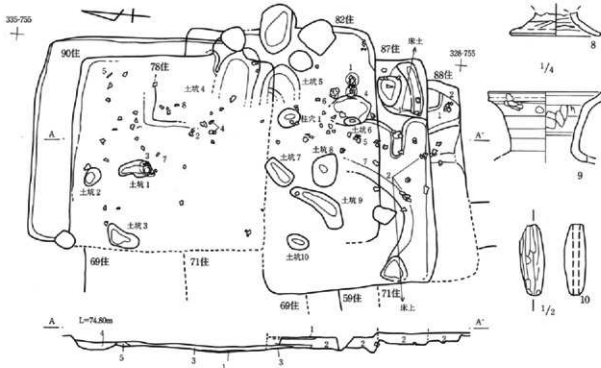
規模 径：(59) × (317) cm 深さ：0 cm

構造 本住居は重複する住居と一括で掘削しているため、実質的にその掘り方の一部を調査できたに過ぎず、全容を詳らかにすることはできなかったが、プランは隅丸方形様を呈するものと判断される。

掘り方を有しており、これを焼土を含む暗褐色土等で埋め戻して床面を作っている。

尚、竈、柱穴、貯蔵穴等の構造物を確認することはできなかった。

第115図 8-78・82号住居竈と出土遺物（その2）



1/3



[78・82・87・88・94号住居覆土]

- 1: 灰層
- 2: 暗褐色土: 5層類似。焼土と炭化物混入
- 3: 暗褐色砂質土: 暗褐色土、黒色土混入
- 4: 暗褐色土: 3層より褐色味強い。明黄褐色土混入。やや粘性あり
- 5: 暗褐色土: 暗褐色土と黄褐色土と黒色土の混土

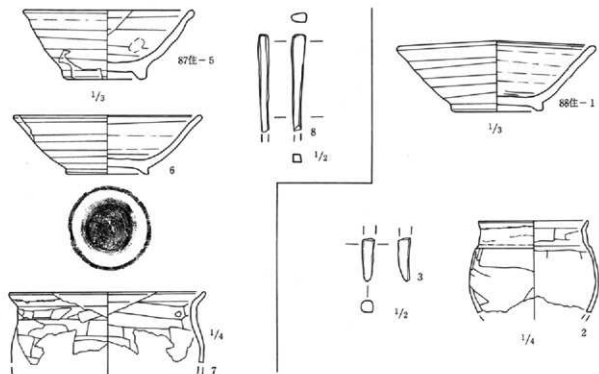


1/3



第116図 8-78・82・87・88・90号住居掘り方と出土遺物 (その3)

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



第117図 8-87・88号住居出土遺物（その4）

(80) 8-90号住居（第114・116図）

**概要** 本住居も南部の住居集中域の中東部に位置しているが、過半を重複遺構と一括で掘削したため、その一部を確認できたに過ぎない。

東壁と北壁沿いを除く殆どの部分が8-69・71・78・82号住居と重複して一括の調査となったため、住居の遺存状況は良くない。またこれらの住居との新旧を特定することもできなかった。

**遺物** 本住居からは平安時代の土師器片を中心とする若干の須恵器、土師器片を得ている。

**時期** 本住居の時期は出土遺物も少なく、他の住居との新旧関係も明らかにできなかったため細かい時期は特定できず、大雑把に平安時代の所産として把握されるに過ぎなかった。

**規模** 径：(236)×322cm 深さ：7cm

**構造** 本住居は上述のように全容を詳らかにできなかったためその構造は明確ではないが、プランは方形に近い隅丸方形様を呈するものと思慮される。

掘り方を有し、これを埋め戻して床を作っている。

高、竈、柱穴、貯蔵穴等は確認できなかった。

(81) 8-80号住居（第118図、P.L43・77・78）

**概要** 本住居は北部の住居集中域の中央部北寄りに位置している。

8-28号住居と重複している。本住居は28号住居より確認順位は後であるが、出土遺物から推すに本住居の方が新しいものと思われる。

**遺物** 本住居では平安時代の土師器、須恵器片を中心に多くの出土遺物を得ている。しかし乍ら図示すべき遺物は多くなく、須恵器の皿(1)・高台付碗(2・3)、土師器台付壺(4)を挙げることができたに過ぎなかった。

**時期** 本住居の時期については、出土遺物から推して概ね10世紀後葉期の所産として把握される。

**規模** 径：284×218cm 深さ：4cm

〔竈〕幅：(65)cm 奥行：(71)cm

〔床下土坑1〕径：53×72cm 深さ：14cm

〔床下土坑2〕径：72×82cm 深さ：15cm

**構造** 本住居のプランは横長の隅丸長方形を呈する。

掘り方を有しており、焼土粒等を含む黒褐色土で埋め戻して床面を作っている。

竈は東壁中央やや南寄りに設置されている。浅い掘り方を有しており、これを黒色粘質土を含む黒褐色土で埋め戻して焼焼面を作るようであるが、本住居は確認面も浅く、竈が完全に破却されているため上位構造を確認することはできなかった。

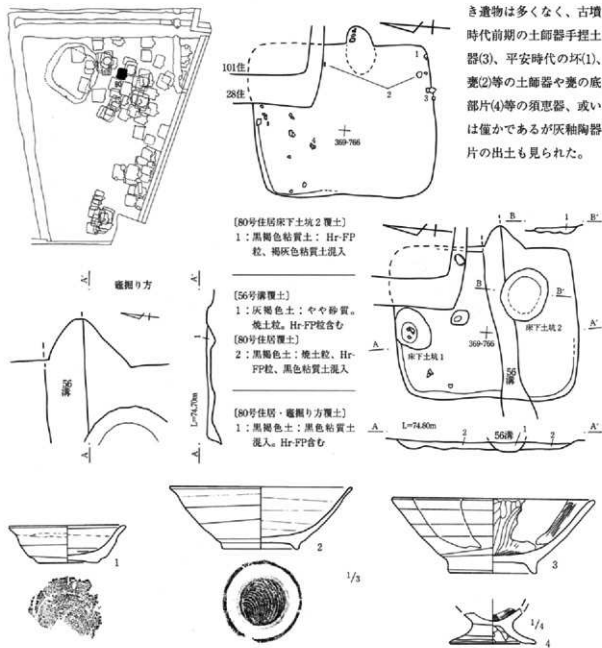
また柱穴、貯蔵穴を確認することはできなかった。尚、掘り方面に於いて土坑2基を確認しているが、このうち床下土坑2は位置的に所謂油化した粘土坑の可能性を有している。

(82) 8-83号住居 (第119～121図, P L44・78)

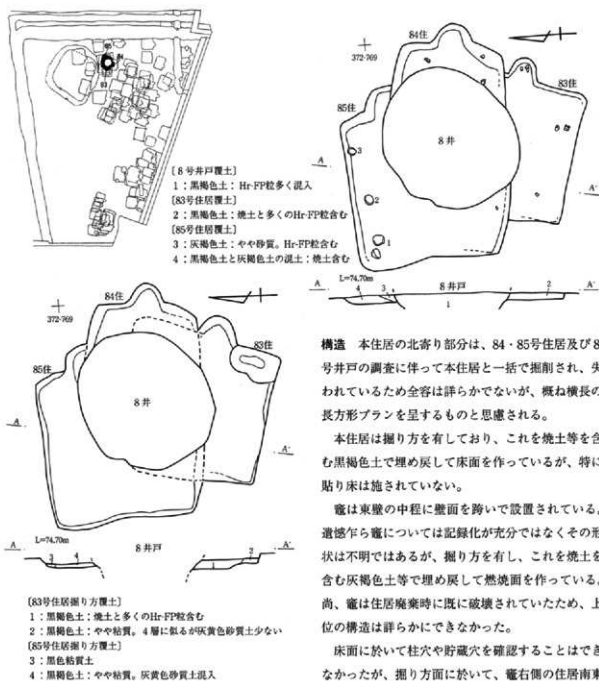
概要 本住居は北部の住居集中域北西部に有り、後述する8-84・85号住居と共に8-8号井戸を囲むように位置している。

本住居は84・85号住居と重複しているが、新旧を特定するには至らなかった。尚、8号井戸に対しては本住居の方が切られており、古い。

遺物 本住居からは平安時代の土器類を中心とした比較的多くの出土遺物があった。しかし、図示すべき遺物は多くなく、古墳時代前期の土師器手捏土器(3)、平安時代の坏(1)、甕(2)等の土師器や甕の底部片(4)等の須恵器、或いは僅かであるが灰軸陶器片の出土も見られた。



第118図 8-80号住居と出土遺物



第119図 8-83・84・85号住居

**時期** 本住居の時期については明確にはできなかったが、出土遺物から推して概ね9世紀前半期の所産と判断される。

**規模** 径: (238) × 220cm 深さ: 5cm

[竈] 幅: (41) cm 奥行: (90) cm

(燃烧部) 径: (38) × 62cm 深さ: 1cm

[貯蔵穴] 径: 78 × 50cm 深さ: (9) cm

**構造** 本住居の北寄り部分は、84・85号住居及び8号井戸の調査に伴って本住居と一括で掘削され、失われているため全容は詳らかでないが、概ね横長の長方形プランを呈するものと思慮される。

本住居は掘り方を有しており、これを焼土等を含む黒褐色土で埋め戻して床面を作っているが、特に貼り床は施されていない。

竈は東壁の中程に壁面を跨いで設置されている。遺憾乍ら竈については記録化が充分ではなくその形状は不明ではあるが、掘り方を有し、これを焼土を含む灰褐色土等で埋め戻して焼焼面を作っている。尚、竈は住居廃棄時に既に破壊されていたため、上位の構造は詳らかにできなかった。

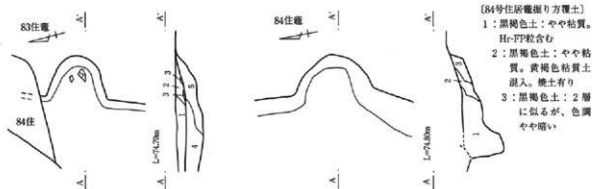
床面に於いて柱穴や貯蔵穴を確認することはできなかったが、掘り方面に於いて、竈右側の住居南東隅部に、貯蔵穴に関連すると思われる土坑の掘削が確認されている。

### (B3) 8-84号住居

(第119-121図, P L43・44・78・79)

**概要** 本住居も北部の住居集中域北西部に位置する。

8-83・85号住居や8-8号井戸と重複するが、何れの遺構に対しても新旧関係を特定することはできなかった。

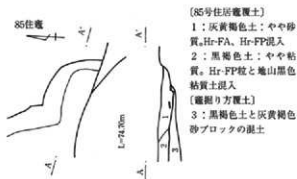


## 〔83号住居覆土〕

- 1: 褐灰色土: やや砂質, Hr-FP粒焼土有り
- 2: 1層土に黄褐色砂混入。焼土有り
- 3: 灰層

## 〔竈回り方覆土〕

- 4: 褐灰色土: やや砂質, Hr-FP, 焼土有り。灰黄褐色砂混入。2層より砂の混入多し。
- 5: 黒褐色土: やや砂質。焼土粒混入



## 〔85号住居覆土〕

- 1: 灰黄褐色土: やや砂質, Hr-FA, Hr-FP混入
- 2: 黒褐色土: やや粘質, Hr-FP粒と地山黒色粘質土混入
- 3: 黒褐色土と灰黄褐色砂ブロックの混土

## 〔竈回り方覆土〕

- 3: 黒褐色土と灰黄褐色砂ブロックの混土

## 第120図 8-83・84・85号住居竈

**遺物** 平安時代の土師器片を中心に須恵器片等一定量の出土遺物を得たが、図示すべきものは少なく、刻書のある土師器坏片(1)や甕(2)などがあつた。

**時期** こうした遺物の状態のため、本住居は、概略平安時代の所産として把握できるに過ぎなかつた。

**規模** 径: (181) × (98) cm 深さ: 27cm

〔竈〕 幅: (63) cm 奥行: (70) cm

(燃焼部) 径: (40) × (52) cm 深さ: 0 cm

**構造** 本住居は8号井戸との重複に伴つて西側部分の形状を確認することはできなかつたのであるが、プランはやや膨らみを持つ隅丸方形様の形状を呈するものであつた。

掘り方を有しており、土壌の記録は残せなかつたが、これを埋め戻して床面を作っている。

竈は東壁中央に設けられ、壁面を跨いで掘り方を掘削し、これを黒褐色土等で埋め戻している。上位の構造は確認できなかつた。

尚、床面に於いても掘り方面に於いても、柱穴、貯蔵穴等その他の構造物については確認することはできなかつた。

## (84) 8-85号住居(第119～121図, P.L43-44-79)

**概要** 本住居も北部の住居集中城北西部に位置する、8-83・84号住居や8-8号井戸と重複する一群の遺構群のひとつである。

重複する遺構のうち、本住居は8号井戸には切られているが、83・84号住居との新旧関係を特定することはできなかつた。

**遺物** 本住居からの出土遺物は僅かで、竈から平安時代前後の時期のものと判断される土師器片6片が出土し、他に河床礫を用いた時期不特定の台石3点(1～3)が出土したに過ぎなかつた。

**時期** 上述のような遺物の状態であるため、本住居の細かい時期を特定することは適わず、僅かに平安時代の所産として認識できたに過ぎなかつた。

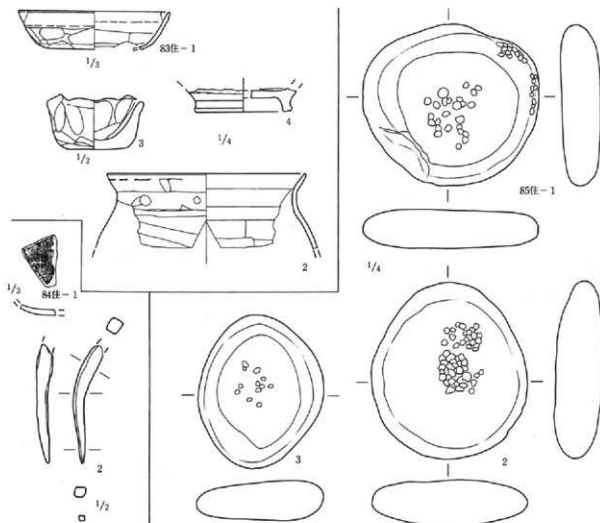
**規模** 径: (252) × 251cm 深さ: 19cm

〔竈〕 幅: (44) cm 奥行: 66cm

(燃焼部) 径: (24) × 58cm 深さ: 5 cm

**構造** 本住居は住居中央から南東部に掛けての範囲が、83・84号住居や8号井戸との重複によって確認することができなかつたが、プランは方形に近い隅丸方形を呈する。

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



第121図 8-83・84・85号住居出土遺物

掘り方を有しており、これを黒褐色土等で埋め戻して床を作っている。

竈は東壁の北寄りの位置に設けられている。南半分が8号井戸と重複するため、北半を確認できたに過ぎないが、壁面を跨いで掘り方が掘削され、これを砂混じりの黒褐色土等で埋め戻して熱焼面を作っている。竈は廃棄段階で完全に破却されている、上位の構造を確認することはできなかったが、住居掘り方面に見られる形態から左袖が一部掘り残しを利用したもので、幅20cm程を測る可能性のあったことが窺われる。

尚、竈以外の柱穴、或いは貯蔵穴といった構造物は床面に於いても掘り方面に於いても確認することはできなかった。

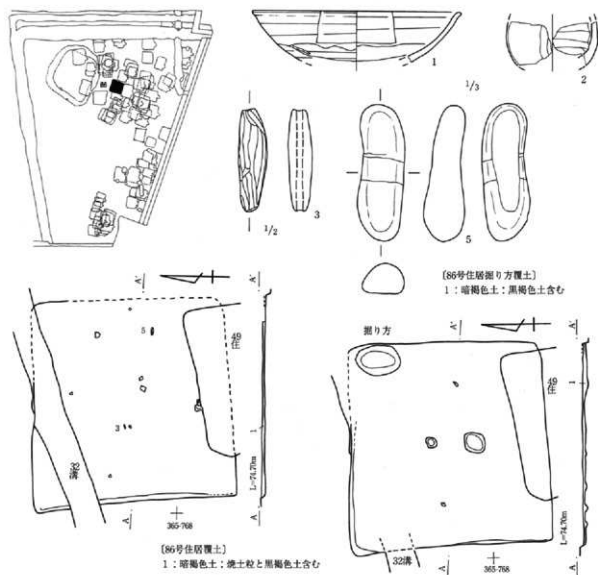
(85) 8-86号住居（第122図、P.L44・79）

概要 本住居は北部の住居集中域中央部に位置する。東に8-23号住居、南に8-49号住居に重複する。新旧は特定できなかったが、遺構の確認状況や出土遺物に鑑みて、何れに対しても本住居の方が古いものと思慮される。

遺物 本住居からは平安時代の土師器・須恵器片を中心に比較的多くを得たが、図示するものは少ない。こうした中で灰軸陶器の碗(1)や小瓶(2)、律令期の土鍔(3)、スサ圧痕の残る壺体(4)、こも編み石でもある磨石(5)を図示した。

時期 本住居の出土遺物は少なく時期の特定には至らなかったが、出土遺物から推して、9世紀後葉から10世紀前葉のころの所産と考えたい。





第122図 8-86号住居と出土遺物

規模 径：317×330cm 深さ：7cm

〔貯蔵穴〕径：70×48cm 深さ：10cm

〔柱穴〕径：32×30cm 深さ：11cm

構造 本住居は、特に49号住居との重複箇所が掘削されて全容は詳らかでないが、プランは台形様の方形を呈するものと思慮される。

浅い掘り方を有し、これを暗褐色土等で埋め戻して床を作っている。

掘り方の中央に柱穴、北東隅に貯蔵穴を確認した。このうち貯蔵穴は楕円形プランを呈するが、柱穴は本住居に伴うものではないものと思慮される。

また竈は確認できなかったが、貯蔵穴の位置から北若しくは東竈であったものと想定される。

(86) 8-92号住居 (第123図, P L45・80)

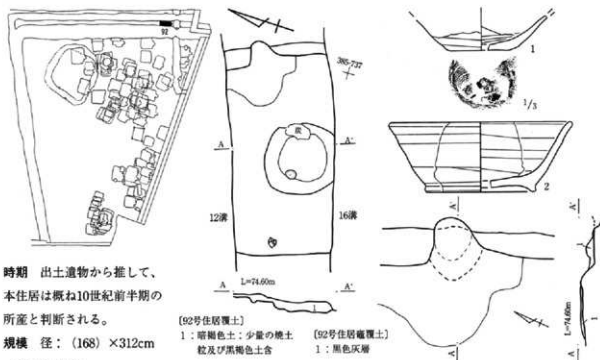
概要 8-92号住居は8区の北東隅部、北部の住居集中域の北東端に位置する。

本住居は、南北を中世屋敷の周堀である8-12・16号溝に大きく切られているが、他の住居との重複は見られなかった。

また本住居は掘り方を調査できたに過ぎず、東側は地山が15cm程崩落したような痕跡も見られた。

遺物 本住居からは古墳時代前期や平安時代の土器器片、或いは坏(1)、高台付碗(2)などの須恵器片といった出土遺物が得られた。

第2章 発見された遺構と遺物（その1）



時期 出土遺物から推して、  
本住居は概ね10世紀前半期の  
所産と判断される。

規模 径：(168)×312cm  
深さ：6cm

〔竈〕幅：112cm 奥行：100cm

(燃烧部) 径：-×132cm 深さ：0cm

〔床下土坑〕径：110×(109)cm 深さ：16cm

構造 本住居は上述のように南北両側を失い、また  
掘り方だけの調査であったので全容は詳らかでない。

プランは方形を基調としているが、形態は特定で  
きなかった。

所謂床下粘土坑を有する掘り方を持ち、暗褐色土  
で埋め戻している。

竈は東壁に設けられる。燃烧部は竈を跨いで作ら  
れるようだが、使用面または掘り方面に灰層の堆積  
は見られたものの構造は不明である。

尚、柱穴、貯蔵穴等は確認されなかった。

(87) 8-93号住居 (第124・125図, P L45・80・81)

概要 本住居は北部の住居集中城南東部に位置する。

1面の調査後、下位層への4.5×4.5mグリッドに  
よる掘り下げに伴って確認、調査されたもので、他  
の掘り込みや落ち込みと一括掘削してしまっている  
こともあって遺存状態もさしてよくない。また、他  
遺構との新旧関係は特定できず、他の住居との重複  
も見られなかった。

第123図 8-92号住居と出土遺物

遺物 本住居からは須恵器碗(14)や土師器甕(15)とい  
った上位層から落ち込んだ遺物も見られたが、中心  
となるのは器台(1・5)、高坏(2・4・6)、小椀(7)、台  
付壺(8)、壺(10-12)など古墳時代前期の土師器で  
あり、また同時期の弥生土器壺(9)や土鍾(13)といった  
遺物の出土も見られた。

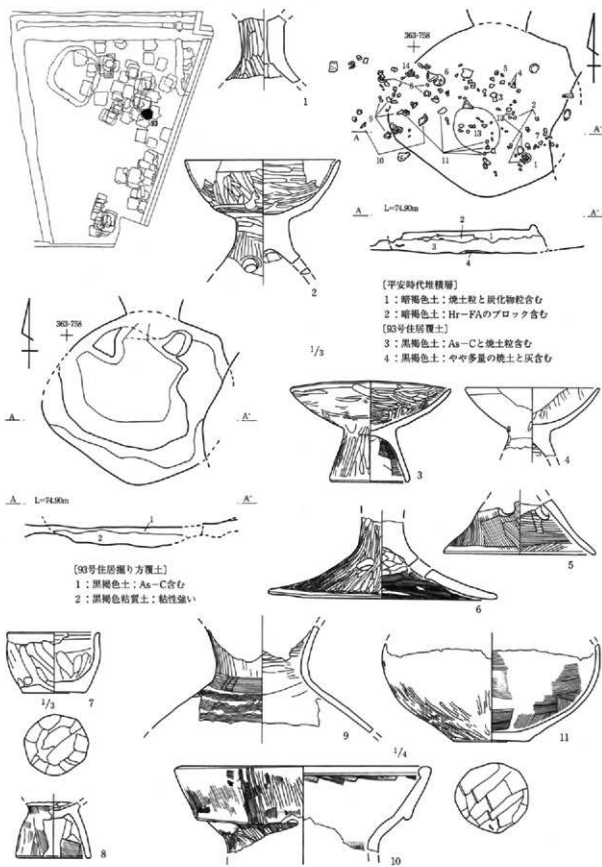
時期 本住居は出土遺物から推して、古墳時代初頭  
(3世紀末葉)の所産と判断される。

規模 径：304×304cm 深さ：0cm

構造 上述のように本住居の状態は良くなかった  
が、プランは主軸を西北西(341°)に取る隅部の丸  
まりの大きい隅丸長方形を呈している。

外周に幅30-40cmのテラスを伴い、中央部が緩  
やかな楕円状に窪む掘り方を有し、これを黒褐色土  
で埋め戻して床を作っている。

住居中央部のやや南西向きに、楕円形プランの灰  
を含む焼土の平面的分布(径79×66cm)が見られ  
る。これについては調査時点では炉の可能性も考慮  
しているが、その範囲が広く、短軸方向でやや偏っ  
ていることから、現時点では建物の焼却処分に伴う  
痕跡ではないかと判断している。



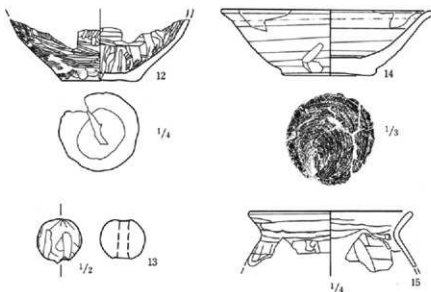
〔平安時代地層層〕

- 1：暗褐色土：焼土粒と炭化物粒含む
  - 2：暗褐色土：Hr-FAのブロック含む
- 〔93号住居覆土〕
- 3：黒褐色土：As-Cと焼土粒含む
  - 4：黒褐色土：やや多量の焼土と灰含む

〔93号住居掘り方覆土〕

- 1：黒褐色土：As-C含む
- 2：黒褐色粘質土：粘性強い

第124図 8-93号住居と出土遺物（その1）



第125図 8-93号住居出土遺物（その2）

(88) 8-94号住居（第126図、P L45・81）

**概要** 本住居は南部の住居集中域中東部に位置する。8-69・74・78・82号住居と重複する。新旧は明確にできなかったが、後2者よりは新しいものと判断される。

**遺物** 本住居では、平安時代の土師器片を中心に、須恵器高台付碗(1)など若干の出土遺物を得ている。

**時期** 本住居の時期は明瞭ではないが、出土遺物から推して、概ね10世紀前半期の所産と把握される。

**規模** 径：(236)×322cm 深さ：7cm

〔竈〕幅：125cm 奥行：118cm

（右袖）幅：40cm 長さ：33cm

（左袖）幅：43cm 長さ：25cm

（燃焼部）径：41×75cm 深さ：3cm

〔貯蔵穴〕径：(15)×43cm 深さ：1cm

〔床下土坑1〕径：102×127cm 深さ：21cm

〔床下土坑2〕径：(100)×130cm 深さ：11cm

**構造** 本住居は方形に近い隅丸方形プランを呈する。

所謂床下粘土坑（床下土坑1）を伴う掘り方を有しており、これを埋め戻して床を作っている。暗褐色土等で施された貼り床を確認した箇所もある。

竈は東壁中央付近の若干南寄りに設けられ、過半を壁面を手前に置く凸字上の掘り方を黒褐色土等で埋め戻して燃焼面を作る。袖は地山層の掘り残しに

粘土を貼り付けて作ったようだが、詳細は不詳。天井材にも粘土を使用した痕跡が窺われる。燃焼部は広く浅い半円形の掘り込みを伴うが、主体部は両袖繋ぐ範囲に収まる。

竈手前直ぐ右側に隅丸方形様のプランの貯蔵穴が確認されているが、記録化に失敗したため詳細は確認できない。尚、柱穴は確認できなかった。

(89) 8-96号住居（第127・128図、P L46・81）

**概要** 本住居は北部の住居集中域西部に位置する。

8-83・84・97・99号住居と重複するが、遺構の上で新旧を確認することはできなかった。

**遺物** 調査段階で重複する住居群との充分な区分けができていないため、他の住居の遺物が流入し、或いは他の住居に含まれてしまった遺物もあろうが、本住居では平安時代の土師器片を中心に、須恵器碗(1)と土師器甕(2)など若干量の出土遺物を得た。

**時期** 本住居の時期は出土遺物から推して、概ね10世紀前半期の所産ではないかと想定される。

**規模** 径：(264)×288cm 深さ：0cm

〔竈〕幅：(46)cm 奥行：(80)cm

〔床下土坑2〕径：68×60cm 深さ：11cm

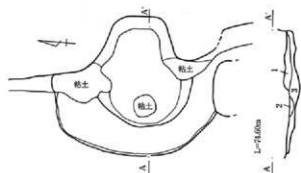
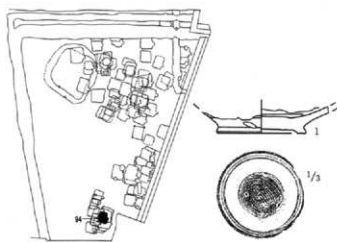
〔床下土坑3〕径：82×53cm 深さ：13cm

**構造** 本住居は正方形様のプランを呈する。

本住居に伴うか否かを特定できない土坑を伴う掘り方を有し、これを褐灰色土等で埋め戻して床を作っている。

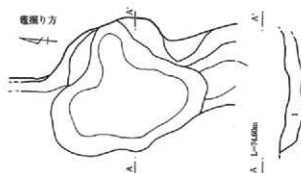
竈は東壁の南端、住居南東隅近くに設けられている。壁面を跨いで褐灰色土で埋め戻して燃焼面を作っている。上位の構造は記録化が充分ではなく、明らかにはできなかった。

尚、柱穴、貯蔵穴等は確認できなかった。



〔94号住居覆土〕

- 1：暗褐色土：焼土粒、炭化物粒、粘土粒混入  
2：焼土  
3：黒褐色灰層：焼土粒、炭化物粒混入



〔94号住居掘り方覆土〕

- 1：暗褐色土：焼土、黄褐色粘土、黒色土混入

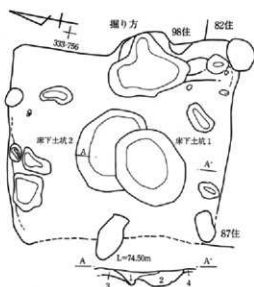
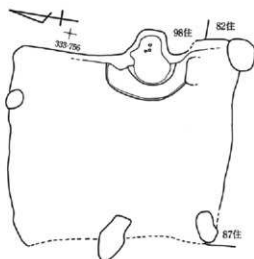
第126図 8-94号住居と出土遺物

(90) 8-97号住居 (第127・128図, P L46・81)

概要 本住居も北部の住居集中域西部に位置する。

8-83・84・96・99号住居と重複するが、遺構の上で新旧を特定することはできなかった。

遺物 他住居の遺物を含む可能性があるが、坏(1)な



〔94号住居床下土坑1覆土〕

- 1：暗褐色土：焼土粒、黒色土、乳白色粘質土混入  
2：暗褐色土：黒色土、黄褐色シルト、暗褐色土混入  
〔床下土坑2覆土〕  
3：黒褐色土：黒色土、黄褐色土、暗褐色土混入  
〔住居粘床覆土〕  
4：暗褐色土：焼土粒、黒色土混入。締り強い

ど平安時代の土師器を中心に若干の遺物を得た。

時期 本住居の時期は出土遺物から推して9世紀前半頃の所産と思慮される。

規模 径：(180)×226cm 深さ：0cm

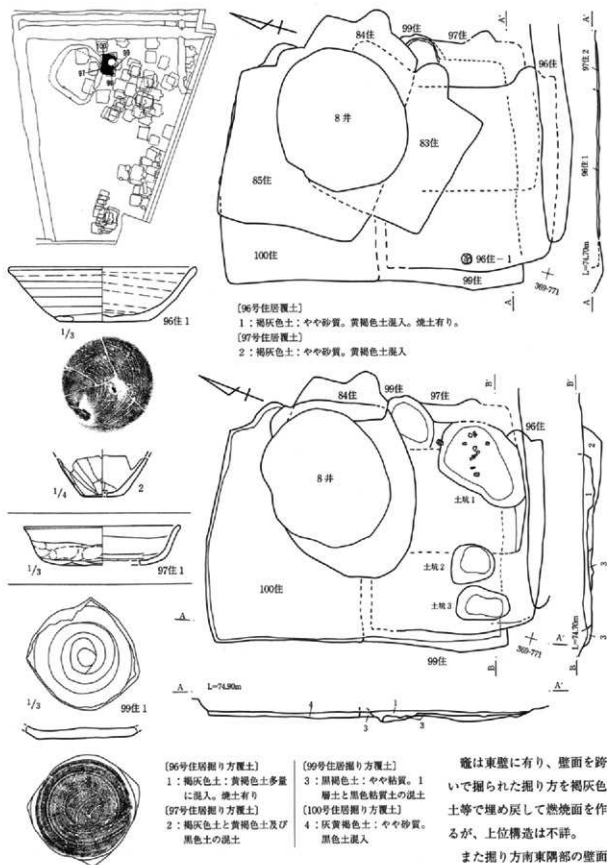
〔竈〕幅：(66)cm 奥行：75cm

〔床下土坑1〕径：129×128cm 深さ：19cm

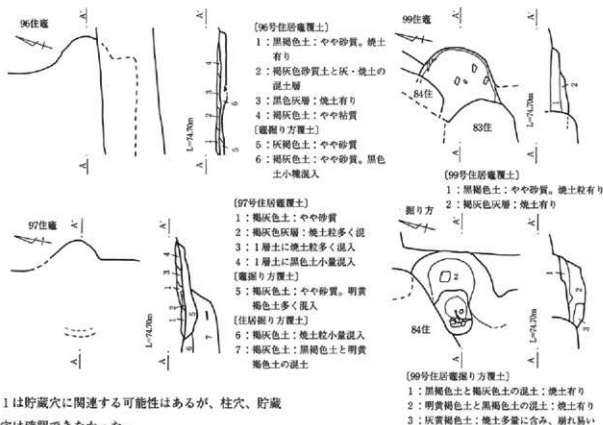
構造 重複する住居との一括調査のため、全容は不明だが、プランは凡そ方形に近い隅丸方形を呈する。

黄褐色土等の混土で埋め戻す掘り方を有する。

第2章 発見された遺構と遺物 (その1)



第127図 8-96・97・99・100号住居と出土遺物



1は貯蔵穴に関連する可能性はあるが、柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

第128図 8-96・97・99号住居竈

## (91) 8-99号住居 (第127・128図, P L46・81)

概要 本住居も北部の住居集中域西部に位置する。

8-83・84・96・97号住居と重複するが、遺構の上で新旧を特定することはできなかった。

遺物 重複する他住居の遺物が混入する可能性を有するが、平安時代の土師器片を中心に、須恵器の坏(1)など一定量の出土遺物が得られた。

時期 本住居の時期は明瞭ではないが、8世紀後半前後の時期の所産として把握される。

規模 径: (224) × 361cm 深さ: 0cm

〔竈〕幅: (67) cm 奥行: 65cm

構造 本住居も重複住居との一括調査のため、全容は不明だが、プランは概ね方形を呈する。

掘り方を有し、これを褐灰色土と黒色粘質土の混土で埋め戻している。

竈は東壁を跨ぎ、黒褐色土等で埋め戻す楕円形プランの掘り方を持つ。削平が著しく上位構造は不明。

また、柱穴や貯蔵穴を特定できなかった。

## (92) 8-100号住居 (第127図, P L46)

概要 本住居も北部の住居集中域西部に位置する。

8-83・84・97・99号住居と重複するが、99号住居より新しいものの、他の住居との新旧を特定することはできなかった。

遺物 古墳時代前期2点と平安時代頃の土師器片各8点、及び須恵器片1点を出土したに過ぎない。

時期 出土遺物と重複関係から、本住居は10世紀以降の平安時代の所産と認識される。

規模 径: 250 × 317cm 深さ: 15cm

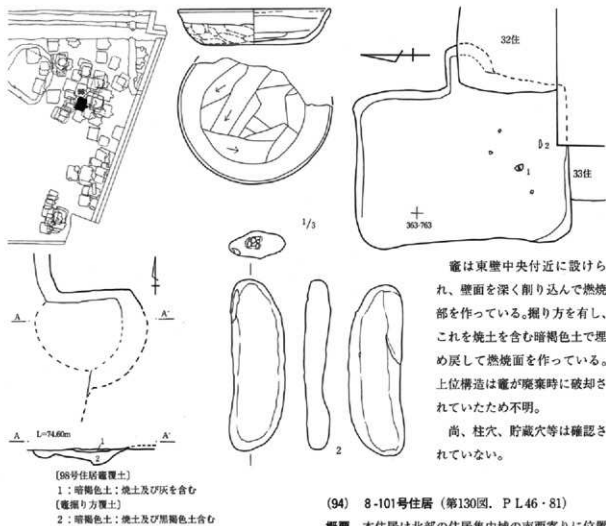
〔竈〕幅: (58) cm 奥行: (30) cm

構造 本住居も重複遺構と一括調査したため、その全容は不明であるが、縦長の長方形プランを呈する。

掘り方を有し、これを灰黄褐色土で埋め戻して床を作っている。

竈は東壁中央やや北寄りに設けられるが、記録化が行われず、破却されているため構造は不明である。

また、柱穴、貯蔵穴も確認できなかった。



〔88号住居覆土〕  
 1：暗褐色土：焼土及び灰を含む  
 〔掘り方覆土〕  
 2：暗褐色土：焼土及び黒褐色土含む

第129図 8-98号住居と出土遺物

(93) 8-98号住居 (第129図, P.L46・81)

概要 本住居は北部の住居集中城南西寄りに在る。

8-32・33・66号住居等と重複するが、前2者に対しては本住居の方が古く、後者に対しても本住居の方が古いようである。

遺物 本住居の出土遺物は坏(1)等平安時代の土師器片を中心とした僅かであるが、こも瀧石転用の敲石(2)も見られた。

時期 本住居の時期は明瞭ではないが、遺物から推して9世紀前～中葉頃の所産と認識される。

規模 径：340×247cm 深さ：8cm

〔竈〕幅：(75)cm 奥行：(82)cm

構造 本住居のプランは横長の隅丸方形を呈する。

掘り方の有無は不詳。

竈は東壁中央付近に設けられ、壁面を深く削り込んで焼成部を作っている。掘り方を有し、これを焼土を含む暗褐色土で埋め戻して焼成面を作っている。上位構造は竈が廃棄時に破却されていたため不明。

尚、柱穴、貯蔵穴等は確認されていない。

(94) 8-101号住居 (第130図, P.L46・81)

概要 本住居は北部の住居集中城南西寄りに位置している。

8-28・80号住居と重複するが、本住居は少なくとも28号住居より古く、遺構確認順位等に鑑みて80号住居よりは古いものと判断される。

尚、本住居は掘り方を調査できたに過ぎなかった。遺物 本住居からは古墳時代前期頃の土師器片と、平安時代を中心とする台付坏(1)等の土師器或いは須恵器片が僅かに出土したに過ぎなかった。

時期 本住居の時期も明瞭ではないが、出土遺物と重複関係から推して、10世紀の所産と認識される。

規模 径：294×244cm 深さ：0cm

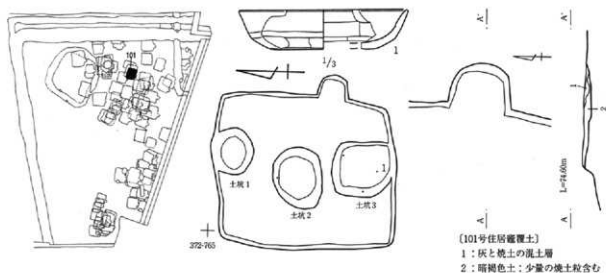
〔竈〕幅：(48)cm 奥行：(40)cm

〔床下土坑1〕径：58×72cm 深さ：19cm

〔床下土坑2〕径：80×98cm 深さ：13cm

〔床下土坑3〕径：90×85cm 深さ：17cm





[101号住居竈覆土]  
1: 灰と焼土の混土層  
2: 暗褐色土: 少量の焼土粒含む

**構造** 本住居のプランはやや台形に近い横長の長方形プランを呈している。

3基の大型土坑を伴う掘り方を有するが、床面は残っていないため不詳。

竈は東壁の南寄りに位置し、壁面を多少跨いで浅い掘り方を有する。これを少量の焼土粒を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作るが、上位の構造は一切確認できなかった。

尚、柱穴、貯蔵穴等の構造物も確認することはできなかった。

第130図 8-101号住居と出土遺物

(95) 8-102号住居 (第131・132図, P L47・81・82)

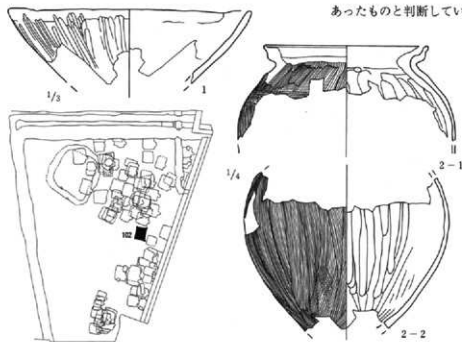
**概要** 本住居は8区東半部に在って、そのやや西部寄りに位置している。

本住居は当該区域に在る他の遺構の調査後に確認、調査された遺構で、他の遺構との重複関係は調査時点では確認されなかった。

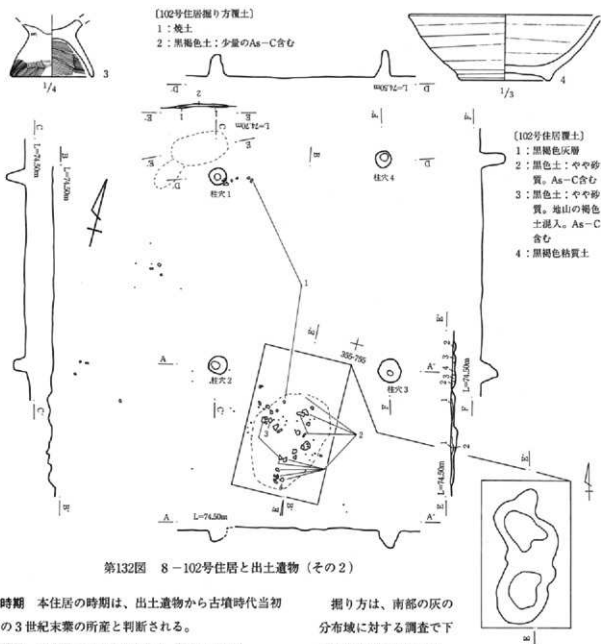
本住居には竈は確認されていないが、遺物の分布状況、或いは焼土の遺存状況等に鑑み、堅穴住居であったものと判断している。また、本住居は焼土や

灰の分布があり、その一つは調査時点では炉として扱われていたが、その分布や遺存状況から、本住居は焼失家屋であったものと判断される。

**遺物** 高坏(1)、台付甕(2・3)といった古墳時代前期の土師器片を中心に、上位からの流入と思われる須恵器高台付碗(4)といった平安時代頃の土師器・須恵器片など、比較的多くの出土遺物を得ている。



第131図 8-102号住居位置図と出土遺物 (その1)



第132図 8-102号住居と出土遺物（その2）

時期 本住居の時期は、出土遺物から古墳時代当初の3世紀末葉の所産と判断される。

規模 調査範囲: 520×570cm 深さ: 0 cm

[柱穴1] 径: 26×21cm 深さ: 34cm

[柱穴2] 径: 30×30cm 深さ: 21cm

[柱穴3] 径: 33×25cm 深さ: 26cm

[柱穴4] 径: 21×25cm 深さ: 41cm

構造 上述のように本住居は壁面が残らないものの堅穴住居と認識されるが、そのプランは不明である。またその規模も不明であるが、多比良追部野遺跡の古墳時代後期の住居の比率（石守2000）に従えば、その規模は東西5.32m、南北6.2m程であったものと推定される。

掘り方は、南部の灰の分布域に対する調査で下位層が掘削された結果、少なくとも部分的にはあっても浅いものが掘削されていたことが認識される。この掘り方を黒色土等で埋戻して床を作っている。

一方、調査段階では柱穴1の直ぐ背面に位置するものを地床炉としているが、位置的に問題がある。従って炉は確認されていない。

柱は方形に近い台形に並ぶ4本が確認されている。尚、本住居の上屋構造は詳らかでないが、本住居は焼失家屋であり、焼土や灰の遺存状況から土葺屋根であったことが確認される。

## (96) 8-105号住居

(第133~135図, P L47・48・82・83)

**概要** 本住居は北部の住居集中域西部に位置する。

本住居は当該区域に在る他の遺構の調査後に確認された遺構である。

本住居は上位が溝或いは後世の竪穴住居等で壊されていて、その遺存状況は良好とはいい難かった。

本住居は所謂周溝を持つ建物である。蓋は確認できず、主体部は柱穴が確認できたに過ぎなかったため、調査時点では本体建物の種別は確認できなかったが、床が確認されていること等から推して、竪穴住居であったものと判断される。尚、周溝を持つ建物としての形態からは北陸系の構造物と認識される。

また、狭い範囲であるが焼土粒と炭化物粒の分布が面的に確認される部分があることから、本住居は焼失家屋であったものと思慮される。

**遺物** 本住居からは周溝部と住居南部を中心に比較的多くの遺物が出土してきた。これらの遺物の中には平安時代を中心とする後世の遺構、或いは上位層からの流れ込みである遺物も見られたが、その殆どを總めるのは古墳時代前期を中心とする時代の出土遺物である。

これらの中には何れも土師器の器台(1)、高坏(2・3)、台付壺(4~6)、壺(7・8)が見られた他、磨石(9)や台石(10)といった石製品や、一部に刷毛目の残る土師質の箱状塊(11)といった特殊な遺物の出土も見られた。

**時期** 本住居の時期については、出土遺物から押して、前述の8-102号住居同様、古墳時代初頭(3世紀末葉)の所産と認識される。**規模** 範囲: 1,120×1,442cm

〔周溝〕 幅: 90~213cm 深さ: 12cm

〔内区規模〕 径: 991×1,352cm 深さ: 0cm

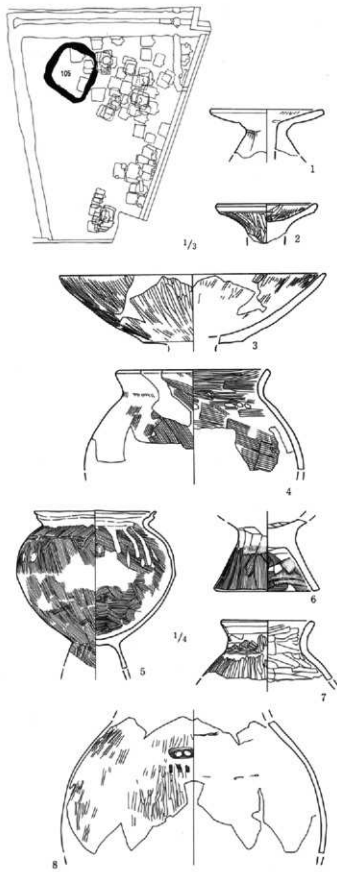
〔柱穴1〕 径: 39×37cm 深さ: 16cm

〔柱穴2〕 径: 37×34cm 深さ: 20cm

〔柱穴3〕 径: 36×36cm 深さ: 18cm

〔柱穴4〕 径: 42×50cm 深さ: 20cm

〔柱穴5〕 径: 52×46cm 深さ: 14cm



第133図 8-105号住居位置図と出土遺物(その1)

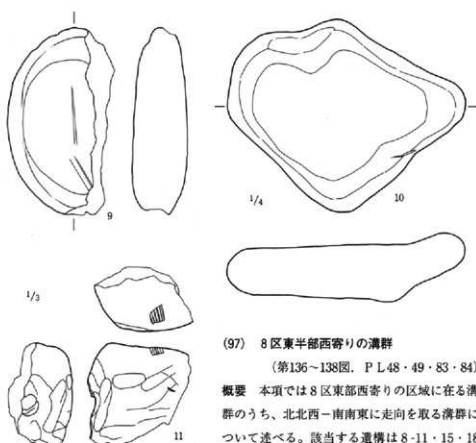
構造 本住居は上位が削平されていたため、その全容を詳らかにすることはできなかったのであるが、全体的なプランは台形様の隅丸方形を呈するものであった。

周溝は完全な圍繞を成すもので、幅広で浅い広溝型を成すものであった。プランは北縁が若干膨らみを持つものの、周溝を持つ建物の周溝としては比較的整った形態を呈しており、全体として外縁が円形に広がるとは認められなかった。

掘り方の有無は確認できなかったのであるが、少なくとも部分的な掘り方に類するような掘りこみのあった状態は認められる。

建物本体に関する遺構としては柱穴4基が確認されたに過ぎず、炉を特定し或いは貯蔵穴を確認することはできなかった。柱穴の中心の間隔は柱穴1と2の間が331cm、柱穴2と3では295cm、柱穴3と4では331cm、柱穴4と1では308cmを測り、ほぼ方形に配置するものであった。古墳時代後期の住居の比率(石守2000)に従えば、その規模は東西6.0m、南北6.6m程になるものと想定され、従って周溝帯の幅は東西のものが1.9m、南北が2.3m程になるものと推定される。

尚、柱穴2の底面南端には径18×9cm、深さ7cmを測る横長楕円形の窪みが見られた。これが柱による塑性変形であるとするならば、柱は板材であった可能性を有する。



第134図 8-105号住居出土遺物 (その2)

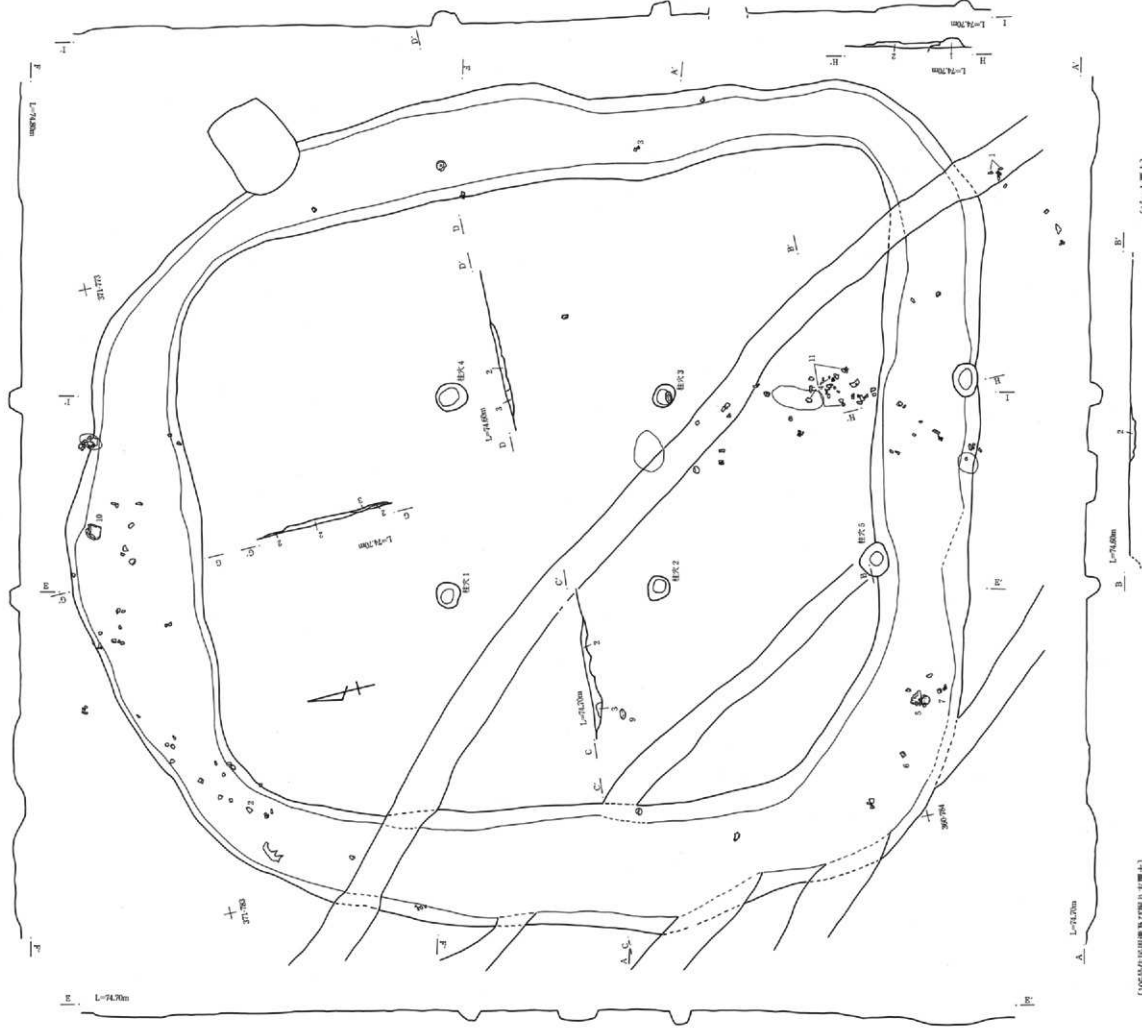
(97) 8区東半部西寄りの溝群

(第136-138図、P L48・49・83・84)

概要 本項では8区東部西寄りの区域に在る溝群のうち、北北西-南南東に走向を取る溝群について述べる。該当する遺構は8-11・15・18-24・24b・34・35・39-41・43・44・47・49-54号溝の合わせて25条の溝遺構である。

各溝は所々で交差、重複するが、このうち15号溝は23・51号溝、19・20号溝は47号溝、24号溝は20号溝、34号溝は31号溝より新しいことが遺構調査で確認されている。その他、35・40・53号溝は平安時代の住居を切り、34号溝は33号溝に切られ、15号溝は中世屋敷の周堀(16号溝)に、15・21-23・52号溝は同屋敷の8-1号掘立柱建物に切られていた。

本溝群の溝のうち掘削目的については、15・18・19・20-23号溝は川砂の堆積等、流水の痕跡が認められることから水路と判断された。これら以外の溝の掘削目的は明瞭にできなかったが、15号溝等水路と認識される溝との掘削箇所を重ねたり、掘削形態或いは走向の近似などから、やはり水路であったものと思慮される。尚、少なくとも水路と認識される溝の状態から、本溝群存在区域は古代から中世に至る時期に水路の掘削位置として認識され、何条もの溝が掘り直されていたことが伺われるのである。

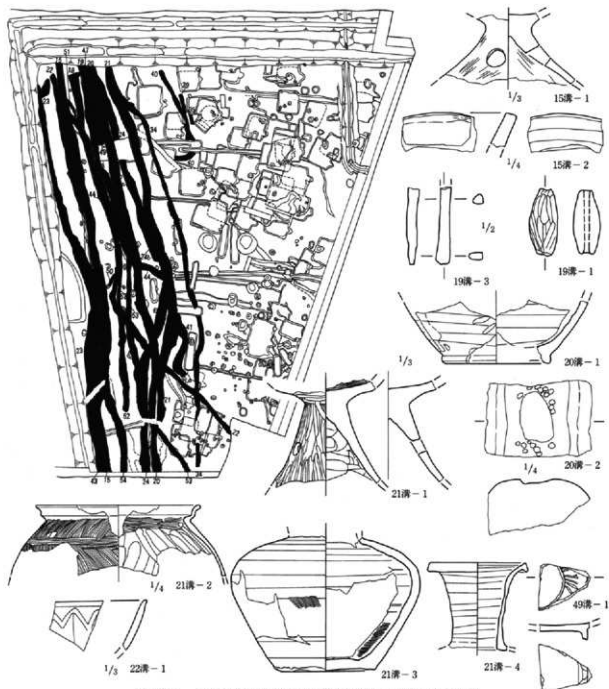


(105号住居遺構及び方眼跡)  
 2: 溝堀迹上: 穴・C形穴と下層の褐色土塊  
 3: 溝堀迹上: 下層の褐色土塊

(ピット群)  
 1: 溝堀上: 穴の穴-C形穴

第105図 8-105号住居 (その3)





第136図 8区東部西寄りの溝群位置図と出土遺物（その1）

遺物 39・44・47・50・51号溝を除く各溝から出土遺物を得た。全体としては平安時代の土師・須恵器片を中心とするが、近世以降の流入品も見られた。

このうち11号溝出土遺物は古墳時代前期のものに限られ、15号溝からは土師器高坏(1)や焼締陶器鉢(2)、19号溝からは土鍔(1)やこも編み石(2)、角釘らしき鉄製品(3)、20号溝からは灰軸陶器瓶(1)や台石(2)、21号溝からは土師器の高坏(1)・台付甕(2)や須恵器の短頸

壺(3)や長頸壺(4)、22号溝からは青磁碗(1)、23号溝からは土師器の高坏(1)や壺(3)、ミニチュア土器(2)、24号溝からは土師器の坏(1)や器台(5)、須恵器の高台付碗(2)や皿(3)、灰軸陶器皿(4)、土製紡錘車(6)、1189年鑄造の『大定通宝』の本銭(7)、34号溝からは土師器の坏(1)と台付甕(2)、49号溝からは緑釉皿(1)、52号溝からは灰軸陶器碗(1)と打製石斧(2)の出土が見られた。

時期 本溝群の各溝の時期は明確ではないが、出土

遺物や覆土の状態から推して、概ね11・23号溝は古墳時代以降、15・18・19・21・22・34・35・40・41・47・49・53号溝は平安時代、20・24・44号溝は中世の所産と認識される。尚、19・21・22号溝からは中世以降、現代の遺物も出土したが、他の状況に鑑みて上層からの流入と判断した。

また、39・43・51・52～54号溝は出土遺物から平安時代以降と認識されるが、出土遺物のなかった24b・50号溝と併せて時期特定には至らなかった。

〔15号溝覆土〕

- 1：にぶい黄褐色；Hr-FP混入。シルトと砂を互層に混入
- 2：褐灰色砂；Hr-FP混入の川砂層
- 3：明黄褐色シルト
- 4：黒褐色砂質土；As-C、黄褐色シルト混入
- 5：明黄褐色砂

〔51号溝覆土〕

- 6：褐色砂質土
- 〔19号溝覆土〕
- 7：灰黄褐色砂；Hr-FP混入
- 8：灰黄褐色土；シルト質。As-C、As-C混黒色土混入
- 〔20号溝覆土〕
- 9：褐色砂質土；As-B混入

L=74.90m



〔耕作土等〕

- 1：黒褐色土
- 2：黄灰色土；細粒子
- 〔15号溝覆土〕
- 3：オリーブ褐色土；水成堆積砂層。細粒

〔18号溝覆土〕

10：暗褐色土；As-C混黒色土、黄褐色土シルト混入

〔49号溝覆土〕

11：灰黄褐色土；シルト質。黒色土、黄褐色土粒混入

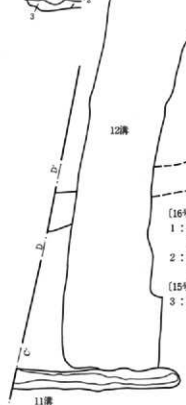
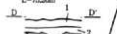
〔21号溝覆土〕

12：にぶい黄褐色土；Hr-FP混入。極小砂と川砂多量に混入

〔13号溝覆土〕

13：灰黄褐色土；シルト質土。川砂ブロック混入

L=75.20m



L=74.60m



〔16号溝（原敷堀）覆土〕

- 1：にぶい黄褐色土；明黄褐色土粒多く混入
- 2：灰黄褐色砂質土；白色粒、黄褐色土粒混入

〔15号溝覆土〕

3：黒褐色土砂層

L=75.30m



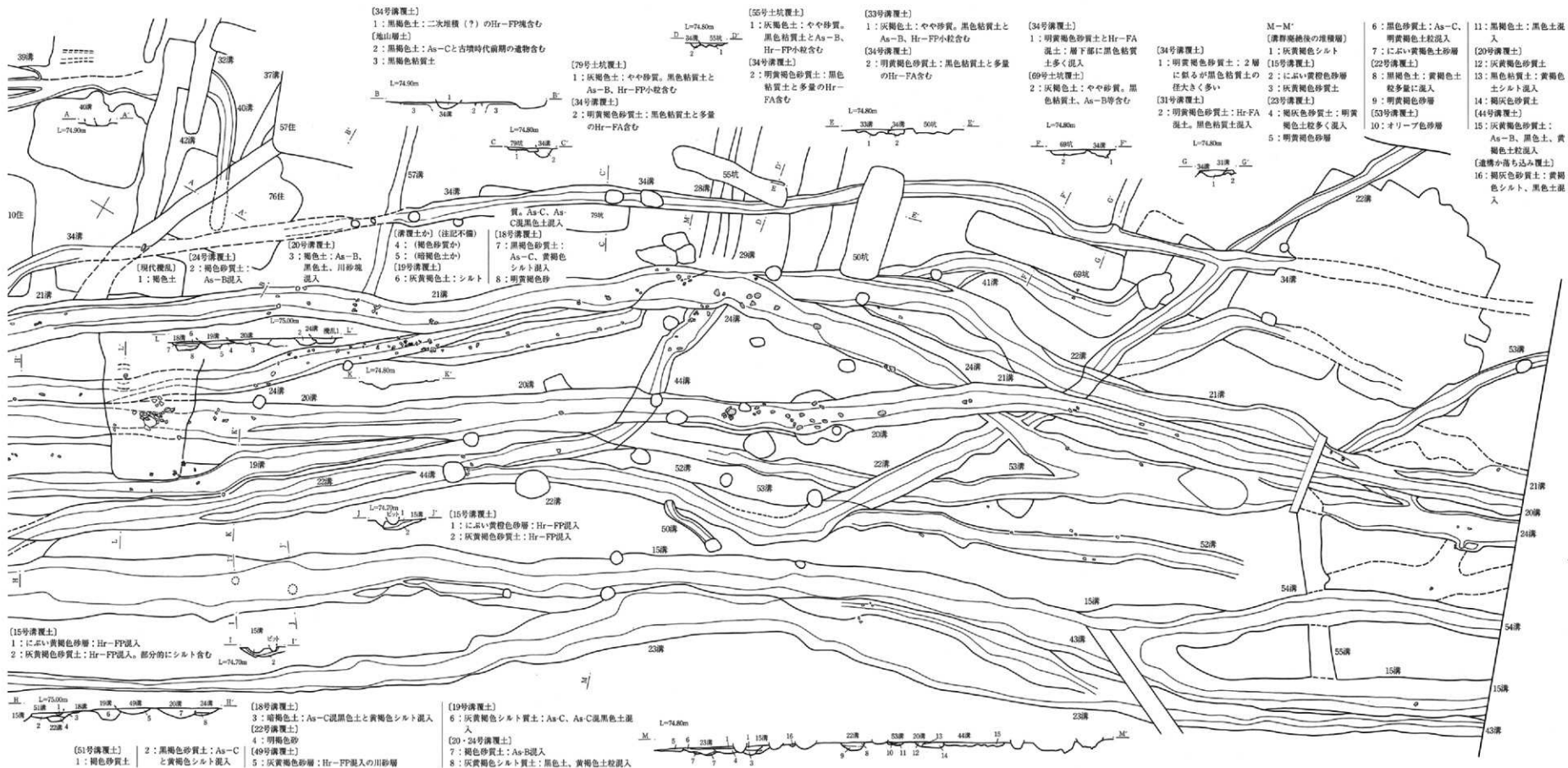
〔耕作土等〕

- 1：黒褐色土
- 2：黄灰色土；粒子細かい
- 〔11号溝覆土〕
- 3：オリーブ褐色土；粒子細かい



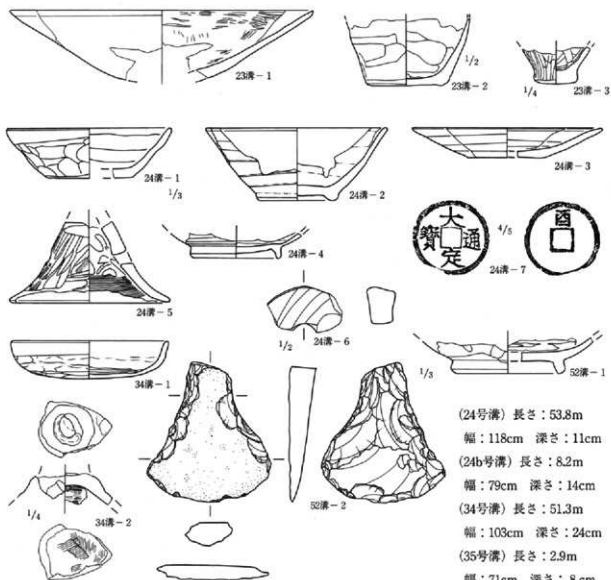
第137図の1 8区東半部西寄りの溝群（その2）





第137図の2 8区東半部西寄りの溝群 (その2)





(24号溝) 長さ: 53.8m  
幅: 118cm 深さ: 11cm  
(24b号溝) 長さ: 8.2m  
幅: 79cm 深さ: 14cm  
(34号溝) 長さ: 51.3m  
幅: 103cm 深さ: 24cm  
(35号溝) 長さ: 2.9m  
幅: 71cm 深さ: 8cm  
(39号溝) 長さ: 3.2m  
幅: 37cm 深さ: 7cm

第138図 8区東部西寄りの溝群出土遺物 (その3)

しかし走行等から本溝群の他の溝と同質、一連のものとして認識されるため、古墳時代以降の所産であって近世以降に下ることはないものと認識される。

規模 (11号溝) 長さ: 6.7m 幅: 86cm 深さ: 15cm  
(15号溝) 長さ: 54.7m 幅: 193cm 深さ: 48cm  
(18号溝) 長さ: 8.2m 幅: 131cm 深さ: 33cm  
(19号溝) 長さ: 21.6m 幅: 99cm 深さ: 19cm  
(20号溝) 長さ: 55.2m 幅: 129cm 深さ: 42cm  
(21号溝) 長さ: 55.3m 幅: 173cm 深さ: 36cm  
(22号溝) 長さ: 55.8m 幅: 89cm 深さ: 23cm  
(23号溝) 長さ: 42.8m 幅: 155cm 深さ: 11cm

(40号溝) 長さ: 14.4m 幅: 55cm 深さ: 16cm  
(41号溝) 長さ: 7.8m 幅: 111cm 深さ: 19cm  
(43号溝) 長さ: 22.6m 幅: 113cm 深さ: 10cm  
(44号溝) 長さ: 18.3m 幅: 97cm 深さ: 11cm  
(47号溝) 長さ: 13.4m 幅: 87cm 深さ: 12cm  
(49号溝) 長さ: 4.9m 幅: (73)cm 深さ: 0cm  
(50号溝) 長さ: 1.8m 幅: 31cm 深さ: 6cm  
(51号溝) 長さ: 3.2m 幅: (35)cm 深さ: 5cm  
(52号溝) 長さ: 17.5m 幅: 83cm 深さ: 16cm  
(53号溝) 長さ: 7.2m 幅: 76cm 深さ: 11cm  
(54号溝) 長さ: 13.5m 幅: 103cm 深さ: 27cm

**構造** 本溝群は全体としてその走向は北北西-南南東方向を向くが、調査区中程で22号溝が、やや南寄りて44号溝が走向を南東方向に転じている。また調査区南部の53号溝の走向はこれらに並走するように南東に向くものである。一方、北部の40号溝はその南側が急な弧を描いて西南西方向にその走向を変じている。

全体として短い溝は直線的なプランであったが、長いものは緩やかな蛇行を見せていた。特に21・22・24・34号溝の蛇行の振幅は大きい。

本溝群各溝の掘削形態は各溝共に概ね箱堀状を呈している。

(98) 8-25・61号溝（第139図、P.L50・84）

**概要** 8-25・61溝は8区東部北寄り位置する。

両溝の新旧関係を特定することはできなかったが、両溝はT字形に接続して、且つ覆土が同一であることから同時並存の可能性も考えられる。

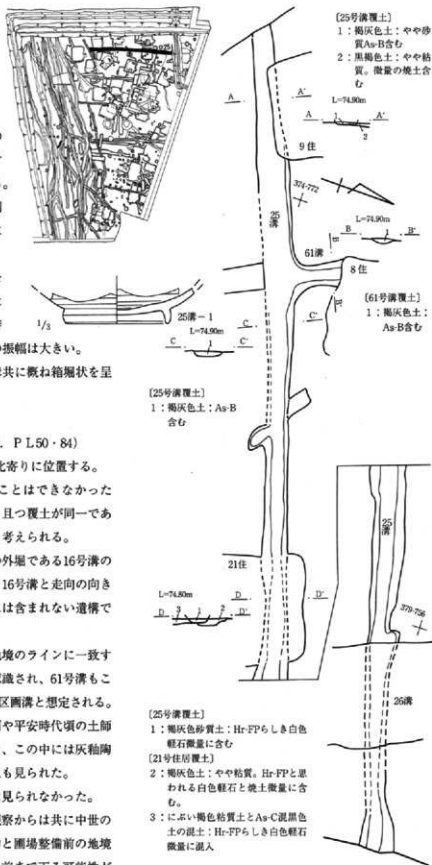
また25号溝は中世屋敷遺構の外堀である16号溝の南に並ぶように掘削されるが、16号溝と走向の向きが異なることから、中世屋敷には含まれない遺構であるものと認識される。

尚、25号溝は圃場整備前の地境のラインに一致するため区画溝であったものと認識され、61号溝もこれに垂直に交わるため何らかの区画溝と想定される。

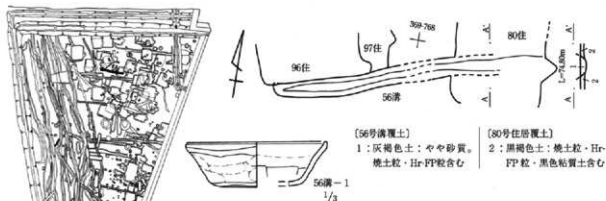
**遺物** 25溝からは古墳時代前期や平安時代頃の土師器片を中心に遺物の出土があり、この中には灰胎陶器碗の破片(1)や近世陶磁の混入も見られた。

尚、61号溝からの出土遺物は見られなかった。

**時期** 25・61号溝は、覆土の観察からは共に中世の所産と認識されるが、出土遺物と圃場整備前の地境に一致することから近世中期以前まで下る可能性が高いように思われる。



第139図 8-25・61号溝と出土遺物



第140図 8-56号溝と出土遺物

規模 (25号溝) 長さ: 19.7m 幅: 95cm

深さ: 12cm

(61号溝) 長さ: 1.5m 幅: 72cm 深さ: 13cm

構造 両溝共にそのプランは直線的で、走向は25号溝が北に対して75.5°を向き、61号溝は25号溝には垂直になるものであった。尚、61号溝は25号溝の西寄りに、北側より入ってT字形に接続するように在り、これを突き抜けていない。

両溝共に掘削形態は箱堀状を呈する。

(99) 8-56号溝 (第140図, P L 85)

概要 本溝は8区東部やや北寄りに位置している。

西部で8-96・97号住居の南辺に接触し、東部で

8-80号住居の途中で重複して、遺存状況は良くない。尚、前2者との新旧は特定できなかったが、後者に対してはこれを切っていた。

尚、本溝の掘削意図についてはこれを特定することはできなかった。

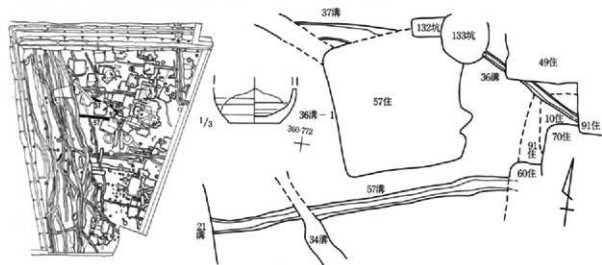
遺物 本溝からは坏(1)等、平安時代の土師器を中心とした若干の出土遺物を得た。

時期 本溝は重複する竪穴住居との関係から10世紀後葉以降の所産とできるだけ、細かい時期を特定することはできなかった。

規模 長さ: 6.0m 幅: 29cm 深さ: 10cm

構造 本溝は極めて緩やかな角度を持つへの字形のプランを呈するが、概ね前述の25号溝に近い角度の西南西—東北東方向に走向を取る。

掘削形態は浅いため明瞭ではないが、横断面は丸みを持つ。



第141図 8-36・37・57号溝と出土遺物

(100) 8-36号溝（第141図、P.L84）

**概要** 8区東部の中程のやや北寄りに位置する。

本溝は西部で8-10・49号住居等と重複しているが新旧を特定することはできなかった。

本溝の掘削意図も特定できなかったが、走向が前述した東部西寄りの溝群のうち、8-22号溝の南部と近似することから水路の可能性が考慮される。

**遺物** 本溝からは灰釉陶器小瓶(1)等、平安時代所産の少量の遺物が得られたに過ぎなかった。

**時期** 概ね平安時代以降、近・現代には下らない時期だけで、時期特定には至らなかった。

**規模** 長さ：3.1m 幅：25cm 深さ：9cm

**構造** 本溝のプランは直線的であり、その走向は北に対して304°を向く。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(101) 8-37号溝（第141図）

**概要** 本溝は8区東部の中程やや北寄り、上述の8-36号溝の西側に近接する。

西側を溝（近・現代か）に切れ、東側を新旧不明瞭の8-57号住居等と重複して途絶えている。

本溝の掘削意図は不明だが、その走向から推して36号溝と同様、水路であった可能性が考えられる。

**遺物** 本溝からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝は少なくとも近現代の所産ではないが、時期特定には至らなかった。

**規模** 長さ：3.2m 幅：48cm 深さ：10cm

**構造** 本溝のプランは北に張り出す、直線に近い緩やかな弧状を成し、その走向は概ね東西方向を向く。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(102) 8-57号溝（第141図）

**概要** 本溝も8区東部の中程やや北寄り、上述の8-36・37号溝の南に近接して位置している。

西側を8-21号溝、東側を8-60号住居等に接して途切れており、全容は詳らかでない。また西寄りでは8-34号溝とも重複するが、重複する何れの遺構に対しても新旧を特定することはできなかった。

本溝の掘削意図を特定することはできなかった。尚、その走向の方向から推して、本溝は中世屋敷遺構に関連する可能性も否定できない。

**遺物** 本溝からの出土遺物は得られなかった。

**時期** 本溝の時期は特定できなかった。

**規模** 長さ：8.3m 幅：49cm 深さ：10cm

**構造** 本溝は北に対して75°程に走向を取る、北西に張り出す、極めて緩やかな弧状のプランを呈する。尚、本溝の掘削形態は箱堀状を呈する。

(103) 8-29号溝（第142図、P.L50）

**概要** 本溝は8区東部の中程のやや南寄り、走向が若干異なる8-28号溝の南に隣接して位置している。

本溝は8-34号溝と8-20号住居と重複しているが、新旧は特定できなかった。また西端は8-21号溝の手前で不明瞭になっており、東端は上述のように20号住居に重なってそれ以後が確認できなかった。

尚、本溝は走向の方向から中世屋敷遺構には含まれないと判断されるが、一方水路とは考え辛く、何らかの区画溝であったのではないかと思慮される。

**遺物** 本溝からは古墳時代前期や平安時代の土師器片を中心とする若干の遺物の出土が得られたのであるが、図示すべきようなものは見られなかった

**時期** 本溝も近・現代まで下る遺構ではないのであるが、概ね平安時代以降の所産とできるだけ、細かな時期を特定するには至らなかった。

**規模** 長さ：14.7m 幅：74cm 深さ：7cm

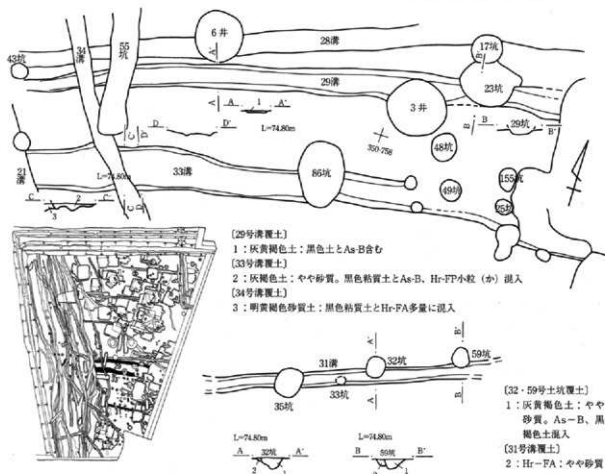
**構造** 本溝の走向の方向は北に対して77°を向く。走向のラインは僅かに北側に那らむ傾向がみられるものの、全体的には直線的である。

掘削形態は箱堀状を呈する。

(104) 8-33号溝（第142図、P.L50）

**概要** 本溝は8区東部の中程南寄りに位置している。

西端で8-21号溝、西寄りでは8-34号溝と重複し、東寄りでは8-86号等の土坑群と、東端では平安時代の堅穴住居群と重複する。このうち34号溝を切っているが、他の遺構との新旧関係は特定できなかった。



第142図 8-29・31・33号溝

本溝は走向から中世屋敷遺構には含まれないと判断したが、何らかの区画溝である可能性が窺われる。

**遺物** 古墳時代前期の土師器片や平安時代の土師器・須恵器片など若干量の出土遺物が見られた。

**時期** 本溝も平安時代以降の所産で、近・現代まで下る遺構ではないものと把握できるに過ぎなかった。

**規模** 長さ: 10.4m 幅: 133cm 深さ: 6cm

**構造** 本溝は全体として北に対し80°程を向く。プランは直線的だが、東端部ではへ字形に屈曲して走向を変するような状況が窺われ、僅かに南に傾く。

本溝の掘削形態は、箱型状を呈している。

#### (105) 8-31号溝 (第142図)

**概要** 本溝は8区東部の南寄りに位置している。

西端で8-34号溝に切られ、8-32・59号土坑とも重複するが、前3者に切られている。

本溝の掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 古墳時代前期～平安時代所産の若干の出土遺物が見られた。

**時期** 本溝はHr-FAに被覆しているため5世紀末葉頃の所産と認識される。

**規模** 長さ: 11.2m 幅: 39cm 深さ: 7cm

**構造** 本溝は概ね西南西～東北東に走向を向ける直線的なプランを呈する。

掘削形態は箱型状を呈する。

#### (106) 8-5号井戸 (第143図, P L51)

**概要** 本井戸は8区東部の中央附近に位置するが、他遺構との重複は見られなかった。

本井戸では底面から90cm程の位置に、高さ55cm、奥行き20cm弱を測るしっかりしたアグリが形成され、湧水層はその附近にあるものと推測される。

**遺物** 本井戸に出土遺物は確認できなかった。

**時期** 本井戸は覆土の観察所見から概ね中世の所産

と認識されるが、As-Bの量が多いことから中世前半期の所産である可能性が高いものと思慮される。

規模 径：234×255cm 深さ：200cm

〔井筒〕径：114×112cm

構造 本井戸のプランは楕円形を呈するが、底面のプランは方形状を呈している。

本井戸の掘削形態は井筒朝顔型を呈している。

(107) 8-8号井戸 (第144図, P L 43・44・85・86)

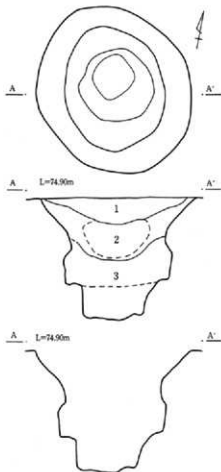
概要 本井戸は8区の北部の住居集中域北寄り、8-83・84・85号住居の中央を壊して掘り込まれている。

底面から45～75cm程の位置に、高さ30～50cm、奥行き5～21cm程を測るアグリが残る。記録はないが湧水層は底面から30cm附近と推定される。

遺物 本井戸では遺構の

上位からは平安時代の土師器片を中心に比較的多くの土器類の出土があり、この中には須恵器の皿(1)や高台付碗(2・3)、高台付椀(4)、灰釉陶器耳皿(5)、土鍾(6)、須恵器壺片(7)などが見られた。一方、下半部では礫や多くの木片の出土が見られた。この木片のうち4片を樹種鑑定に付したが、その結果、クワ属1点、クリ3点という所見が示されている。

時期 本井戸の時期は明確ではないが、出土遺物と出土木片のAMS法による放射性炭素年代測定から得られた年代から、少なくとも10世紀には使用が停止した遺構であることが確認された。



規模 径：220×212cm 深さ：178cm

〔井筒〕径：135×130cm

構造 本井戸のプランは楕円形を呈するが、底面の井筒部の横断面形態は方形を呈している。

掘削形態はやや崩れた井筒朝顔型を呈している。

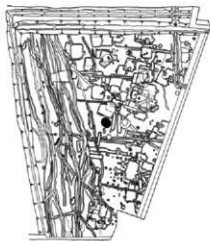
(108) 8区東部西寄りの土坑群

(第145図, P L 51・52・54・86・87)

概要 本土坑群は8区東部の西寄りに位置する。

本土坑群は8-8・83・96・98・108～111・125・129・130・162～164号土坑の14基から成る。各土坑は8号土坑が125号土坑を切る以外切り合い関係はなく、また8・96・111・129・130号土坑が溝遺構と重複するが、8号土坑が8-25号溝を切る他は新旧を特定することはできなかった。

本土坑群の各土坑の掘削意図を特定することはできなかったが、小型のものは柱穴、或いは杭の打設痕であった可能性を有する。



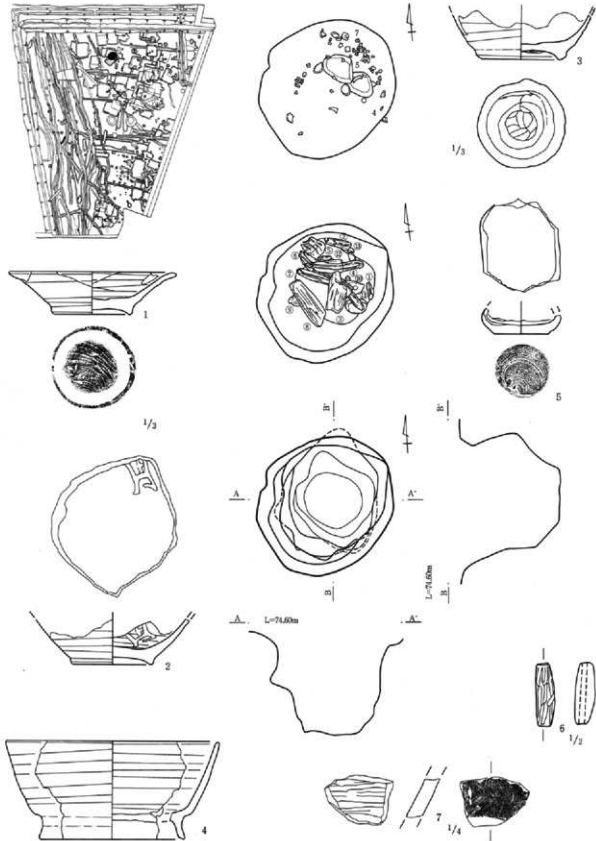
〔5号井戸覆土〕

- 1：灰黄褐色砂質土：As-B、Hr-FP多量に混入
- 2：灰黄褐色砂質土：As-B、礫多量に混入、細粒の砂質土
- 3：黒褐色粘質土：黒色粘土と黄褐色シルトを互層に混入

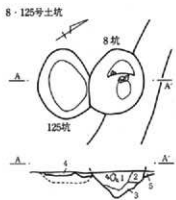
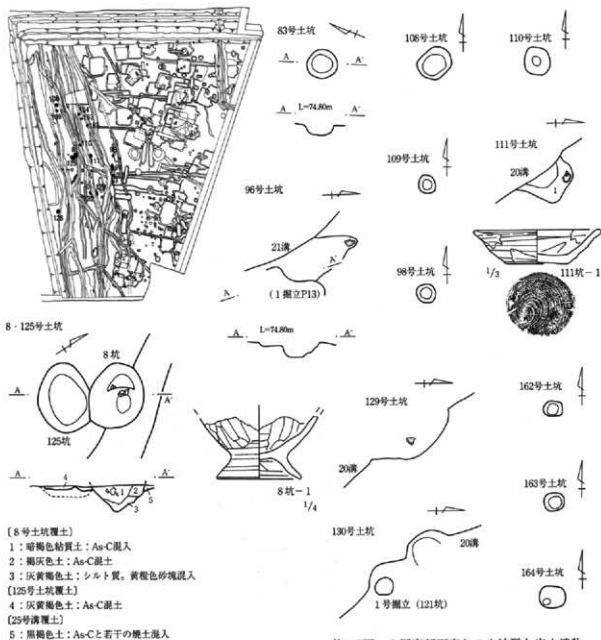
第143図 8-5号井戸



第6節 8区東部1面の遺構と遺物



第144図 8-8号井戸と出土遺物



- 〔8号土坑覆土〕  
 1：暗褐色粘質土：As-C混入  
 2：暗灰色土：As-C混土  
 3：灰黄褐色土：シルト質。黄褐色砂塊混入〔125号土坑覆土〕  
 4：灰黄褐色土：As-C混土〔25号溝覆土〕  
 5：黒褐色土：As-Cと若干の焼土混入

**遺物** 本土坑群のうち83・98・108～110・130・162・164号土坑に出土遺物はなく、8・96・111・129号土坑からは土師器台付甕（8号土坑-1）、須恵器杯（111号土坑-1）など平安時代の土師器片を中心とする少量の出土遺物が見られ、一方163号土坑からは若干量の古墳時代前期の土師器片の出土が見られた。

**時期** 何れの土坑も時期特定には至らなかったが、163号土坑は古墳時代、8・125号土坑は平安時代の所産の可能性があり、96・111号土坑は平安時代以降の所産である。

第145図 8区東部西寄りの土坑群と出土遺物

**規模**（8号土坑）径：87×103cm 深さ：43cm  
 （83号土坑）径：44×42cm 深さ：17cm  
 （96号土坑）径：（132）×60cm 深さ：10cm  
 （98号土坑）径：32×30cm 深さ：14cm  
 （108号土坑）径：54×15cm 深さ：25cm  
 （109号土坑）径：28×26cm 深さ：14cm  
 （110号土坑）径：48×44cm 深さ：（20）cm  
 （111号土坑）径：73×（96）cm 深さ：-cm  
 （125号土坑）径：122×88cm 深さ：8cm  
 （129号土坑）径：（142）×（36）cm 深さ：-cm

(130号土坑) 径：(142)×(36)cm 深さ：—cm

(162号土坑) 径：30×24cm 深さ：6cm

(163号土坑) 径：30×26cm 深さ：14cm

(164号土坑) 径：40×34cm 深さ：30cm

**構造** 本土坑群の各土坑間には相対的な大小があり、大型には8・96・111・129・130・135号土坑が、小型には83・108～111・162～164号土坑があった。

プランは大型に属する8・135号土坑と(重複のためその形状がやや不明瞭ではあるが)96・129号土坑が楕円形、小型の83・98・109号土坑は円形を呈し、これ以外の小型の土坑と(やはり重複によって不明瞭だが)大型の111・130号土坑は隅丸方形を呈するものであった。

底面の掘削形態は、8・10・164号土坑は尖底を呈し、大型に属する各土坑と小型のものうちではやや大きい83・108号土坑が平底を呈し、その他の小型のものが丸底を呈するものであった。

#### (109) 8区東部北寄りの土坑群

(第146図、P.L51・52・54・86・87)

**概要** 本土坑群は8区東部に在る、北部の住居集中地に重なって分布する土坑群である。

本土坑群は8・12・18・53・71・72・75・82・99・101・133・135・137・138・139・166・251・252号土坑から成る。これらの間での重複はなかったが、133号土坑が中世の132号土坑に切れ、251・252号土坑が8・105号住居を切り、新旧は不特定だが、78・137・138号土坑も他の土坑や溝遺構と重複していた。

各土坑の掘削意図を明確にすることはできなかったが、小型のものは柱穴や枕の打設痕の可能性があり、137号土坑は遺構番号不詳の竪穴住居の床下粘土土坑と認識されている。

**遺物** 53・71・72・101号土坑には出土遺物はなく、12・18・75・82・99・133・135・137・139号土坑からは平安期中心の遺物、138・166号土坑からは古墳時代前期の土師器片が出土した。12・133号土坑を除く各土坑からの出土遺物は僅かであったが、133号土坑からは須恵器高台付碗(1)や広口壺と思わ

れる須恵器片(2)、18号土坑からは須恵甕(1)、75号土坑からは須恵器坏(1)、82号土坑からも須恵器坏(1)、135号土坑からは須恵器高台付皿(1)、137号土坑からは須恵器高台付碗(1)の出土も見られた。

**時期** 本土坑群各土坑の時期については、137号土坑が平安時代の所産と認識できたものの、出土遺物のあった9基の土坑が平安時代以降とできるだけで、時期を特定することはできなかった。

**規模** (12号土坑) 径：104×100cm 深さ：10cm

(18号土坑) 径：112×84cm 深さ：18cm

(53号土坑) 径：102×84cm 深さ：46cm

(71号土坑) 径：81×72cm 深さ：31cm

(72号土坑) 径：72×72cm 深さ：9cm

(75号土坑) 径：129×102cm 深さ：17cm

(82号土坑) 径：60×54cm 深さ：30cm

(99号土坑) 径：63×57cm 深さ：15cm

(101号土坑) 径：45×30cm 深さ：22cm

(133号土坑) 径：144×126cm 深さ：33cm

(135号土坑) 径：(93)×75cm 深さ：31cm

(137号土坑) 径：(147)×(129)cm 深さ：15cm

(138号土坑) 径：96×89cm 深さ：10cm

(139号土坑) 径：168×162cm 深さ：12cm

(166号土坑) 径：42×21cm 深さ：15cm

(251号土坑) 径：68×90cm 深さ：14cm

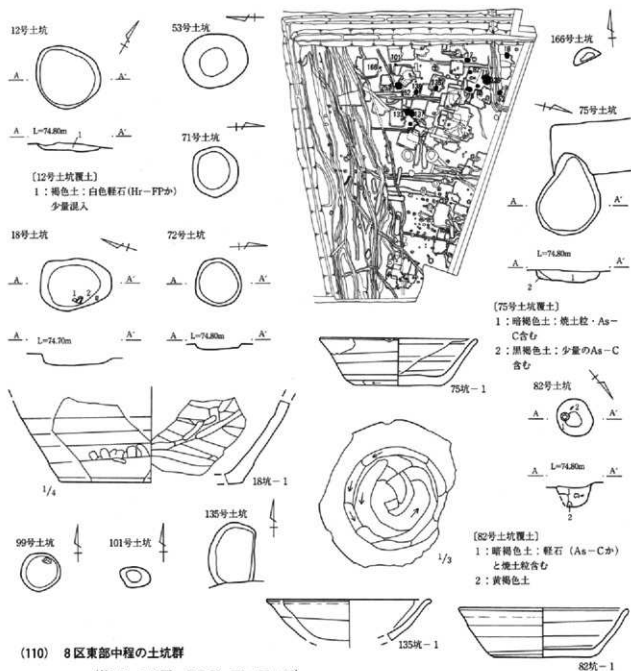
(252号土坑) 径：54×70cm 深さ：10cm

**構造** 本土坑群の土坑には相対的に大中小があり、大型のものには137・139号土坑、小型のものには166・82・99・101号土坑、中型のものにはそれ以外の土坑が含まれていた。高、中型の土坑の規模は、上述の8区東部西寄りの土坑群のうち大型の土坑の規模に近似する。

プランは円形(71・72・82・99・133号土坑)、楕円形(12・18・56・101・135・251・252)、隅丸方形(137・138号土坑)水滴形(95号土坑)などがあった。高、166号土坑は半月形を呈するが、掘り過ぎの可能性が高く、本来の形態は詳らかでない。

掘削底面は53・82・101号土坑は丸底を呈し、他の土坑は平底を呈している。

第2章 発見された遺構と遺物 (その1)



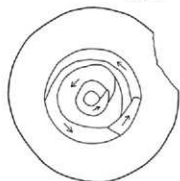
(110) 8区東部中程の土坑群

(第147・148図, P L 52・53・54・86)

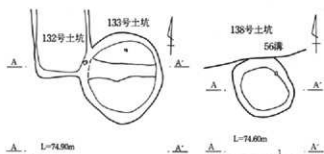
概要 本土坑群は8区東部の中部の住居集中域に重なって分布する土坑群であり、北側に8・16・23・25・28・39・42・49・51・54・61・67・85・88・127・154・155・159号土坑の26基、南側に8・30・31・34・36・37・45・47・52・56・70・73・78・89・91・94・100・105・126・153・160・161号土坑の25基の合わせて50基の土坑がある。

このうち北側部の26・27号土坑は重複するが、新旧を確認することはできなかった。また北側の16号

土坑が8・28号溝に、23号土坑が中世の8・17号土坑に切られる他、北側の41号土坑が中世と認識される8・126号土坑と、南側で70号土坑が同じく8・69号土坑と



第146図の1 8区東部北寄りの土坑群と出土遺物



【132号土坑覆土】

1：暗褐色土：焼土粒、黒褐色土含む

2：暗褐色土：黒褐色土含む

【133号土坑覆土】

3：暗褐色土：少量の焼土粒と黒褐色土含む

4：暗褐色土：暗黄褐色土含む

5：暗黄褐色土：黒褐色土含む

【138号土坑覆土】

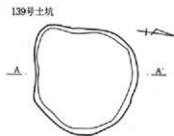
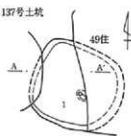
1：褐灰色土：やや砂質

2：黄褐色土：Hr-FAの純層



【137号土坑覆土】

1：暗褐色土：As-C、黒色土、黄褐色シルト



【139号土坑覆土】

1：褐灰色土：黒色土含む、白色軽石(Hr-FPか)混入

2：黒色土：やや砂質、褐灰色土含む、白色軽石(Hr-FPか)混入

3：黒褐色土

第146図の2 8区東部北寄りの土坑群と出土遺物

重複するものの何れも新旧を特定できなかった。

南側の56号土坑が底部に柱痕を残す柱穴と認識される以外は、各土坑の掘削意図は明瞭でない。尚、小型のものは柱穴や杭の打設痕の可能性が考慮される。

遺物 本土坑群では北側の41・67号土坑と南側の27・56・160号土坑から土師器甕(56号土坑-1)等古墳時代前期の土器片の出土が見られ、北側の27・40・41・67・155号土坑と南側の46・89・91・93・94・126号土坑からは灰軸陶器碗(126号土坑-1)や錠様の鉄製品(126号土坑-2)など平安時代を中心とする時期の遺物の出土が見られた。このうち56・89号土坑には一定量の出土遺物があったが、他の土坑の出土量は僅かであり、また上記以外の土坑からの出土遺物は見られなかった。

時期 本土坑群では56号土坑が古墳時代前期の所産と判断され、27・41・67・160号土坑も同時期の可能性を有する。一方、89号土坑は概ね平安時代所産と認識されるものの、27・40・41・46・67・91・93・94・126・155号土坑は平安時代以降のものとの把握されるに過ぎず、多くの土坑は時期の想定もできなかった。

規模〔北側〕

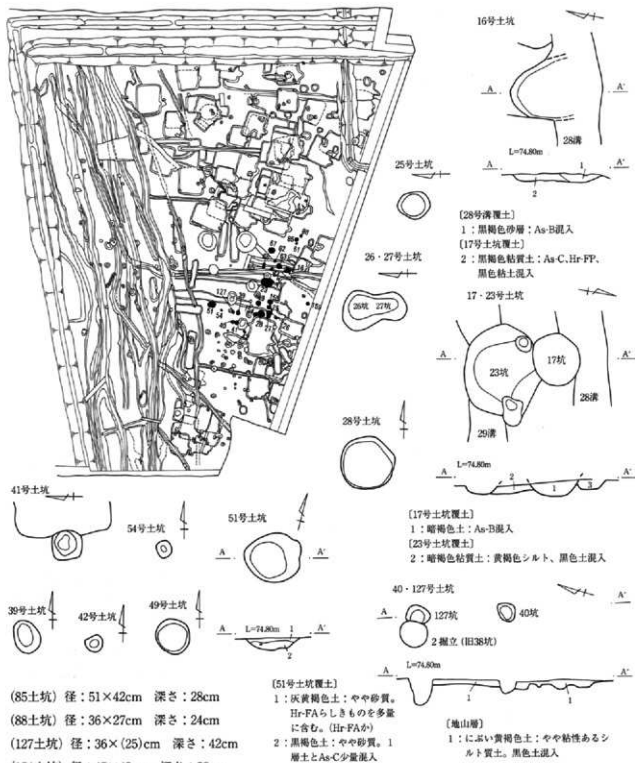
- (16土坑) 径：87×(82)cm 深さ：12cm
- (23土坑) 径：142×122cm 深さ：12cm
- (25土坑) 径：48×42cm 深さ：17cm
- (26土坑) 径：99×63cm 深さ：15cm
- (27土坑) 径：99×42cm 深さ：20cm
- (28土坑) 径：85×83cm 深さ：9cm
- (39土坑) 径：52×42cm 深さ：19cm
- (40土坑) 径：30×28cm 深さ：19cm
- (41土坑) 径：46×44cm 深さ：20cm
- (42土坑) 径：40×26cm 深さ：12cm
- (49土坑) 径：54×52cm 深さ：7cm
- (51土坑) 径：90×88cm 深さ：17cm
- (54土坑) 径：28×26cm 深さ：21cm
- (61土坑) 径：27×24cm 深さ：15cm
- (62土坑) 径：28×26cm 深さ：—cm
- (63土坑) 径：59×56cm 深さ：—cm

(64土坑) 径：26×24cm 深さ：—cm

(65土坑) 径：32×30cm 深さ：—cm

(66土坑) 径：24×22cm 深さ：—cm

(67土坑) 径：69×66cm 深さ：18cm



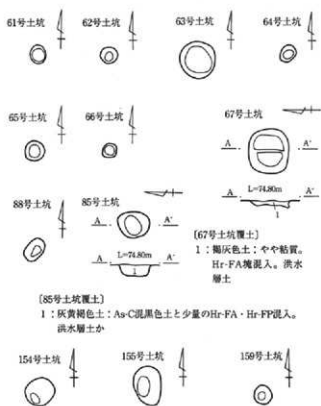
- (85土坑) 径: 51×42cm 深さ: 28cm  
 (88土坑) 径: 36×27cm 深さ: 24cm  
 (127土坑) 径: 36×(25)cm 深さ: 42cm  
 (154土坑) 径: 45×43cm 深さ: 28cm  
 (155土坑) 径: 60×45cm 深さ: 37cm  
 (159土坑) 径: 28×28cm 深さ: 21cm

〔南側〕

- (30土坑) 径: 28×26cm 深さ: 5cm  
 (31土坑) 径: 75×60cm 深さ: 5cm

第147図の1 8区東部中程の土坑群（その1）

- (34土坑) 径: 53×48cm 深さ: 25cm  
 (36土坑) 径: 28×22cm 深さ: -cm  
 (37土坑) 径: 64×34cm 深さ: 27cm  
 (45土坑) 径: 56×54cm 深さ: 12cm



第147図の2 8区東部中程の土坑群(その2)

- (46土坑) 径: 36×26cm 深さ: 6cm  
 (47土坑) 径: 38×28cm 深さ: 9cm  
 (52土坑) 径: 56×40cm 深さ: 20cm  
 (56土坑) 径: 58×56cm 深さ: 22cm  
 (70土坑) 径: 94×82cm 深さ: 29cm  
 (73土坑) 径: 32×32cm 深さ: 16cm  
 (78土坑) 径: 87×48cm 深さ: 24cm  
 (89土坑) 径: 46×36cm 深さ: 26cm  
 (91土坑) 径: 26×22cm 深さ: 4cm  
 (92土坑) 径: 22×18cm 深さ: 10cm  
 (93土坑) 径: 20×20cm 深さ: 10cm  
 (94土坑) 径: 36×34cm 深さ: 14cm  
 (100土坑) 径: 32×28cm 深さ: 15cm  
 (105土坑) 径: 68×57cm 深さ: 39cm  
 (126土坑) 径: 150×104cm 深さ: 30cm  
 (153土坑) 径: 32×30cm 深さ: 14cm  
 (160土坑) 径: 64×(47)cm 深さ: 21cm  
 (161土坑) 径: 70×45cm 深さ: 27cm

**構造** 本土坑群の土坑も相対的に大中小に分けられ北側の16・23号土坑と南側の126号土坑が大型、北側の28・51・67号土坑と31・70・78号土坑が中型に属し、その他の土坑が小型に含まれる。尚、土坑の規模は上述の東部北寄りの土坑群に比してやや小振りである。

各土坑のプランは北側の16・39・88・155号土坑と南側の34・46・47・92・161号土坑が楕円形、北側の41・51・66・85・126・154号土坑と31・45・160号土坑が隅丸方形、南側の37・52号土坑が不整楕円形、同じく南側の56号土坑が不整多角形を呈し、これ以外の土坑は円形を呈する。

掘削底面は北側の42・54・62・85・88・154・159号土坑と南側の30・36・45・52・89・73・91・94・153号土坑が丸底気味で、他は平底状を呈する。

#### (111) 8区東部南寄りの土坑群

(第149図、P.L52・86)

**概要** 本土坑群は8区東部に於ける南部の住居集中域に重なって分布する土坑群である。本土坑群には8・140~152・156・157号土坑の15基の土坑が含まれている。

本土坑群の各土坑同士での重複は見られなかったが、全体として堅穴住居等との重複が見られたものの新旧を何れに対しても特定はできなかった。

各土坑の掘削意図は不明だが、小型のものは他の土坑群同様に柱穴や杭の打設痕の可能性が窺われる。

**遺物** 157号土坑出土の僅かな量の土器片があるが、157を冠する土坑が8区の東西にあるため、これが本土坑の遺物であるか否かは判断できない。

尚、他の土坑からの出土遺物は認められなかった。

**時期** 本土坑群各土坑の時期は特定できなかった。

**規模** (140土坑) 径: 30×26cm 深さ: 18cm

(141土坑) 径: 70×50cm 深さ: 46cm

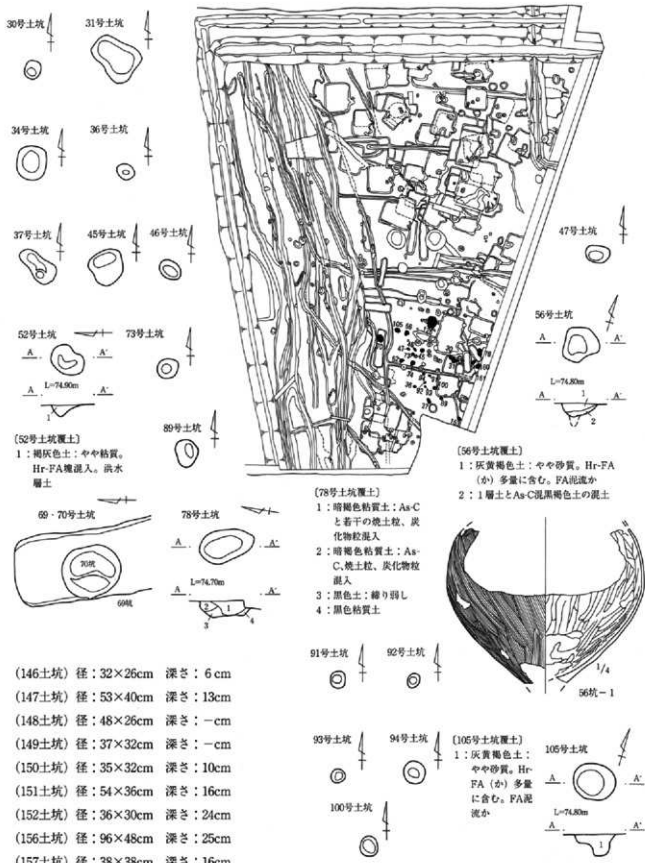
(142土坑) 径: 44×36cm 深さ: 16cm

(143土坑) 径: 36×32cm 深さ: 24cm

(144土坑) 径: 30×27cm 深さ: 17cm

(145土坑) 径: 35×25cm 深さ: 10cm

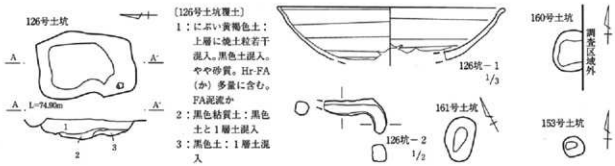
第2章 発見された遺構と遺物 (その1)



構造 本土坑群の土坑には大小があり、前者には

第148図の1 8区東部中程の土坑群と出土遺物 (その3)

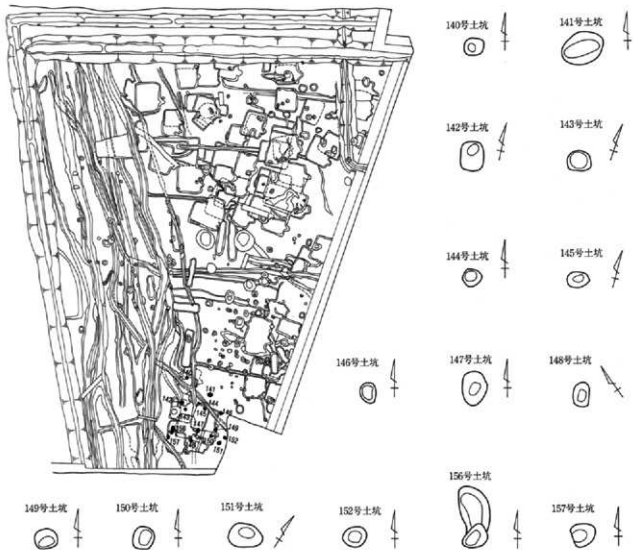




第148図の2 8区東部中程の土坑群と出土遺物(その4)

141・156号土坑が含まれるが、その規模は8区東部中程の土坑群に於ける中型のものに属す。そのプランは140・142・143・150号土坑が隅丸方

形、156は不整楕円形を呈する以外は楕円形を呈する。掘削底面は141・143・156号土坑が平底状である以外は丸底形を呈する。

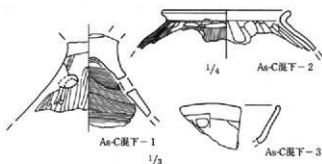
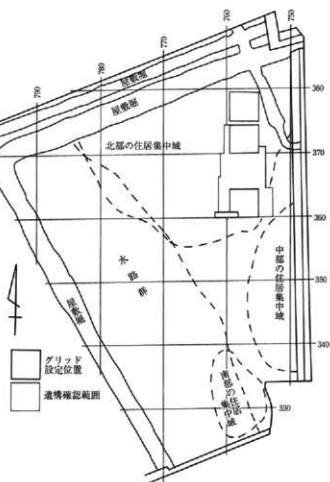


第149図 8区東部南寄りの土坑群

## 第7節 8区東部3面の遺構と遺物

概要 8区東部では第6節に述べた1・2面に相当する調査面の調査後に、その北東部に於いて試掘調査を施した。試掘調査は360-755、370-755、375-755グリッドを基点とする4.5×4.5mの範囲に対して行い、上述の8-93号住居等を確認し、こうした所見に基づいて、西寄りの水路群と屋敷の周堀を除く8区東部（東寄りの区域）に対して本調査を実施した。

一連の調査の結果、360-370-755-760グリッド附近では多数の土坑、小型ピット、或いはこれらに類する土坑状の掘り込みを確認した。このうち北部の土坑1~4と、中北部の土坑6~8・10と南西の土坑12は形態的には柱穴の可能性がある。このうち土坑6~8は規模も近似し直線一列に配列するため掘立柱建物の存在を想定したが、確認することはできなかった。また土坑5は底面北端に柱の荷重による塑性変形かと思われる径23×18cm、深さ4cmの（隅丸）長方形プランの窪みが残っている。また土坑1・2・10は径の小さい中世型のもので、且つ土層記録等がないため、上位面の遺構である可能性も残される。一方、小型のピットは杭の打設痕の可能

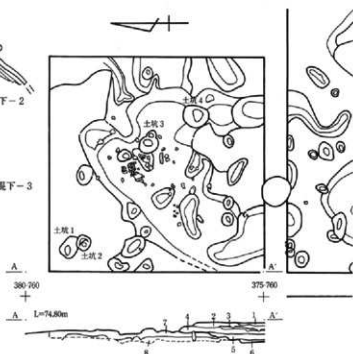


## 【流水痕堆積層】

- 1: 明黄褐色砂質土: Hr-FAと褐灰色土の混土
- 2: 褐灰色砂質土
- 3: 明黄褐色砂質土: Hr-FAと2層土含む
- 4: 黒色土: やや粘質。As-C少量含む
- 5: 黒色土: 4層土に比しAs-C多し
- 6: 5層土とにぶい黄褐色土の混土

## 【地山層】

- 7: 黒褐色土: 脆く崩れ易い。下層の黄褐色土少量含む
- 8: にぶい黄褐色土: やや砂質。鉄分多く沈着



第150図の1 8区東部3面、遺構平面図と出土遺物

性も考えられるが、その形態と配置から推して樹木の根の痕跡である可能性の方が高いように思われる。

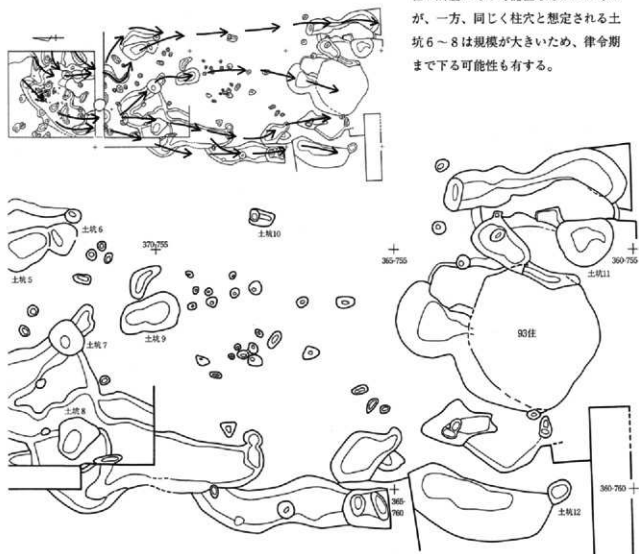
さて最北の375-755グリッドに見られる大型の落ち込みは調査時点で溝(60号溝)として認識されていたが、形態的に人為的な溝としては認められない。しかし形状や覆土の観察所見から、自然の流路の痕跡として認識されるものである。

大型の土坑である土坑11の掘削意図は想定できなかった。しかしこうした土坑若しくは土坑状の落ち込みの多くは南北に連なる傾向があり、また不整形のものが多い点などに鑑みて、これらの多くも流水による挟れ込みの痕跡ではないかと思慮される。土坑5・10の掘削意図も特定できなかったが、これら

も流水の痕跡である可能性を有する。尚、これらの流路は第150図の中程上(161頁左上)に示したように、4筋程を想定することができる。

**遺物** 本調査範囲に於いては一定量の遺物の出土が見られた。特に前述の北の旧60号溝や南の93号住居では濃密な遺物の分布も確認されている。

こうした出土遺物の中には、10世紀の所産の土師器坏(3)等、上位層からの落ち込みと判断されるものも少なくなかったが、主体を成すものは土師器高坏(1)、台付甕(2)等の古墳時代前期の土師器片であった。**時期** 発見された遺構は全体として、出土遺物から推される年代感から古墳時代前期以前の所産として把握される。尚、上述のように土坑1・2・10は中世の所産である可能性もあるのであるが、一方、同じく柱穴と想定される土坑6～8は規模が大きいため、律令期まで下る可能性も有する。



第150図の2 8区東部3面、遺構平面図

規模（土坑1）径：48×33cm 深さ：16cm

（土坑2）径：26×29cm 深さ：28cm

（土坑3）径：34×40cm 深さ：9cm

（土坑4）径：46×54cm 深さ：21cm

（土坑5）径：82×131cm 深さ：41cm

（土坑6）径：67×(75)cm 深さ：36cm

（土坑7）径：76×62cm 深さ：31cm

（土坑8）径：88×84cm 深さ：40cm

（土坑9）径：76×131cm 深さ：12cm

（土坑10）径：33×50cm 深さ：6cm

（土坑11）径：(100)×118cm 深さ：31cm

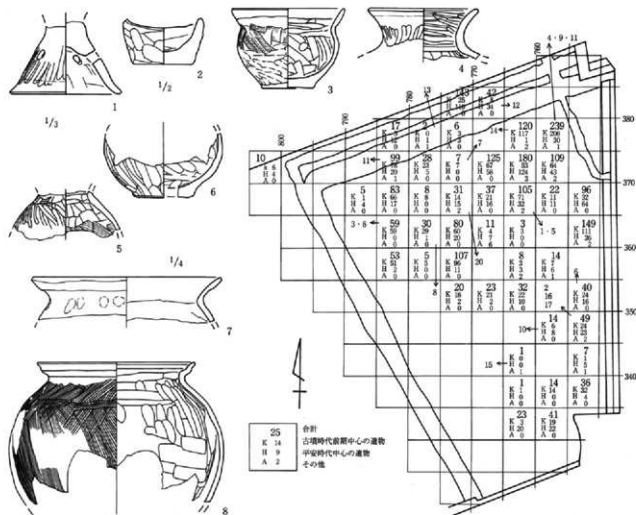
（土坑12）径：43×35cm 深さ：16cm

構造 上述のように8区東部3面には各種遺構があって、その形状は多様である。

このうち柱穴と想定されるもののうち、土坑10のプランは楕円形様を呈し、土坑1～3・5・10・12は隅丸方形、土坑6・8は隅丸の台形のプランを呈する。その規模は土坑6～8は大型であるが、他の土坑は小型なものであった。

大型の土坑では土坑5と土坑11は隅丸台形、土坑9は瓢箪形に近い楕円形のプランを呈する。他の土坑若しくは土坑状の落ち込みは不整形のプランを呈する。深さは土坑5と土坑11は30cm以上を測るが10cm前後のものが多い。

小型のピットは径15～30cm程のもので、プランは円形、楕円形、隅丸方形、隅丸三角形と様々である。深さは15cm以下のものが多く、北に向かって浅くなり数cmのものも少なくない。



第151図の1 8区東部1面のグリッド取り上げ遺物（その1）

第7節 8区東部3面の遺構と遺物



第151図の2 8区東部1面のグリッド取り上げ遺物(その2)

## 第8節 8区東部及び8区の遺構外の出土遺物

## (1) 8区東部1面の遺構外の出土遺物

(第151・152図, P.L.87・88・89)

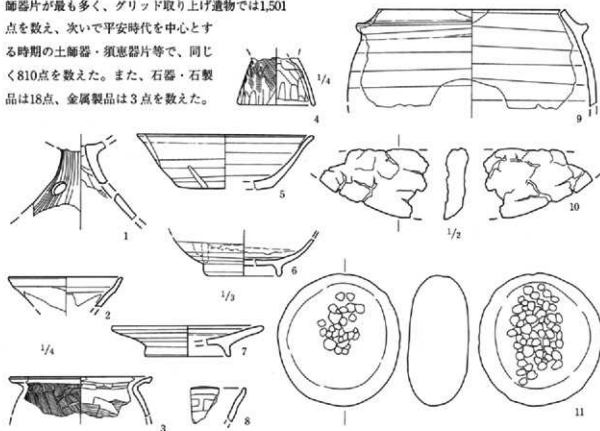
**概要** 8区東部の3面に於ける遺構外の出土遺物については上述の第7節に述べたのであるが、8区西部の1・2面に相当する東部1面でも遺構外の出土遺物が得られている。

このうち5m四方のグリッド単位で取上げた出土遺物の分布についてみると、北半部と南東部にその分布が認められたのであるが、これは即ち北・中・南の竪穴住居の集中域に重なる範囲に中世屋敷内郭側の北西部を加えた箇所に該当する。また分布の濃淡について見てみると、竪穴住居の集中域に重なる箇所では一定量の出土遺物が得られているが、特に北東部、それに次いで北西部中程での出土点数が多かった。

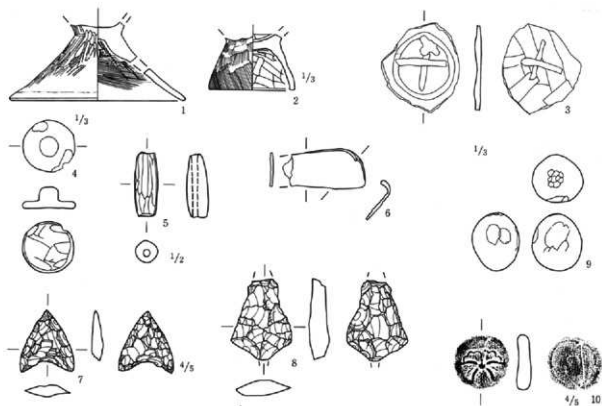
**遺物** 8区東部1面の出土遺物は古墳時代前期の土師器片が最も多く、グリッド取り上げ遺物では1,501点を数え、次いで平安時代を中心とする時期の土師器・須恵器片等で、同じく810点を数えた。また、石器・石製品は18点、金属製品は3点を数えた。

これらの出土遺物のうち、出土位置が5m方眼のグリッド単位以上で取上げられた遺物(第151図)としては高坏(1)・ミニチュア土器(2)・小型甕(3)・壺(4~6・9)・甕(7)・台付甕(8)といった古墳時代前期の土師器や、平安時代の灰軸陶器皿(10)といった土器、陶器の類、或いは古墳時代後期以降と認識される土鉢(11・12)等の土製品、石鎌(13~15)や打製石斧(16)、磨製石斧(17)、敵石(18・19)や磨石(20)といった石器・石製品などが見られた。

また一括取上げの遺物(第152図)の中には器台(1)・壺(2)・甕(3)・台付甕脚部(4)といった古墳時代前期の土師器、須恵器の坏(5)や高台付皿(7)や灰軸陶器碗(6)、墨書の残る須恵器坏片(8)、羽釜(9)といった平安時代の土器類の他、鎌らしき鉄製品(10)や敵石(11)も見られた。



第152図 8区東部1面の出土遺物

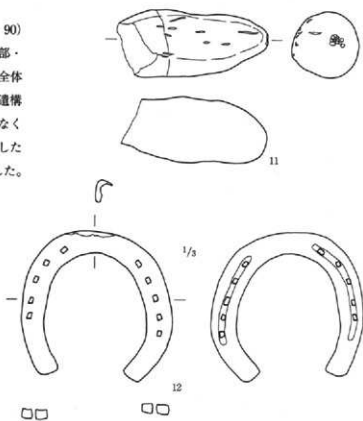


(2) 8区全体の遺構外の出土遺物

(第153図, P.L.89・90)

概要 8区の遺構外の出土遺物には、東半部・西半部に区分けのできなかった、即ち8区全体として一括して取上げられた遺物、或いは遺構番号の確認不備等から出土箇所の特定できなくなってしまった遺物も若干量あった。こうした遺物の中で図示できるものを第153図に示した。

この中には古墳時代前期に比定される土師器高坏(1)や台付甕の脚部(2)、古墳時代後期～平安時代の所産である十文字形の隈描きのある土師器坏の底部片(3)、近世～近代の施軸陶器蓋(4)、古墳時代後期以降と認識される土鍾(5)といった土器・陶器類や、平安時代以降時期不特定の鎌の破片(6)や近現代の馬蹄(12)といった鉄製品、石鏃(7・8)や礫石(9・11)といった石器・石製品の類、そしてガラス製のおはじき(10)などの出土も見られた。



第153図 8区の一括取り上げ遺物

## 第9節 9区1面の遺構と遺物

9区も8区東部と同様、8区西部に於ける1・2面を一つの面として一括取り扱うこととする。また8区東部同様に中世の屋敷跡に付属すると判断した遺構については後述する第3章（192頁）に記載することとする。

### （1）9-1号住居（第154・155図、P.L.92・99）

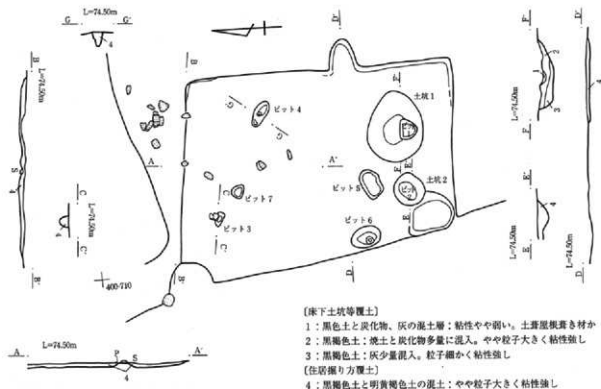
**概要** 本住居は9区北東隅部、前田遺跡A区の低地に面して位置する竪穴住居である。

他の竪穴住居との重複はないものの、西側を中世の9・20号溝に切られている。また住居本体の遺存状況は不良であり、僅かに掘り方を調査できたに過ぎなかった。

さて掘り方面の床下土坑1は位置的に貯蔵穴と認識されるが、覆土に多量の焼土、炭化物等が含まれるため、本住居は焼却処分を伴う遷替えの行われた所謂「お掃除住居」の可能性を有する。

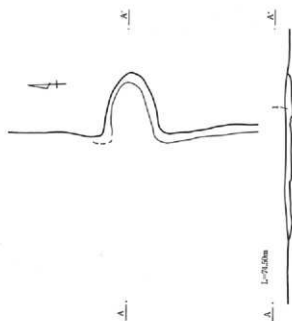
**遺物** 本住居からは平安時代の土師器片を中心として同時期の高台付碗(1)等の須恵器片、灰釉陶器1片、或いは古墳時代前期の土師器片、石器の剥片等、若干量の出土遺物が得られた。

**時期** 本住居の時期を明確に特定することはできなかったが、上述の須恵器高台付碗から推して、概ね9世紀後半以降の所産として認識することができそうである。



第154図 9-1号住居（その1）





【電掘り方覆土】

1：黒褐色土と明黄褐色土の混土：やや粒子大きく粘性強し

### 第155図 9-1号住居と出土遺物(その2)

規模 径：432×(319) cm 深さ：0 cm

〔床下土坑1〕 径：88×112cm 深さ：25cm

〔床下土坑2〕 径：71×70cm 深さ：9 cm

〔ビット1〕 径：24×30cm 深さ：32cm

〔ビット2〕 径：49×50cm 深さ：26cm

〔ビット3〕 径：11×12cm 深さ：17cm

〔ビット4〕 径：22×42cm 深さ：25cm

〔ビット5〕 径：29×47cm 深さ：8cm

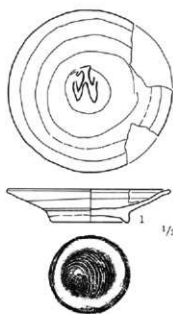
〔ビット6〕 径：48×23cm 深さ：25cm

〔ビット7〕 径：20×21cm 深さ：6 cm

構造 上述のように本住居の遺存状況が良好ではなかったためその全容を詳かにすることはできなかったのであるが、そのプランは概ね方形を呈するものと判断される。

本住居は掘り方を有しており、これを黒褐色土と明黄褐色土で埋め戻している。床面の構造は不明であるが、貼り床等は施されていないようである。

一方、竈は東壁の中央やや南寄りに設けられる。黒褐色土と明黄褐色土で埋め戻して燃焼面を造る掘り方を有するが、そのプランは不明である。尚、燃焼部の位置を含め、上位構造は確認できなかった。



一方、掘り方には幾つかの土坑等の掘り込みが見られたが、土坑1は位置的に貯蔵穴の可能性を有し、ビット1～4・6は形態的に柱穴と認識されるが、何れも本住居に伴うか否かは不明である。

### (2) 9-2号住居

(第156・157図、P L92・93・99・100)

概要 本住居も9区北東隅部、前田遺跡A区の低地に面したところに位置している。

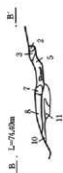
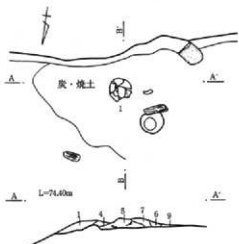
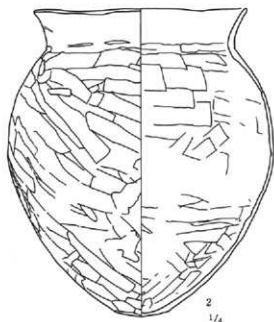
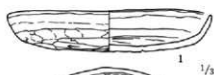
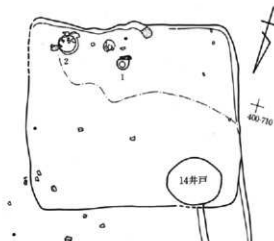
他の竪穴住居との重複はなかったのであるが、9-14号井戸と重複し、これに切られるようである。一方、本住居は北東方向に向けて削平が進み、全体的に遺存状態は良くない。加えて掘削の失敗により、住居平面図(第156図)の一点又線より北(下)側の範囲で床面を失っている。

南壁際中央には炭化物と焼土の分布域があり、調査時点では竈として処理し、本稿もそれによって記載しているが、或いはこの箇所は焼失家屋の痕跡であった可能性も有する。また南壁東寄りには時代の異なる土師器壺が正位に置かれていたが、設置意図等を確認することはできなかった。

遺物 本住居からは平安時代の土師器片を中心に一定量の出土遺物が得られたが、この中には土師器盤(1)、古墳時代後期の土師器壺(2)があり、砥石(3)、叢石(4)、台石(5・6)や、上位層からの流入品と認識される中世の模範鏡(7)も見られた。

時期 遺存の良好なものに7世紀後半と9世紀後半を示す出土遺物があったが、出土遺物全体の様子から推して、本住居は概ね平安時代、9世紀後半期以

第2章 発見された遺構と遺物 (その1)



降の所産として認識される。

規模 径：312×286cm 深さ：14cm

〔竈〕 幅：(135) cm 奥行：86cm

〔床下土坑1〕 径：113×94cm 深さ：13cm

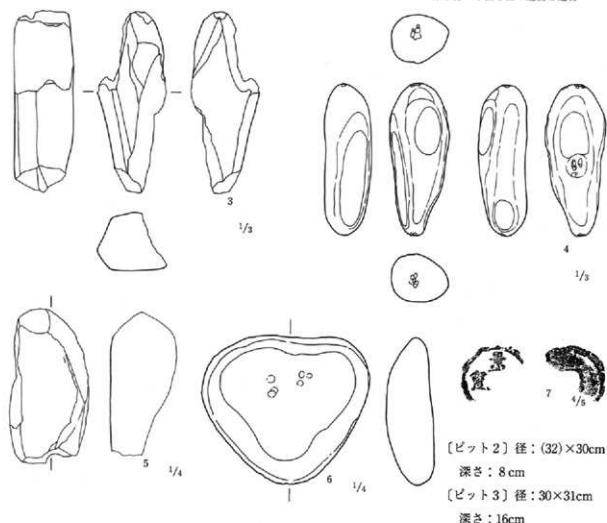
〔床下土坑2〕 径：120×86cm 深さ：15cm

〔ピット1〕 径：22×20cm 深さ：17cm

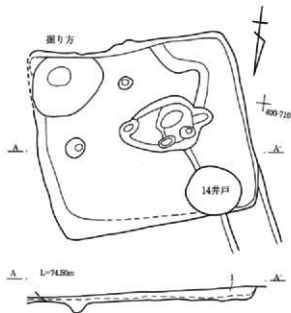
〔産物土〕

- 1：暗褐色土：炭化物、焼土粒含む
  - 2：暗褐色土：若干の焼土粒と多くの炭化物含む
  - 3：暗褐色土：焼土粒、炭化物含む
  - 4：焼土：暗褐色土と炭化物少量混入
  - 5：暗褐色土：焼土と少量の炭化物含む
  - 6：暗褐色土：多くのローム粒、炭化物と少量の焼土含む
  - 7：暗褐色土：焼土を全体的に多く含む
  - 8：暗褐色土：炭化物多く含む
  - 9：ローム粒と暗褐色土の混土
- 〔産物方履土〕
- 10：ロームと黒色土の互層：全体として暗黄色を呈す
  - 11：暗褐色土：炭化物、焼土粒、ローム粒含む

第156図 9-2号住居と出土遺物 (その1)



[ピット2] 径：(32)×30cm  
深さ：8cm  
[ピット3] 径：30×31cm  
深さ：16cm



〔住居周り方覆土〕  
1：黒褐色土：ローム粒と炭化物少量混入。やや粗粒で粘性ややあり。締り強い

第157図 9-2号住居と出土遺物(その2)

構造 本住居のプランは隅丸方形を呈する。  
床下粘土坑の可能性のある土坑2や本住居に伴うか否かを特定できなかった小型のピット2・3の掘削される掘り方を有し、これを黒褐色土で埋め戻して床面を造っている。

竈は南壁やや中程に設けられる。遺存状況が悪いためその構造は不明瞭であるが、壁面手前に掘り方を掘削し、焼土や炭化物を含む暗褐色土、更にロームと黒色土を互層に埋めて戻して燃焼面を造っている。壁際の燃焼部右側の竈は柚石の可能性を有しており、手前側中央のピット1は支脚の設置痕の可能性を有するものの、上位構造は全体的には詳らかでない。

床面に於いては柱穴、貯蔵穴は確認できなかったが、掘り方面の土坑1が位置的に貯蔵穴であった可能性を有する。

(3) 9-3号住居（第158・159図、P.L.93・100）

**概要** 本住居は9区南東部に在って、前田遺跡A区の低地に面する区域に位置している。

他の遺構との重複はなかったが、上位が削平されていて遺存状況は不良であり、竈部分で床面を確認できたものの、殆どの箇所は掘り方を調査したに過ぎなかった。

**遺物** 本住居からは平安時代の土師器瓦片を中心とした若干量の出土遺物が得られたが、図示し得る出土遺物としては土釜(1)があるに過ぎなかった。

**時期** 本住居の時期は明瞭でないが、出土した土釜の時期から推して凡そ10世紀前半期頃の所産として認識される。

**規模** 径：337×283cm 深さ：0 cm

〔竈〕幅：(80) cm 奥行：140cm

（燃烧部）径：71×82cm 深さ：4 cm

〔貯蔵穴〕径：47×43cm 深さ：10cm

〔床下土坑1〕径：73×74cm 深さ：27cm

〔床下土坑2〕径：58×48cm

深さ：29cm

〔床下土坑3〕径：48×54cm

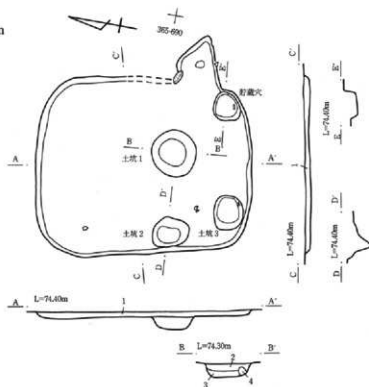
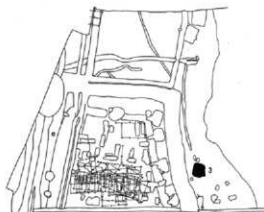
深さ：32cm

**構造** 本住居は上位の削平が進行しているため全容は詳らかでないが、そのプランは横長の隅丸方形を呈する。

掘り方を有し、これを暗褐色土で埋め戻しているが正確な床面の構造は確認できなかった。

竈は東壁のかなり南隅に近い位置に設置されている。プランを確認することはできなかったが壁面を削り込んで掘削される浅い掘り方を有し、これを埋め戻して燃烧面を作っている。壁のライン上成いはそこからやや外側に入ったところに、竈の中心を挟んで左右20cm程のところに右側で径26×26cm、深さ7cm、左側で径18×20cm、深さ8cmを測る

小ピットが掘削され、共にこの位置に礎を据えている。左側ではその外側にも礎を据えているが、これを袖石として、その外側から住居内側方向に向かって袖を作っていたものと思慮される。尚、袖の規模は不明であるが、ロームと暗褐色土を使って構築していたものと思慮される。また、右側の袖石の奥側



〔住居掘り方覆土〕

1：暗褐色土：細粒。黄褐色土僅かに混入。締り有り。灰、炭化物、焼土を竈周辺に多く混入

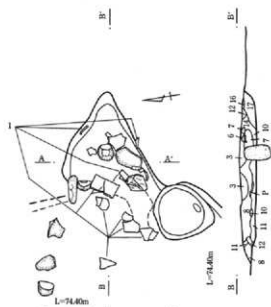
〔床下土坑1覆土〕

2：暗褐色土：ローム、軽石粒と少量の焼土小塊含む

3：ロームと暗褐色土の混土：暗黄褐色土を呈す。やや粘質

4：暗褐色土：やや粘質

第158図 9-3号住居（その1）



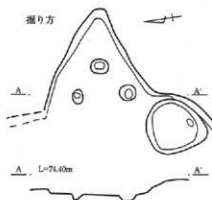
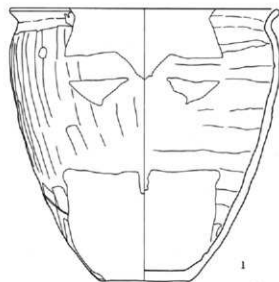
## 【覆土土】

- 1：ローム2/3、暗褐色土1/3の混土  
 2：暗褐色粘質土：ローム少量含む  
 3：暗褐色土：焼土粒僅かに含む  
 4：ロームと暗褐色土の混土  
 5：焼土：暗褐色土とローム粒含む  
 6：暗褐色粘質土  
 7：焼土：暗褐色土とローム少量含む  
 8：焼土塊  
 9：焼土：暗褐色土少量含む

- 10：暗褐色土：ローム粒と焼土含む  
 11：暗褐色粘質土：焼土粒少量含む  
 12：粘質ローム塊  
 13：焼土  
 14：暗褐色土と灰、焼土、ローム粒の混土  
 15：灰層  
 16：暗褐色土：ローム粒と焼土粒少量含む  
 17：黒褐色土：灰と焼土粒少量含む

には15cm程隔てて礫が底面に差し込まれて設置されていたが、これは燃焼部内面の基部を押えていたものと思慮される。そして竈の中央、上述の小ピットより奥側25cm程の位置に径14×11cm、深さ14cmを測る横長の長方形プランの小坑が掘削され、この位置にも礫が置かれていたのであるが、これが支脚になるものと思慮される。尚、竈断面のうち最奥の16・17層は煙道を埋めた土塊と認識され、当該箇所をの平面形態と併せて、煙道は10数cm程の径を持つもので、燃焼面から直に立ち上げていたものと思慮される。

さて、柱穴は見られなかったが、竈右側の住居南東隅部には隅丸方形プランの箱状の貯蔵穴が掘削されていた。この他に床下土坑3基の掘削が確認されているが、このうち住居中央やや南寄りに位置する床下土坑1は、覆土の観察所見等から竈の構架に拘る所謂床下土坑であったものと判断される。



第159図 9-3号住居と出土遺物(その2)

## (4) 9-4号住居(第160図、P.L94)

**概要** 本住居は9区南東部の調査区南際、前田遺跡A区の低地に近い所に位置している。

本住居は西側の過半が中世屋敷遺構の周堀である9-6号溝に大きく削られ、南側も調査区外に出るため全容は不明である。また、9区の他の住居同様、上位も大きく削られていて、竈付近を除いて掘り方面を調査できたに過ぎないものであった。

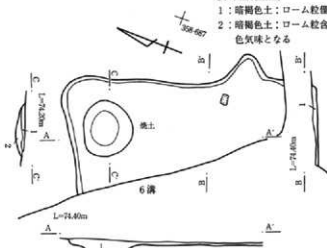
**遺物** 本住居では古墳時代後期と思われる時期の土師器片1片と、平安時代中心とした時期の須恵器片3片の、僅か4片の土器片を出土したに過ぎず、図示すべき資料は認められなかった。

**時期** 本住居の時期は明瞭でなく、概ね平安時代以降所産のものとして把握されるに過ぎない。



〔床下土坑覆土〕

- 1: 暗褐色土: ローム粒徑かを含む
- 2: 暗褐色土: ローム粒含み、黄褐色気味となる



〔住居掘り方覆土〕

- 1: 黒褐色土: 細粒、黄褐色土僅かに混入。締り、粘性強

規模 径: (355) × (184) cm 深さ: 0 cm

〔竈〕 幅: (70) cm 奥行: (87) cm

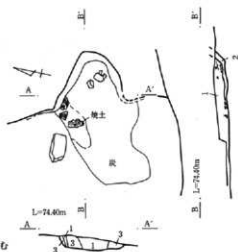
(燃烧部) 径: 45 × (73) cm 深さ: 5 cm

〔床下土坑〕 径: 90 × 79 cm 深さ: 22 cm

構造 上述のように本住居はその過半が失われ、或いは調査できなかったため全容は詳らかでないが、プランは隅丸方形様を呈するものと思慮される。

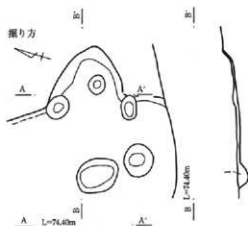
掘り方を有し、これを黒褐色土等で埋め戻しているが、床の構造は不詳。

竈は東壁の、恐らく南寄りと思しき辺りに設置されている。竈は壁面を跨いで掘削され、地山層土で埋め戻す可能性を持つ掘り方を有する。燃烧部両側の壁際に右側で12 × 18 cm、深さ4 cmを測る縦長の楕円形プラン、その左側には18 × 19 cm、深さ6 cmを測る円形プランの浅い小型ピットが掘削されてお



〔覆層土〕

- 1: 黒褐色土: 焼土含む
- 2: 黒褐色土: 1層土に同じ。種道埋土
- 3: 焼土



〔電掘り方覆土〕

- 1: 地山(土)の焼土化層

第160図 9-4号住居

り、ここに軸石を設置したものと判断される。また竈の中心のやや右寄りに径13 × 15 cm、深さ10 cmを測る円形プランの小ピットが掘削されるが、個々には(礎)の支脚が設置されていたものと思慮される。尚、これ以外の上位構造は分からなかった。

本住居に於いては、柱穴や貯蔵穴を確認することはできなかった。しかし、掘り方には位置的に貯蔵穴の可能性も考慮される床下土坑が北東隅部に掘削されている。

## (5) 9-1号溝 (第161図, P.L100)

概要 本溝は9区北西部に位置している。

西側が調査区外に出ているが、調査時点では他遺構との重複は見られなかった。

本溝は近代の地割のラインに近似した走向を取る。またこれと鈍角に交叉しているため、土地区画に伴うものである可能性が考慮されるが、掘削意図を特定することはできなかった。

遺物 本溝からは焙烙(1)等、古代から現代に至る時期の若干の出土遺物が見られた。

時期 上述のように出土遺物もなく、本溝の時期を特定することはできなかったが、中世屋敷遺構より確認順位が早いこと等から勘案して、近世以降の所産である可能性が高い。

規模 長さ：14.7m 幅：126cm 深さ：20cm

構造 概ね東西に走向を取り、東端部で東北東方向に走向を僅かに転ずる。ラインはやや蛇行する。

掘削形態は箱堀状を呈するが、東端部では薬研堀状を呈する。

〔表土〕

1：耕作土

〔溝覆土〕

2：黒褐色土：軽石粒、炭化物含む。粘性若干あり

3：灰色土：軽石粒少量含む

4：暗灰黄褐色土：軽石含む

L=75.10m

A A'

S 4 2

調査区域外

調査区域外

調査区域外

調査区域外

調査区域外

調査区域外

調査区域外

調査区域外

調査区域外

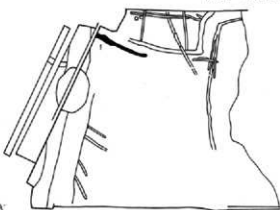
調査区域外

調査区域外

調査区域外

調査区域外

調査区域外



を描き乍ら東北東方向に18m程走り、東端で走向を北北西に転じて8m程進み、屈曲して北北東に変じて調査区外に抜けている。底面は北に向かうほど低くなっていて、地形とは異なった傾斜を見せている。

掘削形態は箱堀状を呈するが、上述の北寄りの屈曲部では東西縁辺が薬研堀状になっている。

## (6) 9-2号溝 (第162図)

概要 本溝は9区北部に位置する。

本溝の西側は削られて途切れ、重複する9-3号溝や9-3号併作溝との新旧は確認できなかった。

その掘削位置は近代の地境には一致しない。またその形態から何らかの区画溝である可能性も考慮されるが、掘削意図を特定することはできなかった。

尚、北寄りの屈曲部で東西端部が深くなっていることから、何回かの掘り直しのあった可能性が窺われる。また屈曲部北寄りに分岐する溝(以下「2b」と表記する)が見られるが、2号溝に流入するものなのか、別遺構なのかは確認できなかった。

遺物 本溝からも出土遺物は見られなかった。

時期 上述のように出土遺物もなく、本溝の時期を特定することはできなかったのであるが、確認順位の関係から近世以降の所産である可能性が高い。

規模 長さ：30.0m 幅：141cm 深さ：23cm

(2b溝) 長さ：1.8m 幅：60cm 深さ：22cm

構造 本溝は西から入り、南に張り出す緩やかな弧

を描き乍ら東北東方向に18m程走り、東端で走向を北北西に転じて8m程進み、屈曲して北北東に変じて調査区外に抜けている。底面は北に向かうほど低くなっていて、地形とは異なった傾斜を見せている。

掘削形態は箱堀状を呈するが、上述の北寄りの屈曲部では東西縁辺が薬研堀状になっている。

L=75.10m

B B'

〔溝覆土〕

1：暗灰黄褐色土：軽石含む



1 1/4

第161図 9-1号溝と出土遺物

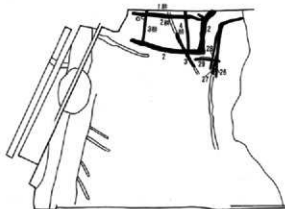
(7) 9-3号溝（第162・163図）

**概要** 本溝は9区北部に位置し、新旧関係不明の重複する南北2条の溝から成る。

掘削位置が後述の9-25号溝に重なるため、同溝の掘り直しと想定される。尚、走向方向から水路の可能性は考慮されるが、掘削意図は特定できなかった。

**規模** 長さ：11.4m（北部：2.0m 南部：9.5m）

幅：76cm 深さ：20cm



**構造** 本溝は北西-南東方向に走向を取り、直線的なプランを呈する。

掘削形態は箱堀状を呈する。尚、北側の溝の方が南側の溝より6cm程底面が浅い。

(8) 9-26・27・28号溝（第162図）

**概要** 9-26～28溝は9区北東部に位置している。

新旧は不特定だが26号溝からは27・28号溝が分岐するように在る。また27号溝は一部が重なる9-31号溝と一括掘削したため、南側は確認できなかった。

一方、各溝は後述の9-29号溝と重複するが、これに対する新旧は特定できなかった。

また各溝の掘削意図も特定できなかった。

**遺物** 出土遺物は

見られなかった。

第162図の1 9-2・3号溝及び9-1・2耕作溝と出土遺物



時期 本溝群は近代の地割に拠るものではなく、中世の屋敷遺構の確認面より上で調査されていることから概ね近世前・中期頃の所産と認識される。

規模 (26号溝) 長さ: 19.7m 幅: 68cm

深さ: 11cm

(27号溝) 長さ: (5.9)m 幅: 50cm 深さ: 22cm

(28号溝) 長さ: 10.8m

幅: 68cm 深さ: 14cm

構造 各溝は北北西-南南東方向に走向を取り、直線的なプランを呈するが、26号溝は北部で屈曲して走向を北東に転じ、27号溝も北端で北東方向に転ずる傾向を見せる。また26号溝では溝幅が中程で広がるが、北側では45cm程、南側では18~35cm程であり、28号溝も同様に北側で広がるが、全体的には25cm程である。

掘削形態は27号溝と26・28号溝の幅広の箇所が箱掘状、26・28号溝の過半が薬研堀状を呈する。

### (9) 9-29・29b号溝 (第162図)

概要 9-29・29b溝は9区北東部に位置し、並行に隣接して掘削されている。

29号溝は上述の9-26~28号溝と重複するが、新旧は不特定である。尚、本溝は東側の26溝を突き抜けていない。

尚、29・29b号溝の掘削意図は特定できなかった。

遺物 両溝共、出土遺物は見られなかった。

時期 本溝群の掘削位置は近代の地割の北側に並行気味に在るが、トレースはされない。また中世の屋敷遺構の周堀切っていることから概ね近世の所産として捉えられる。

規模 (29号溝) 長さ: 5.8m

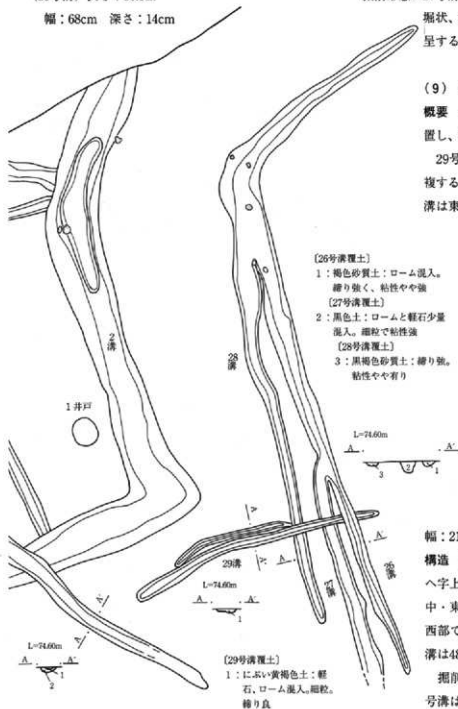
幅: 38cm 深さ: 13cm

(29b号溝) 長さ: 3.3m

幅: 21cm 深さ: 9cm

構造 両溝共西寄りに屈曲部を有するへ字上のプランを呈する。その走向は中・東部では何れも北に対して72.8°、西部では29号溝が同じく59°、29b号溝は48°程を取っている。

掘削形態は、29号溝は箱掘状、29b号溝は薬研堀状を呈している。



第162図の2 9-2・3・26~29号溝

第2章 発見された遺構と遺物 (その1)

〔圃場整備後の埋没土〕

1 : 表土: 現耕作土 2 : 暗褐色土: 軽石、酸化鉄混入

〔落ち込み埋没土〕

3 : 暗褐色土: 軽石、酸化鉄混入。酸化鉄塊は2層に比し少量

4 : 暗褐色土: 軽石、ローム小粒、褐色土、黒褐色土含む

5 : 暗褐色土: 小軽石粒、ローム粒含む

6 : 暗褐色土: 黒色土、黒褐色土、ローム粒、軽石粒含む

7 : 暗褐色土: 小軽石粒、ローム粒僅かに含む

8 : 暗褐色土と黒褐色土及び褐色土の混土

9 : 暗褐色土: 軽石粒、褐色土、黒褐色土含む

10 : 暗褐色土: 黒褐色土と軽石粒含む

11 : 暗褐色土: 軽石粒と多量の黒褐色土、僅かなローム粒含む

12 : 暗褐色土: 軽石粒僅かに含む。色調やや明るい

〔4号溝覆土〕

13 : 暗褐色土: 3層土と同じ

14 : 暗褐色土: 大粒の軽石と少量のローム含む

15 : 暗褐色土: 軽石含みローム多く含む

16 : 灰色粘質土: 細粒。大粒の軽石粒とローム、

木質含む。酸化鉄沈着

17 : 暗褐色土: 多くの軽石粒、及び若干量の

酸化鉄粒とローム粒含む

18 : 暗褐色土: 軽石粒とローム含む

19 : 暗褐色土: ローム、黒褐色土、軽石粒、

ローム粒含む

〔地山層〕

20 : 黄暗褐色土: ローム粒多く、全体に

黄色味掛かる。軽石含む

21 : 暗褐色土: ローム粒、軽石粒含む

22 : 暗褐色土: 径の大きなロームを

多く含む。軽石粒含む

23 : 暗褐色土: ローム多く

含む軽石粒含む

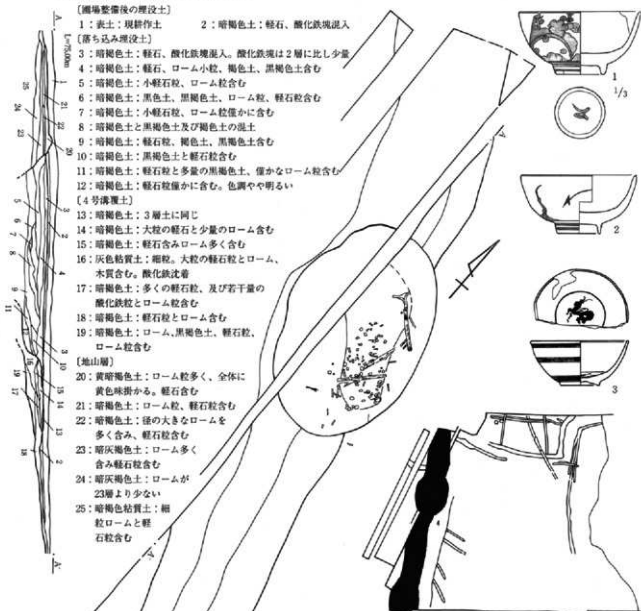
24 : 暗褐色土: ロームが

23層より少ない

25 : 暗褐色粘質土: 細

粒ロームと軽

石粒含む



〔圃場整備後の埋没土〕

1 : 表土: 現耕作土

2 : 暗褐色土: 色調やや暗い。軽石粒、黄褐色土

粒を含む

3 : 灰褐色土: 旧耕作土。やや砂質。軽石粒含む

4 : 灰褐色土: 3層土に黄褐色土粒少量含む

〔4号溝覆土〕

5 : 灰褐色土: 細粒。軽石含み、上位にビニール

含む

6 : 暗褐色土: 黒褐色土と黄褐色土粒含む

〔地山層〕

7 : 暗黄褐色土: 洪水層土。粘性なくざらつく。

軽石粒含む。

8 : 黒褐色砂質土: 黄褐色土粒不均衡に含む。軽

石と多くの平安期の土器片含む

9 : 黒褐色土と地山黄褐色砂質土の混土: 不均衡

に混ざる

10 : 黒褐色土: 黄褐色土と軽石粒含む

11 : 黄褐色砂質土: 基盤層

第163図の1 9-4号溝と出土遺物 (その1)



(10) 9-1～4号耕作溝

(第162図, P L96・97・102)

**概要** 9-1～4号耕作溝は9区北部に位置し、前2者が後2者と重複するが新旧は特定できなかった。

**遺物** 耕作溝からは前田遺跡側の耕作溝出土遺物の可能性もある鎌1点(1)が確認されている。

**時期** 近代の地割に一致せず、中世の屋敷遺構周堀を切るため、概ね近世前・中期の所産と捉えている。

**規模** (1号耕作溝)長さ:19.8m 幅:24cm 深さ:15cm

(2号耕作溝)長さ:15.1m 幅:38cm 深さ:20cm

(3号耕作溝)長さ:10.4m 幅:37cm 深さ:16cm

第163図の2 9-4号溝出土遺物(その2)

(4号耕作溝)長さ:8.4m 幅:37cm 深さ:20cm

**構造** 溝群の配置は左右逆の卍字状を呈する。1・2号耕作溝が111並行に近接し、1号耕作溝は直線的で、へ字状に屈曲して以東と2号耕作溝は南に張り出す極めて緩やかな弧状、3・4号耕作溝は北側が調査区外に出るが直線的なプランを呈する。走向方向は北に対し1・2号耕作溝は68.7°で前者の東部は82°、3号

第2章 発見された遺構と遺物（その1）

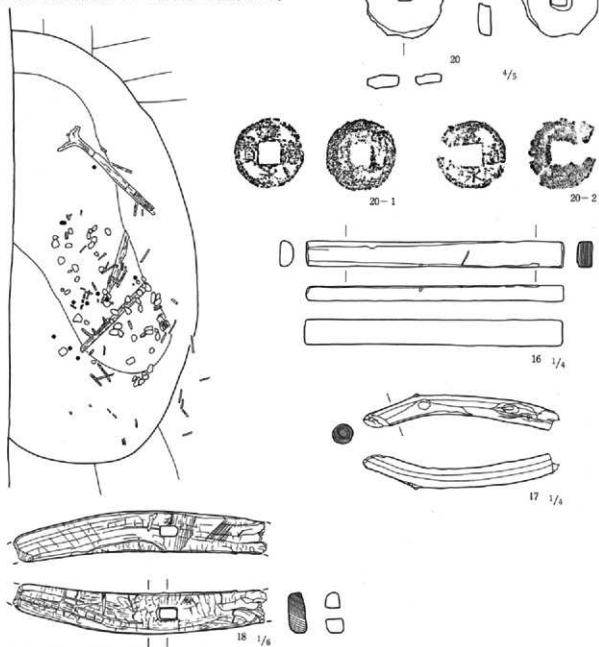
耕作溝は3429'、4号耕作溝は3282'に取る。

掘削形態は1・2・4号耕作が薬研堀状、3号耕作溝が箱堀状を呈し、底部の横断面形は1・2号耕作溝が丸底気味、3・4号耕作溝が平底気味である。

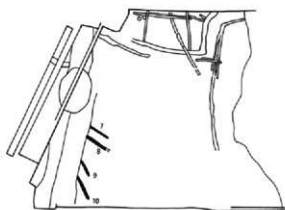
(11) 9-4号溝

(第163・164図、P.L100・101・102)

概要 本溝は9区西部に位置する水路跡で、北寄りに本溝を境す楕円形プランの掘り込みが掘削される。



第164図 9-4号溝と出土遺物（その3）



**遺物** 本溝からは近世後期の磁器高台付碗(1・2)、近世の陶器高台付碗(4)、近代の磁器猪口(3)や小皿(5)、焙烙鍋(18)の他、羽口(6)、砥石(7・11・12)、石鉢(10)、打製石斧(8)、敲石(9)、刀子(13)、漆碗(15)や枕(14)、寛永通寶(19)、銅銭(20)など古墳時代から現代に至る出土遺物があった。尚、本溝を壊す掘り込みの出土遺物も本溝の遺物を多く含むと判断し、本溝と一括で扱う。

**時期** 本溝の廃絶は戦後の圃場整備の時であるが、その初源は少なくとも近世後期と思慮され、中世屋敷との関連からは中世に遡る可能性も考えられる。

**規模** 長さ：45.52m 幅：578cm 深さ：129cm

**構造** 本溝は北に北西-南南東方向に直線的なプランを呈する。

掘削形態は箱型を呈する。

#### (12) 9-7～10号溝 (第165図)

**概要** 9-7～10号溝は9区西南部に位置し、何れも中世屋敷遺構の堀である9-5号溝を切る。

7号溝と8号溝、9号溝と10号溝はそれぞれ並走するため、道路の側溝か耕作に伴うものと思われる。

**遺物** 各溝からの出土遺物は確認されなかった。

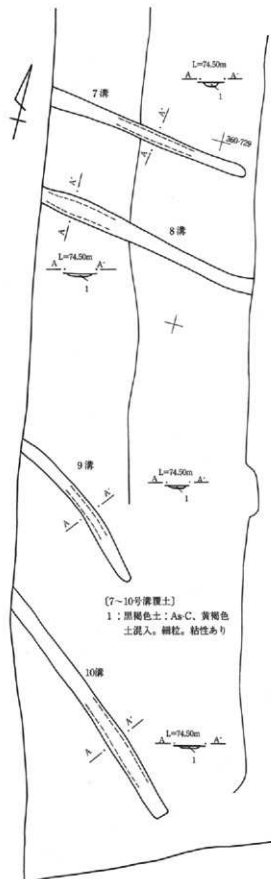
**時期** 各溝は近代の地割に依拠せず、5号溝を切ることから、江戸時代前・中期頃の所産と想定される。

**規模** (7号溝)長さ：5.6m 幅：22cm 深さ：8cm

(8号溝)長さ：6.0m 幅：42cm 深さ：4cm

(9号溝)長さ：4.7m 幅：22cm 深さ：2cm

(10号溝)長さ：7.2m 幅：48cm 深さ：4cm



第165図 9-7～10号溝

**構造** 本溝群のうち7・8・10号溝は直線的、9号溝は北に膨らみ緩やかな弧を描くプランを呈する。7・8号溝は北に対して99.6°、9・10号溝は同じく131.6°に走向を取る。

**掘削形態**は箱掘状を呈するが、10号溝の底面の横断面形や丸みを持つ。

**時期** 両溝は近世中期或いは中世以前の平安時代以降の所産と認識されるだけで、時期特定には至らなかった。

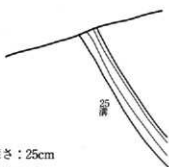
**規模** 長さ：36.4m

〔中部北〕幅：89cm 深さ：25cm

〔中部南〕幅：64cm 深さ：21cm

〔東部北〕幅：66cm 深さ：31cm

〔東部南〕幅：107cm 深さ：35cm



(13) 9-21号溝 (第166図, P L95・96・102)

**概要** 本溝は9区北部に在り、重複する2条の溝から成る。しかし両者を完全に分離すること、新旧を把握することはできなかった。

本溝は9-31号溝や中世の溝群と重複するが、新旧は確認できなかった。

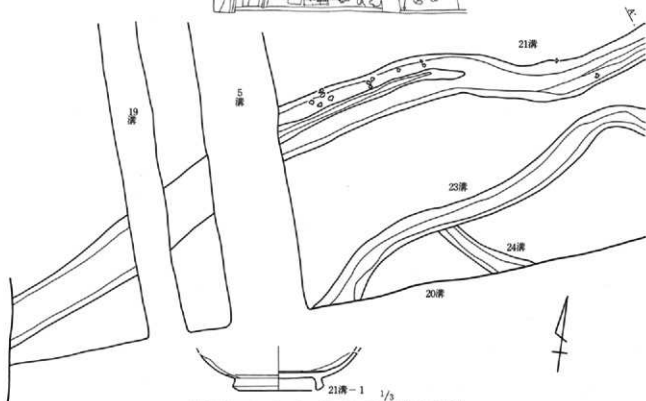
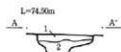
本号溝はその形態と東端に9-16号井戸があることから推して、16号井戸から溢水した水を流す水路であった可能性も考慮される。

**遺物** 灰軸陶器碗(1)が出土している。



〔21号溝覆土〕

- 1: 灰褐色土: 細粒. 粘性あり
- 2: 灰褐色土: ローム混入. 細粒. 粘性あり



第166図の1 9-21・23・24・25号溝と出土遺物

**構造** 両溝は全体的に東北東-西南西に走向を取るが、プランは蛇行するものであった。

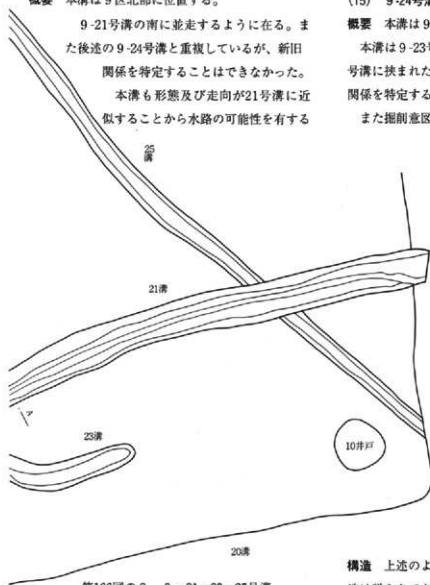
掘削の形態は共に箱堀状を呈するものである。

(14) 9-23号溝 (第166図)

**概要** 本溝は9区北部に位置する。

9-21号溝の南に並走するように在る。また後述の9-24号溝と重複しているが、新旧関係を特定することはできなかった。

本溝も形態及び走向が21号溝に近似することから水路の可能性を有する



第166図の2 9-21・23・25号溝

が、掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 本溝からの出土遺物はなかった。

**時期** 本溝の時期は近世中期或いは中世以前の所産として把握されるに過ぎず、その特定には至らなかった。

**規模** 長さ：12.6m 幅：59cm 深さ：11cm

**構造** 本溝の走向の方向は全体として東北東-西南西を取るが、プランは蛇行するものであった。

掘削形態は箱堀状を呈するが、カーブする箇所では築研堀状を呈する。

(15) 9-24号溝 (第166図)

**概要** 本溝は9区北部中央南西寄りに位置する。

本溝は9-23号溝と中世屋敷遺構の堀である9-20号溝に挟まれた範囲で確認されたが、両者との新旧関係を特定することはできなかった。

また掘削意図を特定することはできなかった。



**遺物** 本溝からの出土遺物は見られなかった。

**時期** 本溝は近世中期或いは中世以前と認識されるだけで、時期の特定はできなかった。

**規模** 長さ：0.7m

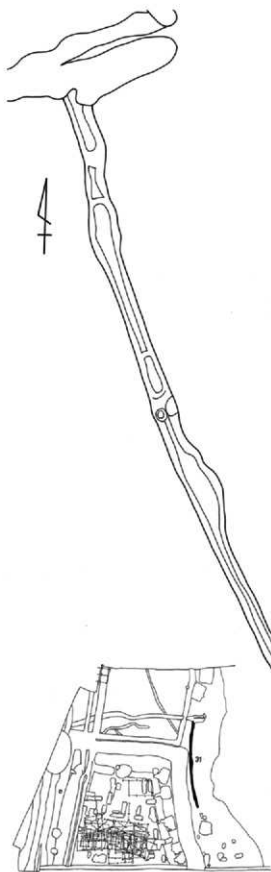
幅：46cm 深さ：1cm

**構造** 上述のように本溝の遺存状態は悪く、その構造は詳らかでないが、残存部分のプランは直線的で、やや南に傾く北西-南東方向の走向を取っていた。

掘削形態は箱堀状を呈するものと認識される。

(16) 9-25号溝 (第166図)

**概要** 本溝は9区北部に位置し、北側は調査区外に出ていた。また、南側は中世屋敷遺構の堀である9-20号溝に突き当たるが、これを突き抜けていない。



第167図 9-31号溝

本溝は上述の20号溝と重複し、また前述の9-21号溝と交叉するが、新旧関係は特定できなかった。

本溝の掘削意図を特定することはできなかった。

**遺物** 本溝からの出土遺物も見られなかった。

**時期** 本溝も確認面の状態等から僅かに近世中期或いは中世以前の所産と認識されるに過ぎなかった。

**規模** 長さ：19.3m 幅：60cm 深さ：17cm

**構造** 本溝は全体的には北西—南東方向に走向を取るが、プランは西に僅かに張り出す緩やかな弧状を呈するものであった。

掘削形態は箱堀状を呈するが、南北両端では薬研堀に近い形態となっている。

(17) 9-31号溝（第167図、P.L.96）

**概要** 本溝は9区東部中程、前田遺跡A区の低地に面する微高地縁近くに位置している。

本溝は北端で前述の9-21号溝にぶつかるが、これを突き抜けていない。また21号溝と一体と認識される16号井戸との新旧も特定できなかった。

本溝は北端で近接し走向の一致する9-26・27号溝と同様の性格を持つ、両溝に先行する溝であったと解釈される。掘削意図は特定できなかった。

**遺物** 本溝からは平安時代所産と判断される土師器片と須恵器片2点ずつが出土している。

**時期** 本溝は平安時代以降、近世中期或いは中世以前の所産と認識されるに過ぎないが、26号溝等に先行するならば、近世の所産であった可能性が考えられる。

**規模** 長さ：22.3m 幅：88cm

深さ：31cm

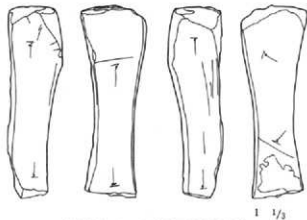
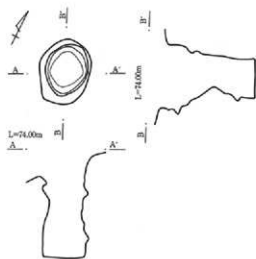
**構造** 本溝のプランは西に影らむ緩やかな弧状を呈し、走向の方向は北北西から入って、南東方向に抜けるものであった。

掘削形態を見ると、北半部はやや幅広で箱堀状の部分が多いが、南半分では幅員40cm程で薬研堀状を呈する。





8号井戸



第168図 9-8号井戸と出土遺物

## (18) 9-8号井戸 (第168図, P.L.97・102)

概要 本井戸は9区西部中程に位置する。

本井戸は、中世屋敷遺構の堀である9-22号溝の中、そのやや東寄りに掘削されていた。同溝との新旧関係は特定できず、掘削位置から中世屋敷遺構に含まれないものと解釈して本節に記載するが、屋敷遺構に伴う可能性を否定することはできない。

本井戸に於いては湧水層に関する記録は残されていない。しかし乍ら底面から0.3mの南東側の壁面に高さ19cm、奥行き10cm以下を測るアグリが、また底面から1m附近の位置には、傾きを持って壁面を測る高さ18cm、奥行き12cm程を測るアグリが形成されている。こうしたアグリの状態からは明確な湧水位置は特定できなかったのであるが、少なくとも本井戸では季節による水位の変化が窺われるのである。  
遺物 本井戸からの出土遺物としては、砥石(I)1点のみが確認できたに過ぎなかった。

時期 上述のように本井戸は中世屋敷遺構に伴う可能性は否定できないものの、遺構の確認状況では江戸時代中期以前の所産と認識されるに過ぎなかった。

規模 径：106×82cm 深さ：159cm

構造 本井戸のプランは楕円形を呈する。

掘削形態はやや三角フラスコに近い井筒型を呈し、底面は平らである。

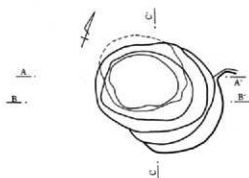
## (19) 9-9号井戸 (第169・170図, P.L.97・103)

概要 本井戸は9区南西部に位置し、中世屋敷遺構の堀と認識される9-22号溝の中に掘削されているため、屋敷には伴わないものと解釈して本節に記載した。掘削位置は22号溝の東側近くであるが、同溝との新旧関係を特定することはできなかった。また、9-8号井戸同様、屋敷に伴う可能性も否定できない。

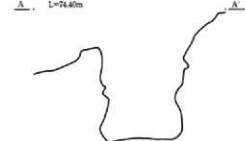
本井戸についても湧水層の記録は残されていないが、底面に沿って高さ60cm以下、21cm以下のアグリが形成され、底面から1~1.3mの辺りにも高さ43~70cm、奥行き22cm以下の不整形なアグリが、また上下両側のアグリの間にも高さ27cm以下、奥行き9cm以下の小さなアグリが不規則に形成され、季節による水位の変



9号井戸



A. L=74.0m



B. L=74.0m



〔井戸覆土〕

- 1：暗褐色土：ローム、灰色粘質土、黒色土を非常に多く含む
- 2：黒褐色土：ローム、A・Bを少量含む。やや粘質
- 3：暗褐色土：ローム多く含む。やや黄味掛かる
- 4：暗褐色土：酸化鉄凝結塊、ローム含む

第169図 9-9号井戸

化が窺われる。高、アグリのうち底面に近い位置のアグリ附近が湧水層である可能性がある。

**遺物** 本井戸からは曲げ物の底板3点(1-3)、蒲鉾板状の薄板(4)、或いは枕に使用した可能性のある角棒(5)といった木製品の出土が見られた他、特に図示するようなものは見られなかったが、平安時代の土師器片を中心に、古墳時代前期以降の土師器・須恵器片48片の出土もあった。

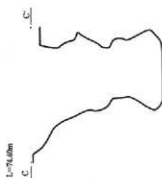
**時期** 本井戸も8号井戸同様中世屋敷遺構に伴う可能性を否定することはできなかったが、確認面等から、江戸時代中期以前の所産と認識されるに過ぎず、細かい時期を特定することはできなかった。

**規模** 径：196×180cm

深さ：188cm

**構造** 本井戸のプランは南北に長い楕円形を呈するが、底面のプランは主軸に対して45°程傾いた隅丸方形を呈している。

掘削形態は井筒型を呈し、底面は平らである。



(20) 9-13号井戸 (第171図、P L97)

**概要** 本井戸は9区南東部、中世屋敷遺構の東外側、前田遺跡A区の低地に面した微高地縁辺に近い位置に掘削されている。

他の遺構との重複などは認められなかった。

本井戸では湧水層の記録化がなされておらず、一方アグリの形成も認められなかった。またその掘削深度も浅いことから、井戸以外の用途に使用された可能性も考えられる。

**遺物** 本井戸からは須恵器

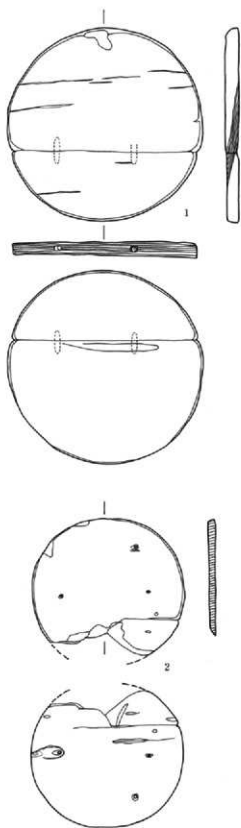
甕の体部2片が出土したに過ぎなかった。

**時期** 本井戸は概ね平安時代以降、江戸時代中期以前の所産として把握されるに過ぎず、細かい時期の特定はできなかった。

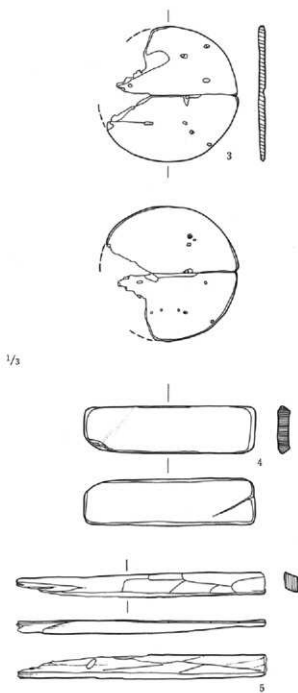
**規模** 径：96×87cm 深さ：93cm

**構造** 本井戸のプランは円形に近い隅丸方形を呈し、底面のプランは楕円形を成す。

掘削形態は井筒型で、上位が若干開く。



第170図 9-9号井戸出土遺物



(21) 9-20号井戸 (第171図)

概要 本井戸は9区南東部に位置する。

本井戸は西側に重複する中世屋敷遺構の外堀である9-6号溝の調査に伴って同溝の東壁を確認、調査された遺構である。尚、同溝との新旧関係、及び位置的に重複する9-4号住居との新旧関係も特定することはできなかった。

第2章 発見された遺構と遺物（その1）

本井戸にも周囲の堆積層等の記録はない。また遺存状況が悪かったこともあって、アグリ等も確認できなかったため、湧水層等は想定もできなかった。

**遺物** 本井戸からの出土遺物は認められなかった。

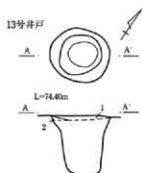
**時期** 本井戸の時期は、確認面の関係から概ね江戸時代中期以前とできるだけ、特定できなかった。

**規模** 径：98×87cm

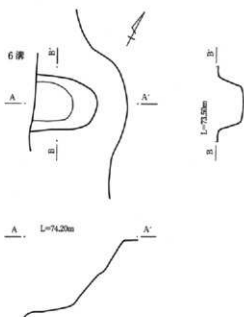
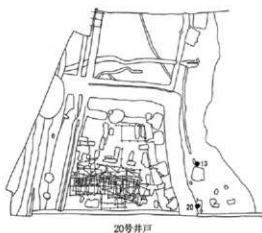
深さ：112cm

**構造** 本井戸の底面のプランは楕円形を呈する。

掘削形態は現況では楕鉢型を呈するが、明確には確認できなかった。



【13号井戸覆土】  
1：暗褐色土；ローム粒多く含む。  
2：暗褐色土；ローム粒なし。



第171図 9-13・20号井戸

(22) 9-14号井戸（第172図、P L97）

**概要** 本井戸は9区北東部、9-2号住居の中に位置して、これを切っている。

本井戸に湧水層の観察所見はなく、アグリも確認されなかった。しかし掘削深度が浅いため、水位の高い時期に掘削されたものと思慮される。

**遺物** 本井戸からの出土遺物は見られなかった。

**時期** 本井戸の時期を特定することはできず、僅かに9世紀後半以降、江戸時代中期以前の所産として把握されるに過ぎなかった。

尚、本井戸は小型であることから、さして遅くない時期のもので、形態的にも整っているので、井戸掘り職員の手になる可能性も考慮される。

**規模** 径：94×75cm 深さ：126cm

**構造** 本井戸のプランは東西に長い長円形を呈する。

掘削形態は井筒型である。

(23) 9-16号井戸（第172図、P L98）

**概要** 本井戸も9区北東部に位置する。

9-21号溝の東端にあって、これに重複して掘削されているが新旧は特定できなかった。

本井戸も湧水層に関する観察記録がなく、アグリ

も確認されなかったが、掘削深度が浅いことから水位が高かった可能性が考えられる。また、21号溝の端部に掘削されて、これを意識したような形態を呈することから、本溝は21号溝に流水するための溜井であった可能性も考えられる。

**遺物** 本井戸も出土遺物は見られなかった。

**時期** 本井戸は確認面等から江戸時代中期以前の所産として把握されるに過ぎず、その時期を特定するには至らなかった。

**規模** 径：126×71cm 深さ：86cm

**構造** 本井戸は21号溝に対して横長の長円形のプランを呈する。底面のプランは若干瓢箪形のような形態となっている。

掘削形態は井筒型に準拠した形態であるが、肩部が若干開いている。

(24) 9-17号井戸 (第172図, P L 98)

**概要** 本井戸は9区北東部、中世屋敷遺構の外堀である9-20号溝の内郭側の肩部に掘削されているが、20号溝との新旧関係は特定できなかった。

また本井戸は位置的に中世屋敷遺構に含まれない可能性が高いものと判断して本節に記載したが、屋敷遺構に伴う可能性も否定できない。

さて本井戸では湧水層の記録を残せなかったのであるが、北西側の底面より上62cmの位置に、高さ22cm、幅10cm、奥行き21cmを測るツララを横倒しにしたような形のアグリ状挟れが確認されている。土地の傾斜も勘案すると、この挟れが湧水位置ではなかったかと推定される。

**遺物** 本井戸からの出土遺物は僅かに平安時代の土師器片4片に過ぎず、この中には図示すべきような遺物も認められなかった。

**時期** 本井戸の時期は特定できず、概ね平安時代以降、江戸時代中期以前の所産と把握できるに過ぎなかった。

**規模** 径：98×76cm、深さ：68cm

**構造** 本井戸のプランは円形を呈する。

掘削形態は井筒型だが、底面は凹凸が顕著で、肩は部分的に僅かに開く。

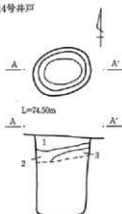
(24) 9区南東部の土坑群

(第173・174図, P L 98)

**概要** 本土坑群は9区南東部、中世屋敷遺構東側の郭外に在って、前田遺跡A区の低地に面した区域に分布する土坑群で、9-6・10・11・14・16・30-33・32b・35号土坑の11基の土坑が含まれる。



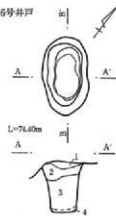
14号井戸



[14号井戸覆土]

- 1: 灰褐色土：ローム混入。粘性少しあり
- 2: 灰黄褐色砂質土：締り、粘性あり
- 3: ローム・灰黄褐色土、灰褐色土の混土：締り弱い

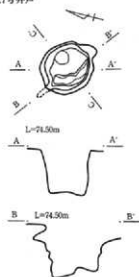
16号井戸



[16号井戸覆土]

- 1: 灰褐色土：細粒。粘性やや弱く締り強い。明黄褐色土、黒褐色土混入
- 2: 灰褐色土：混入物少なく、締りあり
- 3: 灰褐色土：粗粒。明黄褐色土多く混入。締り弱い
- 4: 灰褐色土：小礫混入。粘性・締り弱い

17号井戸



第172図 9-14・16・17号井戸

土坑群の中では10号土坑と11号土坑、30号土坑と33号土坑、31号土坑と32・33号土坑が重複するが、10号土坑が11号土坑を切ることが確認できたものの、他の土坑の新旧関係を特定することはできなかった。また、他の遺構との重複関係は見られなかった。

一方、本土坑群各土坑の掘削意図については、これを特定することはできなかった。

**遺物** 本土坑群の土坑のうち、6号土坑からは古墳時代前期の土師器片1点、平安時代を中心とする時期の土師器片2点、須恵器片4点、台石1点という僅かな量の遺物が出土したものの、特に図示すべきものはなかった。またこれ以外の土坑からの出土遺物は認められなかった。

**時期** 6号土坑は出土遺物から平安時代以降の所産であることは確認され、遺構形態から14号土坑と30号土坑は大雑把に中世の所産として捉えられるものと認識される。また32b・35号土坑もその形態から中世の所産と捉えて良いように思われる。

しかし乍ら多くの土坑については、確認面から概ね江戸時代中期以前の所産として把握できるだけで、その時期を想定することもできなかった。

#### 〔6号土坑覆土〕

- 1：暗褐色土：ローム粒、軽石粒含む
- 2：暗褐色土：軽石粒と多くのローム粒含む。色調やや明るい

#### 10・11号土坑



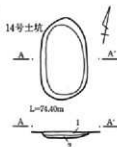
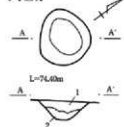
#### 〔10・11号土坑覆土〕

- 1：暗褐色土：軽石粒と多くのローム粒含む
- 2：暗褐色土：軽石粒と少量のローム粒含む

#### 〔14号土坑覆土〕

- 1：暗褐色土：ローム粒多く含む黄味樹かり、軽石粒少量含む
- 2：暗褐色土：黒っぽい。ローム粒と軽石粒を殆ど含まない

#### 6号土坑



**規模** (6号土坑) 径：88×82cm 深さ：29cm

(10号土坑) 径：80×56cm 深さ：16cm

(11号土坑) 径：194×104cm 深さ：9cm

(14号土坑) 径：132×76cm 深さ：10cm

(16号土坑) 径：72×68cm 深さ：44cm

(30号土坑) 径：163×80cm 深さ：7cm

(31号土坑) 径：(104)×(103)cm 深さ：13cm

(32号土坑) 径：86×(72)cm 深さ：15cm

(32b号土坑) 径：211×58cm 深さ：11cm

(33号土坑) 径：86×(64)cm 深さ：14cm

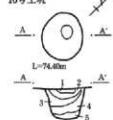
(35号土坑) 径：136×48cm 深さ：7cm

**構造** 本土坑群に属する各土坑のプランについては、31・32・33号土坑が円形を呈し、6・16号土坑が楕円形、10・11号土坑が隅丸正方形、30号土坑が長方形、14号土坑が隅丸の長方形のプランを呈するものであった。また、32b・35号土坑がやや短冊状に長い長円形を呈していた。

掘削底面は6号土坑が丸底、16号土坑がやや丸底を呈していたが、この他の10・11・14・30・33・32b・35号土坑は平底であった。



#### 16号土坑



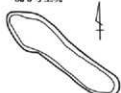
#### 〔16号土坑覆土〕

- 1：暗褐色土：軽石粒少量含む
- 2：暗褐色土：軽石粒少量含む。上層より明るい
- 3：暗褐色土：軽石粒とローム粒を少量含む
- 4：暗褐色土：ローム粒と粘質化したローム含む。明るい
- 5：暗褐色土：粘質化したローム少量含む。上層より暗い

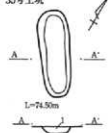
第173図 9区南東部の土坑群



32b号土坑



35号土坑



[35号土坑覆土]

1：暗褐色土：ローム粒を多く含む

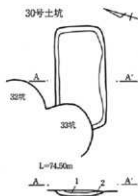
第174図 9-30・31・32・35号土坑

(25) 9-R-1～3号土坑 (第175図)

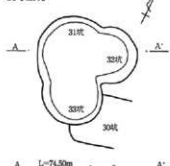
概要 本遺跡では関係機関の協力によって、8区と9区の間を走る公道の下についても過半の区域を発掘調査することができた。尚、この調査は前田遺跡班が担当して実施していたため、本書では9区に含めて報告するものである。

公道下の調査区域では前述の9-4号溝の一部や後述の中世屋敷遺構の周堀(8-26・9-20号溝)を確認することができたのであるが、この他に9-R-1～3号土坑の3基の土坑と樹木の痕跡と思われる落ち込み1箇所なども確認することができた。

これらの土坑のうち2・3号土坑は重複していたのであるが、新旧関係を特定することはできなかった。また両土坑は東部がサブトレンチの掘削によって失われている。尚、各土坑と他の遺構との間に重複は見られなかった。



31号土坑



[30号土坑覆土]

1：暗褐色土：軽石粒・ローム粒含む  
2：暗褐色土：軽石粒・ローム粒僅かに含む

[31・32号土坑覆土]

1：暗褐色土：軽石粒・ローム粒含む  
2：暗褐色土：軽石粒・ローム粒少量含む

また、各土坑共に掘削意図は特定することはできなかった。

遺物 1～3号土坑からの出土遺物は確認できなかった。

時期 各土坑共に時期は特定できなかった。

規模 (1号土坑) 径：59×36cm 深さ：18cm  
(2号土坑) 径：(52)×(66)cm 深さ：17cm  
(3号土坑) 径：(80)×(57)cm 深さ：13cm

構造 1号土坑のプランは長方形を呈し、2・3号土坑は楕円形を呈する。

掘削底面はどれも平底状であった。



第175図 9-R・1・2～3号土坑

(26) 9区の風倒木痕（第176図）

**概要** 9区北部、北側の中世屋敷遺構内に9基の風倒木痕が確認されている。これらの風倒木痕は南寄りに集中して分布する4基と、北寄りにやや広がりをもって分布する5基とに分けられる。

風倒木痕同士の重複は見られなかったが、南側の風倒木痕のうち、北寄りの2基が9-23号溝と、南寄りの2基が9-20号溝と重複している。前者については風倒木痕の方が古く、後者については新旧の特定を明確にはできなかったものの覆土の状態からやはり風倒木痕の方が古かったものと判断される。

風倒木痕の覆土の記載はないが、写真で確認するところでは北部のものは黄色系ロームと黒色土、南部のものはやや明るい黒色土と灰褐色系統の土壌を巻き込んで風倒木のあった状況が認められる。倒木の方向は、北寄りのものは西側に倒れたと判断されるもの2基、同じく北西側2基、東側1基で、南寄りのものでは北側に倒れると判断されるもの4基、同じく南東側のものが1基であった。

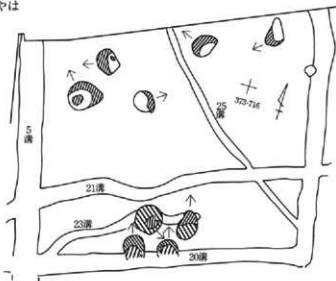
**規模** 全体として径1.5～2.5m程を呈する。  
**遺物** 何れの風倒木痕から出土したかは確認できなくなっているが、風倒木痕出土遺物として平安時代以前の土師器片2点、須恵器片1点、磨石1点、石器剥片1点が確認されている。

**時期** 風倒木痕は概ね中世以前の所産としては把握できそうだが、出土遺物も風倒木痕全体で一括取上げられており、覆土の観察所見も残されていないこともあって、時期の特定には至らなかった。

(27) 9区の遺構外の遺物

（第177図、P L103・104）

**概要** 9区の遺構外の出土遺物は区全体に認められたが、出土量は全体的に少なかった。その中で相対的に見て中南部の350-710・355-700・360-710グリッド、北東の400-700グリッドに出土遺物が多く、380-720・390-730グリッドの出土遺物がこれに準じた量を出土していた。



第176図 9区の風倒木痕

さて、9区は前田遺跡A区から中内村前遺跡に編入されたものであるが、不手際からその後の遺物の仕分けが不十分なものとなり、出土地点が不明確で仕分けそのものが困難な遺物もあった。最後の最後まで前田遺跡整理班とのやり取りを行ったが、前田遺跡の整理作業が先行したため、明らかに前田遺跡に属することが分かった資料で、前田遺跡に属せなかった資料については後述の第4章に掲載することとする。その他の資料については9区一括の出土遺物として以下に記載することとする。尚、9区一括資料の中には前田遺跡に属する可能性もあることを付記しておく。

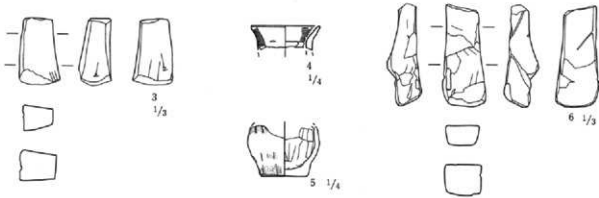
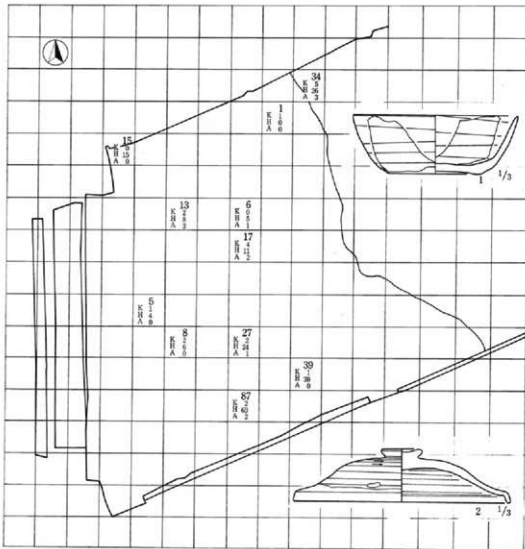
**遺物** 出土遺物には平安時代のものを中心に、古墳時代前期以降の土器類、及び石製品等が見られた。

このうち5mグリッドを特定して取上げることの



できた遺物のうち、図示できたものは何れも350～355-710～715グリッドからの出土遺物で、9世紀前半期の須恵器坏(1)、8世紀中葉の須恵器壺(2)、時期不詳の砥石(3)があった。また、9-4号溝への掘り

込みからの出土の可能性の残される資料としては、古墳時代初頭の土師器の壺(4)や小型甕(5)があった。また9区一括の資料としては、砥石(6)が見られた。



第177図 9区遺構外の出土遺物

## 第3章 発見された遺構と遺物（その2 中世屋敷遺構）

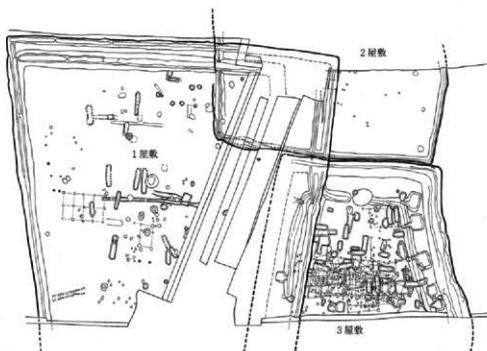
### 第1節 8・9区の中世屋敷遺構の概要

8区、9区及びその境に在る公道下（9区として処理）の調査区に於いては3区画の屋敷遺構を発見、調査している。この3区画の屋敷遺構は何れも未周知のものであり、近代の地割に於いても確認できないもので、屋敷の所有者等を推定することもできなかった。そしてこれらの屋敷遺構は便宜上、8区東部から9区西部にかけて位置するものを「1号屋敷」、8区北東部から9区北西部にかけて位置するものを「2号屋敷」、9区中南部に位置するものを「3号屋敷」と、以下、呼称することとする。

個々の屋敷の遺構及び出土遺物については次節以降に記すこととするが、全体として見ると屋敷遺構群はまとまって位置し、その中程を近世後期以降現代に至る用水路が大きく遺構を壊している。そしてこの用水路を中心として概ね1号屋敷が西部、2号屋敷が北東部、3号屋敷が南東部に配置して位置し

ている。1号屋敷は北東部で2号屋敷の西半部と、また北部を除く東端部で3号屋敷の西部とそれぞれ重複し、2号屋敷と3号屋敷は前者の堀と後者の外堀が部分的に南北にかすめるように接するものであった。1～3号屋敷の新旧関係については、堀の重複等から2号屋敷、3号屋敷、1号屋敷の順に新しくなることを確認している。

尚、それぞれの屋敷遺構が重複する箇所位置する個別の遺構については、それぞれの屋敷遺構への帰属が分かるものについては分離したが、分からないものについては8区のもの1号屋敷に、9区北東部のものは2号屋敷に、9区中・南部のものについては3号屋敷に付属するものとして記載する。尚、1号屋敷所在土坑については、第3章第6節に記載したもの（150～159頁）の中に屋敷に含まれる可能性のあるものがあることを付記しておく。



第178図 8・9区屋敷遺構全体図（S=1/800）

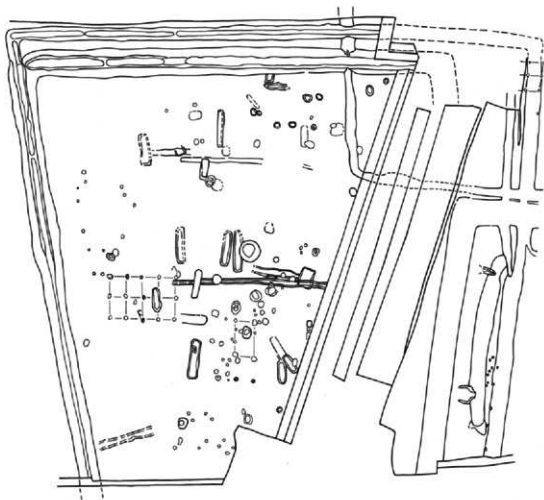
## 第2節 1号屋敷

**概要** 1号屋敷は上述のように8区東部～9区西部にかけて位置し、2・3号屋敷と重複するが、3つの屋敷遺構の中で最も新しい。

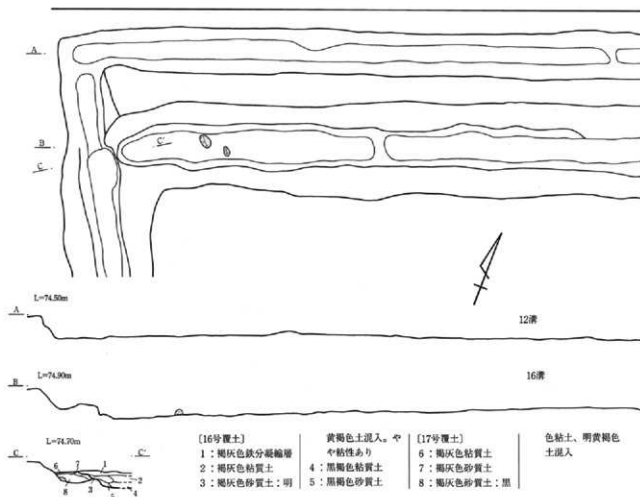
南側と北東側の一部が調査区外に出ており、更に界内は8区西半部が第2章に記した溝群、同東半部の過半が3箇所の竪穴住居集積域と重複して、これらの遺構と一括調査してしまっていること。また8・9区境の公道下及び9区個では削平が進行し、9区ではこれに加えて圃場整備前の水路9-4号溝により遺構が破壊されていることなどもあって全体として遺構の確認状態は悪かった。

本屋敷では周堀の重複関係から南東側を僅かに拡大した後、縮小したことが確認されている。遺構の確認状況から推して、縮小に当っては、北側の堀が若干南に移され、西側の堀は同じ位置で掘り直され、東側は不明であるが、恐らくは近代の水路である9-4号溝の位置に新たに堀を掘削したものと想定される。或いは9-4号溝の前身となる溝の掘削が縮小の発端となった可能性も考慮される。

**時期** 本屋敷の時期は明瞭では無いが、出土遺物等から推して、概ね室町時代後期～戦国時代を中心とする時期の所産と認識される。



第179図 1号屋敷全体図 (S=1/500)



第180図の1 1号屋敷の周堀（その1） S=1/150

規模 全体：(52.3) × (56.9) ~ 70.0 × (59.8) m

〔郭〕：(47.1) × (53.2) ~ 61.4 × (57.8) m

構造 南側が調査区外に出ているため全容は詳らかでないが、本屋敷は単郭の屋敷遺構と判断される。プランは当初は逆台形を呈し、縮小後は菱形を呈していたものと推定される。

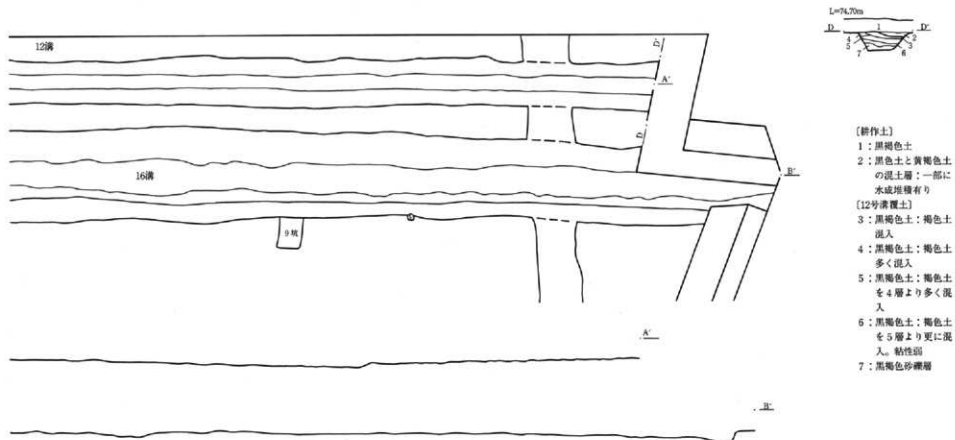
掘立柱建物2棟を確認したが、主殿を確認することはできなかった。また郭内の区画溝、土坑等も幾つか確認しているが、郭内の遺構分布状況を把握することはできなかった。虎口も確認できなかった。

周堀は8・東側と北側で二重堀の様相を呈するが、拡張されていたものと認識される。尚、1号屋敷は周堀から3期以上のあったことが確認されたが、虎口を確認することはできなかった。

(1) 周堀（第180・181図、P L 107・108・117・129・130・134）

概要 1号屋敷に伴う周堀は8区の8-12・16・17号溝と9区の9-5・19号溝である。

このうち、8-17号溝はその北端部で8-12・16号溝と接続するものであるが、8-16号溝と接してより北の箇所では8-12溝と接続している。尚、その新旧関係については8-16号溝の方が8-12号溝より新しい。従って8-17号溝は北端部とそれ以南とは遺存する遺構の時期は異なっている。一方9区では9-19号溝がその南端で9-5号溝に当たって止まっている。新旧関係に於いては前者が後者を切っているが、重複地点以南では9-19号溝は9-5号溝の位置に掘削されていたものと判断される。

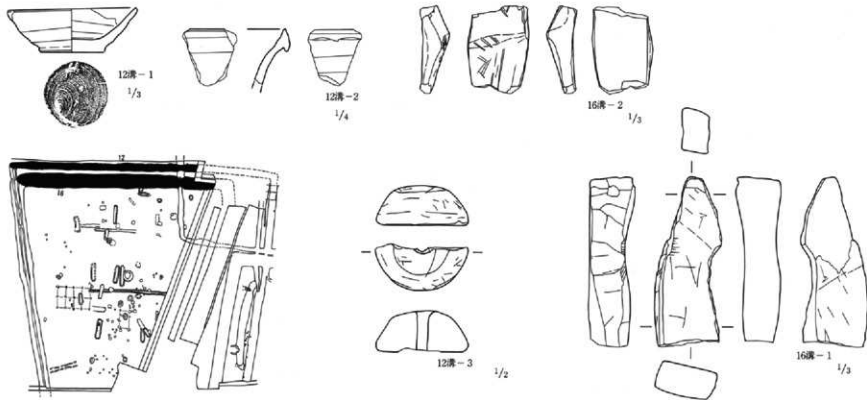


【耕作土】

1：黒褐色土  
2：黒色土と黄褐色土の混土層：一部に水浸地層有り

【12号溝置土】

3：黒褐色土：褐色土混入  
4：黒褐色土：褐色土多く混入  
5：黒褐色土：褐色土を4層より多く混入  
6：黒褐色土：褐色土を5層より更に混入。粘性弱  
7：黒褐色砂礫層



第180図の2 1号屋敷の周堀と出土遺物（その2）



尚、その規模及び掘削位置から推して8-12号溝と9-5号溝は同一の溝と解釈され、8-16号溝は遺構確認状況から、近世・近代の水路跡である9-4号溝の位置に続いていたものと判断される。また少なくとも8-12号溝の東側では水の流入或いは通水のあったことが窺われる。

**遺物** 周堀に於いては、8区側の3条の溝からの出土遺物は見られたが、9区の周堀からの出土遺物は得られなかった。

8-16号溝からは平安時代の土師器片を中心に軟質陶器の内耳鍋片や板破片の他、図示し得るものとしては、戸沢石の砥石片(1・2)2点が見られた。また17号溝からは古墳時代前期や平安時代所産の出土遺物が得られたが、特に図示すべきものは認められなかった。一方、9-19号溝からの出土遺物はなかったが、9-5号溝からは平安時代の須恵器片等に混ざって知多産の焼締陶器甕(1)や古瀬戸の可能性を持つ施軸陶器瓶(2)の破片の出土があった。

**時期** 8-12・16・17、9-5・19号溝の細かい時期は特定できなかった。従って1号屋敷の一部として凡そ室町時代後期～戦国時代を中心とする時期の所産として認識できるに過ぎなかった。

**規模** (8-12号溝)長さ:49.3m 幅:198cm

深さ:76cm

(8-16号溝)長さ:51.4m 幅:397cm 深さ:115cm

(8-17号溝)長さ:61.2m 幅:351cm 深さ:93cm

(9-5号溝)長さ:52.5m 幅:490cm 深さ:65cm

(9-19号溝)長さ:22.0m 幅:140cm 深さ:83cm

**構造** 1号屋敷の周堀は大きくは西側の8-17号溝から北側の12号溝、更に東側の9-5号溝、或いは9-19号溝へと続くものと、西側の8-17号溝から北側の8-16号溝に入り込むものの大きくは2時期に分けられ、その配置は何れも調査区外に出ていたり、後世の遺構に壊されるものがあって全容は詳らかでないが、調査範囲に於いては前者はやや逆台形状の門字形に配置し、後者は鉤形に配置して恐らくは南側が東に流れる門字のような形に配置するものであったと推定される。その走向は全体的には北北西一

南南東、若しくは西西南一東北東に取る。そのプランは8-12・16・17号溝では直線的なものであったが、東側の9-5号溝は中程の9-19号溝と接する辺りで極めて緩やかな折れを以って南側が80cm程西に移り、一方、9-19号溝は南端部で走向を南東方向に振って9-5号溝に合流するが、その南側は5号溝の位置に掘削されていたものと判断される。

掘削形態は8区側の3条の溝は箱筒状を呈しているが、8-17号溝は8-16号溝との接続地点より南の北半はやや箱筒研細状になっている。一方、9区側の2条は莖研細状を呈している。

8-17号溝は8-16号溝との合流付近から、底面の幅が広がる傾向を見せ、16号溝と17号溝の接続附近の底面は30cm程前者の方が低いが、その境は僅かに馬の背状に掘り残されていて、16号溝の掘削が17号溝を基点として行われたことを物語っている。また、9-5号溝では、9-19号溝との接続箇所底面に14cm程の段差が設けられている。こうした段差は傾斜地に於ける堀の掘削でしばしば見られることだが、遺構確認面の状況と併せて、往時の土地の傾斜が北東-南西方向を向くもので、南北方向の高低差が西側比べて強かったことが窺われる。

## (2) 郭内の溝群 (第182・183図、P.L109・129)

**概要** 1号屋敷の郭内の溝として判断した溝には、8-28・32・38・42・55号溝の5条の溝がある。何れも走向が周堀と並行或いは垂直に近い走向を取る溝である。尚、走向の方向が周堀と異なるため除外したが、第2章に掲載した8区東部東半の溝群の中にも1号屋敷の区画溝となる可能性を持つ溝があることを付記しておく。

さて、8-42・32号溝は郭の北部に、8-28・38号溝は郭のうち調査を実施できた範囲の中程に位置しており、双方とも2条の溝がほぼ並行に近接して位置している。また南西部に8-55号溝が位置している。これら郭内に位置する溝同士での重複は見られなかったが、他の遺構との重複は見られた。これらに対する新旧の特定のできたものは少なかったもの

の、8-28号溝は8-17号に切られ、一方8-107号土坑を切っている。

これらの溝の掘削意図を特定することはできなかったが、区画溝のようなものではなかったかと思われる。特に8-28号溝は、後述の8-1号掘立柱建物の東側に在って、その北辺の延長線上に位置するため同建物との関連が窺われる。

規模 (8-28号溝) 長さ: 20.2m 幅: 65cm

深さ: 15cm

(8-32号溝) 長さ: 17.2m 幅: 63cm 深さ: 7cm

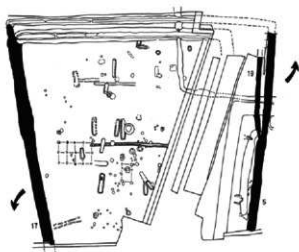
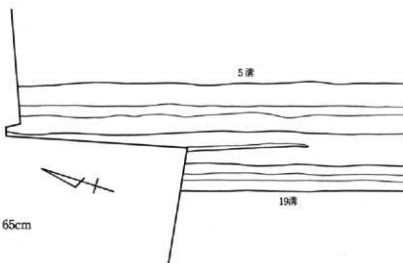
(8-38号溝) 長さ: 5.8m 幅: 104cm 深さ: 19cm

(8-42号溝) 長さ: 7.9m 幅: 81cm 深さ: 13cm

(8-55号溝) 長さ: 5.8m 幅: 79cm 深さ: 29cm

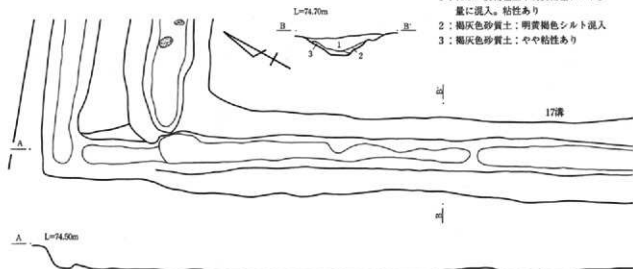
構造 8-28・31・32・38号溝は極く緩やかな蛇行若しくは屈曲を見せているが、全体としては直線的なプランを呈するものであった。一方、調査範囲が短かったが、8-42・55号溝は直線的であった。その走向は8-55号土坑は西側の堀である8-17号溝に垂直に近い北東-南西方向に取るが、他の溝は西南西-東北東方向を向いている。

掘削形態は何れの溝も箱籠状を呈する。



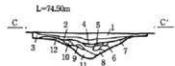
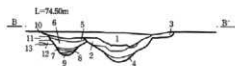
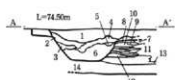
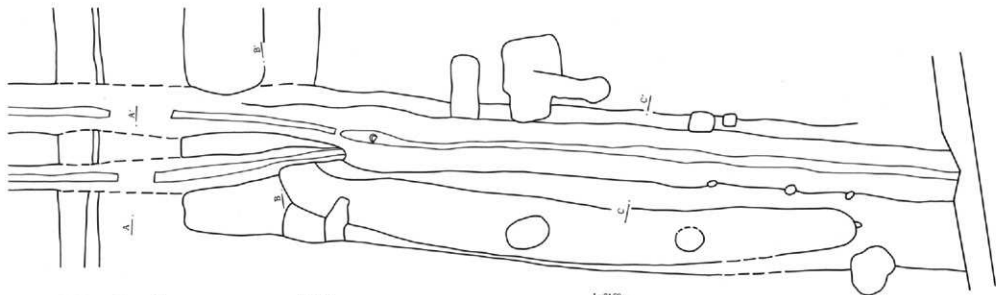
【8-17号溝覆土】

- 1: におい黄褐色土: 明黄褐色シルト多量に混入。粘性あり
- 2: 褐灰色砂質土: 明黄褐色シルト混入
- 3: 褐灰色砂質土: やや粘性あり



第181図の1 1号屋敷の周堀 (その3) (S=1/150)





【溝埋設後の埋土】

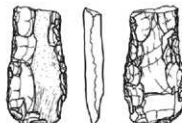
- 1: 暗褐色土: 軽石粒、ローム粒含む
- 【9-19号溝埋土】
- 2: 暗褐色土: 多くの軽石粒と少量のローム粒含む
- 3: 黒褐色土: 軽石粒や多く含むみざらつく
- 4: 暗黄褐色土: ロームや多く含む
- 5: 黒褐色土: 軽石粒・ローム粒少量含む
- 6: 暗褐色土: 軽石粒少量含む
- 【9-6号溝埋土】
- 7: 暗褐色土: 軽石粒少量含む
- 8: 黄褐色土: ローム粒多く含む
- 9: 灰褐色粘質土: 細粒、ローム粒含む
- 10: 暗褐色土: ローム粒少量含む
- 11: 黄褐色粘質土: 灰粘土と黄色ロームの混土。細粒
- 12: 灰褐色粘質土: ローム粒少量含む
- 13: 灰褐色土: 軽石粒、ローム粒含む
- 14: 黒褐色土: 砂粒含む。締まる。

【溝埋設後の埋土】

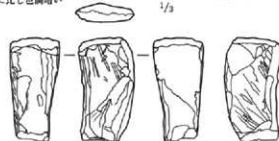
- 1: 暗褐色土: As-Bと少量のローム粒含む。灰褐色粘土層含む
- 【9-5号溝埋土】
- 2: 暗褐色土: ローム、As-Bやや多く含む
- 3: 暗褐色土: 多くのAs-Bと少量のローム粒含む
- 4: 黒褐色土: やや粘質。ローム粒とAs-B少量含む
- 【9-19号溝埋土】
- 5: 暗褐色土: ロームと少量のAs-B含む
- 6: 暗褐色土: 若干のローム、As-B含む。ローム塊含む。色調暗い
- 7: 暗褐色土: As-B、ローム粒僅かに含む
- 8: 暗褐色土: ローム塊とAs-B少量含む。色調やや明るい
- 9: 暗褐色土: やや粘質。As-B、ローム粒含む
- 【地盤層土】
- 10: 灰褐色土: As-Bやや多く含む。やや粘質
- 11: 灰褐色土: 10層に似るが色調暗い
- 12: 灰褐色粘質土: 細粒。10・11層に比し色調明るい
- 13: 黒褐色土: やや粘質。ロームと少量のAs-B含む

【溝埋設後の埋土】

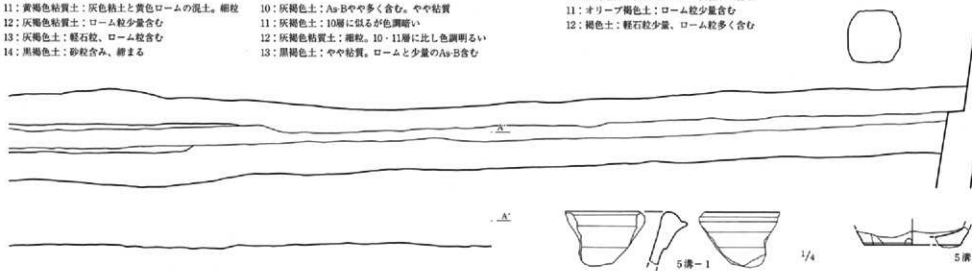
- 1: 暗褐色土: 軽石粒とローム粒含む
- 2: 暗褐色土: 軽石粒、ローム少量含む。1層に比し色調暗い
- 3: 暗褐色土: 軽石粒、ローム僅かに含む
- 【9-5号溝埋土】
- 4: 灰褐色土: 細粒。やや粘質
- 5: 灰褐色土: 4層に同じ
- 6: 暗褐色土: やや粘質。ローム粒含む
- 7: 暗灰黄色土: やや粘性あり。締まる。ローム小粒含む
- 8: 暗褐色土: ローム含む
- 9: 暗褐色土: 軽石粒、ローム粒僅かに含む
- 10: 黒褐色土: 軽石粒、ローム粒僅かに含む
- 11: オリーブ褐色土: ローム粒少量含む
- 12: 褐色土: 軽石粒少量、ローム粒多く含む



19溝-1

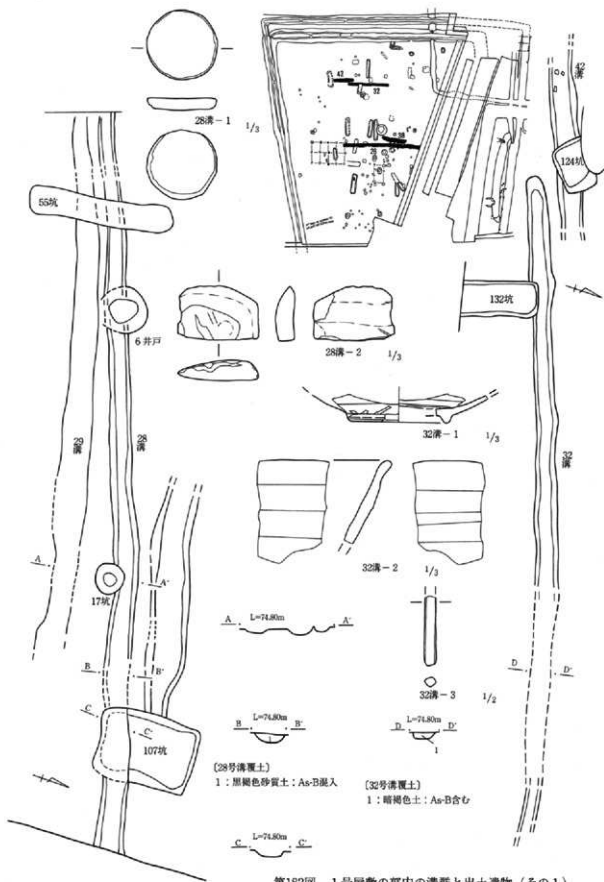


19溝-2

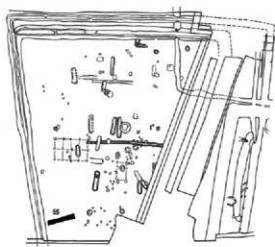


第181図の2 1号屋敷の周堀 (その4)

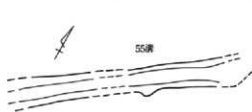




第182図 1号屋敷の郭内の溝群と出土遺物（その1）



第183図 1号屋敷の郭内の溝群（その2）



### （3） 8-1号掘立柱建物

（第184・185図，P.L.109・130・131）

**概要** 本建物は1号屋敷の郭のうち、調査区の中中部西寄りの溝群中に在り、8-20号溝に切られている。

また本建物は、当初各柱穴を単独の土坑として処理を始めたのであるが、柱穴列を識別するに至り掘立柱建物としたものである。

本建物は、規模としては主屋建物になり得るものだったが、建物自体は比較的単純な構造で、位置的にも付属屋と認識される。また特徴的だったのは北東隅の柱穴13（旧84号土坑）から布に包まれたものを含む銅銭が出土したことであるが、柱穴13は人骨の出土もなく、形態的にも土壇墓ではない。寧ろ柱穴13は建物にとっての鬼門に当り、銅銭の埋納は建物建築に伴う地鎮に伴うものと判断される。

**遺物** 本建物からは古墳時代以降所産の若干量の土器類が出土したが、北東隅の柱穴13からは本銭、模範銭の混ざる15枚の銅銭(1-6)が出土した。銭種には皇宗通寶、熙寧元寶、淳祐元寶等があり、この中で永樂通寶(6-②)を含む資料番号6を付した10枚の銅銭は平織りの布に包まれた状態で納められていた。また管理不備から現在所在不明の遺物の中に漆の付着した製品のあったことを記しておく。

**時期** 本建物は室町時代以降の特徴を示す掘立柱建物であり、また永樂通寶の出土などから推して室町時代後期以降の所産と認識される。

**規模** 範囲：472×310cm

〔建物規模〕425～445×278～287cm

（平均：433.33×282.20cm）

〔梁行〕134～148cm（平均：141.10cm）

〔桁行〕93～114cm（平均：106.67cm）

〔柱穴1〕径：30×31cm 深さ：24cm

〔柱穴2〕径：21×22cm 深さ：19cm

〔柱穴3〕径：13×18cm 深さ：13cm

〔柱穴4〕径：24×30cm 深さ：19cm

〔柱穴5〕径：19×19cm 深さ：13cm

〔柱穴6〕径：23×25cm 深さ：cm

〔柱穴7〕径：24×22cm 深さ：19cm

〔柱穴8〕径：16×20cm 深さ：18cm

〔柱穴9〕径：16×23cm 深さ：cm

〔柱穴10〕径：24×23cm 深さ：17cm

〔柱穴11〕径：16×19cm 深さ：22cm

〔柱穴12〕径：20×27cm 深さ：cm

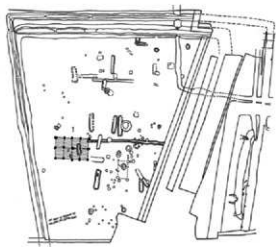
〔柱穴13〕径：27×31cm 深さ：22cm

〔柱穴14〕径：24×24cm 深さ：20cm

〔柱穴15〕径：(21) × (18) cm 深さ：27cm

**構造** 本建物は2×3間の総柱の掘立柱建物で比較的整った柱穴の配置を示すが、桁行は南に向かって若干狭まる傾向にある。主軸は周廻に対して時計回りにやや傾く西南西-東北東方向に取られ、柱間寸法は平均で梁間141.10cm、桁間106.67cmを測る狭柱間の建物で、梁行2.8m、桁行2.1m程を基準して建てられたようである。

各柱穴のプランは柱穴1・7・11・14が円形、柱穴2・3・6が隅丸方形、柱穴4・8・9・10・12・13が楕円形を呈し、柱穴15は欠失するが隅丸方形を呈するものと想定される。掘削底面は柱穴1・6・



7・12が平底気味を呈するが、他は丸底状であった。

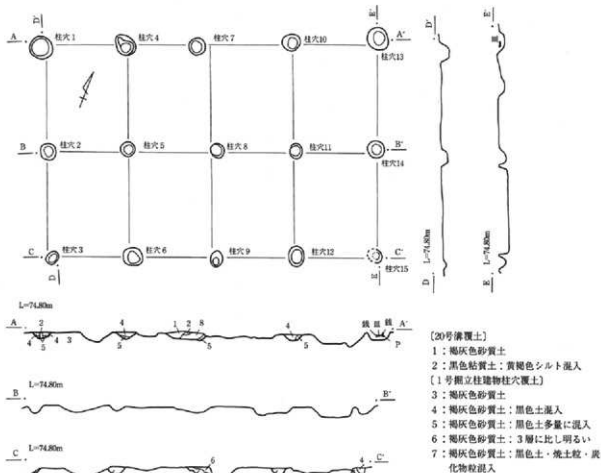
上屋構造は不明だが、棟持柱を持つ高床式の建物と想定され、何れも底面に塑性変形等がない比較的簡便な構造と思慮される。尚、下屋や庇は伴わない。

#### (4) 8-2号掘立柱建物 (第186図, P.L.109)

**概要** 本掘立柱建物は1号屋敷郭の調査区中部南寄り、8区中部の塹穴住居群の西側に位置している。

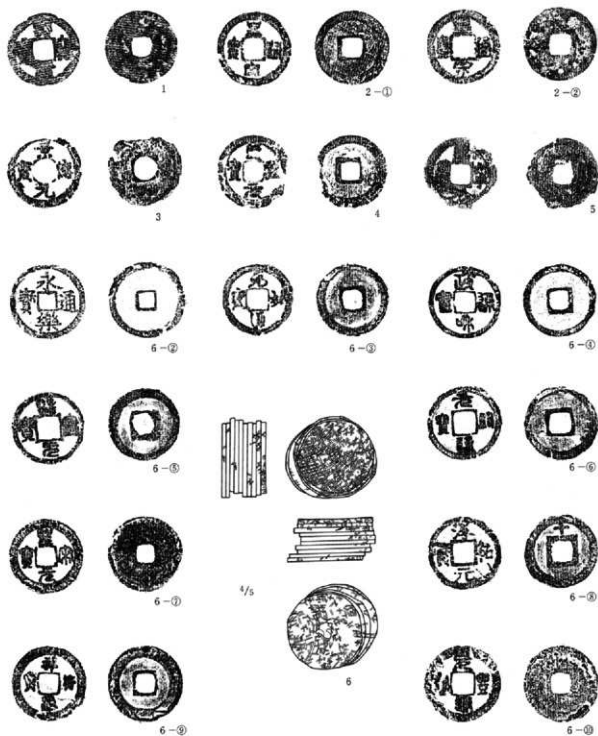
本建物も発掘調査当初は幾つかの柱穴を単独の土坑としていたが、柱穴列を識別するに至り掘立柱建物として処理を進めたものである。

本建物は中世に一般的な梁間1間建物であり、付属屋と認識されるが、使用目的は特定できなかった。  
**遺物** 柱穴1から僅かな土師器・須臾器を出土しただけで、他の柱穴からの出土遺物は見られなかった。



第184図 8-1号掘立柱建物

第3章 発見された遺構と遺物（その2 中世屋敷遺構）



第185図 8-1号掘立柱建物出土遺物

時代 本建物は形態的に中世の所産とできるだけ  
で、時期特定には至らなかった。

規模 範囲：539×268cm

〔建物規模〕442～460×240～268cm

（平均：451.00×254.00cm）

〔梁行〕240～268cm（平均：254.00cm）

〔桁行〕120～181cm（平均：150.50cm）

（柱穴1）径：41×43cm 深さ：23cm

（柱穴2）径：24×26cm 深さ：12cm

（柱穴3）径：78×68cm 深さ：21cm

(柱穴4) 径:48×64cm 深さ:41cm

(柱穴5) 径:34×39cm 深さ:15cm

(柱穴6) 径:53×80cm 深さ:31cm

(柱穴7) 径:28×29cm 深さ:15cm

(柱穴8) 径:34×31cm 深さ:9cm

**構造** 本建物1×3間と想定される掘立柱建物で、四隅の柱穴が内側のものに比して大きい。横は西北西-東南東方向を向いている。

また桁間は北側の2間が120cm程、南側の1間が180cm程と違いがあり、南側が土間のような使用方をしていたことが窺われる。

各柱穴のプランは柱穴1・3・5・6が楕円形、柱穴2・4が隅丸方形を呈する。底面は柱穴3・4が平底を呈し、他は丸底状を呈していた。

上屋の構造は不明だが、桁方向では外れるものの梁方向のライン上に乗る柱穴7・8の存在から高床式の建物であった可能性も考慮される。尚、何れの柱穴の底面にも塑性変形はなく、比較的簡便な構造であったことが窺われる。

#### (5) 8-2号井戸 (第187図, P L 109)

**概要** 本井戸は8区側北東部に単独で位置する。

湧水点は底面から27cm上の砂層と乳白色粘質土の境と判断している。尚、この砂層には多少の崩落はあるもののアグリは確認されなかった。

**遺物** 本井戸からは須恵器高台付碗(1)等、平安時代を中心とする時期の若干量の出土遺物が得られた。

**時期** 本井戸は1号屋敷に伴うものとしたが、時期の特定には至っていない。

**規模** 径:94×107cm 底径:(55)cm 深さ:135cm

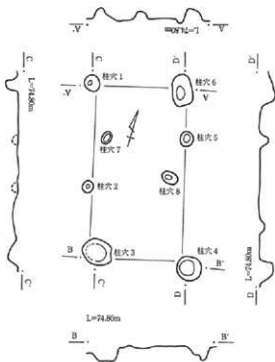
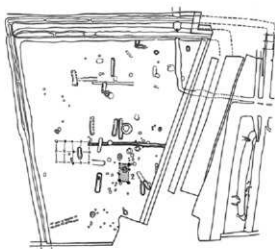
**構造** 本井戸のプランは円形に近い楕円形を呈する。

掘削形態はやや壁面が間く井筒型である。

#### (6) 8-3号井戸 (第188図, P L 110)

**概要** 本井戸は8区側の中東部に位置し、8-29号溝と重複してこれを切っている。

湧水点の記録もなくアグリも不明瞭だが、湧水層は壁面の状態から底面より40cm附近と推定される。



第186図 8-2号掘立柱建物

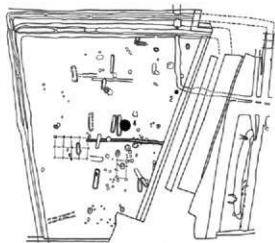
**遺物** 古墳時代～平安時代に至る僅かな出土遺物を得たに過ぎず、図示すべきものもなかった。

**時期** 本井戸も1号屋敷に伴うものとして扱っているが、時期の特定には至らなかった。

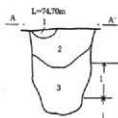
**規模** 径:148×154cm 底径:81×117cm 深さ:166cm

**構造** 本井戸は確認面では円形、底面では隅丸方形様のプランを呈する。

掘削形態は井筒朝顔型である。



2号井戸



〔2号井戸覆土〕

- 1: 褐色土: As-B混入
- 2: 暗褐色土: 層下位に明黄色土と黄褐色砂多量に混入
- 3: 暗褐色砂質土: 粘性あり



〔4号井戸覆土〕

- 1: にぶい黄褐色土: As-B, As-C, Hr-FP, 黄褐色シルト, 黒色土混入。層上位は砂質性, 層下位は粘性強
- 2: 黒色砂質土
- 3: にぶい黄褐色砂質土
- 4: にぶい黄褐色砂: Hr-FP混入
- 5: にぶい黄褐色土: シルト質。5層に比し色調暗い
- 6: 黒色粘質土: 壁面落土。2層土と色調同じ

(7) 8-4号井戸

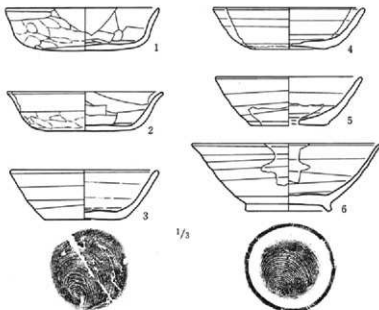
(第187図, P L110)

概要 本井戸も8区中東部に位置し、後述の8-22号土坑を切っている。

本井戸の湧水点の記録はないが、西壁の底面から70cm程附近に残る高さ60cm、奥行き15cmのアグリ状の窪みが湧水層であった可能性を持つ。

遺物 本井戸からは土器器坏(1・2)や須恵器の坏(3・4)、碗(5)、高台付碗(6)等、平安時代を中心とする比較的多くの出土遺物が得られた。

時期 平安期の遺物が出土したが、覆土から中世の所産と判断される。



第187図 1号屋敷井戸と出土遺物 (その1)



規模 径：275×273cm 底径：74×113cm

深さ：152cm

構造 本井戸は隅丸方形のプランを呈するが、底面では西側にすぼむ楕円形様のプランを呈している。

掘削形態は逆円錐形に近い楕錐形を呈している。

(8) 8-6号井戸 (第188図, P.L.110)

概要 本井戸も8区側の中東部に位置する。

前述の8-28号溝と重複しこれを切っている。

湧水点は底面から100cm程の位置の高さ80cm、奥行き20cm程のアグリ附近にあったものと判断される。

遺物 出土遺物は認められなかった。

(3号井戸覆土)

- 1: 灰黄褐色砂質土; 2層土に比し、色調明るい
- 2: 灰黄褐色砂質土; 粘性あり。

(29号溝覆土)

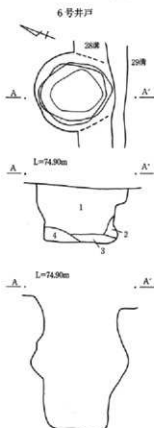
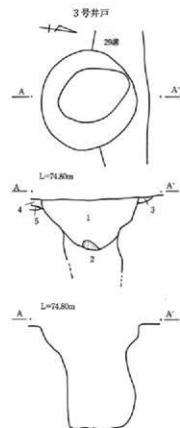
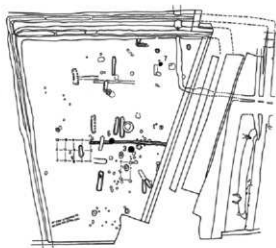
- 3: 黒褐色粘質土; 黄褐色シルト、黒色土混入
- (地山埋積層土)
- 4: 黒褐色土; As-Cと黄褐色シルト混入
- 5: 黒色粘質土; As-C混黒色土、黄褐色土混入

時期 本井戸も1号屋敷に伴うものとして扱っているが、明確な時期の特定には至っていない。しかし覆土から中世の所産と認識されるものである。

規模 径：128×123cm 底径：79×64cm 深さ：212cm

構造 確認面では僅かに東西に長い円形状、底面では北東側は方形、南西側は円形のプランを呈する。

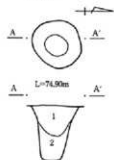
掘削形態は井筒型である。



(6号井戸覆土)

- 1: 灰黄褐色粘質シルト; 褐色土、As-B、黄褐色砂混入
- 2: 灰黄褐色粘質土; 粘性は高い。As-B混入
- 3: 褐色粘質シルト; As-B含む
- 4: 褐色粘質シルト; As-Bと少量の明黄褐色土含む

7号井戸



(7号井戸覆土)

- 1: 暗褐色土; As-Bと褐色土含む
- 2: 暗褐色土; 黒褐色土含む

第188図 1号屋敷所在井戸 (その2)